

横浜市民の危機管理アンケート調査 報告書

平成30年 12 月

横浜市総務局危機管理室

目 次

| | |
|--------------------------------|-----|
| 第1章 調査の概要..... | 1 |
| 1. 調査の目的..... | 1 |
| 2. 調査の方法..... | 1 |
| 3. 調査の項目..... | 1 |
| 4. 調査票回収結果..... | 1 |
| 5. 調査結果の見方..... | 2 |
| 6. 調査票と単純集計..... | 3 |
| 第2章 調査の結果..... | 24 |
| 1. 回答者の属性..... | 24 |
| (1) あなたご自身のことについて..... | 24 |
| 2. 地震対策..... | 26 |
| (1) 大地震への不安等について..... | 26 |
| (2) ご家庭での日ごろの防災対策（自助）について..... | 34 |
| (3) 地域での取り組み（共助）について..... | 59 |
| (4) 避難場所等について..... | 72 |
| (5) 災害時の医療について..... | 83 |
| 3. 風水害対策..... | 84 |
| (1) 風水害に対して心配していることについて..... | 84 |
| (2) 風水害に対して行っている対策について..... | 89 |
| (3) 避難行動について..... | 90 |
| 4. 情報収集..... | 102 |
| (1) 災害に関する情報について..... | 102 |
| (2) 危機管理に係るご意見について..... | 114 |

第1章 調査の概要

1. 調査の目的

横浜市民の危機管理アンケート調査は、横浜市民の防災・減災の取組や自助・共助の意識に関する現状を把握することにより、市民の取り組むべき防災・減災行動について、全市的な普及啓発の促進及び効果的な施策検討の基礎資料として活用することを目的とする。

2. 調査の方法

- (1) 調査対象：横浜市内に居住する満15歳以上の男女個人（外国籍市民を含む）
- (2) 標本数：10,000人（その内、外国籍200人）
- (3) 抽出方法：住民基本台帳からの無作為抽出
- (4) 調査方法：①郵送（配布・回収）による自記入方式
②無記名式アンケート・選択式（一部記入方式）
- (5) 調査期間：平成30年6月28日～7月27日
- (6) 調査実施機関：株式会社アクス

3. 調査の項目

- (1) 大地震への不安等について
- (2) ご家庭での日ごろの防災対策（自助）について
- (3) 地域での取り組み（共助）について
- (4) 避難場所等について
- (5) 災害時の医療について
- (6) 風水害に対して心配していることについて
- (7) 風水害に対して行っている対策について
- (8) 避難行動について
- (9) 災害に関する情報について
- (10) 危機管理に係るご意見について
- (11) 回答者の属性について

4. 調査票回収結果

| 標本数 | 調査票未着数 | 有効回答数 | 有効回収率 |
|--------|--------|-------|-------|
| 10,000 | 173 | 2,682 | 27.3% |

※調査票未着数とは、宛先不明等で返送された調査票を指す。

※有効回収率は、「有効回答数／（標本数－調査票未着数－白紙回答）×100」とする。

なお、白紙回答は3件である。

5. 調査結果の見方

- (1) 図表中の n は該当設問での回答者数を表す。設問によっては、回答対象が限られるため、有効回答数にならない場合がある。
- (2) 設問により回答がなくても、全体のいずれかを回答していれば、有効回答数に含める。
- (3) 百分比は n を 100.0% として算出し、少数第 2 位を四捨五入して少数第 1 位まで示している。このため、百分比の合計が 100.0% に満たない場合や、上回る場合がある。
- (4) 複数回答の設問では、百分比の合計が 100.0% を上回る場合がある。
- (5) 本文や図表中の選択肢表記では、語句を短縮・簡略化している場合がある。
- (6) 「経年比較」の「※参考」について
各問の経年比較については、平成 20 年及び平成 27 年に実施した「横浜市民の危機管理アンケート調査」及び各年度の「横浜市民意識調査」のうち、該当する設問について比較している。調査ごとに設問や選択肢が一部異なることから、正確な比較ができないため図表（グラフ）を参考程度にとどめる。
- (7) クロス集計による分析では、分析軸の項目のうち、n（該当設問での回答者数）が 30 未満の項目については、全体の平均と比べて比率に大きな差がみられる選択肢であっても、本文中では触れていない。
- (8) この調査の標本誤差は、およそ以下の表のとおりである。また、標本誤差は次の式によって得られる。

$$\text{標本誤差} = 2 \times \sqrt{\frac{N-n}{N-1} \times \frac{P(1-P)}{n}}$$

N = 母集団（横浜市 15 歳以上人口）
n = 比率算出の基数（回答者数）
P = 回答比率（%）

統計学上よく使用される信頼度は 95%（許容できる誤差の範囲が 5%）であり、本アンケート調査の標本誤差も信頼度 95% で計算する。

各回答比率における標本誤差早見表

| | 10%または 90%前後 | 20%または 80%前後 | 30%または 70%前後 | 40%または 60%前後 | 50%前後 |
|-------|-----------------|-----------------|-----------------|-----------------|-------|
| 2,682 | 1.2% | 1.5% | 1.8% | 1.9% | 1.9% |
| 2,300 | 1.3% | 1.7% | 1.9% | 2.0% | 2.1% |
| 2,000 | 1.3% | 1.8% | 2.0% | 2.2% | 2.2% |
| 1,000 | 1.9% | 2.5% | 2.9% | 3.1% | 3.2% |
| 800 | 2.1% | 2.8% | 3.2% | 3.5% | 3.5% |

※母集団は横浜市全体の 15 歳以上の人口 3,253,538 人である。（平成 30 年 1 月 1 日）

有効回答数 2,682 を 100.0% とする比率で、ある質問の回答が 50% のとき、実際の回答は、48.1%～51.9% の間にあると考えてよい。

◆横浜市民の危機管理アンケート調査票◆



このアンケートは、市民の皆様の、自助・共助の意識や防災に関する知識、取組状況、課題等を把握し、横浜市が実施する施策に効果的に反映することを目的としています。

お忙しいところ申し訳ありませんが、ぜひご協力いただきますようお願いいたします。

【ご記入に際してのお願い】

- 封筒の宛名のご本人様をご回答ください。また、アンケート調査票に氏名等を記入する必要はありません。
- ご回答は、当てはまる項目の番号を直接○で囲んでください。また、質問には、ご回答いただく数が「1つの場合」と「複数の場合」がありますので、ご注意ください。
- 「その他（ ）」に当てはまる場合には、ご面倒でも具体的にご記入いただきますようお願いいたします。
- 選んだ回答によっては、次に回答していただく問番号を指定するものがあります。→（矢印）の指示に従ってお答えください。

【回答期限】

ご回答いただきましたアンケート調査票は、平成30年7月27日（金）までに、同封の返信用封筒に入れ、ポストにご投函ください。

※返信用封筒への切手及び差出人の記名は不要です。

【お問合せ先】

◆アンケート調査実施機関：横浜市 総務局 危機管理課（担当：花塚、茂木）

〒231-0017 横浜市中区港町1丁目1番地

電話：671-4351（平日8:30～17:15） FAX：641-1677

※上記の時間以外のお問い合わせは横浜市コールセンターがお受けいたしますが、内容により、後日担当課から回答させていただく場合がありますのでご了承ください。

<横浜市コールセンター>

電話：664-2525（平日17:15～21:00、土曜・日曜・祝日 8:00～21:00） FAX：664-2828

◆アンケート調査受託機関：(株)アクス（担当：村山、平野）

〒222-0033 横浜市港北区新横浜2-13-13 KM第一ビル7F

電話：534-4067（平日9:00～17:00） FAX：473-2699

《地震対策》

■大地震への不安等についてお伺いします。

問1 あなたは自分の住んでいる地域で、大地震が近く起きるのではないかと不安を感じていますか、感じていませんか。 1つ選択 n=2,682

| | | | |
|--------------|------|---------------|------|
| 1. 強く感じている | 39.8 | 2. 多少感じている | 50.8 |
| 3. あまり感じていない | 7.0 | 4. まったく感じていない | 0.7 |
| 無回答・無効票 | 1.7 | | |

問2 あなたの住んでいる地域で大地震が発生した場合、特にどのようなことが心配ですか。 5つまで選択
n=2,682

| | | | |
|--------------------|------|----------------------|------|
| 1. 家屋・建物の倒壊 | 53.7 | 2. 塀の倒壊や建物からの窓ガラスの落下 | 9.1 |
| 3. タンス・冷蔵庫など家具類の転倒 | 23.2 | 4. 火災の発生 | 46.1 |
| 5. ガスなど危険物の爆発・流出 | 14.2 | 6. がけ崩れ・地割れ | 12.1 |
| 7. 浸水・堤防の決壊 | 5.4 | 8. 液化化現象 | 3.7 |
| 9. 電気・水道・ガスの供給停止 | 65.5 | 10. 道路や鉄道機関の被害や混乱 | 17.7 |
| 11. 携帯電話を含む電話の不通 | 16.1 | 12. 生産活動の停止 | 3.1 |
| 13. 家族や友人の安否 | 46.2 | 14. 災害状況などの情報の入手 | 5.4 |
| 15. デマなどによる情報の混乱 | 3.3 | 16. 自主防災組織等による協力体制 | 2.6 |
| 17. 治安の悪化・混乱 | 7.3 | 18. 食料や飲料水などの不足 | 53.4 |
| 19. けがや病気の場合の医療体制 | 21.2 | 20. 日用品の不足 | 14.2 |
| 21. 仕事や事業の不振 | 3.1 | 22. 避難所等への自力避難 | 5.5 |
| 23. 避難場所までの安全性 | 5.3 | 24. 避難場所の安全性 | 5.4 |
| 25. 金融機関の混乱 | 2.5 | 26. ペットに関すること | 9.5 |
| 27. その他 () | 1.2 | 28. 特に心配はない | 0.1 |
| 無回答・無効票 | 4.3 | | |

問3 阪神・淡路大震災では、地震により発生した大規模火災が深刻な被害をもたらしました。地震火災に関してあなたの住んでいる地域で、心配なことをこの中から選んでください。

該当するものすべて選択 n=2,682

| | | | |
|------------------------------|------|-------------------------------|------|
| 1. 避難場所がわからない | 13.9 | 2. 周辺の建物が <u>火に強い構造</u> *ではない | 32.0 |
| 3. 道路の幅が狭く避難ができるか心配 | 13.5 | 4. 近くに避難できる小広場などが無い | 7.9 |
| 5. 初期消火器具がない | 24.4 | 6. 道路の幅が狭く消防車が進入できない | 15.7 |
| 7. 自分の家が <u>火に強い構造</u> *ではない | 27.5 | 8. その他 () | 7.2 |
| 9. 特に心配はない | 16.7 | 無回答・無効票 | 4.3 |

※火に強い構造の例「準耐火建築物」

柱やはり、壁などの建物の重要な部分をせっこうボードなどの不燃性の材料で覆い、一定の時間以上は火に耐えられる構造にしたうえで、窓などの開口部について網入りガラスなどの防火設備を設け、火に強い構造としたものを「準耐火建築物」といいます。

新築の際に、「準耐火建築物」などの火に強い構造にすると、地震時の火災延焼を抑えることができます。

横浜市 建築物不燃化推進事業補助

検索

■あなたのご家庭での日ごろの防災対策（自助）についてお伺いします。

問4 あなたのご自宅の耐震化について伺います。あなたのご自宅の構造は、次のうちどれにあたりますか。 **1つ選択** n=2,682

- | | | | |
|---------------------|------|------------------------|------|
| 1. 木造住宅 | 42.7 | 2. 鉄骨造住宅（S造） | 6.7 |
| 3. 鉄筋コンクリート造住宅（RC造） | 22.0 | 4. 鉄骨鉄筋コンクリート造住宅（SRC造） | 12.3 |
| 5. その他（ | 1.1 | 6. わからない | 12.9 |
| 無回答・無効票 | 2.4 | | |

問5 あなたのご自宅は、いつ頃建てられた建物ですか。 **1つ選択** n=2,682

- | | | |
|-----------------------|--------|------|
| 1. 昭和56年5月以前（新耐震基準以前） | ⇒問5-1へ | 18.8 |
| 2. 昭和56年6月以降（新耐震基準以降） | ⇒問6へ | 71.8 |
| 3. わからない | ⇒問6へ | 5.7 |
| 無回答・無効票 | | 3.7 |

（問5で「1」と答えた方はご回答ください）

問5-1 ご自宅の建物の耐震対策について、該当するものを選んでください。 **1つ選択** n=504

- | | | |
|----------------------------|--------|------|
| 1. 耐震診断・耐震改修等を実施している | ⇒問6へ | 17.9 |
| 2. 耐震診断の結果、安全と判定された | ⇒問6へ | 8.3 |
| 3. 今後、耐震診断・耐震改修等を実施する予定である | ⇒問6へ | 4.8 |
| 4. 耐震診断、耐震改修等を実施する予定はない | ⇒問5-2へ | 35.3 |
| 5. わからない | ⇒問6へ | 29.8 |
| 無回答・無効票 | | 4.0 |

（問5-1で「4」と答えた方はご回答ください）

問5-2 耐震診断を受けていない、あるいは、耐震改修等を実施しない理由について、該当するものを選んでください。 **1つ選択** n=178

- | | | | |
|-------------|------|----------------------|------|
| 1. 費用がかかるため | 56.2 | 2. 賃貸物件であるため | 10.1 |
| 3. 危険性を感じない | 15.7 | 4. 耐震診断・耐震改修等を知らなかった | 4.5 |
| 5. その他（ | 11.8 | 無回答・無効票 | 1.7 |

● 地震に強い家ですか？

■ 自宅を耐震診断しましょう。

・インターネットで、簡易な耐震診断ができます。

- 一般財団法人日本建築防災協会「誰でもできるわが家の耐震診断」

http://www.kenchiku-bosai.or.jp/seismic/kodate/wooden_wagaya.html

・本市では、在来軸組構法の木造個人住宅の耐震診断を無料で実施しています。また、分譲マンションの耐震診断については診断費用を補助しています（対象：昭和56年5月以前に着工された住宅※その他条件あり）。

■ 自宅を耐震化しましょう。

・本市では、耐震診断の結果、「耐震改修が必要」と判定された在来軸組構法の木造個人住宅や分譲マンションに対し、耐震改修費用を補助します（対象：昭和56年5月以前に着工された住宅 ※その他条件あり）。

- 横浜市建築局建築防災課 TEL: (045)671-2943

<http://www.city.yokohama.lg.jp/kenchiku/kenbou/bousai/taishinkanren.html>



問6 あなたのご自宅では、地震によって転倒するおそれのある家具類（タンスや食器棚等）を固定していますか。 **1つ選択** n=2,682

1. 全部固定している ⇒問7へ 7.3 2. 一部を固定している ⇒問6-2へ 46.2
 3. 固定していない ⇒問6-1・2へ 38.9 4. 固定が必要な家具類がない ⇒問7へ 5.3
 無回答・無効票 2.3

(問6で「3」と答えた方はご回答ください)

n=1,043

問6-1 あなたが家具類の固定をしていない理由について、次の中からお選びください。 **1つ選択**

1. 方法がわからないから 5.7
 2. 自分ではできないと思うから 11.1
 3. 費用がかかるから 5.3
 4. 手間がかかり、面倒だから 25.8
 5. 部屋の見え目が悪くなったり、家具や壁を傷つけてしまうから 15.7
 6. 必要性を感じないから（固定しても大規模地震には効果がない、転倒しても危険ではない等） 23.5
 7. その他（ ） 8.1
 無回答・無効票 4.9

(問6で「2」「3」と答えた方はご回答ください)

n=2,281

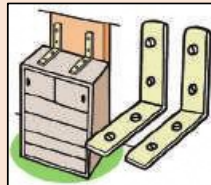
問6-2 あなたのご自宅では、家具類の転倒によって、就寝中に負傷・死亡する、又は、避難口（玄関等）までの通行を妨げる可能性はありますか。 **1つ選択**

1. ある 25.5 2. ない 47.0 3. わからない 8.5 無回答・無効票 19.0

家具転倒防止器具を取り付けよう!!

※本市では、同居している家族全員が75歳以上・障害者手帳所持者・要介護・支援者等のいずれかである世帯を対象に、家具転倒防止器具の取付を無料代行しています。詳しいお知らせは、広報等を通して随時行う予定です。

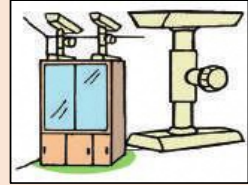
※平成30年9月から対象年齢が65歳以上に変わりました。



L字金具、ベルト(壁に強度が必要)



粘着マット(有効期限に注意)



つっぱり棒(天井に強度が必要)

問7 東日本大震災や阪神・淡路大震災では、火災の原因の約6割が電気によるものといわれています。

あなたは、設定値以上の震度の地震発生時に自動的に電気の供給を遮断する器具である

「感震ブレーカー※」を知っていますか。 **1つ選択** n=2,682

1. 知っている 39.6 2. 知らない ⇒問9へ 52.5 無回答・無効票 7.9

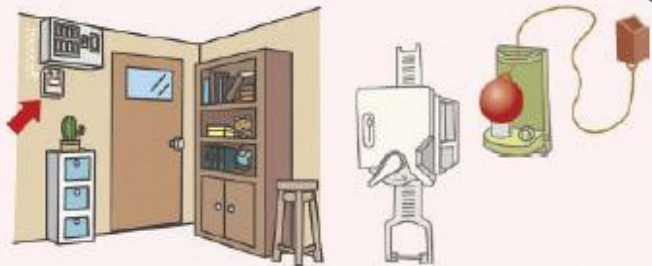
※電気が漏れ出た際に遮断する漏電ブレーカー（漏電遮断器）とは別の器具です。

感震ブレーカーについて

「感震ブレーカー」とは、大きな揺れを感じて電気を自動的に遮断する器具です。

近年の大地震で発生した火災の6割以上が電気に起因する火災と言われています。

「感震ブレーカー」の設置は、地震時の出火を大きく減らすことができます。



感震ブレーカーには、分電盤タイプ、コンセントタイプ、簡易タイプといった様々なタイプあります。簡易タイプであれば、インターネット、ホームセンター、家電量販店等で、価格2～4千円程度で購入することが可能です。

問8 あなたのご自宅では、「感震ブレーカー」を設置していますか。 **1つ選択** n=1,061

- | | | | |
|-------------------|------|-------------------|------|
| 1. 設置している ⇒問8-1へ | 30.3 | 2. 設置していない ⇒問8-2へ | 51.6 |
| 3. 今後設置したい ⇒問8-2へ | 13.9 | 無回答・無効票 | 4.2 |

(問8で「1」と答えた方はご回答ください) n=321

問8-1 あなたが設置している「感震ブレーカー」のタイプについて次の中からお選びください。

該当するものすべて選択

- | | |
|---|------|
| 1. 分電盤タイプ (分電盤に内蔵、または接続した感震センサーが揺れを感知し、住宅内すべての電気を止める) ⇒問9へ | 72.9 |
| 2. コンセントタイプ (コンセントに内蔵した感震センサーが揺れを感知し、そのコンセントからの電気を止める) ⇒問9へ | 1.6 |
| 3. 簡易タイプ (おもり玉又はバネの作動により、直接ブレーカーを落とす) ⇒問9へ | 12.1 |
| 4. わからない ⇒問9へ | 11.8 |
| 5. その他 () ⇒問9へ | 0.3 |
| 無回答・無効票 | 1.9 |

(問8で「2」「3」と答えた方はご回答ください) n=695

問8-2 あなたが「感震ブレーカー」を設置していない理由について、次の中からお選びください。

1つ選択

- | | | | |
|-----------------|------|---------------|------|
| 1. 設置方法がわからないから | 32.1 | 2. 費用がかかるから | 18.1 |
| 3. 手間がかかり、面倒だから | 12.9 | 4. 必要性を感じないから | 14.5 |
| 5. その他 () | 19.6 | 無回答・無効票 | 2.7 |

問9 あなたのご家庭では、震災に備えて何日分の食料、飲料水 (1人1日あたりの目安は3リットル) を準備していますか。 **1つ選択** n=2,682

- | | | | |
|--------------|------|---------------|------|
| 1. 1日分 ⇒問10へ | 15.9 | 2. 2日分 ⇒問10へ | 20.1 |
| 3. 3日分 ⇒問10へ | 28.0 | 4. 4日以上 ⇒問10へ | 12.9 |
| 5. 準備していない | 21.4 | 無回答・無効票 | 1.8 |

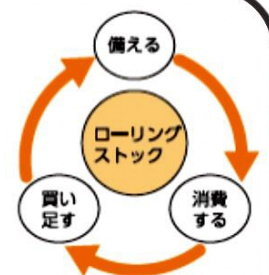
(問9で「5」と答えた方はご回答ください) n=575

問9-1 準備していない理由は何ですか。 **1つ選択**

- | | | | |
|----------------------|------|-------------------|------|
| 1. 何を準備すればよいかわからないから | 12.9 | 2. 費用がかかるから | 5.6 |
| 3. 保管する場所がないから | 18.4 | 4. 面倒だから | 11.0 |
| 5. 急いで準備する必要はないと思うから | 13.4 | 6. 行政が準備していると思うから | 1.7 |
| 7. 容易に購入できると思うから | 4.7 | 8. その他 () | 16.7 |
| 9. 特になし | 12.5 | 無回答・無効票 | 3.1 |

備蓄品や非常持出品を準備していますか？

- 災害発生直後は、食料や日用品の購入が難しくなります。家族構成を考えて、必要な備蓄をしておきましょう。
また、すぐ取り出せるところに非常持出品を準備しておきましょう。
- 備蓄する量の目安は **最低3日分** です。
- 家族構成や生活スタイルにあわせて、食料や日用品を少し多く買い備えて、備えたものを順番に使いながら新たに買い足していく循環型備蓄 (**ローリングストック**) という考え方もあります。



問 10 あなたやあなたのご家庭では、家具の固定や水・食料の準備等以外で現在、どのような対策をしていますか。 **該当するものすべて選択** n=2,682

- | | | | |
|------------------------------|------|-----------------------------------|------|
| 1. 携帯ラジオ、懐中電灯などを準備している | 76.0 | 2. 消火器を準備している | 40.8 |
| 3. いつも風呂に水をためおきしている | 24.8 | 4. 日用品（医薬品、おむつ等）をすぐ持ち出せるように準備している | 23.5 |
| 5. トイレパックを備蓄している | 29.8 | 6. 窓ガラスに飛散防止フィルムを貼付けている | 5.0 |
| 7. 自分の家を火に強い構造にしている | 10.6 | 8. カーテンなどの日用品を燃えにくいものにしてている | 12.2 |
| 9. いざという時に隣近所で助け合える関係をつくっている | 18.6 | 10. 地域の防災訓練に参加している | 20.1 |
| 11. 家族との連絡方法を決めている | 23.4 | 12. 近くの学校や公園など、避難する場所を決めている | 43.9 |
| 13. 避難場所への避難経路を確認している | 29.5 | 14. 自宅周辺の危険箇所を確認している | 8.8 |
| 15. その他（ ） | 1.0 | 16. 特に何もしていない | 7.5 |
| 無回答・無効票 | 0.9 | | |

問 11 勤務先や外出先で、大地震等の発生により交通機関が停止し、道路も通行不能となった場合に備えた対策を行っていますか。 **該当するもの全て選択** n=2,682

- | | | | |
|------------------------------|------|----------------------|------|
| 1. 自宅までの徒歩による経路を確認している | 41.1 | 2. 一時滞在施設等の場所を確認している | 4.8 |
| 3. 徒歩経路の災害時帰宅支援ステーションを確認している | 1.8 | 4. 防災グッズをいつも携行している | 4.9 |
| 5. 会社に宿泊するための準備をしている | 8.2 | 6. 家族との連絡手段を決めておく | 22.5 |
| 7. その他（ ） | 2.0 | 8. 特に何もしていない | 38.1 |
| 無回答・無効票 | 3.5 | | |

■ 大地震が発生してしまったら…



駅前や繁華街は人が滞留し大混乱になる可能性も考えられます。むやみに移動を開始せず、正確な情報収集を心がけ、職場や学校等の安全な場所にとどまるようにしましょう。

- 被害の状況や電車の運休状況、家族の安否など、情報を集めましょう。（情報の収集については、⇒P25参照）
- 幹線道路や道幅の広い道路を選んで移動するようにしましょう。
- 明るくなってから移動するなど、時間をずらし安全に帰宅しましょう。

● 災害時帰宅支援ステーションの利用

大地震が発生すると、コンビニエンスストアやファーストフード店、ガソリンスタンドなどが徒歩帰宅を支援します。右のステッカーが災害時帰宅支援ステーションの目印です。

こんな支援をしてくれます!

- 水道水・トイレの提供
- 休憩場所の提供
- 地図やラジオ等を基にした道路情報の提供

*** 被災状況や立地などによりサービスを提供できない店舗もあります。**



● 帰宅困難者一時滞在施設の利用

横浜市では、帰宅困難者一時滞在施設を指定しています。一時滞在施設では、トイレや水道水の提供を受けることができ、「一時滞在NAVI」を使って近くの施設を検索することができます。ブックマークに登録しておきましょう。



◀ 携帯電話版
<http://www.city.yokohama.lg.jp/b-m/>



◀ スマートフォン版
<http://www.city.yokohama.lg.jp/b-sp/>

本市の帰宅困難者対策について、詳しくは、
<http://www.city.yokohama.lg.jp/somu/org/kikikanri/kitaku/>



問 12 大地震等が発生した場合に、自分自身の無事を伝え、家族の安否を確認するためのサービスとして「災害用伝言ダイヤル（171）及び災害用伝言板（Web171）」、「J-anpi 安否情報まとめて検索」等がありますが、知っていますか。それぞれ右にあてはまる番号に○をつけてください。 n=2, 682

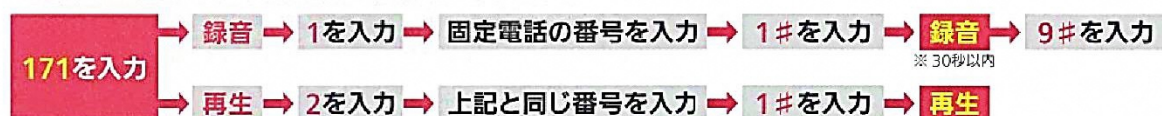
| | 知っており、 すでに登録している | 知っているが、 登録していない | 知らない |
|---------------------------------------|---------------------|--------------------|------|
| 1. 災害用伝言ダイヤル（171） 及び災害用伝言板（Web171） | 6.6 | 57.5 | 33.4 |
| 2. J-anpi 安否情報まとめて検索 | 1.0 | 13.8 | 75.2 |

無回答・無効票

1. 2.5 2. 10.0

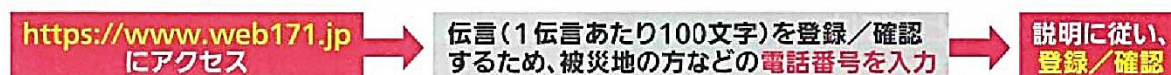
◎ 災害用伝言ダイヤル(171)

固定電話等を使って被災地の方の安否情報を確認する『声の伝言板』です。



◎ 災害用伝言板(web171)

パソコンや携帯電話等を使い被災地の方の安否情報を確認する『web伝言板』です。



※「毎月1日、15日」には、災害用伝言ダイヤルと災害用伝言板を体験利用することができます。

◎ J-anpi 安否情報まとめて検索

<https://anpi.jp/info/about.html>



パソコンやスマートフォン、携帯電話などからWebブラウザを起動します。

検索条件として「電話番号」または「氏名」を入力することで、通信キャリア各社が提供する災害用伝言板および報道機関、各企業・団体が提供する安否情報（テキスト情報）、グーグルが提供するパーソンファインダーを対象に一括で検索し、結果をまとめて確認することができる無料のサイトです。

■ 地域での取り組み（共助）についてお伺いします。

問 13 あなたは次の研修や訓練等に参加したことがありますか。 該当するものすべて選択

n=2, 682

- | | | | |
|------------------------------|------|-------------------------|------|
| 1. 自治会・町内会の防災訓練 ⇒問 14 へ | 41.1 | 2. 地域防災拠点の訓練 ⇒問 14 へ | 7.9 |
| 3. 家庭防災員研修 ⇒問 14 へ | 4.4 | 4. 横浜防災ライセンス講習会 ⇒問 14 へ | 0.9 |
| 5. 防災・減災推進研修 ⇒問 14 へ | 1.3 | 6. 消防団 ⇒問 14 へ | 1.2 |
| 7. 区役所・消防署主催の講習会や訓練 ⇒問 14 へ | 5.3 | 8. その他 () ⇒問 14 へ | 2.1 |
| 9. 参加したことはあるが何かわからない ⇒問 14 へ | 2.9 | 10. 何も参加していない ⇒問 13-1 へ | 49.5 |

無回答・無効票

1.9

(問 13 で「10」と答えた方はご回答ください)

問 13- 1 何も参加していない理由をお選びください。 **1つ選択** n=1, 327

- | | | | |
|----------------|-----|------------------------|------|
| 1. 面倒だから | 9.5 | 2. 時間がないから | 20.7 |
| 3. 必要がないと思うから | 2.2 | 4. いっどこで開催されているか知らないから | 53.5 |
| 5. 家族が参加しているから | 6.1 | 6. その他 () | 6.4 |
| 無回答・無効票 | 1.6 | | |

横浜市では、市民の皆様には地域の防災の担い手として活動していただけるよう様々な講習会を実施しています。

消防団

本市では、地域の防火・防災の担い手として、消防団員を募集しています。

消防団員は、学業や本業を持ちながら、災害発生時に、消火・救助などの消防活動を行うとともに、地域の防災リーダーとしての役割も担っています。



「消防団」について、詳しくは、
<http://www.city.yokohama.lg.jp/shobo/shouboudan/>



防災・減災推進研修

地域の共助の力を向上させるため、「町の防災組織」で活動されている防災担当者向けの基礎的な研修会を実施しています。参加していただくことで、「町の防災組織」でどのような活動を行えばいいのか等、日頃の疑問を解消していただき、地域で備えや助け合いの取組が進むことを目的としています。

「防災・減災推進研修」について、詳しくは、<http://www.city.yokohama.lg.jp/somu/org/kikikanri/20180208112655.html>

家庭防災員研修

防火・防災に関して必要な知識及び技術を身に付けることができます。研修の受講にあたっては、自治会・町内会からの推薦が必要です。

「家庭防災員研修」について、詳しくは、
<http://www.city.yokohama.lg.jp/shobo/kabou/>

横浜防災ライセンス講習会

本市では、地域防災拠点に備えている防災資機材の取扱い方法を身に付けていただく「横浜防災ライセンス講習会」があります。

「横浜防災ライセンス講習会」について、詳しくは、
<http://www.city.yokohama.lg.jp/somu/org/kikikanri/bousailicense/>

防セン アカデミー（市民向け防災研修）

横浜市民防災センターで広く市民の方を対象に、「女性の視点をいかした自助・共助」や「地震への備え」などテーマ別に研修を実施しています。また、特別イベントや講演会も実施しています。

「防セン アカデミー」について、詳しくは、
<http://bo-sai.city.yokohama.lg.jp/academy>

問 14 あなたは日頃、近所の人とどの程度の付き合いをしていますか？ **1つ選択** n=2, 682

- | | | | |
|----------------------|------|-----------------|------|
| 1. 困ったときに相談や助け合いができる | 14.8 | 2. 簡単な頼みごとができる | 9.7 |
| 3. たまに世間話や立ち話をする | 21.2 | 4. 顔を見ればあいさつをする | 45.2 |
| 5. まったく付き合いはない | 6.5 | 無回答・無効票 | 2.6 |

問 15 大地震等の災害が起こった時に、ご近所に避難時に手助けが必要になりそうな人（例えば、自力で避難することが困難な高齢者や障害者、乳幼児、病人、妊産婦、日本語が不自由な外国人など）はいますか。 **該当するものすべて選択** n=2, 682

- | | | | |
|----------------------|------|-----------------|------|
| 1. 高齢者 | 55.5 | 2. 障害者 | 9.1 |
| 3. 病人・けが人（歩行が困難な人など） | 7.0 | 4. 乳幼児 | 16.4 |
| 5. 妊産婦 | 1.9 | 6. 外国人 | 3.8 |
| 7. その他 () | | | 0.9 |
| 8. いない ⇒問 16 へ | 18.7 | 9. 知らない ⇒問 16 へ | 15.6 |
| 無回答・無効票 | 1.5 | | |

(問 15 で「1～7」のいずれかを選択した方はご回答ください) n=1,723

問 15-1 その人にはどのような支援(手助け)ができますか? 該当するものすべて選択

| | | | |
|---------------------|------|------------------------|------|
| 1. 「大丈夫ですか」などの声かけ | 75.0 | 2. 避難の手助け | 64.0 |
| 3. 家族や親族・知人への連絡 | 19.4 | 4. 災害状況や避難情報などの伝達 | 29.3 |
| 5. 一時的な保護・預かり | 17.4 | 6. 介助や応急手当 | 17.4 |
| 7. 相談相手や話し相手になる | 24.5 | 8. その方の母語への通訳や母語での情報提供 | 1.9 |
| 9. オムツ、ミルクなどの必需品の提供 | 5.0 | 10. その他(具体的に) | 0.9 |
| 11. 協力できそうにない | 3.4 | 12. わからない | 3.5 |
| 無回答・無効票 | 4.5 | | |

○ 災害時要援護者支援とは?

私たちの中には、高齢者や障害のある人、乳幼児や妊産婦など災害が起きたとき、何らかの支援が必要な人たち(「災害時要援護者」といいます。)がいます。また、災害時には、けがを負い、誰もが災害時要援護者になる恐れがあります。

災害時要援護者が災害から身を守るためには、本人、家族などによる十分な事前準備が必要です。また、周りの人たちが災害時要援護者のことを理解し安否確認、避難支援などの手助けをすることや、避難場所で必要な配慮をすることが大切です。

災害時要援護者支援について、詳しくは、

<http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/bousai/> (「地域ぐるみで災害対策 災害時要援護者支援ガイド」)

問 16 横浜市では、「自助・共助」の大切さを市民の皆様の間を広めていくための「よこはま地震防災市民憲章」を制定しました。あなたは、「よこはま地震防災市民憲章」等について知っていますか。それぞれ右にあてはまる番号に○をつけてください。 n=2,682

| | 聞いたこともあるし、 意味も知っている | 聞いたことがあるが、 意味は知らない | 聞いたこともない |
|-------------------------------------|------------------------|-----------------------|----------|
| 1. 「よこはま地震防災市民憲章」 | 6.0 | 16.6 | 74.6 |
| 2. 「自助」 【自分の身は自分で守ること】 | 48.5 | 13.4 | 34.6 |
| 3. 「共助」 【地域や身近にいる人同士が 助け合うこと】 | 45.6 | 14.1 | 36.4 |

無回答・無効票

1. 2.8 2. 3.5 3. 3.9

よこはま地震防災市民憲章とは?

～ 私たちの命は私たちで守る ～



ここ横浜は、かつて関東大震災に見舞われ、多くの方が犠牲になりました。大地震は必ずやってきます。その時、行政からの支援はすぐには届きません。

そこで、減災に向けた自助・共助の大切さを共通認識として持っていただき、世代を超えて引き継がれることを願って制定されたものです。理念である憲章本文と、具体的な23の行動を示した行動指針で構成しています。

詳しくは、

[よこはま地震防災市民憲章](#)

[検索](#)

■ 避難場所等についてお伺いします。

問 17 あなたは、次の避難場所について意味を知っていますか。また、お住まいの地域にそれぞれの避難場所がどこにあるか把握していますか。それぞれ右のあてはまる番号に○をつけてください。

n=2,682

| | 意味を知っており、場所もわかる | 意味は知っているが、場所はわからない | 意味も場所も知らない | 無回答 無効票 |
|-------------|-----------------|--------------------|------------|------------|
| 1. いっとき避難場所 | 39.5 | 20.7 | 36.6 | 3.2 |
| 2. 広域避難場所 | 59.8 | 21.8 | 15.3 | 3.1 |
| 3. 地域防災拠点 | 31.7 | 29.6 | 33.5 | 5.1 |
| 4. 福祉避難所 | 5.6 | 29.5 | 58.7 | 6.3 |

○ 避難する場所を知っていますか？

自宅が倒壊や火災によって危険であるときは、避難場所まで避難しましょう。

※ 周りの状況に応じて、避難ルートを考えましょう。

自宅



いっとき避難場所

避難の必要があるときは、町内会など地域で取り決めている避難場所にひとまず行きましょう。ただし、状況によっては、いっとき避難場所を経由せず直接、下記避難場所に避難する場合があります。

▼ 火災が広がっている場合

広域避難場所

地震による延焼火災の輻射熱や煙から生命・身体を守るために一時的に避難する場所です。

▼ 倒壊や火災により自宅で生活できなくなった場合

地域防災拠点

市内1箇所でも、震度5強以上の地震を観測した場合に開設します。避難生活を送る場所です。あらかじめ、市立学校等から、本市が指定しています。

避難者が一時的に生活するための最低限の食料・水を備蓄するとともに、救助活動に必要な資機材などを整備しています。

地域防災拠点の主な役割

- ① 避難所
- ② 最低限の水と食料の備蓄場所
- ③ 安否情報・被害情報・救援物資情報の収集・伝達場所

- ・ 地域防災拠点の運営
- ・ 地域防災拠点にある資機材の取扱い
(横浜防災ライセンス講習会)

自宅に居住でき、避難の必要が無い被災者(在宅被災生活者)や地域防災拠点以外で被災生活を送る避難者も、地域防災拠点で、物資や情報が得られます。

必要に応じて

- ・ 津波の危険がある場合
→ 津波避難施設など高いところ
- ・ 帰宅困難になってしまった場合
→ 帰宅困難者一時滞在施設など



福祉避難所

高齢者や障害者などのうち、避難生活で特別な配慮が必要である人のための二次的避難所です。

必要に応じて



● ご注意いただくこと

地域防災拠点(周辺道路を含む。)への自家用車の乗入れは禁止です。自家用車での避難は、緊急交通車両等の通行の妨げになるので、徒歩で避難できる方は原則徒歩で避難しましょう。

また、車中泊避難はエコノミークラス症候群などの健康被害の原因となります。

問 18 横浜市は、大地震が発生し、建物の倒壊等によりご自宅にいられなくなった際は、地域防災拠点へ避難していただく事になっています。（問 17 のコラムを参照）

次のような状況になった場合、あなたは、どのような行動をしたいと思いますか。それぞれ右にあてはまる番号に○をつけてください。 n=2, 682

| | 避難所に行く | 知人の家に行く | 公園等に行く | 車の中にいる | 自宅にいる | 無回答 無効票 |
|--------------------------------|--------|---------|--------|--------|-------|------------|
| 1. 余震が続く場合（自宅は無被害） | 11.7 | 1.0 | 4.2 | 1.9 | 79.0 | 2.1 |
| 2. 自宅が半壊、一部破損している場合 | 61.1 | 8.3 | 5.6 | 6.7 | 14.9 | 3.5 |
| 3. 自宅が全壊している場合 | 80.9 | 9.5 | 1.9 | 3.8 | 0.5 | 3.4 |
| 4. 水・ガス・電気等が使えない場合 （自宅は無被害） | 42.1 | 6.3 | 1.4 | 1.3 | 45.8 | 3.2 |
| 5. 市等の避難指示があった場合 | 88.0 | 3.1 | 1.3 | 1.3 | 3.1 | 3.2 |

問 18-1（いずれかの回答で「4 車の中にいる」を選択した方に質問します）

あなたが、「4 車の中にいる」を選択した理由はなんですか。あなたの考え方に一番近いものを選択してください。「1つ選択」 n=254

- | | |
|------------------------|------|
| 1. 余震が怖いので、屋内よりも屋外にいたい | 27.2 |
| 2. 集団生活が苦手なため | 14.2 |
| 3. 子どもがいるため | 8.3 |
| 4. 介護が必要な家族がいるため | 3.9 |
| 5. ペットがいるため | 27.6 |
| 6. 避難所がどこかわからないため | 0.8 |
| 7. その他 | 10.2 |
| 無回答・無効票 | 7.9 |

車中泊におけるエコノミークラス症候群の危険性

平成 28 年に発生した熊本地震では、余震不安などから多くの方が自家用車等の車中泊避難を選択されましたが、その避難形態には様々なリスクを伴います。

食事や水分を十分にとらない状態で、車などの狭い空間に長時間座っていて足を動かさないと、血液が固まりやすくなります。血の固まり（血栓）が血管の中を流れ、肺に詰まって肺塞栓などを誘発する恐れがあります。この症状をエコノミークラス症候群と呼んでいます。その回避のためにも、車中泊避難のような、長時間、車の中に滞在することは避けてください。

なお、人命救助や支援物資の物流機能確保に、限られた道路交通機能を最優先で活用できるよう、自動車利用の自粛をお願いします。



問19 過去の大震災において避難所等では、女性の避難生活への配慮などをめぐる様々な問題がありました。このような状況を踏まえて、横浜市では、地域防災拠点（避難所）運営等において、女性に配慮した取組を進めています。様々な取組の中でどのようなことが特に重要だと考えますか。 **3つまで選択**

n=2, 682

| | |
|--|------|
| 1. 地域防災拠点の運営への女性意見の反映 | 23.9 |
| 2. 女性への性暴力等を防ぐための防犯の強化 | 33.6 |
| 3. プライバシーに配慮した着替えや下着を干す場所の確保 | 62.0 |
| 4. トイレを安全・安心に利用できる工夫 (男女別の設置、設置場所、設置場所までの経路、照明等の工夫) | 73.3 |
| 5. 妊婦に対しての配慮 | 26.9 |
| 6. 女性用物資の女性による配付 | 20.7 |
| 7. 避難者による食事作りや片付け、掃除等の役割分担 (性別や年齢等で固定しない。) | 16.1 |
| 8. 悩みを相談できる場所の設置 | 12.1 |
| 無回答・無効票 | 5.9 |

問 19-1 女性に配慮した防災対策の推進に向け、問 19 であげている 8 項目以外で必要だと考えられるものがあれば、お答えください。

◎ 地域防災拠点（避難所）で、誰もが安心して被災生活を送るために…

地域防災拠点（避難所）には、妊産婦、乳幼児、高齢者、障害のある方、外国人といった様々な方が避難されます。

横浜市では、避難された全ての方が、安心して被災生活を送るために必要な項目を、防災計画に定めていますが、今後も、プライバシーへの配慮など誰にとっても安心できる避難所運営となるよう具体的な取組を進めていきます。

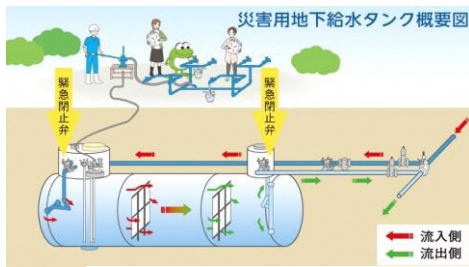
問 20 あなたは、「災害時給水所」について知っていますか。 **1つ選択** n=2,682

- | | | | |
|-----------------|------|--------------------|------|
| 1. 知っており、場所もわかる | 20.7 | 2. 知っているが、場所はわからない | 31.2 |
| 3. 知らない | 45.6 | 無回答・無効票 | 2.5 |

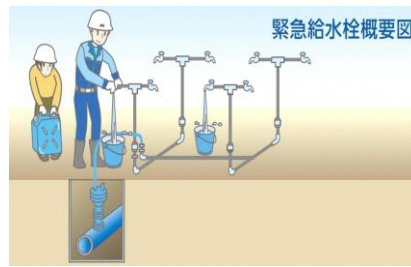
災害時給水所とは？

災害時給水所とは、災害時における断水に備えて、概ね 500 メートル圏内で飲料水が確保できるように整備している施設です。主に、小・中学校や公園が該当します。

具体的には、「災害用地下給水タンク」、「緊急給水栓」、「配水池」などを災害時給水所として整備しています。災害時給水所の場所は、横浜市のウェブサイト、スマートフォンのアプリ「ロケスマ」で確認できます。



災害用地下給水タンク



緊急給水栓



配水池

■ 災害時の医療についてお伺いします。

問 21 あなたは、災害時にけがや病気になった時に、緊急度や重症度を自分で判断し、適切な医療機関に受診するという仕組みを知っていますか。 **1つ選択** n=2,682

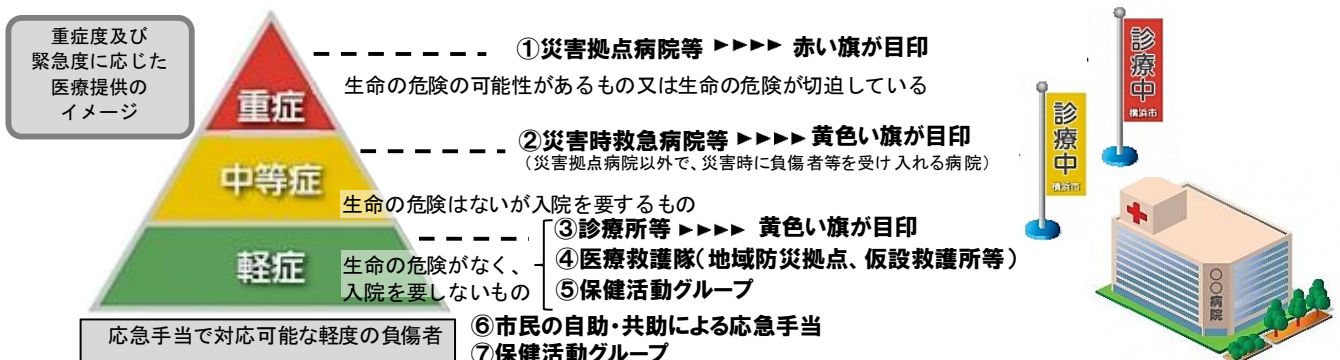
- | | | | |
|----------|------|---------|------|
| 1. 知っている | 19.7 | 2. 知らない | 73.3 |
| 無回答・無効票 | 7.0 | | |

緊急度・重症度に応じた医療提供体制

災害時には、医療機関に多くの負傷者が殺到し、非常に混乱する可能性があります。

例えば、軽症の方が災害拠点病院を受診しようとしても、重症の患者が優先となりますので、非常に時間がかかったり、結局別の医療機関を紹介されることが考えられます。

下記の図の緊急度・重症度に応じた体制を参考に、適切な医療機関に受診してください。



《風水害対策》

■ あなたが風水害に対して心配していることについてお伺いします。

問 22 あなたは自分の住んでいる地域で、次の風水害の不安を感じたことはありますか。

3つまで選択 n=2,682

| | | | | | | | | | |
|--------------|------|------------|------|---------|------|------------|------|-------|------|
| 1. がけ崩れ | 27.6 | 2. 河川のはんらん | 23.4 | 3. 浸水 | 15.9 | 4. 落雷 | 28.7 | 5. 竜巻 | 19.5 |
| 6. 高潮 | 2.7 | 7. 道路冠水 | 23.3 | 8. 雪害 | 7.2 | 9. その他 () | | | 1.6 |
| 10. 感じたことがない | | | 24.9 | 無回答・無効票 | | | | | 2.5 |

問 23 あなたは自分の住んでいる地域で、風水害が発生した場合、特にどのようなことが心配ですか。

5つまで選択 n=2,682

| | | | |
|--------------------|------|-------------------|------|
| 1. 家屋・建物の流出 | 14.8 | 2. 窓ガラスや看板などの落下 | 17.2 |
| 3. ガスなど危険物の爆発・流出 | 19.1 | 4. 電気、水道、ガスの供給停止 | 66.9 |
| 5. 道路や鉄道機関の被害や混乱 | 28.2 | 6. がけ崩れ・地割れ | 21.7 |
| 7. 浸水・堤防の決壊 | 14.4 | 8. 携帯電話を含む電話の不通 | 24.4 |
| 9. 生産活動の停止 | 5.7 | 10. 家族や友人の安否 | 33.4 |
| 11. 災害状況などの情報の入手 | 8.7 | 12. デマなどによる情報の混乱 | 4.1 |
| 13. 自主防災組織等による協力体制 | 2.3 | 14. 治安の悪化・混乱 | 8.3 |
| 15. 食料や飲料水などの不足 | 54.0 | 16. けがや病気の場合の医療体制 | 21.8 |
| 17. 日用品の不足 | 23.6 | 18. 仕事や事業の不振 | 2.1 |
| 19. 避難所等への自力避難 | 8.5 | 20. 避難場所までの安全性 | 8.9 |
| 21. 避難場所の安全性 | 7.1 | 22. 金融機関の混乱 | 2.3 |
| 23. ペットに関すること | 9.3 | 24. その他 () | 0.6 |
| 25. 特に心配はない | 1.7 | 無回答・無効票 | 3.7 |

■ 風水害に対して行っている対策についてお伺いします。

問 24 あなたやあなたのご家庭では、現在、どのような対策をしていますか。

該当するものすべて選択 n=2,682

| | | | |
|----------------------------|------|-----------------------------------|------|
| 1. 携帯ラジオ、懐中電灯などを準備している | 71.1 | 2. 食料や飲料水を準備している | 55.5 |
| 3. いつも風呂に水をためおきしている | 23.2 | 4. 日用品（医薬品、おむつ等）をすぐ持ち出せるように準備している | 18.4 |
| 5. トイレパックを備蓄している | 26.5 | 6. 気象情報についてこまめに確認している | 35.9 |
| 7. 雨水ますが詰まらないよう、定期的に掃除している | 7.6 | 8. 屋根や窓周りの暴風対策や補強をしている | 3.2 |
| 9. 土のうの準備をしている | 0.4 | 10. いざという時に隣近所で助け合える関係をつくっている | 13.0 |
| 11. 地域の防災訓練に参加している | 15.2 | 12. 家族との連絡方法を決めている | 20.2 |
| 13. 避難する場所を確認している | 25.9 | 14. 避難場所への避難経路を確認している | 15.4 |
| 15. 自宅周辺の危険箇所を確認している | 8.7 | 16. その他 () | 0.6 |
| 17. 特に何もしていない | 10.5 | 無回答・無効票 | 1.9 |

■ 避難行動についてお伺いします。

問 25 あなたは、災害の発生が予測されるとき、横浜市が発令する次の情報の意味を知っていますか。それぞれ右のあてはまる番号に○をつけてください。 n=2,682

| | 知っている | 知らない |
|-------------------|-------|------|
| 1. 避難準備・高齢者等避難開始 | 56.0 | 40.0 |
| 2. 避難勧告 | 74.9 | 21.0 |
| 3. 避難指示（緊急） | 72.3 | 23.1 |
| 4. 屋内退避等安全確保措置指示※ | 22.8 | 71.1 |

※屋内退避等安全確保措置指示

災害が発生した場合や、更に災害の発生が切迫していて、屋外で移動することが危険な状況で発令します

無回答・無効票 1 4.1 2 4.1 3 4.7 4 6.0

問 26 あなたは、気象や防災に関して次の事柄を知っていますか。それぞれ右のあてはまる番号に○をつけてください。 n=2,682

| | 知っている | 知らない |
|-----------------------------|-------|------|
| 1. 土砂災害警戒情報 | 80.6 | 15.5 |
| 2. 気象（大雨等）特別警報 | 85.8 | 11.0 |
| 3. 竜巻注意情報 | 81.4 | 14.7 |
| 4. 浸水想定区域 | 54.7 | 40.3 |
| 5. 土砂災害警戒区域※ ¹ | 58.7 | 36.2 |
| 6. 急傾斜地崩壊危険区域※ ² | 43.0 | 51.6 |

※1 土砂災害警戒区域

急傾斜地等の崩壊が発生した場合に、住民等の生命・身体に危害が生じるおそれがあると認められる区域

※2 急傾斜地崩壊危険区域

急傾斜地の崩壊により相当数の住居等に危害が生ずるおそれのある地域及び一定の行為により崩壊を助長・誘発するおそれのある地域として指定された区域
※1、2については、各区の土砂災害ハザードマップなどで確認できます

無回答・無効票 1 3.9 2 3.2 3 4.0 4 5.0 5 5.1 6 5.4

● 風水害時の避難行動（避難のサイン）を確認しましょう

小石がバラバラ落下するなどの崖崩れの前兆現象や、下水道などからの浸水、河川の氾濫情報、避難勧告、避難準備・高齢者等避難開始といった【避難のサイン】を参考に、「自らの判断」で「自らの命は自ら守る」という考えのもと、危険がせまる前に早めに避難を開始しましょう。

避難のサイン（情報は早め！）

下水道などからの浸水

河川氾濫の危険

- テレビ・ラジオ・横浜市HPなどで気象情報に注意しましょう。
- 横浜市HPなどで河川の状況を確認しましょう。
- 外の様子に注意しましょう。
- ※側溝やマンホールから大量に水が溢れる。

土砂災害の危険

小石がバラバラ落下

斜面に湧水が発生

斜面に亀裂が発生など

崖崩れの
前兆現象

避難勧告、避難準備・高齢者等避難開始など

が、でたら…

避難行動（早めに行動！）

- **安全な場所へ避難**（指定緊急避難場所等の避難場所、近くの高台、土砂災害警戒区域外の親戚の家など）



- **堅牢な建物の2階以上または、近隣の高い建物へ避難**



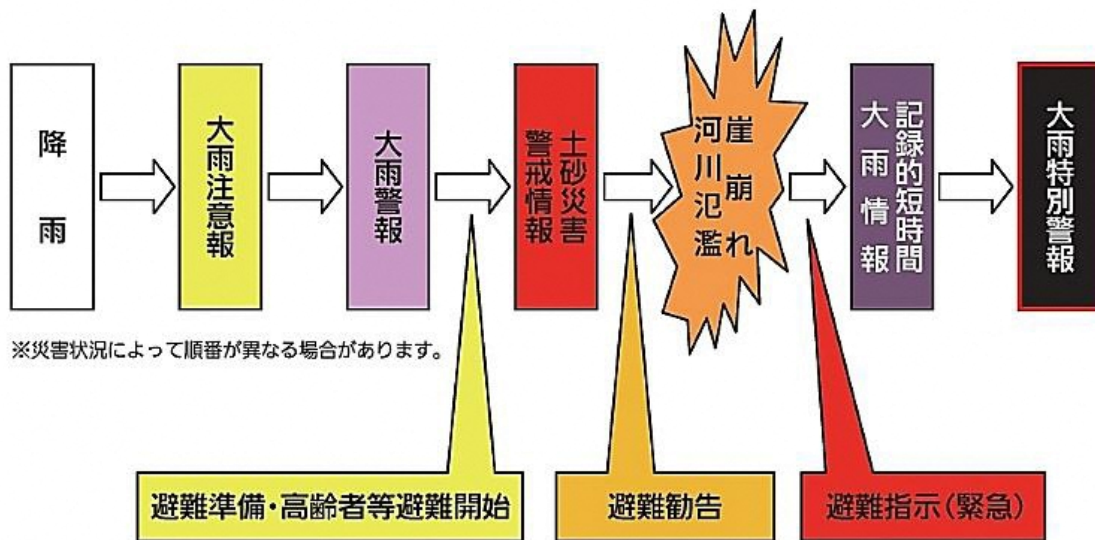
- **建物内の安全な場所で退避**（夜間や危険が差し迫っている場合など、屋外へ避難するとかえって危険な場合）



問 27 あなたが自宅にいて、豪雨が発生した場合、どのような状況になったら避難行動を開始しますか。 **1つ選択** n=2, 682

- | | |
|-------------------------------|------|
| 1. 普段より降雨が多いと感じた | 0.6 |
| 2. 大雨警報や洪水警報等が発表された | 3.3 |
| 3. 避難準備・高齢者等避難開始が発令された | 9.9 |
| 4. 警報が長らく続き、激しい雨も降りやまない | 2.9 |
| 5. 土砂災害警戒情報が発表された | 2.0 |
| 6. 土砂災害の前兆現象*や河川があふれそうな状況を知った | 3.8 |
| 7. 避難勧告が発令された | 23.4 |
| 8. 土砂災害が起きたり、河川があふれたことを知った | 1.6 |
| 9. 避難指示（緊急）が発令された | 18.7 |
| 10. 自宅が浸水し始めた | 5.1 |
| 11. 大雨特別警報が発表された | 1.0 |
| 12. 自宅が浸水や土砂災害の恐れがないため避難しない | 19.0 |
| 13. その他（ ） | 1.5 |
| 無回答・無効票 | 7.3 |

豪雨災害による防災情報等の流れ（イメージ）



| 気象情報 | 情報内容 |
|------------|------------------------------|
| 大雨注意報 | 大雨により、災害が起こるおそれがある。 |
| 大雨警報 | 大雨により、重大な災害が起こるおそれがある。 |
| 土砂災害警戒情報 | 大雨による土砂災害発生の危険度が更に高まったとき。 |
| 記録的短時間大雨情報 | 数年に一度の記録的な短時間の大雨を観測したとき。 |
| 大雨特別警報 | 大雨により、重大な災害が起こるおそれが著しく大きい場合。 |

| 避難情報 | 皆さんの行動 |
|---------------|---|
| 避難準備・高齢者等避難開始 | お年寄り、子ども、障害のある人、病気の人など、避難に時間を要する方は、避難行動を開始してください。 |
| 避難勧告 | 安全な場所へ避難を開始してください。 |
| 避難指示（緊急） | まだ避難行動をとっていない人は、直ちに避難を開始してください。 |

※気象情報の発表基準について、詳しくは、<http://www.jma.go.jp/jma/kishou/now/kijun/index.html> (気象庁HP)

《情報収集》

■ 災害に関する情報についてお伺いします。

問 28 あなたは普段、防災に関する情報を入手したい時に、主に何から入手していますか。

該当するものすべて選択 n=2,682

| | | | |
|--------------------|------|-------------------------|------|
| 1. テレビ | 90.5 | 2. インターネット | 57.2 |
| 3. 学校や職場の友人・知り合い | 9.1 | 4. 雑誌 | 1.1 |
| 5. 新聞 | 23.5 | 6. 市や県の広報紙 | 20.8 |
| 7. 隣近所の友人・知り合い | 8.2 | 8. ラジオ | 25.2 |
| 9. 家族や親類 | 13.0 | 10. 町内の回覧板や掲示板 | 17.1 |
| 11. チラシやフリーペーパー | 1.6 | 12. ツイッターやフェイスブックなどのSNS | 11.7 |
| 13. 携帯電話（スマートフォン等） | 48.2 | 14. その他（ ） | 0.4 |
| 15. 特にない | 0.3 | 無回答・無効票 | 0.9 |

問 29 あなたは、横浜市がホームページやリーフレット等により提供している次の防災マップを知っていますか。それぞれ右のあてはまる番号に○をつけてください。 n=2,682

| | 知っている | 知らない |
|----------------|-------|------|
| 1. 地震マップ | 36.6 | 59.6 |
| 2. わいわい防災マップ | 9.2 | 84.6 |
| 3. 液状化マップ | 15.6 | 78.4 |
| 4. 洪水ハザードマップ | 22.3 | 71.8 |
| 5. 内水ハザードマップ | 4.7 | 88.7 |
| 6. 土砂災害ハザードマップ | 22.8 | 71.1 |
| 7. 区防災マップ | 20.8 | 73.8 |
| 8. スイスイまっぷ | 2.7 | 90.8 |

無回答・無効票 1 3.8 2 6.2 3 6.0 4 5.9 5 6.6
6 6.1 7 5.4 8 6.5

◎ 各種ハザードマップの種類、用途

| 名称 | 用途 | | | | | | |
|------------------|---|--|---|--|------------------|---|--|
| 地震マップ | 大地震が発生した際のお住まいの地域周辺が概ねどの程度の震度になるかを確認できます。 | | | | | | |
| わいわい 防災マップ | 大地震が発生した際のお住まいの地域周辺の危険性や危険を回避するための情報を確認できます。各マップの情報がまとめてみたいときは便利です。地図の印刷もできます。 | | | | | | |
| 液状化 マップ | 大地震が発生した際のお住まいの地域周辺が概ねどの程度液状化の危険があるかを確認できます。 | | | | | | |
| 浸水ハザード マップ | <table border="1" style="width: 100%;"> <tbody> <tr> <td style="width: 10%;">ド マ ッ プ</td> <td style="width: 10%;">洪 水 ハ ザ ー ド マ ッ プ</td> <td>河川の氾濫による浸水について、日頃からどのように備えればよいか大雨時にどのようなことに注意すればよいか、お住まいの地域が河川の氾濫によりどの程度浸水するのかを確認できます。</td> </tr> <tr> <td style="width: 10%;">ド マ ッ プ</td> <td style="width: 10%;">内 水 ハ ザ ー ド マ ッ プ</td> <td>下水道や水道からの浸水について、日頃からどのように備えればよいか、大雨時にどのようなことに注意すればよいか、お住まいの地域が下水道や水道からどの程度浸水するか確認できます。</td> </tr> </tbody> </table> | ド マ ッ プ | 洪 水 ハ ザ ー ド マ ッ プ | 河川の氾濫による浸水について、日頃からどのように備えればよいか大雨時にどのようなことに注意すればよいか、お住まいの地域が河川の氾濫によりどの程度浸水するのかを確認できます。 | ド マ ッ プ | 内 水 ハ ザ ー ド マ ッ プ | 下水道や水道からの浸水について、日頃からどのように備えればよいか、大雨時にどのようなことに注意すればよいか、お住まいの地域が下水道や水道からどの程度浸水するか確認できます。 |
| ド マ ッ プ | 洪 水 ハ ザ ー ド マ ッ プ | 河川の氾濫による浸水について、日頃からどのように備えればよいか大雨時にどのようなことに注意すればよいか、お住まいの地域が河川の氾濫によりどの程度浸水するのかを確認できます。 | | | | | |
| ド マ ッ プ | 内 水 ハ ザ ー ド マ ッ プ | 下水道や水道からの浸水について、日頃からどのように備えればよいか、大雨時にどのようなことに注意すればよいか、お住まいの地域が下水道や水道からどの程度浸水するか確認できます。 | | | | | |
| 土砂災害 ハザードマップ | 大雨時にがけ崩れが発生しそうな場合、どのような行動をとればよいか、日頃からどのように備えればよいか、お住まいの地域周辺ががけ崩れの恐れがあるか確認できます。 | | | | | | |
| スイスイまっぷ | お住まいの地域周辺の災害時に飲料水が確保できる場所を確認できます。 | | | | | | |

◎ 各種ハザードマップのホームページでの確認方法

1. 横浜市ホームページのトップページにある「防災」をクリック



2. 「防災の地図」をクリック。



問 30 あなたは、横浜市が地震や気象情報などの防災情報を配信しているサービス

「防災情報Eメール」、「Yahoo!防災速報」、「横浜市総務局危機管理室 Twitter 公式アカウント」について知っていますか。それぞれ右にあてはまる番号に○をつけてください。 n=2,682

| | 知っており、すでに登録している | 知っているが、登録していない | 知らない |
|--------------------------------|-----------------|----------------|------|
| 1. 防災情報Eメール | 7.5 | 17.2 | 72.9 |
| 2. Yahoo!防災速報 | 14.1 | 23.8 | 59.5 |
| 3. 横浜市総務局危機管理室 Twitter 公式アカウント | 2.2 | 12.2 | 82.7 |

無回答・無効票 1 2.3 2 2.6 3 2.9

(問 30 で「2」と答えた方はご回答ください)

問 30-1 あなたが登録していない理由について、次の中からお選びください。

該当するものすべて選択 n=829

| | |
|----------------------------|------|
| 1. 登録が面倒 | 29.4 |
| 2. メールアドレス等の個人情報管理に不安がある | 18.8 |
| 3. サービス内容等がよくわからない | 28.3 |
| 4. 必要性を感じない (TV・ラジオ等により入手) | 27.0 |
| 5. 欲しい情報がない (具体的に) | 0.8 |
| 6. 携帯電話やパソコンを持っていない | 3.3 |
| 7. その他 () | 6.4 |
| 無回答・無効票 | 18.2 |

横浜市防災情報Eメール、Yahoo!防災速報登録の案内

横浜市では、地震震度情報、気象情報、注意報等を始めとする防災情報をEメールやYahoo!防災情報で配信するサービスを行っています。

このサービスを携帯電話やスマートフォン等で活用することにより、防災情報をいち早く入手することができます。災害時の備えとして、ぜひ登録ください！

メール

■ 横浜市防災情報Eメール

パソコンや携帯電話から事前に登録いただいた方に、地震、津波、気象警報・注意報、河川水位、緊急なお知らせなどを送信します。右記QRコードや下記メールアドレスへ空メールを送信してください。登録案内メールが届きます。(横浜市防災情報Eメール: entry-yokohama@bousai-mail.jp)



アプリ

■ Yahoo!防災速報

スマートフォンから利用できる「アプリ版」を右記QRコードからダウンロードするか、パソコンや従来型の携帯電話から利用できる「メール版」に登録することで、横浜市からの防災緊急情報を受信できます。(Yahoo!防災速報: <https://emg.yahoo.co.jp>)



ツイッター

■ 横浜市総務局危機管理室の公式アカウント

市内で広域的な災害が予測される場合の避難等に関する情報や、災害対策本部体制下における災害等に関する情報、特別警報、警報、一部の注意報の発令解除情報を発信します。

アカウント: [yokohama_saigai](https://twitter.com/yokohama_saigai) URL: https://twitter.com/yokohama_saigai

防災よこはまの活用について

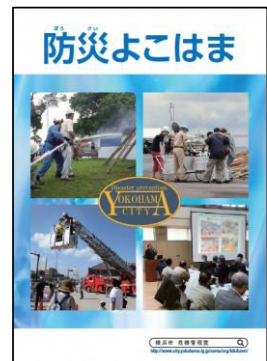
横浜市は、大地震や台風、土砂災害などの様々な危険にさらされています。本冊子は、こうした様々な災害に対する市民の皆様による自助、共助の取組の参考にさせていただくために作成したものです。

災害による被害を少しでも軽減するためには、公助に加えて、自助と共助の力が大変重要です。

事前の備えや、ご家庭・地域での話し合いなどに、ぜひご活用ください。各区役所総務課または、総務局危機管理課にて配布しています。

ホームページからもダウンロードできます。

<http://www.city.yokohama.lg.jp/somu/org/kikikanri/bo-saiyokohama/>



■ 危機管理に係るご意見についてお伺いします。

問 31 危機管理について、横浜市に力を入れて取り組んでほしいことはどれですか。 5つまで選択

n=2,682

| | |
|-----------------------------------|------|
| 1. 緊急時の警報や避難指示などを伝達する体制や仕組みの強化 | 48.5 |
| 2. 災害に関する情報提供や広報 | 22.1 |
| 3. 避難場所・避難道路の整備 | 23.5 |
| 4. 水・食糧・毛布などの十分な備蓄 | 56.7 |
| 5. 地域における防災組織の確立 | 7.1 |
| 6. 防災訓練などの意識啓発の強化 | 4.5 |
| 7. 学校や公共施設の耐震化・安全化 | 25.7 |
| 8. 地下街や高層ビルに対する防災指導の強化 | 6.8 |
| 9. 一般住宅の耐震診断・耐震補助 | 11.9 |
| 10. がけ崩れや液状化などへの対策 | 11.1 |
| 11. 津波・高潮・洪水などによる浸水への対策 | 7.7 |
| 12. ハザードマップの作成 | 5.4 |
| 13. 避難方法や避難場所の周知 | 16.8 |
| 14. 災害時要援護者（高齢者や体の不自由な方）の支援対策 | 14.2 |
| 15. 帰宅困難者への対策 | 19.5 |
| 16. 国や近隣自治体、企業などとの協力体制の強化 | 6.9 |
| 17. 災害ボランティアの育成や受け入れ態勢の整備 | 4.1 |
| 18. 医療救護の確保など、災害時の医療体制の強化 | 27.8 |
| 19. 電気・ガス・水道・電話などのライフライン施設の耐震性の向上 | 60.7 |
| 20. 停電や電力不足への対策 | 24.5 |
| 21. 放射性物質による汚染への対策 | 4.3 |
| 22. その他（具体的に | 1.8 |
| 23. 特にない | 1.3 |
| 無回答・無効票 | 5.9 |

選択したものに関して、具体的にはどのようなことに取り組んでほしいと考えていますか。ご記入ください。

《あなたご自身のことについて》

F 1 あなたがお住まいになっている区をお選びください。 1つ選択 n=2,682

| | | | | | |
|-----------|-----|---------|-----|---------|-----|
| 1. 青葉区 | 8.1 | 2. 旭区 | 6.9 | 3. 泉区 | 4.4 |
| 4. 磯子区 | 4.3 | 5. 神奈川区 | 5.0 | 6. 金沢区 | 6.3 |
| 7. 港南区 | 6.6 | 8. 港北区 | 8.6 | 9. 栄区 | 3.4 |
| 10. 瀬谷区 | 4.5 | 11. 都筑区 | 5.3 | 12. 鶴見区 | 6.3 |
| 13. 戸塚区 | 7.6 | 14. 中区 | 3.6 | 15. 西区 | 3.2 |
| 16. 保土ヶ谷区 | 5.2 | 17. 緑区 | 4.5 | 18. 南区 | 4.5 |
| 無回答・無効票 | 1.6 | | | | |

F 2 あなたの年代を次の中からお選びください。 1つ選択 n=2,682

| | | | | | |
|----------|------|---------|------|---------|------|
| 1. 10歳代 | 2.8 | 2. 20歳代 | 7.0 | 3. 30歳代 | 11.7 |
| 4. 40歳代 | 17.7 | 5. 50歳代 | 17.2 | 6. 60歳代 | 17.3 |
| 7. 70歳以上 | 24.5 | 無回答・無効票 | 1.8 | | |

F 3 あなたの性別をお選びください。 1つ選択 n=2,682

| | | | | | |
|-------|------|-------|------|---------|-----|
| 1. 男性 | 41.5 | 2. 女性 | 56.4 | 無回答・無効票 | 2.1 |
|-------|------|-------|------|---------|-----|

F 4 あなたの家族形態は、この中のどれにあたりますか。同居している方のみで当てはまるものをお答えください。 1つ選択 n=2,682

| | | | | | |
|-----------------|-----|-----------|------|-------------|------|
| 1. ひとり暮らし | 9.7 | 2. 夫婦のみ | 28.3 | 3. 親と子（2世代） | 51.9 |
| 4. 祖父母と親と子（3世代） | 6.4 | 5. その他（ ） | 1.7 | | |
| 無回答・無効票 | 2.0 | | | | |

F 5 あなたに同居しているお子さんはいますか。いる場合、お子さんは次のどの段階にあたりますか。

該当するものすべて選択 n=2,682

| | | | |
|-----------|------|------------------|------|
| 1. 小学校入学前 | 10.3 | 2. 小学校在学中 | 10.7 |
| 3. 中学生以上 | 28.3 | 4. 同居している子どもはいない | 39.0 |
| 無回答・無効票 | 18.3 | | |

F 6 あなたのお住まいの形態を次の中からお選びください。 1つ選択 n=2,682

| | | | |
|---------------|------|-------------------|------|
| 1. 持家（一戸建て） | 48.1 | 2. 持家（マンション・共同住宅） | 28.8 |
| 3. 借家（一戸建て） | 1.7 | 4. 借家（マンション・共同住宅） | 18.0 |
| 5. 社宅・公務員住宅・寮 | 1.3 | 6. その他（ ） | 0.3 |
| 無回答・無効票 | 1.9 | | |

F 7 あなたは、自治会、町内会、マンション管理組合などに加入していますか。 1つ選択 n=2,682

| | | | |
|-----------|------|------------|------|
| 1. 加入している | 82.3 | 2. 加入していない | 15.4 |
| 無回答・無効票 | 2.3 | | |

～お忙しい中、アンケート調査にご協力いただきまして、誠にありがとうございました。～
ご記入がお済みになりましたら、このアンケート用紙と一緒に送りいたしました返信用封筒（切手不要）に入れて、7月27日（金）までに ご投函ください。

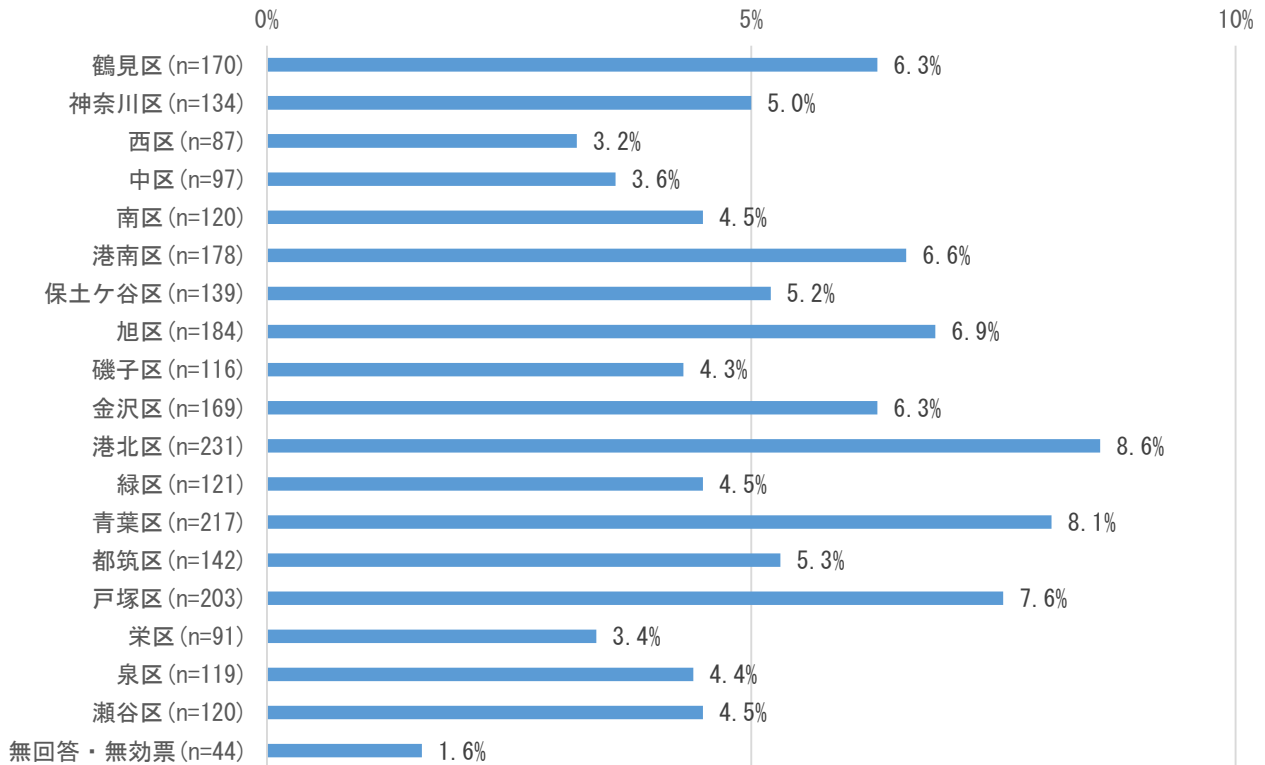
第2章 調査の結果

1. 回答者の属性

(1) あなたご自身のことについて

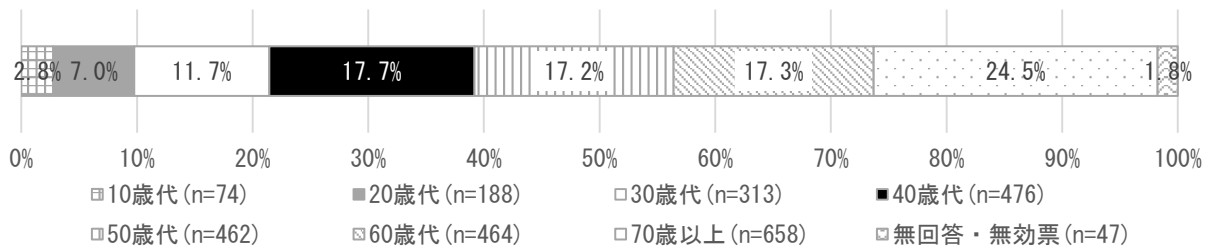
F 1 あなたがお住まいになっている区をお選びください。1つ選択

【全体集計】 n=2,682



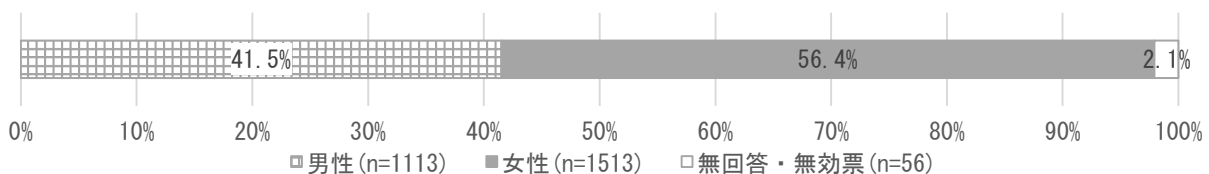
F 2 あなたの年代を次の中からお選びください。1つ選択

【全体集計】 n=2,682



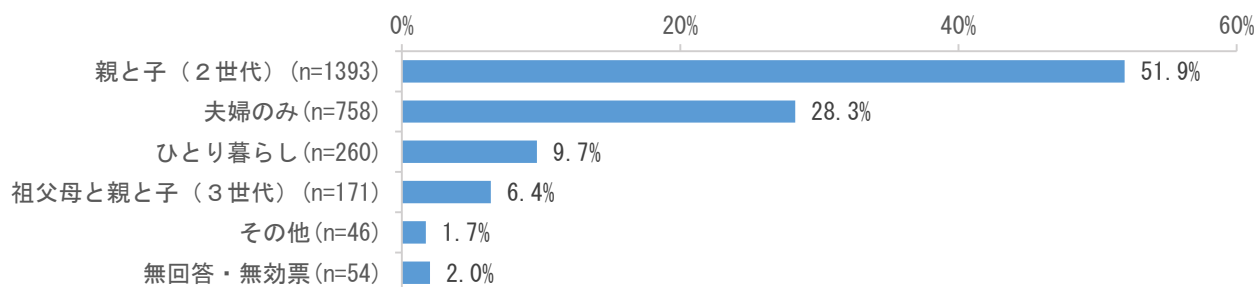
F 3 あなたの性別をお選びください。1つ選択

【全体集計】 n=2,682



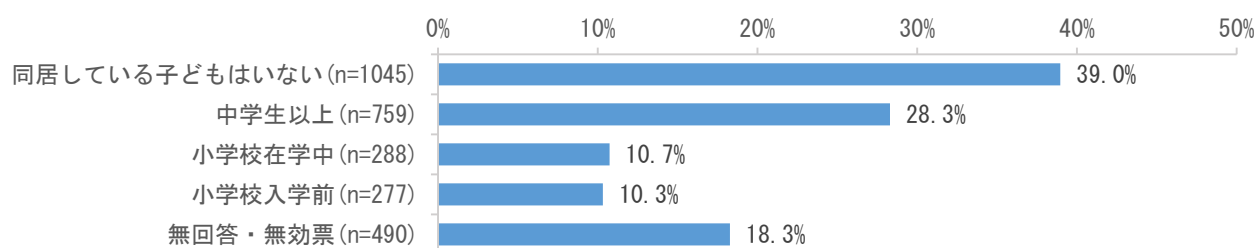
F 4 あなたの家族形態は、この中のどれにあたりますか。同居している方のみで当てはまるものをお答えください。1つ選択

【全体集計】 n=2,682



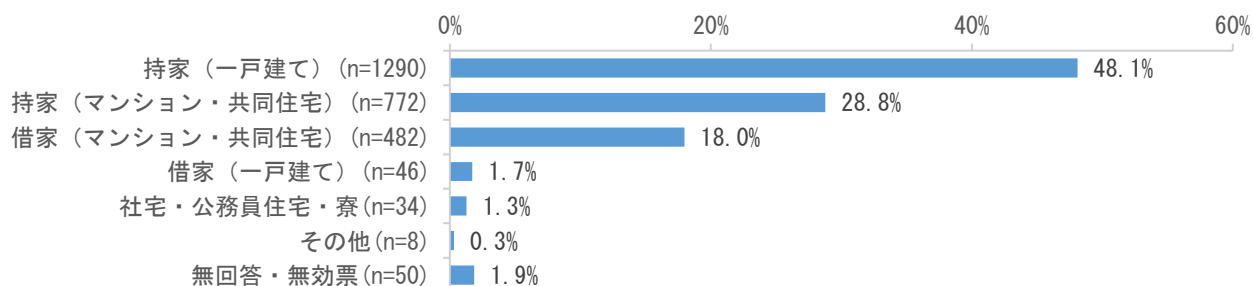
F 5 あなたに同居しているお子さんはいますか。いる場合、お子さんは次のどの段階にあたりますか。該当するものすべて選択

【全体集計】 n=2,682



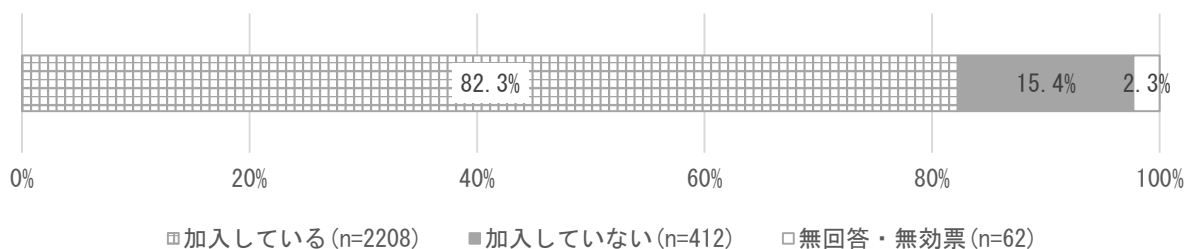
F 6 あなたのお住まいの形態を次の中からお選びください。1つ選択

【全体集計】 n=2,682



F 7 あなたは、自治会、町内会、マンション管理組合などに加入していますか。1つ選択

【全体集計】 n=2,682



2. 地震対策

(1) 大地震への不安等について

問1 あなたは自分の住んでいる地域で、大地震が近く起きるのではないかと不安を感じていますか、感じていませんか。1つ選択

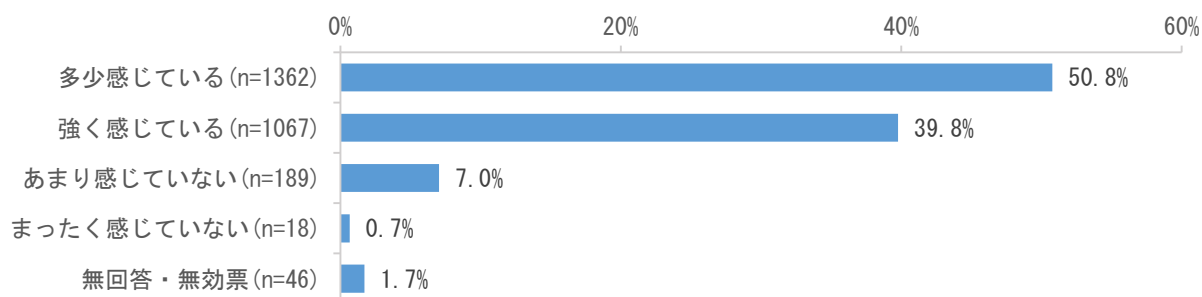
◇大地震への不安を感じている人は9割超

大地震への不安については、「多少感じている」が50.8%で最も高く、次いで「強く感じている」が39.8%となった。

経年比較では、「強く感じている」の割合が年々増加し、平成19年調査の29.0%から10.8%増加して、今回調査では39.8%となった。

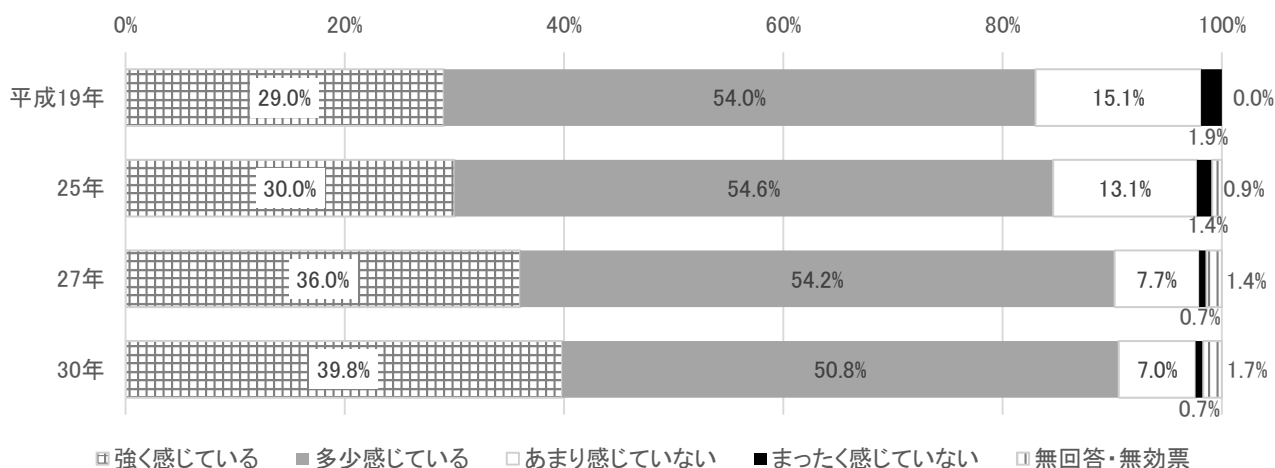
年代別集計において、「強く感じている」の割合が50歳代以上では40%を超えているが、20歳代以下では30%を下回っている。

【全体集計】 n=2,682



図表 1-1：大地震への不安

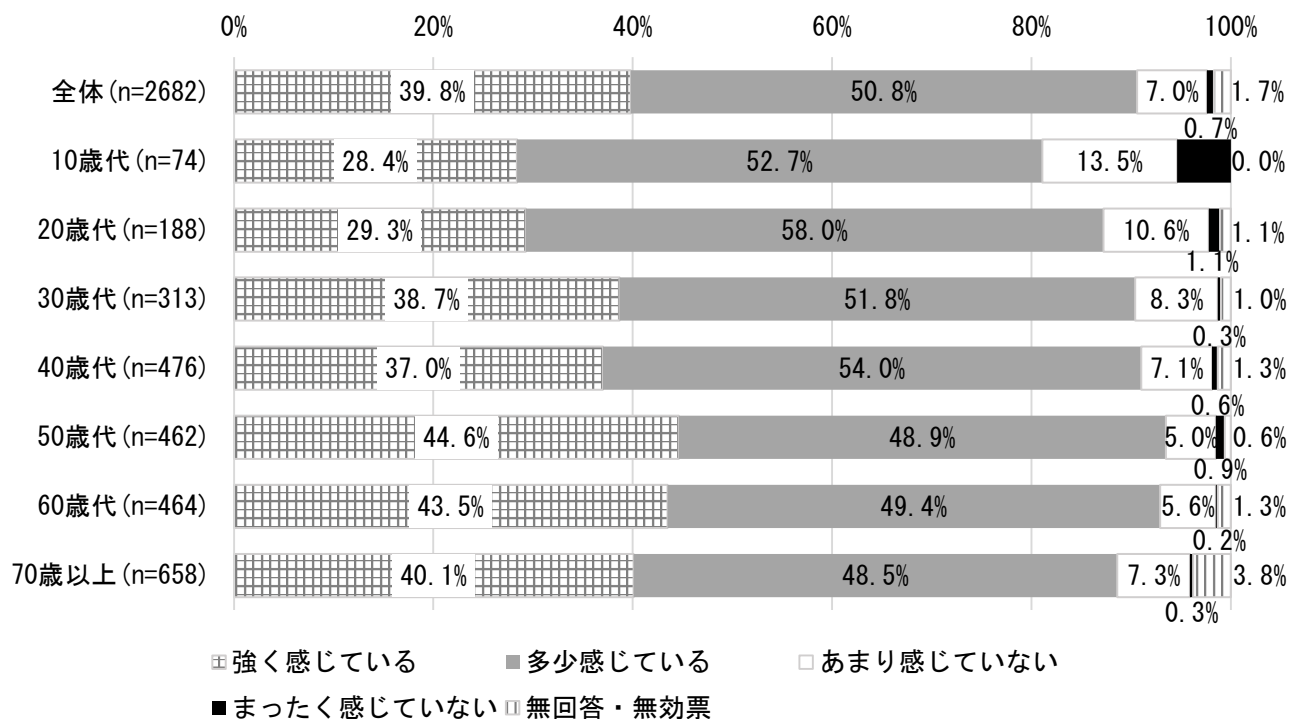
【経年比較】 ※参考



図表 1-2：大地震への不安 経年比較

※平成19年、25年は横浜市民意識調査から抜粋。平成19年調査の選択肢は「まったく感じていない」が「全然感じていない」であった。

【年代別集計】



図表 1-3 : 大地震への不安 年代別集計

問2 あなたの住んでいる地域で大地震が発生した場合、特にどのようなことが心配ですか。5つまで選択

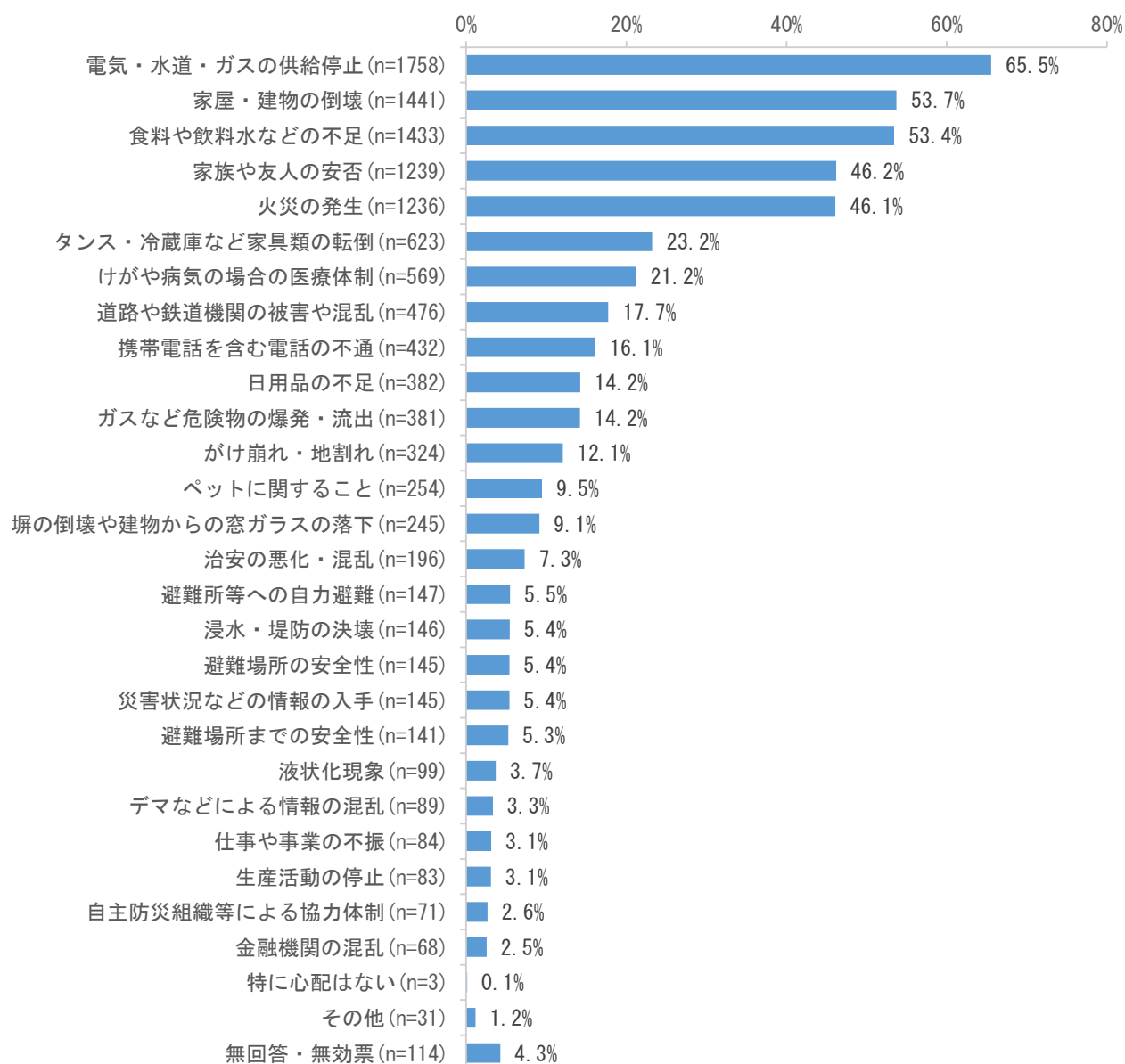
◇大地震が発生した場合、最も心配なのは「電気・水道・ガスの供給停止」

大地震が発生した場合に心配なことは、「電気・水道・ガスの供給停止」が65.5%と最も高く、次いで「家屋・建物の倒壊」の53.7%となった。

経年比較では、「電気・水道・ガスの供給停止」が年々増加し、平成20年調査の49.7%から15.8%増加して、今回調査では65.5%となった。

年代別集計では唯一、「70歳以上」で「けがや病気の場合の医療体制」（30.5%）が5位に入っている。

【全体集計】 n=2,682



図表 2-1：大地震が発生した場合の心配事

【経年比較】※上位5位を抜粋

| | 1位 | 2位 | 3位 | 4位 | 5位 |
|--------------------|-------------------------|-------------------|-----------------------|-----------------------|-------------------------|
| 平成20年 (n=2,341) | 家屋・建物の倒壊 69.8% | 家族や友人の安否 67.6% | 火災の発生 54.0% | 食料や飲料水などの 不足 50.7% | 電気・水道・ガスの供 給停止 49.7% |
| 27年 (n=3,217) | 電気・水道・ガスの供 給停止 62.0% | 家屋・建物の倒壊 53.5% | 食料や飲料水などの 不足 53.2% | 家族や友人の安否 49.5% | 火災の発生 48.0% |
| 30年 (n=2,682) | 電気・水道・ガスの 供給停止 65.5% | 家屋・建物の倒壊 53.7% | 食料や飲料水などの 不足 53.4% | 家族や友人の安否 46.2% | 火災の発生 46.1% |

図表 2-2：大地震が発生した場合の心配事 経年比較

【居住区別集計】※上位5位を抜粋

| | 1位 | 2位 | 3位 | 4位 | 5位 |
|------------------|---------------------------|-------------------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|
| 全体 (n=2,682) | 電気・水道・ガスの 供給停止 65.5% | 家屋・建物の倒壊 53.7% | 食料や飲料水などの 不足 53.4% | 家族や友人の安否 46.2% | 火災の発生 46.1% |
| 鶴見区 (n=170) | 電気・水道・ガスの 供給停止 62.9% | 家屋・建物の倒壊 54.1% | 食料や飲料水などの 不足 48.8% | 家族や友人の安否 45.3% | 火災の発生 44.7% |
| 神奈川区 (n=134) | 家屋・建物の倒壊 60.4% | 電気・水道・ガスの 供給停止 59.7% | 食料や飲料水などの 不足 51.5% | 火災の発生 49.3% | 家族や友人の安否 41.8% |
| 西区 (n=87) | 電気・水道・ガスの 供給停止 49.4% | 食料や飲料水などの 不足 47.1% | 火災の発生 46.0% | 家族や友人の安否 42.5% | 家屋・建物の倒壊 40.2% |
| 中区 (n=97) | 食料や飲料水などの 不足 61.9% | 電気・水道・ガスの 供給停止 56.7% | 家族や友人の安否 46.4% | 火災の発生 43.3% | 家屋・建物の倒壊 37.1% |
| 南区 (n=120) | 家屋・建物の倒壊 54.2% | 電気・水道・ガスの 供給停止 53.3% | 家族や友人の安否 47.5% | 食料や飲料水などの 不足 44.2% | 火災の発生 40.8% |
| 港南区 (n=178) | 電気・水道・ガスの 供給停止 72.5% | 食料や飲料水などの 不足 55.1% | 家屋・建物の倒壊 51.1% | 火災の発生 49.4% | 家族や友人の安否 42.7% |
| 保土ヶ谷区 (n=139) | 家屋・建物の倒壊 58.3% | 電気・水道・ガスの 供給停止 56.1% | 食料や飲料水などの 不足 54.7% | 火災の発生 47.5% | 家族や友人の安否 45.3% |
| 旭区 (n=184) | 電気・水道・ガスの供給停止 家屋・建物の倒壊 | 62.0% | 食料や飲料水などの 不足 50.5% | 火災の発生 47.8% | 家族や友人の安否 45.1% |
| 磯子区 (n=116) | 電気・水道・ガスの 供給停止 62.9% | 食料や飲料水などの 不足 58.6% | 家屋・建物の倒壊 54.3% | 家族や友人の安否 火災の発生 | 47.4% |
| 金沢区 (n=169) | 電気・水道・ガスの 供給停止 66.9% | 家屋・建物の倒壊 54.4% | 火災の発生 50.9% | 食料や飲料水などの 不足 49.7% | 家族や友人の安否 46.2% |
| 港北区 (n=231) | 電気・水道・ガスの 供給停止 67.1% | 家屋・建物の倒壊 57.6% | 食料や飲料水などの 不足 56.7% | 家族や友人の安否 48.1% | 火災の発生 45.0% |
| 緑区 (n=121) | 電気・水道・ガスの 供給停止 69.4% | 食料や飲料水などの 不足 52.1% | 家屋・建物の倒壊 48.8% | 家族や友人の安否 47.9% | 火災の発生 38.8% |
| 青葉区 (n=217) | 電気・水道・ガスの 供給停止 72.4% | 食料や飲料水などの 不足 57.1% | 家屋・建物の倒壊 53.0% | 家族や友人の安否 50.2% | 火災の発生 48.4% |
| 都筑区 (n=142) | 電気・水道・ガスの 供給停止 68.3% | 食料や飲料水などの 不足 58.5% | 家族や友人の安否 52.1% | 家屋・建物の倒壊 46.5% | 火災の発生 41.5% |
| 戸塚区 (n=203) | 電気・水道・ガスの 供給停止 73.4% | 食料や飲料水などの 不足 58.6% | 家族や友人の安否 52.2% | 家屋・建物の倒壊 50.7% | 火災の発生 40.9% |
| 栄区 (n=91) | 電気・水道・ガスの 供給停止 72.5% | 家屋・建物の倒壊 58.2% | 火災の発生 47.3% | 家族や友人の安否 41.8% | 食料や飲料水などの 不足 40.7% |
| 泉区 (n=119) | 電気・水道・ガスの 供給停止 70.6% | 家屋・建物の倒壊 61.3% | 食料や飲料水などの不足 火災の発生 | 54.6% | 家族や友人の安否 42.9% |
| 瀬谷区 (n=120) | 電気・水道・ガスの 供給停止 65.8% | 家屋・建物の倒壊 食料や飲料水などの不足 | 53.3% | 火災の発生 50.8% | 家族や友人の安否 40.0% |

図表 2-3：大地震が発生した場合の心配事 居住区別集計

【年代別集計】※上位5位を抜粋

| | 1位 | 2位 | 3位 | 4位 | 5位 |
|------------------|---------------------|------------------------------------|-------------------------|---------------------|-----------------------|
| 全体 (n=2,682) | 電気・水道・ガスの供給停止 65.5% | 家屋・建物の倒壊 53.7% | 食料や飲料水などの不足 53.4% | 家族や友人の安否 46.2% | 火災の発生 46.1% |
| 10歳代 (n=74) | 家族や友人の安否 56.8% | 電気・水道・ガスの供給停止 食料や飲料水などの不足 51.4% | | 家屋・建物の倒壊 50.0% | タンス・冷蔵庫など家具類の転倒 28.4% |
| 20歳代 (n=188) | 家屋・建物の倒壊 59.0% | 家族や友人の安否 58.0% | 食料や飲料水などの不足 52.7% | 電気・水道・ガスの供給停止 45.7% | 火災の発生 26.6% |
| 30歳代 (n=313) | 家族や友人の安否 57.8% | 食料や飲料水などの不足 55.9% | 家屋・建物の倒壊 53.0% | 電気・水道・ガスの供給停止 52.7% | 火災の発生 35.8% |
| 40歳代 (n=476) | 電気・水道・ガスの供給停止 65.1% | 食料や飲料水などの不足 59.5% | 家屋・建物の倒壊／家族や友人の安否 57.1% | | 火災の発生 41.6% |
| 50歳代 (n=462) | 電気・水道・ガスの供給停止 69.0% | 食料や飲料水などの不足 56.5% | 家族や友人の安否 53.5% | 家屋・建物の倒壊 50.9% | 火災の発生 48.9% |
| 60歳代 (n=464) | 電気・水道・ガスの供給停止 71.1% | 家屋・建物の倒壊 56.7% | 火災の発生 56.0% | 食料や飲料水などの不足 51.9% | 家族や友人の安否 39.9% |
| 70歳以上 (n=658) | 電気・水道・ガスの供給停止 72.5% | 火災の発生 53.8% | 家屋・建物の倒壊 50.3% | 食料や飲料水などの不足 47.4% | けがや病気の場合の医療体制 30.5% |

図表 2-4：大地震が発生した場合の心配事 年代別集計

【家族形態別集計】※上位5位を抜粋

| | 1位 | 2位 | 3位 | 4位 | 5位 |
|--------------------|---------------------|-------------------|-------------------|----------------|-------------------|
| 全体 (n=2,682) | 電気・水道・ガスの供給停止 65.5% | 家屋・建物の倒壊 53.7% | 食料や飲料水などの不足 53.4% | 家族や友人の安否 46.2% | 火災の発生 46.1% |
| ひとり暮らし (n=260) | 電気・水道・ガスの供給停止 68.8% | 食料や飲料水などの不足 50.8% | 家屋・建物の倒壊 50.4% | 火災の発生 43.5% | 家族や友人の安否 29.6% |
| 夫婦のみ (n=758) | 電気・水道・ガスの供給停止 70.7% | 食料や飲料水などの不足 52.6% | 家屋・建物の倒壊 51.2% | 火災の発生 50.9% | 家族や友人の安否 40.4% |
| 親子 (n=1,393) | 電気・水道・ガスの供給停止 62.6% | 家屋・建物の倒壊 55.5% | 食料や飲料水などの不足 55.4% | 家族や友人の安否 52.4% | 火災の発生 44.3% |
| 祖父母と親と子 (n=171) | 電気・水道・ガスの供給停止 62.6% | 家屋・建物の倒壊 56.1% | 家族や友人の安否 51.5% | 火災の発生 49.7% | 食料や飲料水などの不足 48.5% |
| その他 (n=46) | 電気・水道・ガスの供給停止 58.7% | 家屋・建物の倒壊 52.2% | 食料や飲料水などの不足 45.7% | 家族や友人の安否 39.1% | 火災の発生 37.0% |

図表 2-5：大地震が発生した場合の心配事 家族形態別集計

【住居形態別集計】※上位5位を抜粋

| | 1位 | 2位 | 3位 | 4位 | 5位 |
|---------------------------|---------------------|---------------------|---------------------------------|--------------------------------------|----------------|
| 全体 (n=2,682) | 電気・水道・ガスの供給停止 65.5% | 家屋・建物の倒壊 53.7% | 食料や飲料水などの不足 53.4% | 家族や友人の安否 46.2% | 火災の発生 46.1% |
| 持家（一戸建て） (n=1,290) | 電気・水道・ガスの供給停止 66.9% | 家屋・建物の倒壊 62.5% | 火災の発生 52.6% | 食料や飲料水などの不足 51.3% | 家族や友人の安否 44.4% |
| 持家（マンション・共同住宅） (n=772) | 電気・水道・ガスの供給停止 69.4% | 食料や飲料水などの不足 56.6% | 家族や友人の安否 48.6% | 火災の発生 42.4% | 家屋・建物の倒壊 40.5% |
| 借家（一戸建て） (n=46) | 家族や友人の安否 65.2% | 電気・水道・ガスの供給停止 63.0% | 家屋・建物の倒壊 60.9% | 食料や飲料水などの不足 45.7% | 火災の発生 32.6% |
| 借家（マンション・共同住宅） (n=482) | 電気・水道・ガスの供給停止 57.3% | 食料や飲料水などの不足 54.8% | 家屋・建物の倒壊 50.2% | 家族や友人の安否 46.7% | 火災の発生 38.6% |
| 社宅・公務員住宅・寮 (n=34) | 食料や飲料水などの不足 70.6% | 家屋・建物の倒壊 55.9% | 電気・水道・ガスの供給停止 家族や友人の安否 50.0% | | 火災の発生 29.4% |
| その他 (n=8) | 家屋・建物の倒壊 62.5% | 電気・水道・ガスの供給停止 50.0% | 火災の発生 37.5% | ガスなど危険物の爆発・流出 道路や鉄道機関の被害や混乱 25.0% | |

図表 2-6：大地震が発生した場合の心配事 住居形態別集計

問3 阪神・淡路大震災では、地震により発生した大規模火災が深刻な被害をもたらしました。地震火災に関してあなたの住んでいる地域で、心配なことをこの中から選んでください。該当するものすべて選択

◇地震火災に関して心配なことは「周辺の建物が火に強い構造ではない」で3割を超える

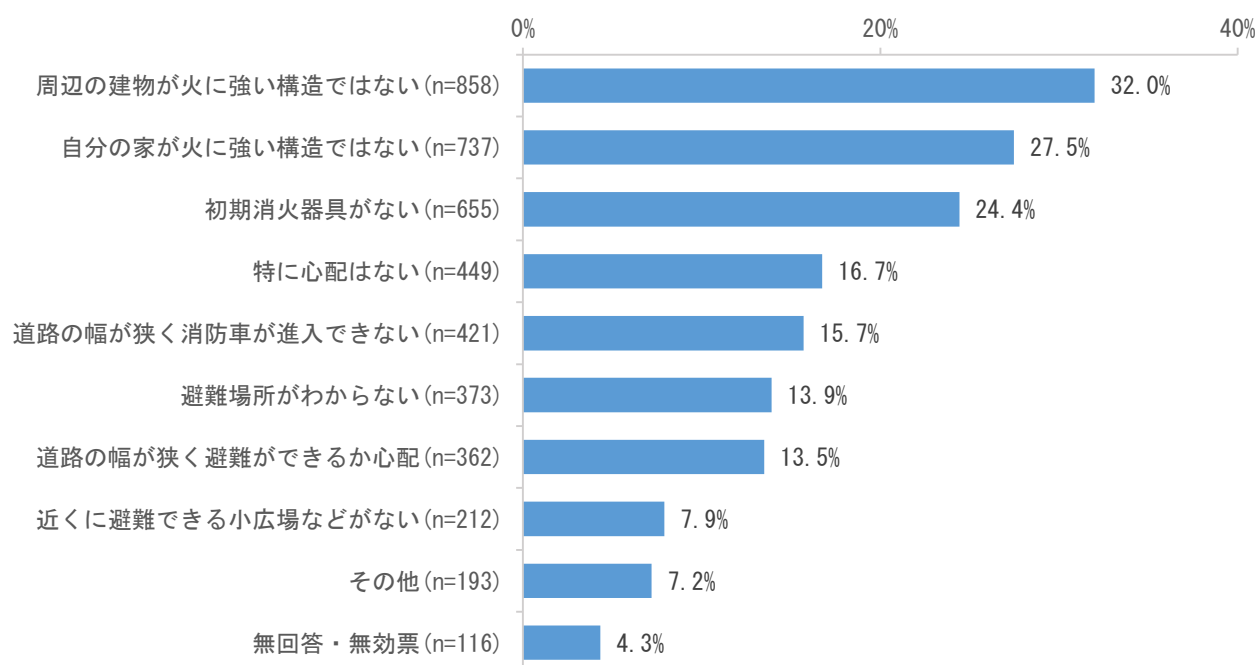
地震火災について不安なことは、「周辺の建物が火に強い構造ではない」が32.0%で最も高く、次いで「自分の家が火に強い構造ではない」が27.5%となった。

経年比較では、平成27年調査と同様の傾向である。

住居形態別集計では、「持家（一戸建て）」においては、「周辺の建物が火に強い構造ではない」が46.7%で最も高い。一方で「持家（マンション・共同住宅）」においては、「特に心配はない」が30.8%で最も高く、「周辺の建物が火に強い構造ではない」は16.8%にとどまった。

自治会、町内会、マンション管理組合加入別集計では、「加入していない」において、「避難場所がわからない」が32.8%で最も高くなった。

【全体集計】 n=2,682



図表 3-1：地震火災で心配なこと

【経年比較】 ※上位5位を抜粋

| | 1位 | 2位 | 3位 | 4位 | 5位 |
|--------------------|------------------------|-----------------------|-----------------|---------------|-------------------------|
| 平成27年 (n=3,217) | 周辺の建物が火に強い構造ではない 31.6% | 自分の家が火に強い構造ではない 31.1% | 初期消火器具がない 24.2% | 特に心配はない 16.2% | 道路の幅が狭く消防車が進入できない 15.6% |
| 30年 (n=2,682) | 周辺の建物が火に強い構造ではない 32.0% | 自分の家が火に強い構造ではない 27.5% | 初期消火器具がない 24.4% | 特に心配はない 16.7% | 道路の幅が狭く消防車が進入できない 15.7% |

図表 3-2：地震火災で心配なこと 経年比較

【居住区別集計】※上位5位を抜粋

| | 1位 | 2位 | 3位 | 4位 | 5位 |
|------------------|-------------------------------|---------------------------|----------------------------|----------------------------|----------------------------|
| 全体 (n=2,682) | 周辺の建物が火に強い構造ではない 32.0% | 自分の家が火に強い構造ではない 27.5% | 初期消火器具がない 24.4% | 特に心配はない 16.7% | 道路の幅が狭く消防車が進入できない 15.7% |
| 鶴見区 (n=170) | 周辺の建物が火に強い構造ではない 34.7% | 初期消火器具がない 23.5% | 自分の家が火に強い構造ではない 22.9% | 道路の幅が狭く消防車が進入できない 20.6% | 道路の幅が狭く避難ができるか心配 20.0% |
| 神奈川区 (n=134) | 周辺の建物が火に強い構造ではない 24.6% | 自分の家が火に強い構造ではない 21.6% | 道路の幅が狭く消防車が進入できない 20.1% | 避難場所がわからない 初期消火器具がない | 17.9% |
| 西区 (n=87) | 周辺の建物が火に強い構造ではない 初期消火器具がない | 23.0% | 道路の幅が狭く消防車が進入できない 20.7% | 避難場所がわからない 19.5% | 特に心配はない 17.2% |
| 中区 (n=97) | 周辺の建物が火に強い構造ではない 28.9% | 初期消火器具がない 18.6% | 特に心配はない 16.5% | 道路の幅が狭く消防車が進入できない 15.5% | その他 14.4% |
| 南区 (n=120) | 周辺の建物が火に強い構造ではない 37.5% | 自分の家が火に強い構造ではない 25.0% | 道路の幅が狭く消防車が進入できない 22.5% | 初期消火器具がない 19.2% | 避難場所がわからない 15.0% |
| 港南区 (n=178) | 周辺の建物が火に強い構造ではない 36.0% | 自分の家が火に強い構造ではない 25.3% | 初期消火器具がない 24.2% | 道路の幅が狭く消防車が進入できない 16.3% | 特に心配はない 15.7% |
| 保土ヶ谷区 (n=139) | 周辺の建物が火に強い構造ではない 33.1% | 自分の家が火に強い構造ではない 32.4% | 道路の幅が狭く消防車が進入できない 24.5% | 道路の幅が狭く避難ができるか心配 22.3% | 避難場所がわからない 15.8% |
| 旭区 (n=184) | 周辺の建物が火に強い構造ではない 40.8% | 自分の家が火に強い構造ではない 35.3% | 初期消火器具がない 25.0% | 道路の幅が狭く消防車が進入できない 16.8% | 避難場所がわからない 13.6% |
| 磯子区 (n=116) | 周辺の建物が火に強い構造ではない 37.9% | 自分の家が火に強い構造ではない 29.3% | 初期消火器具がない 25.9% | 道路の幅が狭く消防車が進入できない 18.1% | 道路の幅が狭く避難ができるか心配 13.8% |
| 金沢区 (n=169) | 周辺の建物が火に強い構造ではない 27.2% | 初期消火器具がない 25.4% | 自分の家が火に強い構造ではない 21.9% | 避難場所がわからない 特に心配はない | 16.0% |
| 港北区 (n=231) | 周辺の建物が火に強い構造ではない 33.8% | 自分の家が火に強い構造ではない 29.9% | 初期消火器具がない 22.9% | 道路の幅が狭く消防車が進入できない 20.3% | 道路の幅が狭く避難ができるか心配 18.2% |
| 緑区 (n=121) | 自分の家が火に強い構造ではない 30.6% | 初期消火器具がない 29.8% | 周辺の建物が火に強い構造ではない 24.8% | 特に心配はない 19.0% | 避難場所がわからない 14.9% |
| 青葉区 (n=217) | 初期消火器具がない 38.7% | 自分の家が火に強い構造ではない 26.7% | 周辺の建物が火に強い構造ではない 25.3% | 特に心配はない 20.3% | 避難場所がわからない 13.8% |
| 都筑区 (n=142) | 初期消火器具がない 29.6% | 特に心配はない 27.6% | 自分の家が火に強い構造ではない 26.1% | 周辺の建物が火に強い構造ではない 23.2% | 避難場所がわからない 9.9% |
| 戸塚区 (n=203) | 周辺の建物が火に強い構造ではない 32.5% | 自分の家が火に強い構造ではない 24.6% | 特に心配はない 22.2% | 初期消火器具がない 20.2% | 避難場所がわからない 12.8% |
| 栄区 (n=91) | 自分の家が火に強い構造ではない 36.3% | 周辺の建物が火に強い構造ではない 35.2% | 初期消火器具がない 23.1% | 特に心配はない 17.6% | 道路の幅が狭く避難ができるか心配 13.2% |
| 泉区 (n=119) | 周辺の建物が火に強い構造ではない 36.1% | 自分の家が火に強い構造ではない 35.3% | 初期消火器具がない 24.4% | 道路の幅が狭く消防車が進入できない 17.6% | 道路の幅が狭く避難ができるか心配 15.1% |
| 瀬谷区 (n=120) | 周辺の建物が火に強い構造ではない 40.8% | 自分の家が火に強い構造ではない 35.8% | 初期消火器具がない 23.3% | 道路の幅が狭く消防車が進入できない 19.2% | 道路の幅が狭く避難ができるか心配 18.3% |

図表 3-3：地震火災で心配なこと 居住区別集計

【住居形態別集計】※上位5位を抜粋

| | 1位 | 2位 | 3位 | 4位 | 5位 |
|-----------------------|--|--|----------------------------|---|----------------------------|
| 全体 (n=2,682) | 周辺の建物が火に強い構造ではない 32.0% | 自分の家が火に強い構造ではない 27.5% | 初期消火器具がない 24.4% | 特に心配はない 16.7% | 道路の幅が狭く消防車が進入できない 15.7% |
| 持家（一戸建て） (n=1,290) | 周辺の建物が火に強い構造ではない 46.7% | 自分の家が火に強い構造ではない 42.6% | 初期消火器具がない 29.1% | 道路の幅が狭く消防車が進入できない 21.2% | 道路の幅が狭く避難ができるか心配 15.3% |
| 持家（マンション・共同住宅）(n=772) | 特に心配はない 30.8% | 周辺の建物が火に強い構造ではない 16.8% | 初期消火器具がない 13.3% | 避難場所がわからない 12.0% | その他 11.9% |
| 借家（一戸建て） (n=46) | 自分の家が火に強い構造ではない 52.2% | 周辺の建物が火に強い構造ではない 初期消火器具がない 30.4% | 道路の幅が狭く消防車が進入できない 23.9% | 道路の幅が狭く避難ができるか心配 19.6% | |
| 借家（マンション・共同住宅）(n=482) | 避難場所がわからない 29.9% | 初期消火器具がない 28.4% | 自分の家が火に強い構造ではない 21.0% | 特に心配はない 20.3% | 周辺の建物が火に強い構造ではない 19.1% |
| 社宅・公務員住宅・寮 (n=34) | 避難場所がわからない 38.2% | 道路の幅が狭く避難ができるか心配 35.3% | 初期消火器具がない 32.4% | 特に心配はない 20.6% | 道路の幅が狭く消防車が進入できない 17.6% |
| その他 (n=8) | 道路の幅が狭く避難ができるか心配 道路の幅が狭く消防車が進入できない 37.5% | | 特に心配はない 25.0% | 周辺の建物が火に強い構造ではない 自分の家が火に強い構造ではない 初期消火器具がない 12.5% | |

図表 3-4：地震火災で心配なこと 住居形態別集計

【自治会、町内会、マンション管理組合加入別集計】※上位5位を抜粋

| | 1位 | 2位 | 3位 | 4位 | 5位 |
|---------------------|---------------------------|--------------------------|--------------------------|---------------------------|----------------------------|
| 全体 (n=2,682) | 周辺の建物が火に強い構造ではない 32.0% | 自分の家が火に強い構造ではない 27.5% | 初期消火器具がない 24.4% | 特に心配はない 16.7% | 道路の幅が狭く消防車が進入できない 15.7% |
| 加入している (n=2,208) | 周辺の建物が火に強い構造ではない 34.1% | 自分の家が火に強い構造ではない 27.7% | 初期消火器具がない 23.1% | 特に心配はない 16.8% | 道路の幅が狭く消防車が進入できない 16.3% |
| 加入していない (n=412) | 避難場所がわからない 32.8% | 初期消火器具がない 31.1% | 自分の家が火に強い構造ではない 24.8% | 周辺の建物が火に強い構造ではない 21.1% | 特に心配はない 16.7% |

図表 3-5：地震火災で心配なこと 自治会、町内会、マンション管理組合加入別集計

(2) ご家庭での日ごろの防災対策（自助）について

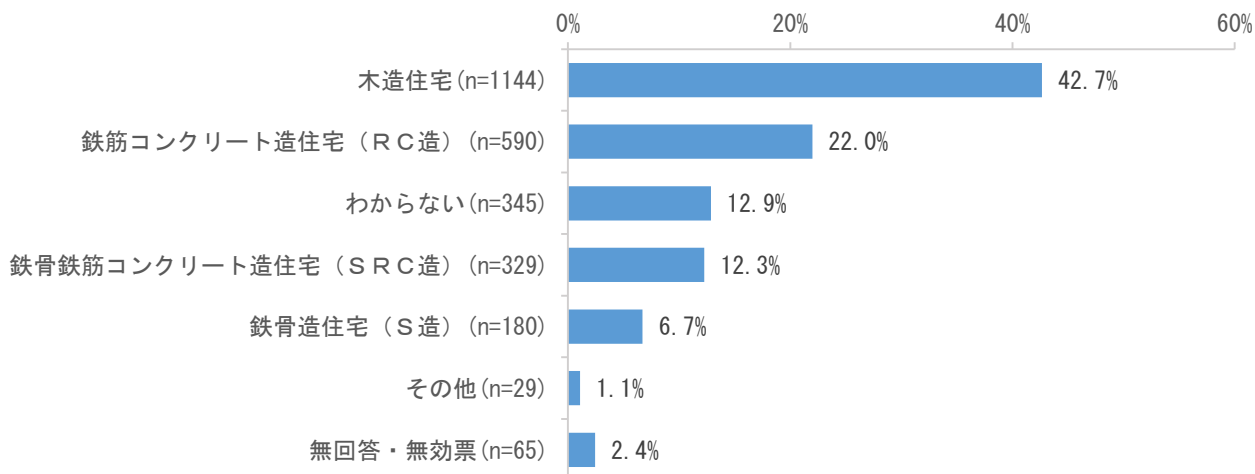
問4 あなたのご自宅の耐震化について伺います。あなたのご自宅の構造は、次のうちどれに当てられますか。1つ選択

◇自宅の構造は木造住宅が4割を超える

自宅の構造は「木造住宅」が42.7%で最も高く、次いで「鉄筋コンクリート造住宅（RC造）」が22.0%となった。

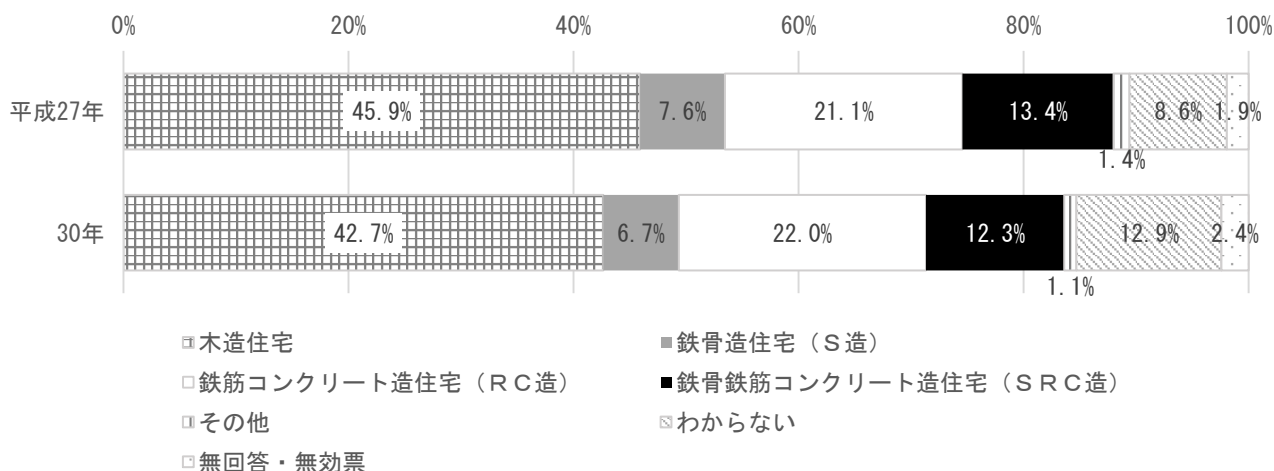
経年比較では、平成27年調査と同様の傾向である。

【全体集計】 n=2,682



図表 4-1：自宅の構造

【経年比較】



図表 4-2：自宅の構造 経年比較

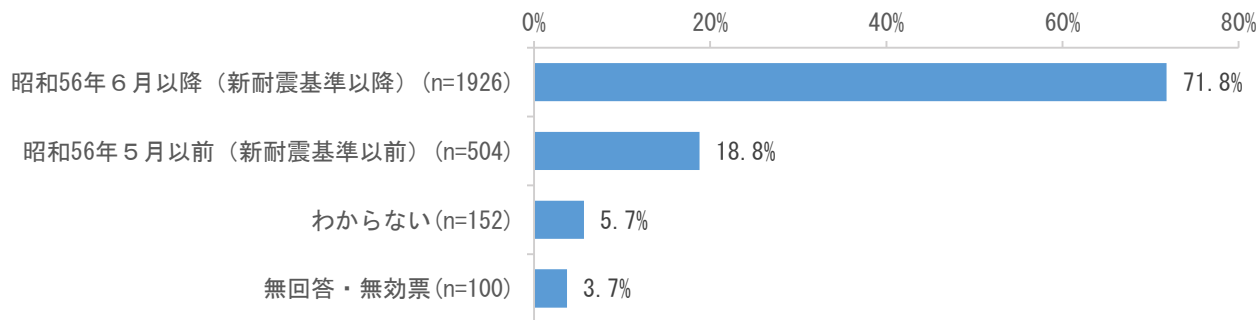
問5 あなたのご自宅は、いつ頃建てられた建物ですか。1つ選択

◇昭和56年6月以降（新耐震基準以降）に建設された自宅が7割超

自宅が建設された年代は、「昭和56年6月以降（新耐震基準以降）」が71.8%で最も高く、次いで「昭和56年5月以前（新耐震基準以前）」の18.8%となった。

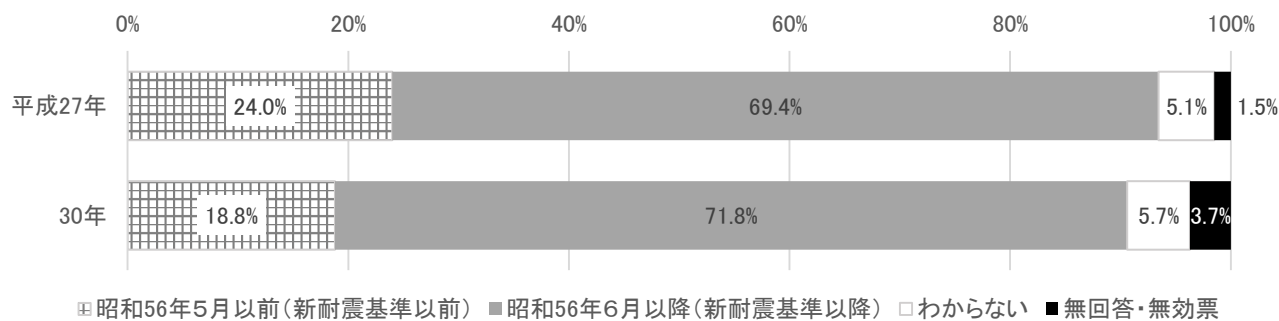
経年比較では、「昭和56年5月以前（新耐震基準以前）」の割合が、平成27年調査の24.0%から5.2%減少して、今回調査では18.8%となった。

【全体集計】 n=2,682



図表 5-1：自宅の耐震化

【経年比較】



図表 5-2：自宅の耐震化 経年比較

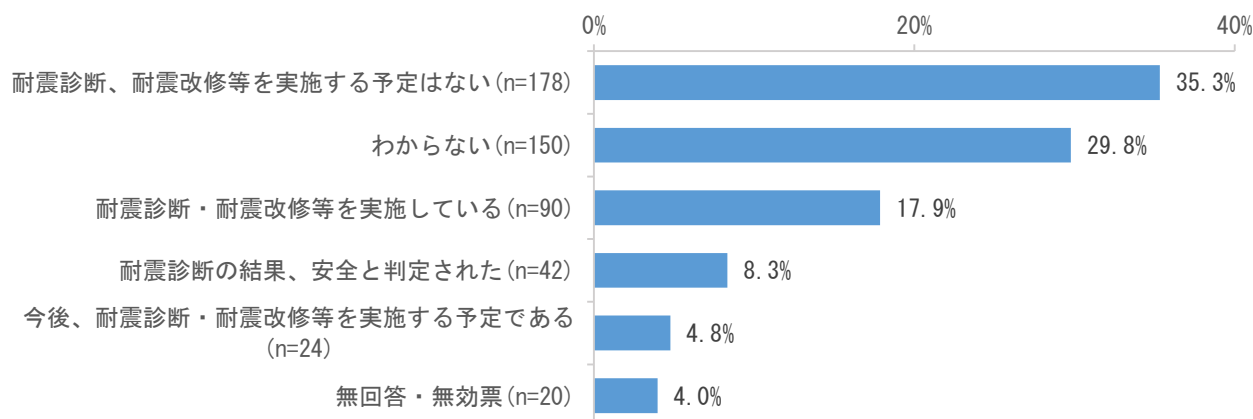
(問5で「昭和56年5月以前」と答えた方はご回答ください)
 問5-1 ご自宅の建物の耐震対策について、該当するものを選んでください。1つ選択

◇「耐震診断、耐震改修等を実施する予定はない」が3割超

新耐震基準以前に建築された自宅の耐震対策については、「耐震診断、耐震改修等を実施する予定はない」が35.3%で最も高く、次いで「わからない」が29.8%となった。

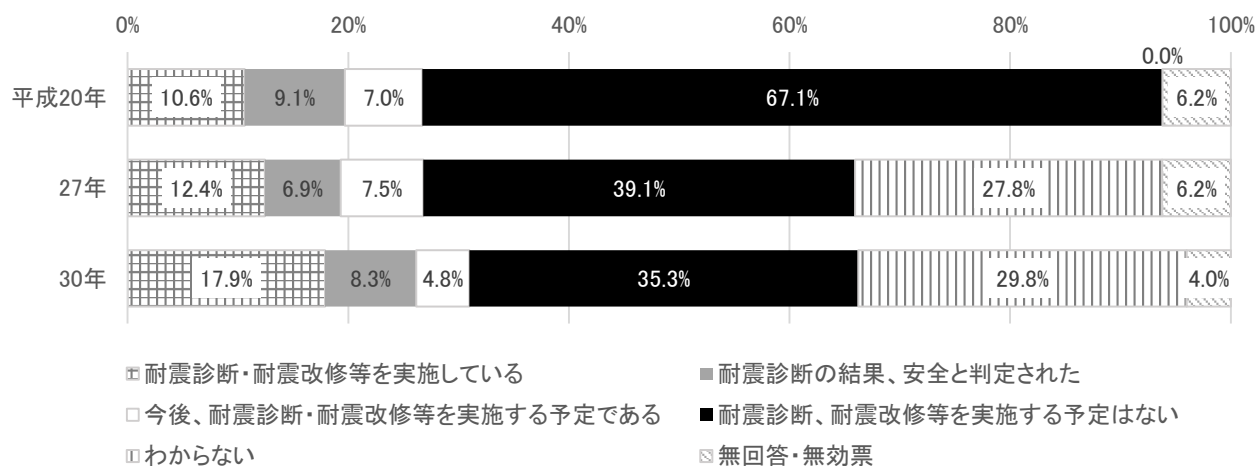
経年比較では、「耐震診断、耐震改修等を実施している」の割合は年々増加しており、今回調査では、17.9%となった。

【全体集計】 n=504



図表 5-3 : 自宅の耐震化 耐震対策

【経年比較】 ※参考



図表 5-4 : 自宅の耐震化 耐震対策 経年比較

※平成27年調査より「わからない」の選択肢を新設。平成20年調査では「耐震診断を受けていない」「耐震改修等を実施する予定はない」の両方の選択肢があったため、合算して比較を行っている。

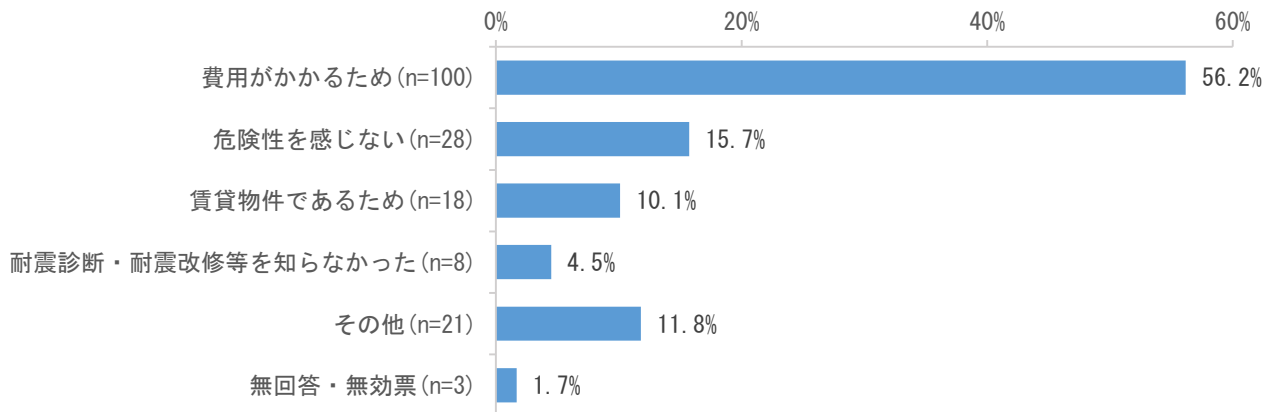
(問5-1で「耐震診断、耐震改修等を実施する予定はない」と答えた方はご回答ください)
 問5-2 耐震診断を受けていない、あるいは、耐震改修等を実施しない理由について、該当するものを選んでください。1つ選択

◇耐震対策をしない理由は「費用がかかるため」が5割を超える

耐震診断、耐震改修等を実施する予定がない理由は、「費用がかかるため」が56.2%で最も高く、次いで「危険性を感じない」が15.7%となった。

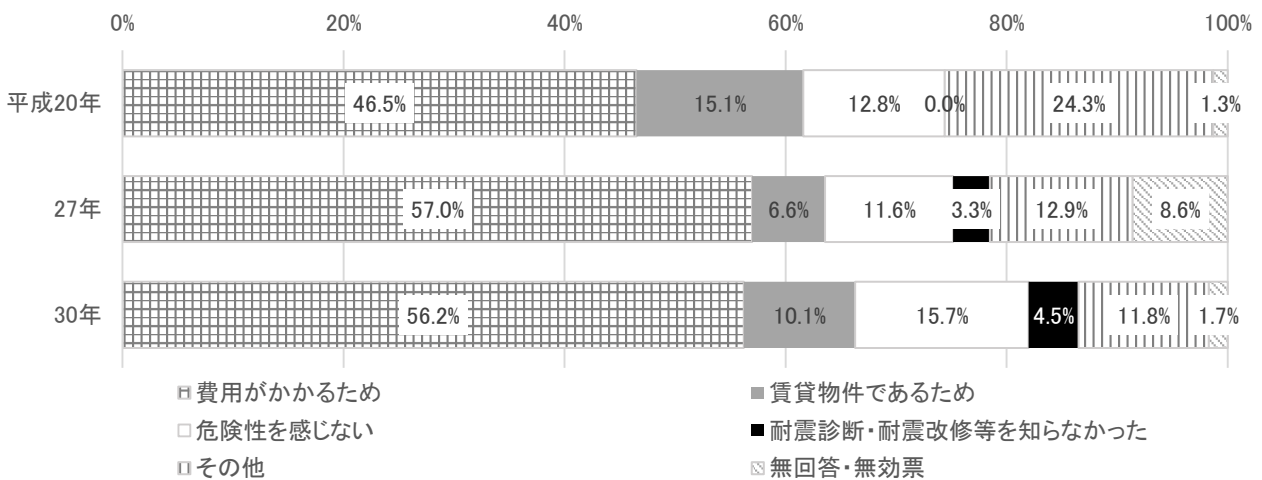
経年比較では、平成27年調査と同様の傾向である。

【全体集計】 n=178



図表 5-5 : 自宅の耐震化をしない理由

【経年比較】 ※参考



図表 5-6 : 自宅の耐震化をしない理由 経年比較

※平成20年の調査時の選択肢は「危険性を感じない」が「耐震化の必要性を感じないため」であった。

問6 あなたのご自宅では、地震によって転倒するおそれのある家具類（タンスや食器棚等）を固定していますか。1つ選択

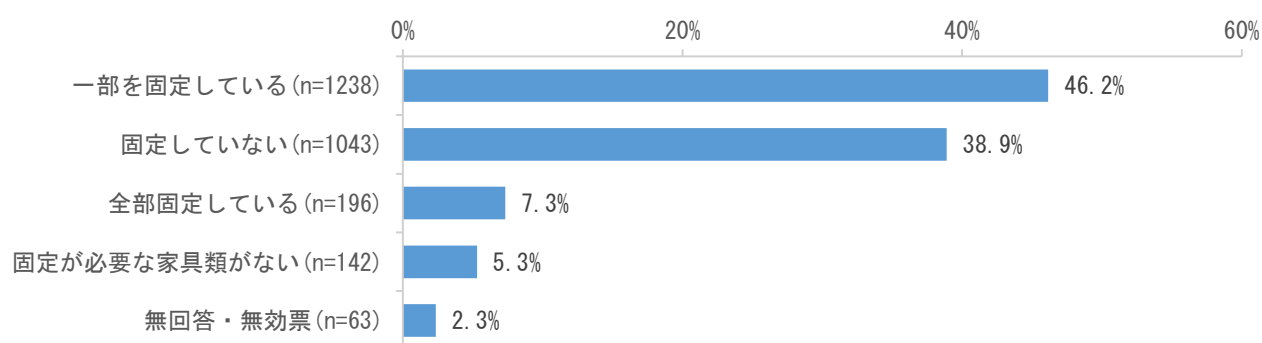
◇家具類を「固定していない」が4割を下回る

家具類の固定については、「一部を固定している」が46.2%で最も高く、次いで「固定していない」が38.9%となった、

経年比較では、今回調査で初めて「固定していない」が40%を下回った。

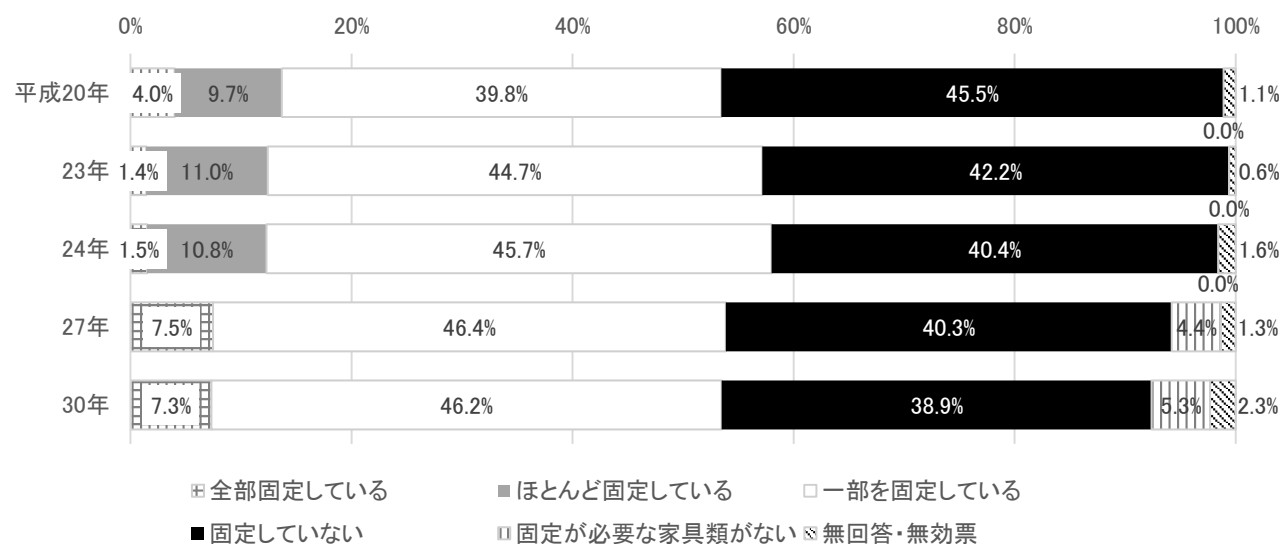
住居形態別集計では、「借家（マンション・共同住宅）」及び「社宅・公務員住宅・寮」では、「固定していない」の割合が5割を超えている。

【全体集計】 n=2,682



図表 6-1：家具類の固定

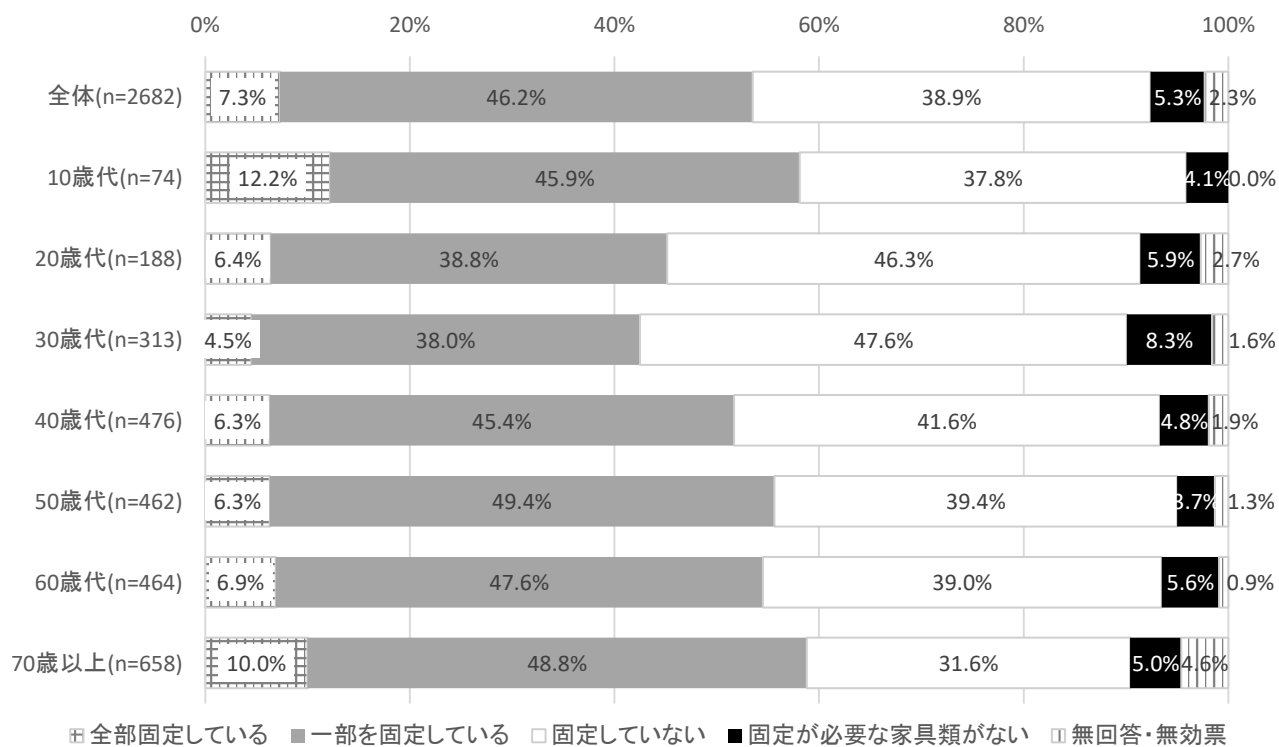
【経年比較】 ※参考



図表 6-2：家具類の固定 経年比較

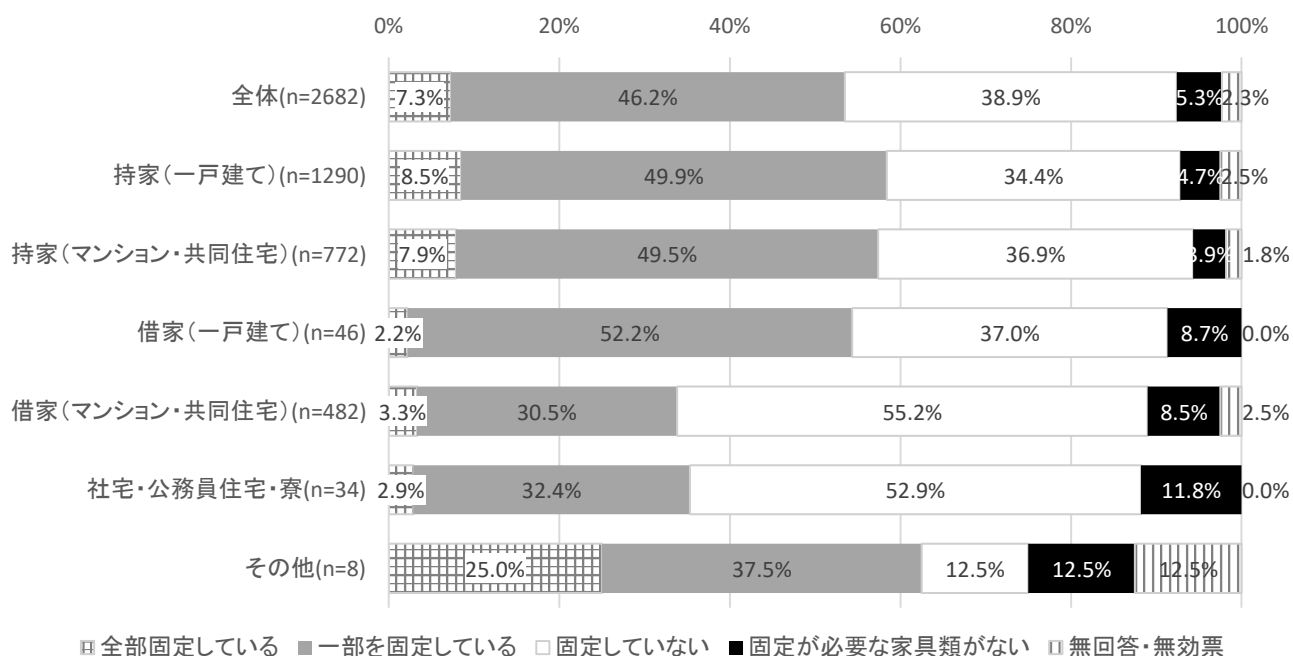
※平成23年、24年調査結果は「横浜市民意識調査」結果より抜粋。20～24年調査の選択肢は「すべて固定している」、「ほとんど固定している」、「一部固定している」、「固定していない」。「固定が必要な家具類がない」の選択肢は27年調査より新設。

【年代別集計】



図表 6-3 : 家具類の固定 年代別集計

【住居形態別集計】



図表 6-4 : 家具類の固定 住居形態別集計

(問6で「固定していない」と答えた方にご回答ください)

問6-1 あなたが家具類の固定をしていない理由について、次の中からお選びください。1つ選択

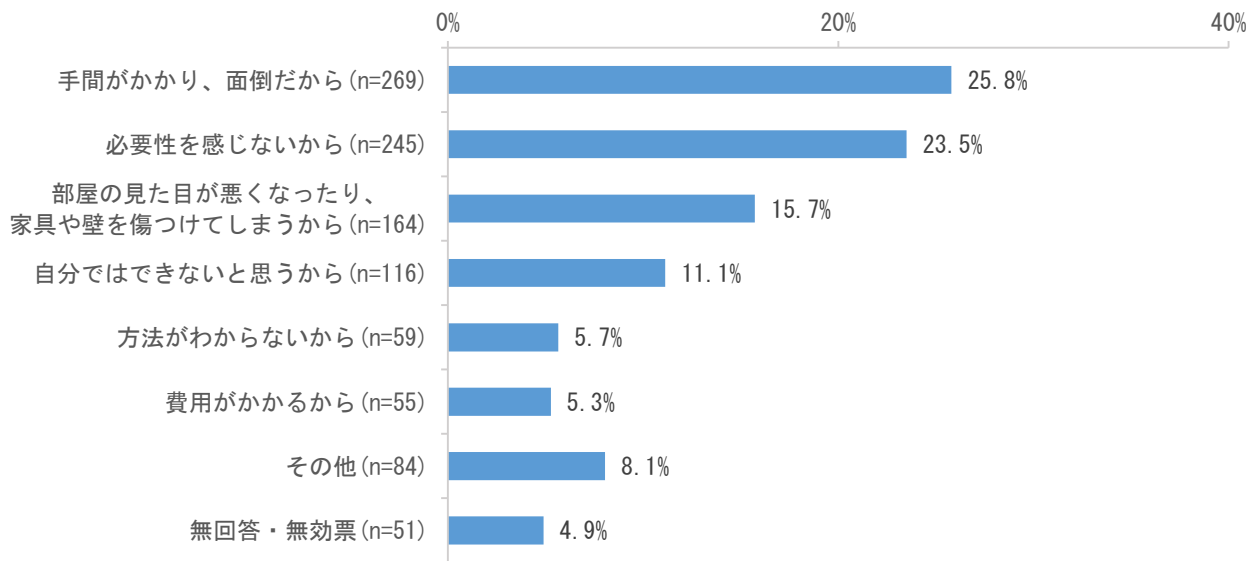
◇家具類を固定しないのは「手間がかかり、面倒だから」が最も多い

家具類を固定しない理由は、「手間がかかり、面倒だから」が25.8%で最も高く、次いで「必要性を感じないから」が23.5%となった。

経年比較では、「部屋の見た目が悪くなったり、家具や壁を傷つけてしまうから」の割合が平成27年調査の9.7%から6.0%増加して、15.7%となった。

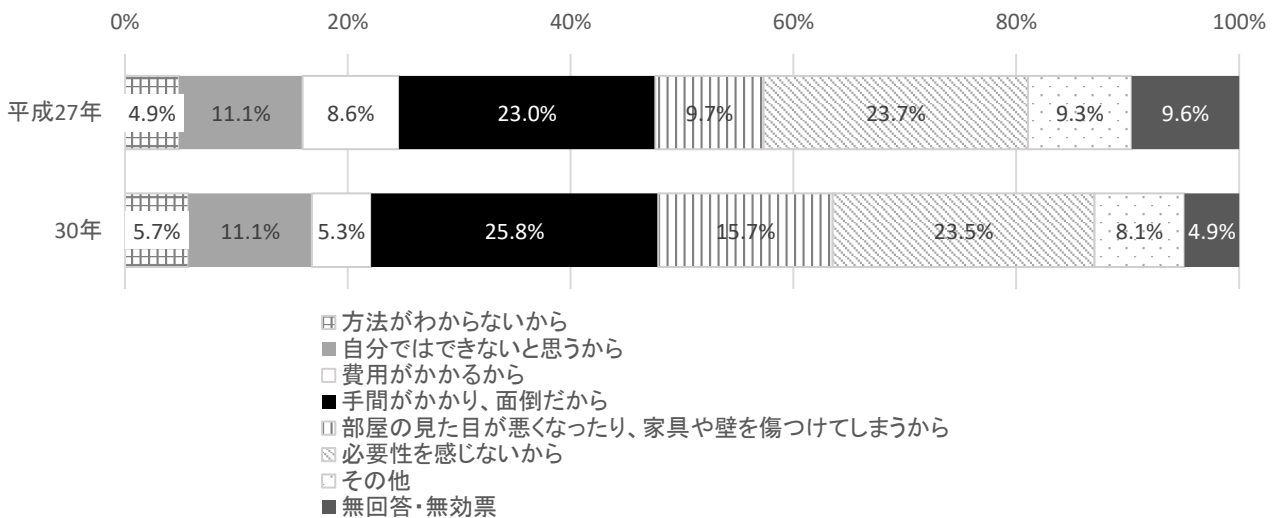
年代別集計では、おおむね年代が上がるにつれて、「必要性を感じないから」の割合が高くなっている。

【全体集計】 n=1,043



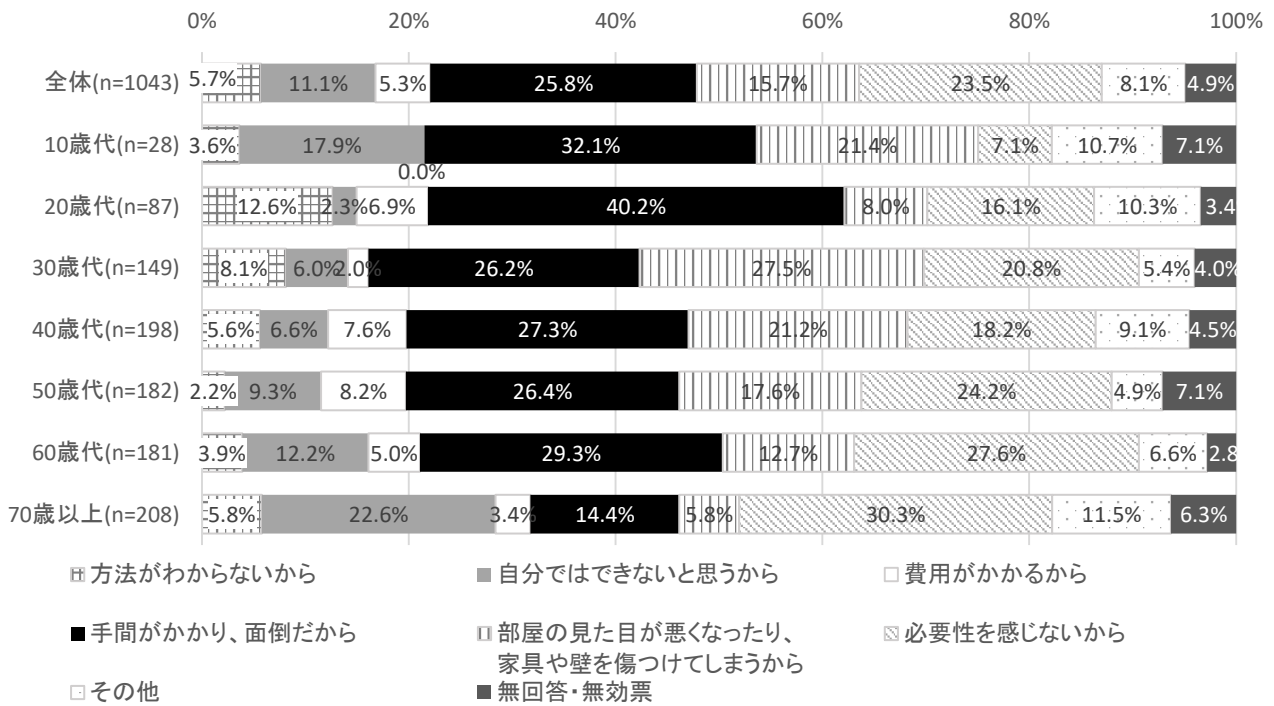
図表 6-5 : 家具類を固定しない理由

【経年比較】



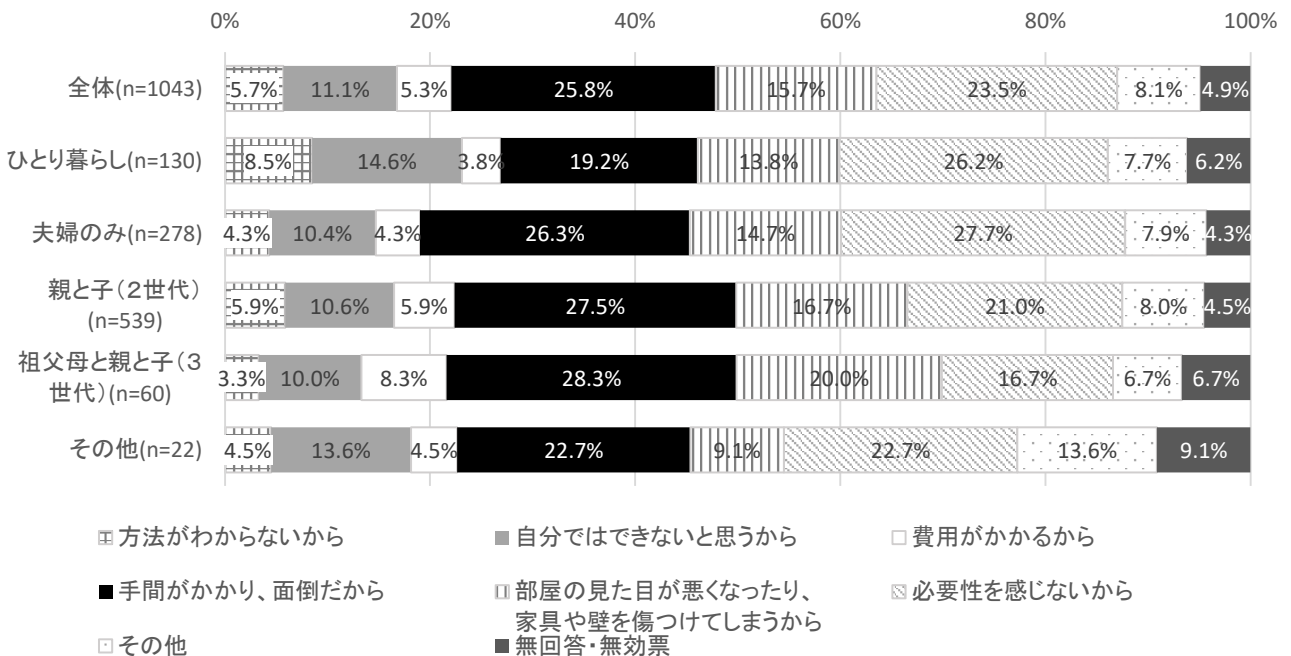
図表 6-6 : 家具類を固定しない理由 経年比較

【年代別集計】



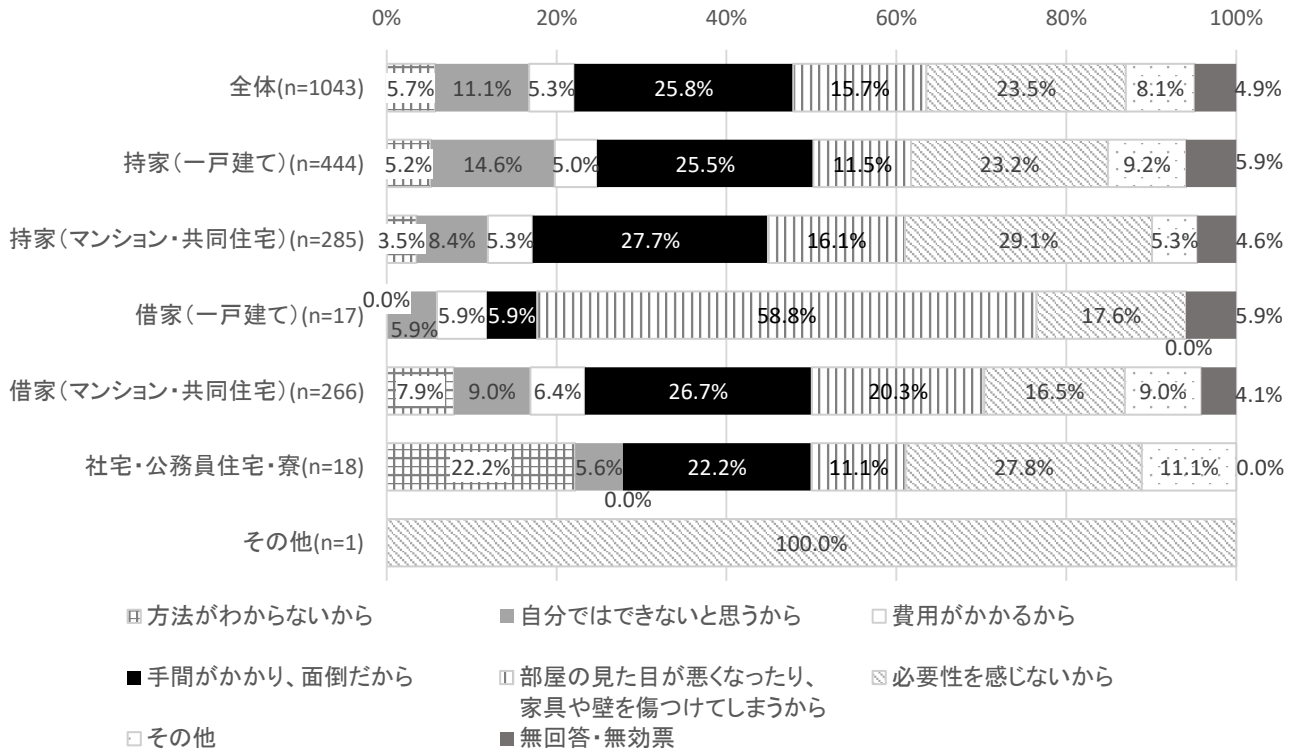
図表 6-7：家具類を固定しない理由 年代別集計

【家族形態別集計】



図表 6-8：家具類を固定しない理由 家族形態別集計

【住居形態別集計】



図表 6-9 : 家具類を固定しない理由 住居形態別集計

(問6で「一部を固定している」「固定していない」と答えた方にご回答ください)

問6-2 あなたの自宅では、家具類の転倒によって、就寝中に負傷・死亡する、又は、避難口(玄関等)までの通行を妨げる可能性がありますか。1つ選択

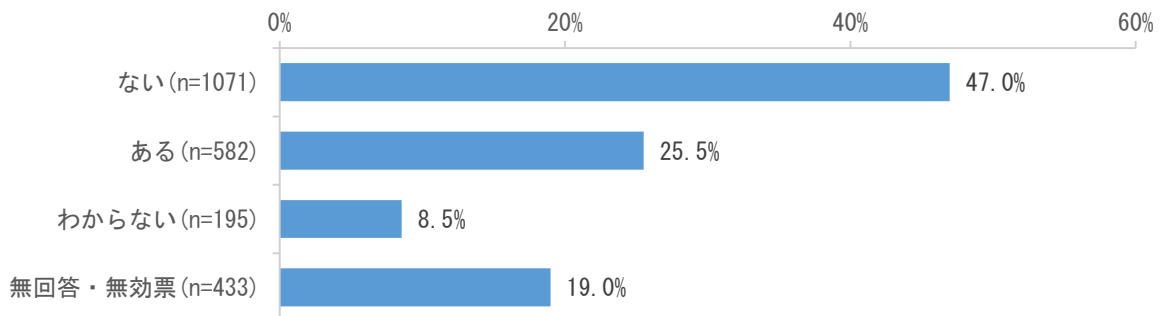
◇家具類を「一部を固定している」「固定していない」人の1/4が家具類の転倒による危険を認識

家具類の転倒によって、就寝中に負傷・死亡する、又は、避難口(玄関)までの通行を妨げる可能性は、「ない」が47.0%、「ある」は25.5%となった。

経年比較では、平成27年調査と同様の傾向である。

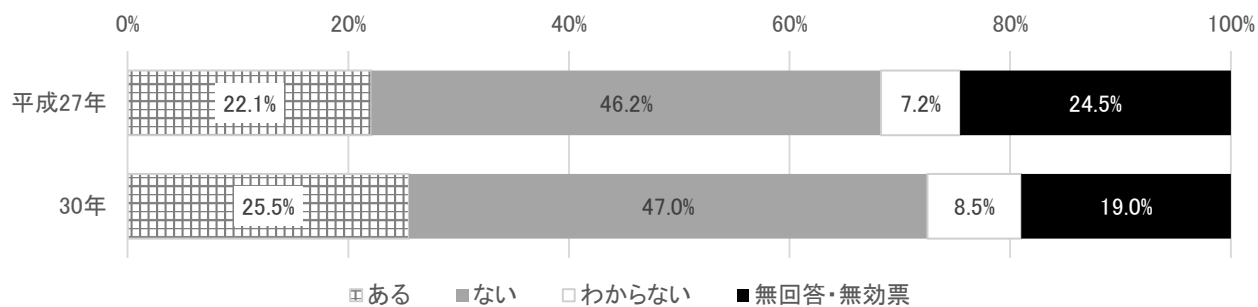
年代別集計では、「30歳代」「40歳代」を除いたすべての年代で、危険が「ある」と回答した割合が全体集計の25.5%を超える結果となった。

【全体集計】 n=2,281



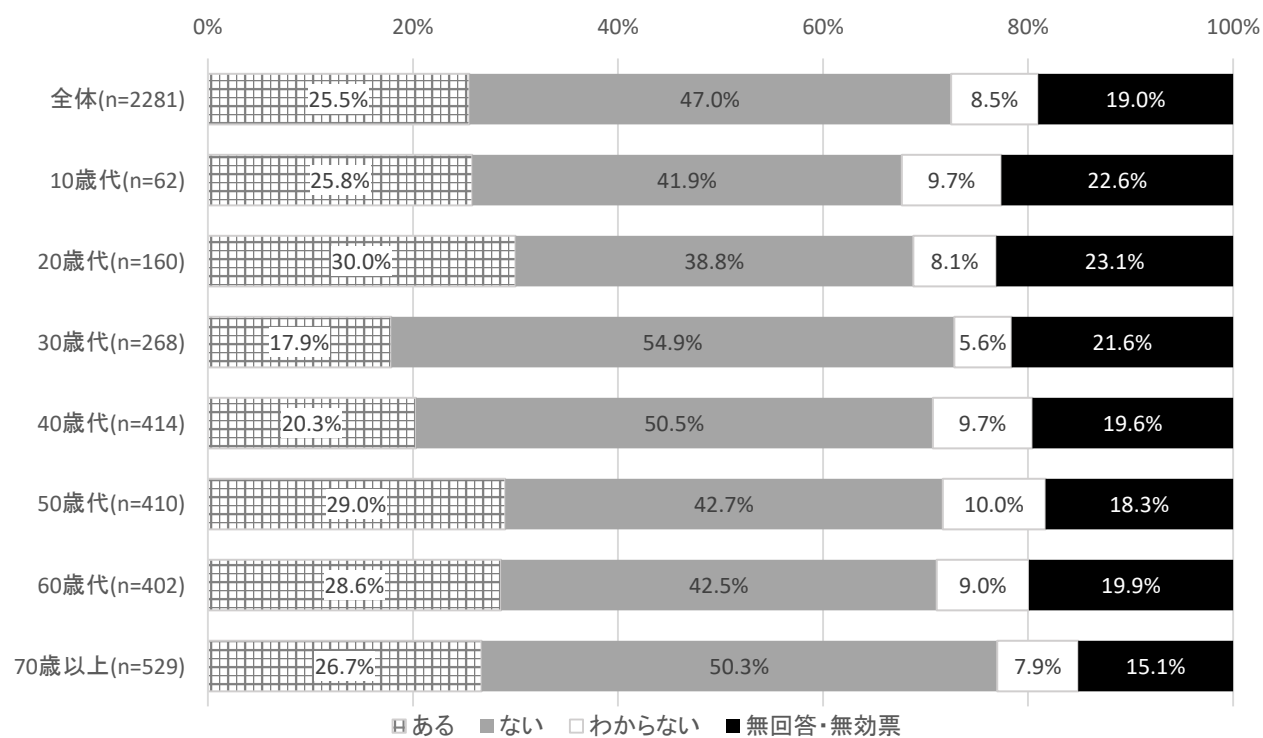
図表 6-10 : 家具類の転倒による危険性

【経年比較】



図表 6-11 : 家具類の転倒による危険性 経年比較

【年代別集計】



図表 6-12 : 家具類の転倒による危険性 年代別集計

問7 東日本大震災や阪神・淡路大震災では、火災の原因の約6割が電気によるものといわれています。あなたは、設定値以上の震度の地震発生時に自動的に電気の供給を遮断する器具である「感震ブレーカー」を知っていますか。1つ選択

◇「感震ブレーカー」の認知度は4割程度

感震ブレーカーの認知度は、「知っている」が39.6%、「知らない」が52.5%となった。

経年比較では、平成27年調査と同様の傾向である。

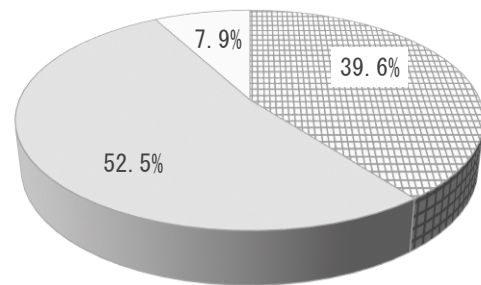
居住区別集計では、磯子区のみ感震ブレーカーの認知度が50%を超えて51.7%となった。

【全体集計】 n=2,682

n=2,682

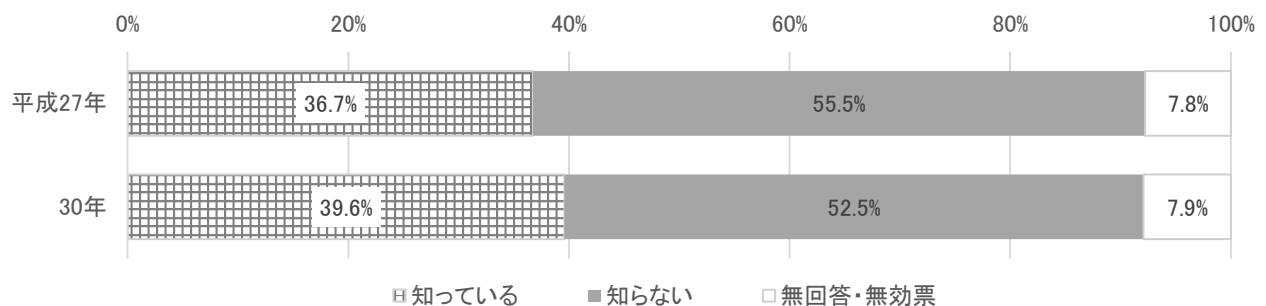
| | | |
|---------|-------|-------|
| 知っている | 1,061 | 39.6% |
| 知らない | 1,409 | 52.5% |
| 無回答・無効票 | 212 | 7.9% |

図表 7-1：感震ブレーカーの認知度



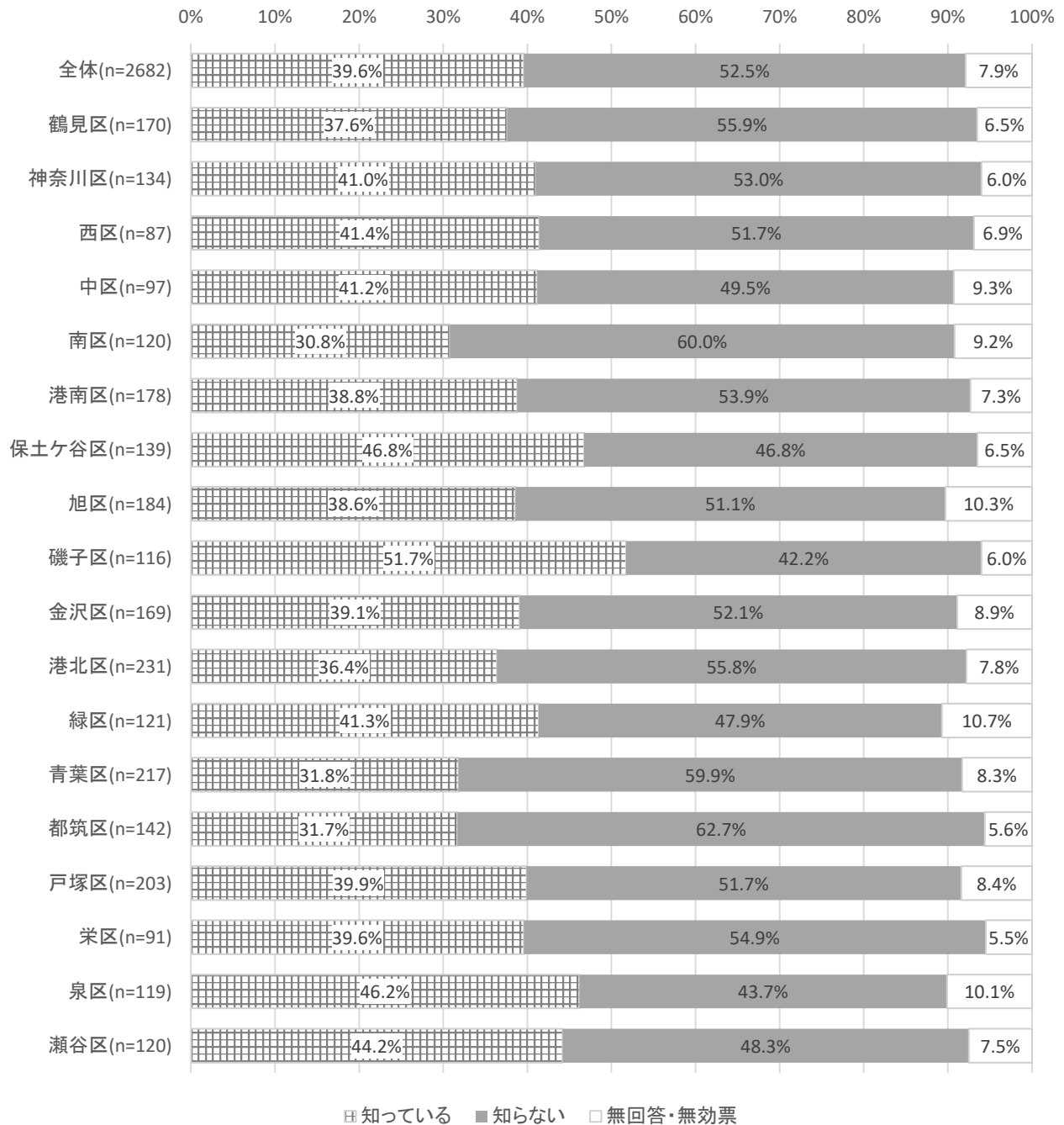
■知っている (n=1061) □知らない (n=1409)
□無回答・無効票 (n=212)

【経年比較】



図表 7-2：感震ブレーカーの認知度 経年比較

【居住区別集計】



図表 7-3 : 感震ブレイカーの認知度 居住区別集計

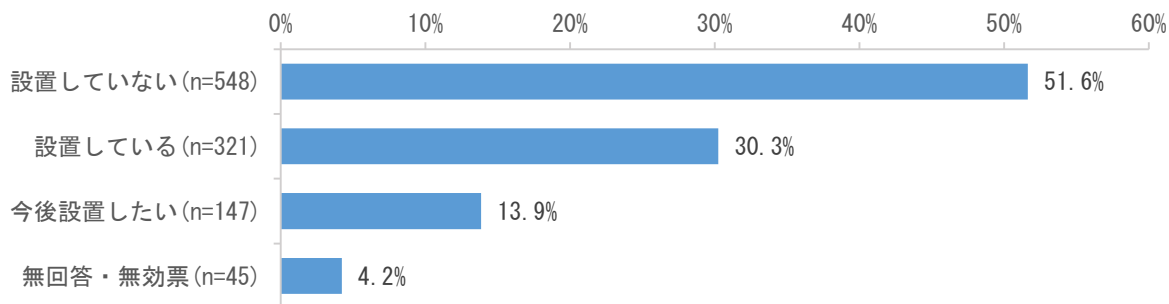
問8 あなたのご自宅では、「感震ブレイカー」を設置していますか。1つ選択

◇感震ブレイカーを知っている人のうち、感震ブレイカーを設置している家庭は3割

感震ブレイカーの設置状況は、「設置している」が30.3%、「設置していない」が51.6%となった。経年比較では、平成27年調査と同様の傾向である。

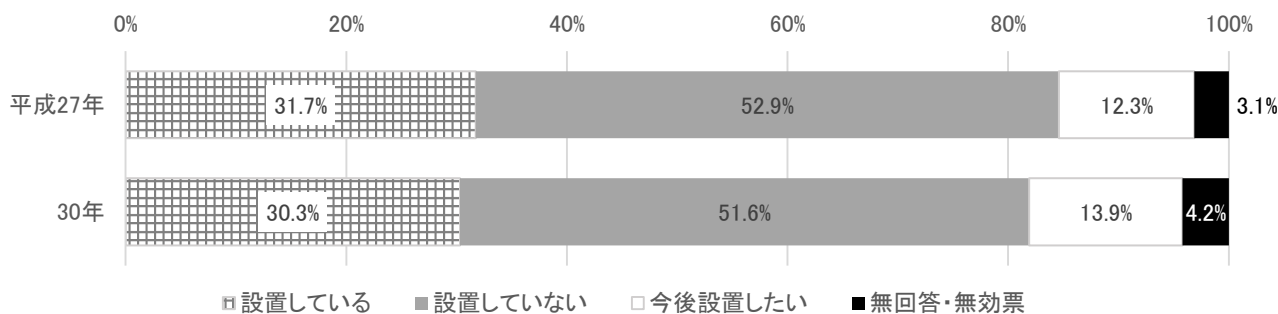
住居形態別集計では、「一戸建て」「マンション・共同住宅」を問わず、借家に比べて持家の方が「設置している」の割合が高かった。

【全体集計】 n=1,061



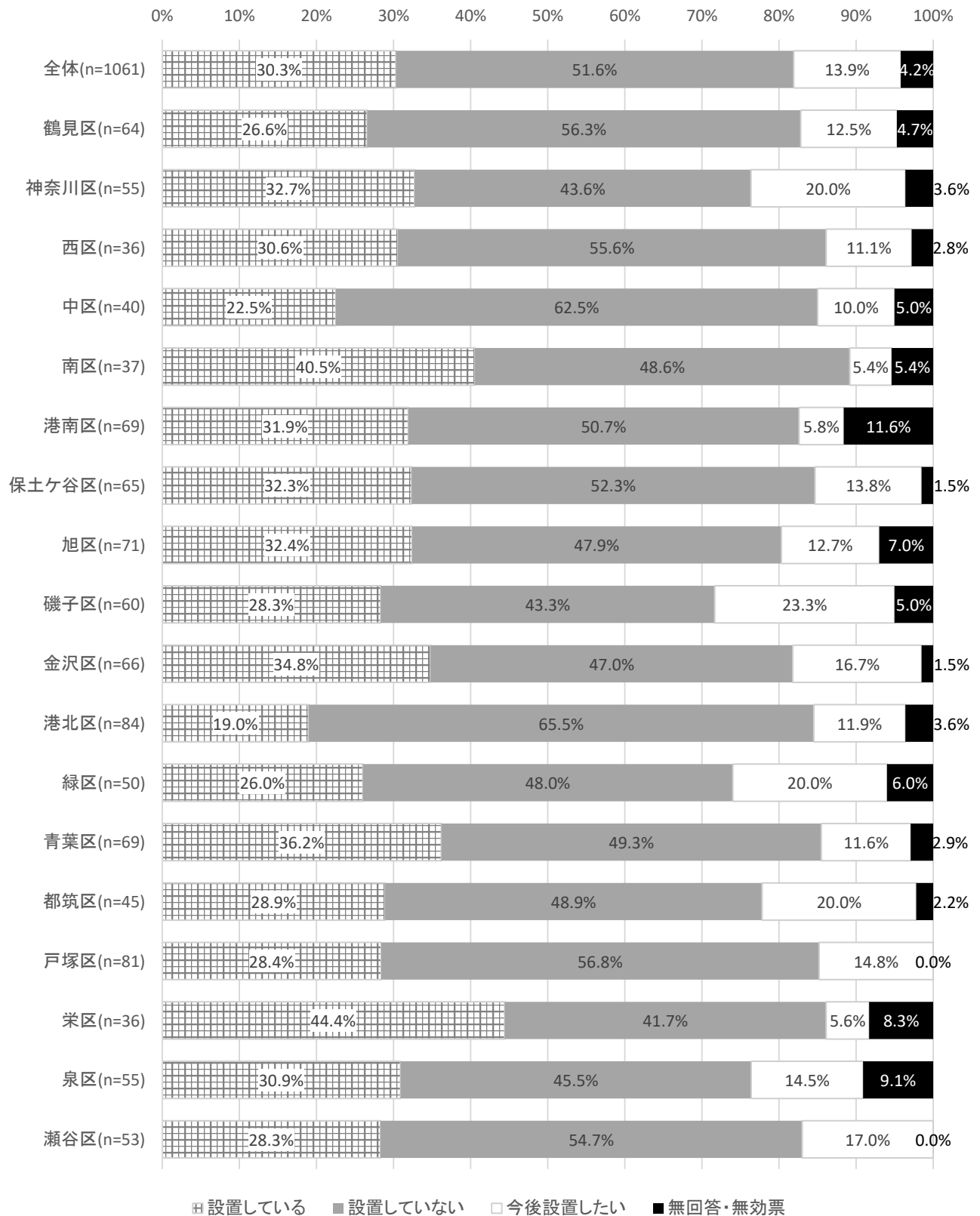
図表 8-1：感震ブレイカーの設置状況

【経年比較】



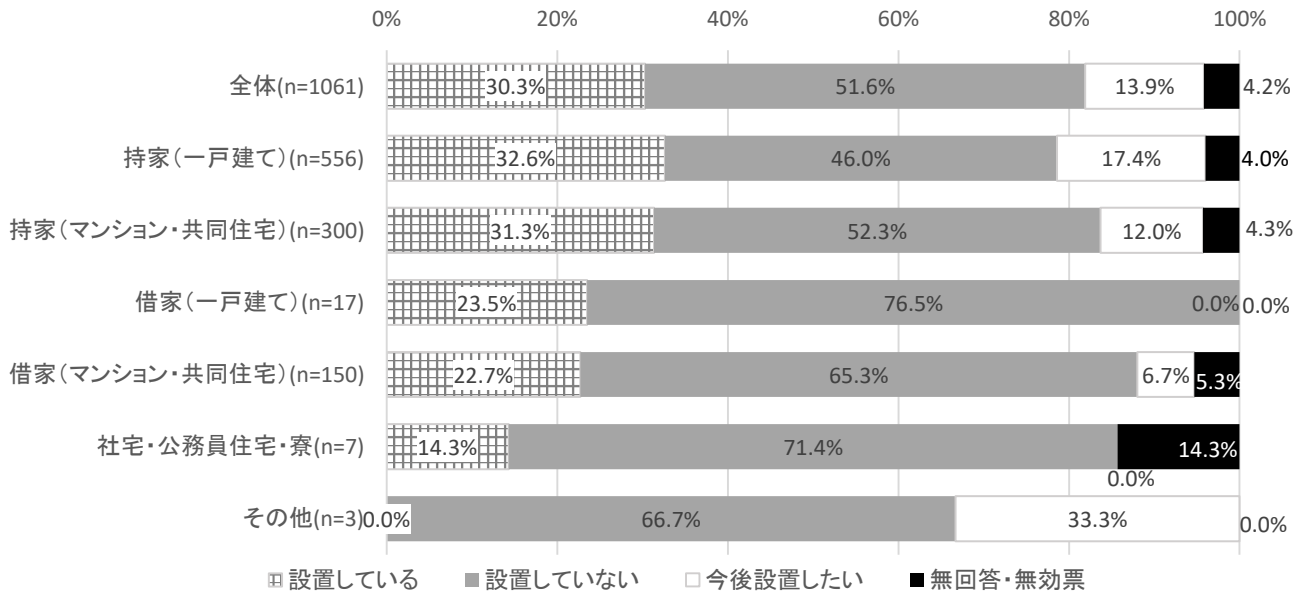
図表 8-2：感震ブレイカーの設置状況 経年比較

【居住区別集計】



図表 8-3 : 感震ブレイカーの設置状況 居住区別集計

【住居形態別集計】



図表 8-4 : 感震ブレーカーの設置状況 住居形態別集計

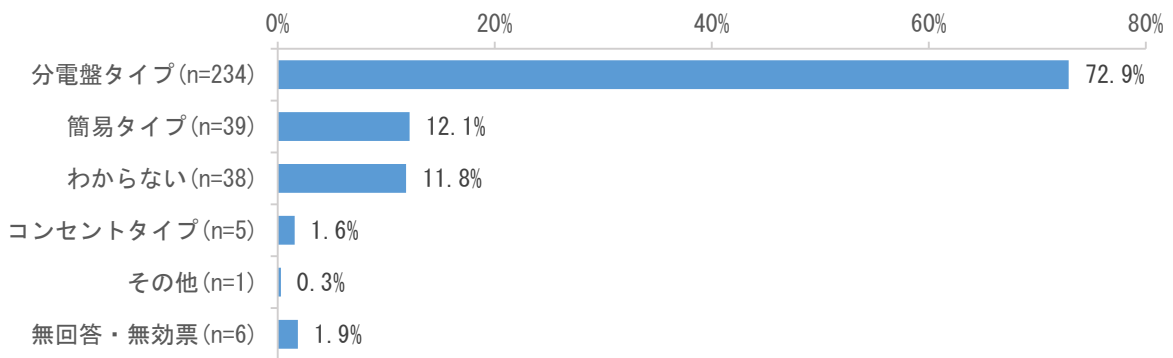
(問8で「設置している」と答えた方はご回答ください)

問8-1 あなたが設置している「感震ブレーカー」のタイプについて次の中からお選びください。該当するものすべて選択

◇感震ブレーカーで最も多いのは「分電盤タイプ」で7割を超える

感震ブレーカーのタイプでは、「分電盤タイプ」が72.9%で最も高く、次いで「簡易タイプ」の12.1%となった。

【全体集計】 n=321



図表 8-5 : 感震ブレーカーの設置状況 タイプ

【経年比較】

| | 1位 | 2位 | 3位 | 4位 | 5位 |
|---------------|-----------------|----------------|----------------|------------------|-------------|
| 平成27年 (n=375) | 分電盤タイプ 63.2% | わからない 15.2% | 簡易タイプ 5.9% | コンセントタイプ 4.0% | その他 1.1% |
| 平成30年 (n=321) | 分電盤タイプ 72.9% | 簡易タイプ 12.1% | わからない 11.8% | コンセントタイプ 1.6% | その他 0.3% |

図表 8-6 : 感震ブレーカーの設置状況 タイプ 経年比較

(問8で「設置していない」「今後設置したい」と答えた方にご回答ください)
 問8-2 あなたが「感震ブレーカー」を設置していない理由について、次の中からお選びください。1つ選択

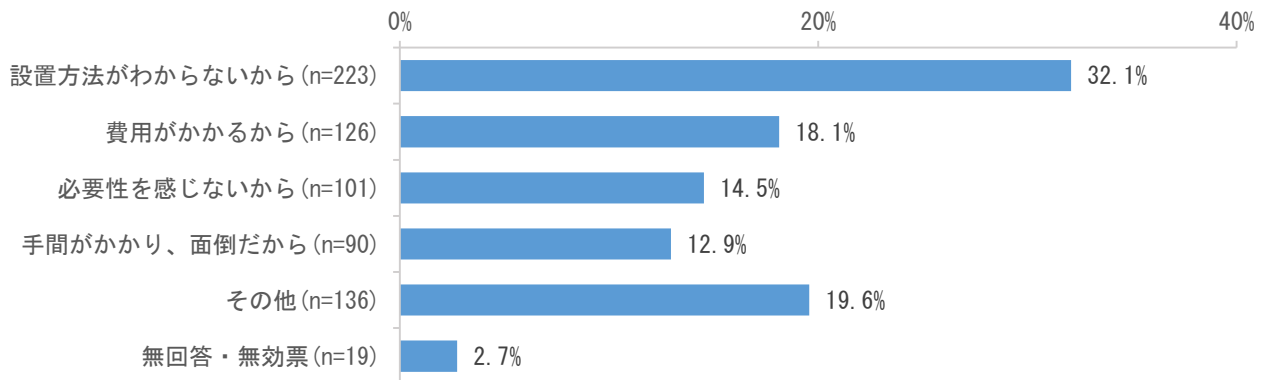
◇設置していない理由は「設置方法がわからないから」が3割を超える

感震ブレーカーを設置していない理由は、「設置方法がわからないから」が32.1%で最も高く、次いで「費用がかかるから」が18.1%となった。

経年比較では、平成27年調査と同様の傾向である。

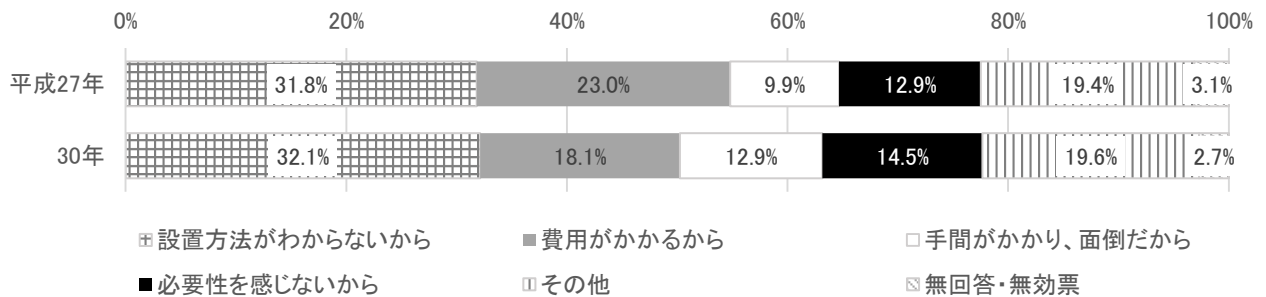
問8での選択回答別集計では、「今後設置したい」と回答した人は、「設置していない」と回答した人よりも「設置方法がわからないから」の割合が18.8%高く、46.9%となった。

【全体集計】 n=695



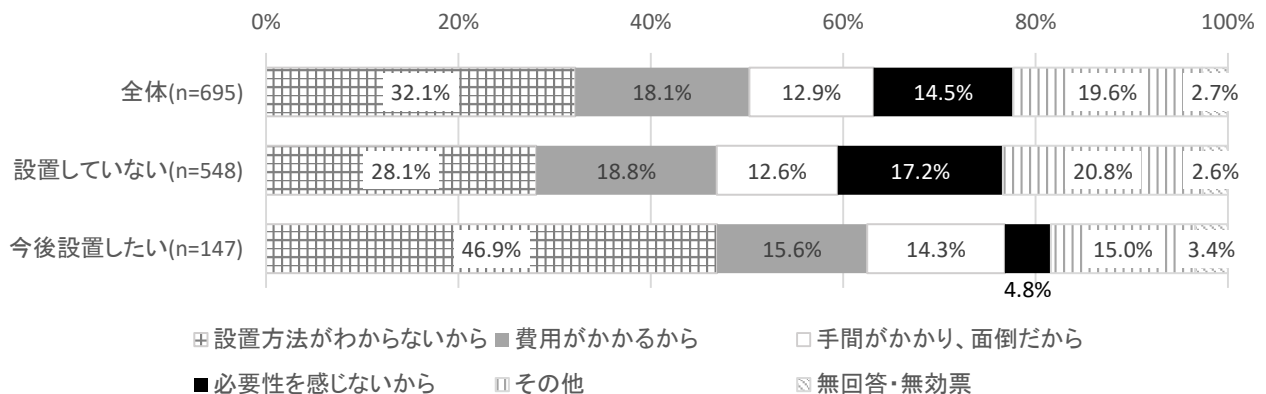
図表 8-7：感震ブレーカーを設置していない理由

【経年比較】



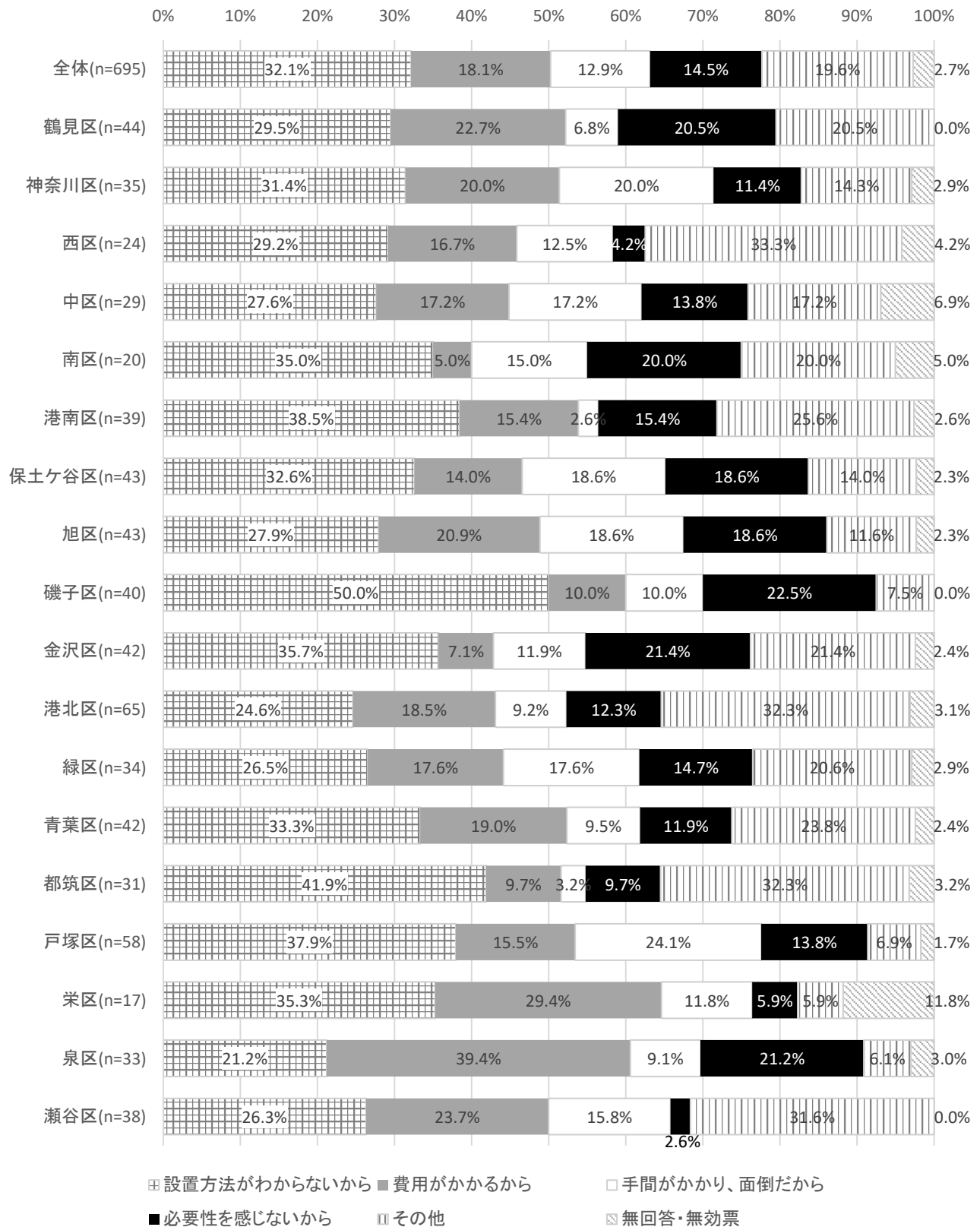
図表 8-8：感震ブレーカーを設置していない理由 経年比較

【問8での選択回答別集計】



図表 8-9：感震ブレーカーを設置していない理由 問8での選択回答別

【居住区別集計】



図表 8-10 : 感震ブレーカーを設置していない理由 居住区別集計

問9 あなたのご家庭では、震災に備えて何日分の食料、飲料水（1人1日あたりの目安は3リットル）を準備していますか。1つ選択

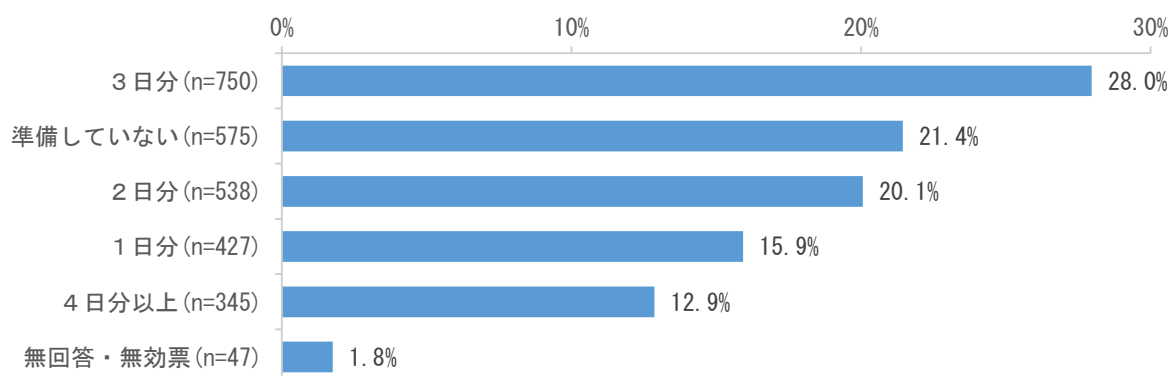
◇食料、飲料水は「3日以上」の準備が約4割

家庭での食料、飲料水の準備は、「3日分」が28.0%で最も高く、「4日以上」の12.9%と合わせて3日以上以上の準備が40%を超えた。

経年比較では、平成27年調査と同様の傾向である。

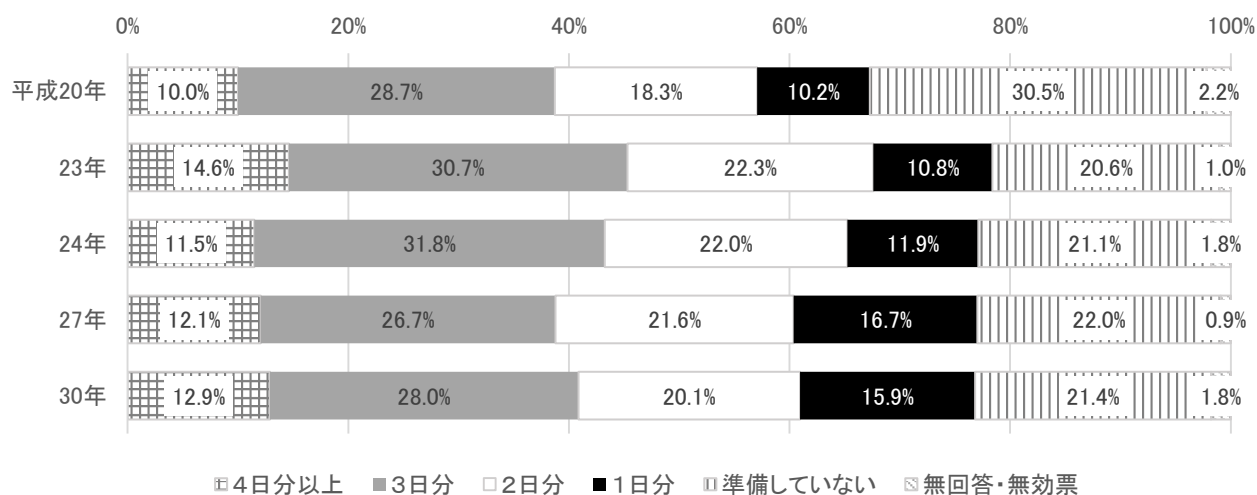
家族形態別集計では、「準備していない」の割合が「ひとり暮らし」で最も高く、31.9%となった。

【全体集計】 n=2,682



図表 9-1：食料・飲料水の準備

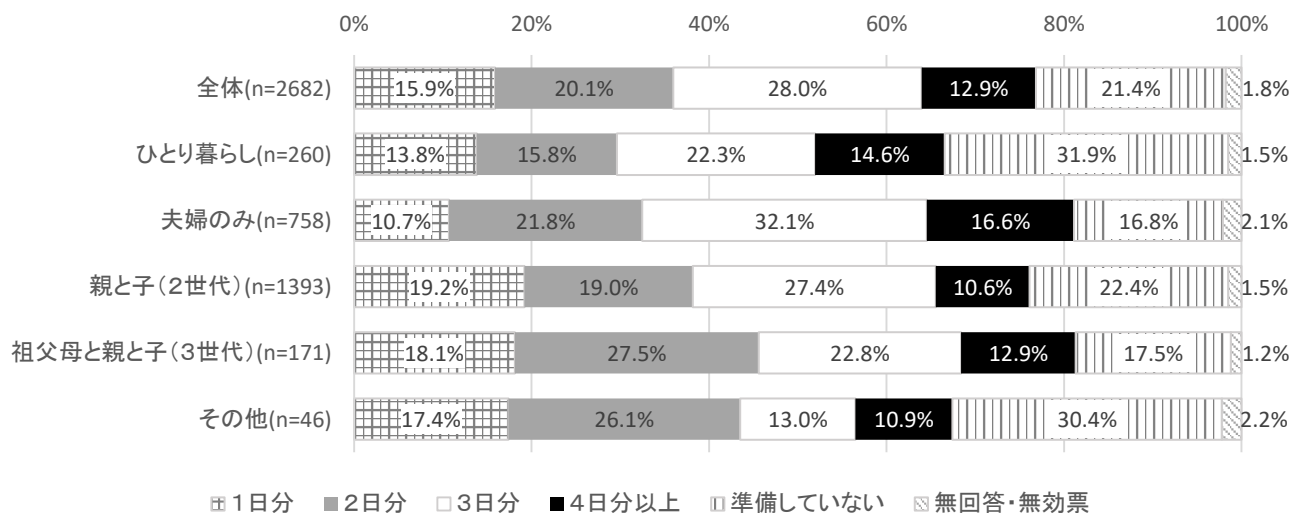
【経年比較】 ※参考



図表 9-2：食料・飲料水の準備 経年比較

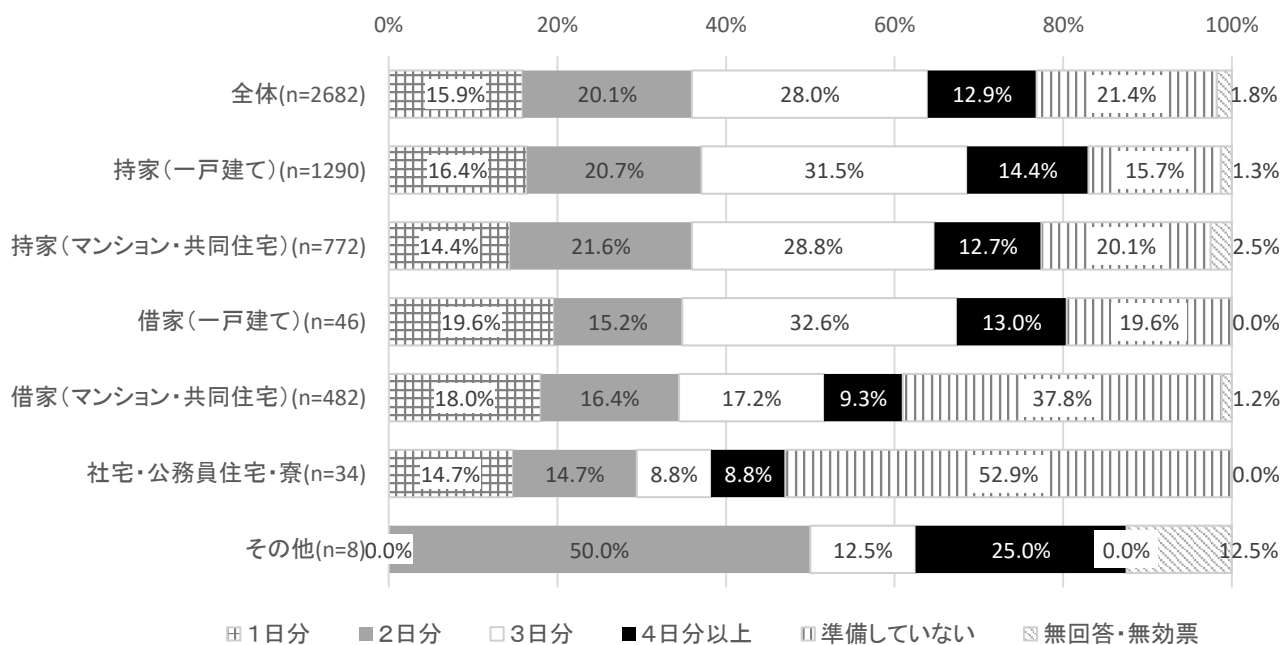
※平成23年、24年調査結果は「横浜市民意識調査」結果より抜粋。平成20年調査の選択肢は「準備していない」が「備蓄していない」であった。

【家族形態別集計】



図表 9-3 : 食料・飲料水の準備 家族形態別集計

【住居形態別集計】



図表 9-4 : 食料・飲料水の準備 住居形態別集計

(問9で「準備していない」と答えた方にご回答ください)

問9-1 準備していない理由は何ですか。1つ選択

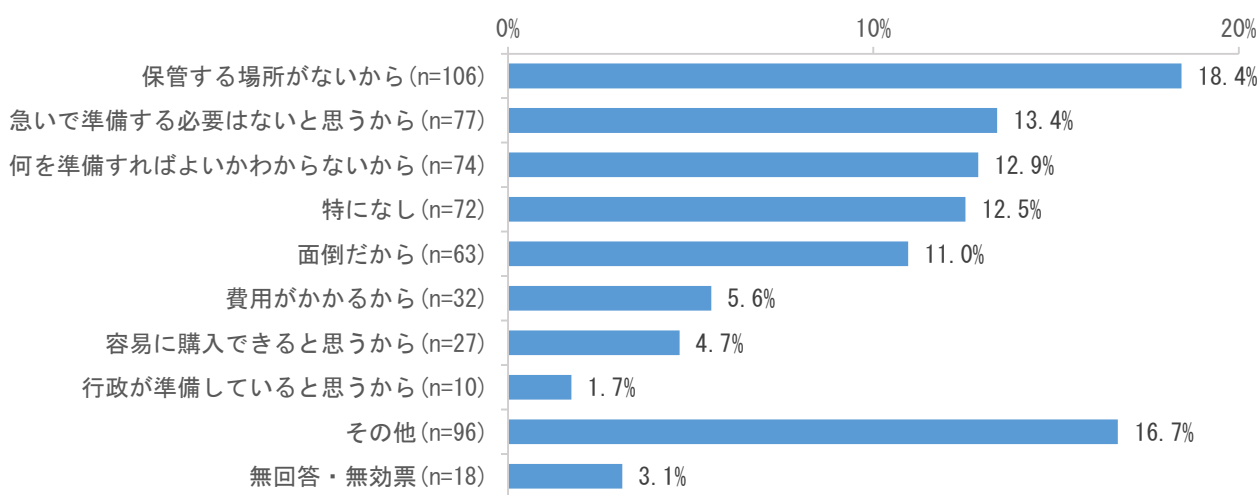
◇準備していない理由は「保管する場所がないから」が最も多い

食料や飲料水を準備していない理由は、「保管する場所がないから」が18.4%で最も高く、次いで「急いで準備する必要はないと思うから」が13.4%となった。

経年比較では、平成27年調査と同様の傾向である。

住居形態別集計では、「マンション・共同住宅」が「一戸建て」と比較して、持家・借家に関わらず「保管する場所がないから」の回答が最も高くなった。

【全体集計】 n=575



図表 9-5 : 食料・飲料水を準備していない理由

【経年比較】 ※上位5位を抜粋

| | 1位 | 2位 | 3位 | 4位 | 5位 |
|---------------|-------------------|-------------------------|-------------------------|-------------------------|-------------|
| 平成27年 (n=375) | 保管する場所がないから 22.0% | 何を準備すればよいかわからないから 17.8% | 特になし 13.5% | 急いで準備する必要はないと思うから 12.4% | 面倒だから 8.7% |
| 平成30年 (n=575) | 保管する場所がないから 18.4% | 急いで準備する必要はないと思うから 13.4% | 何を準備すればよいかわからないから 12.9% | 特になし 12.5% | 面倒だから 11.0% |

図表 9-6 : 食料・飲料水を準備していない理由 経年比較

【家族形態別集計】※上位5位を抜粋

| | 1位 | 2位 | 3位 | 4位 | 5位 |
|-------------------|----------------------|----------------------------|----------------------------|-------------------------------------|---------------------------|
| 全体 (n=575) | 保管する場所がないから 18.4% | 急いで準備する必要はないと思うから 13.4% | 何を準備すればよいかわからないから 12.9% | 特になし 12.5% | 面倒だから 11.0% |
| ひとり暮らし (n=83) | 保管する場所がないから 24.1% | 特になし 14.5% | 面倒だから 10.8% | 費用がかかるから 9.6% | 何を準備すればよいかわからないから 8.4% |
| 夫婦のみ (n=127) | 面倒だから 16.5% | 何を準備すればよいかわからないから 14.2% | 急いで準備する必要はないと思うから 13.4% | 保管する場所がないから 特になし | 10.2% |
| 親と子 (n=312) | 保管する場所がないから 19.9% | 急いで準備する必要はないと思うから 15.1% | 何を準備すればよいかわからないから 13.5% | 特になし 12.8% | 面倒だから 8.0% |
| 祖父母と親と子 (n=30) | 保管する場所がないから 23.3% | 何を準備すればよいかわからないから 20.0% | 急いで準備する必要はないと思うから 13.3% | 特になし 10.0% | 費用がかかるから 面倒だから 6.7% |
| その他(n=14) | 面倒だから 35.7% | 保管する場所がないから 21.4% | 急いで準備する必要はないと思うから 14.3% | 何を準備すればよいかわからないから 行政が準備していると思うから | 7.1% |

※回答には「その他」が含まれるが、表中には記載しない。

図表 9-7：食料・飲料水を準備していない理由 家族形態別集計

【住居形態別集計】※上位5位を抜粋

| | 1位 | 2位 | 3位 | 4位 | 5位 |
|---------------------------|----------------------------|--|----------------------------|--|---------------------------|
| 全体 (n=575) | 保管する場所がないから 18.4% | 急いで準備する必要はないと思うから 13.4% | 何を準備すればよいかわからないから 12.9% | 特になし 12.5% | 面倒だから 11.0% |
| 持家（一戸建て） (n=203) | 何を準備すればよいかわからないから 17.7% | 急いで準備する必要はないと思うから 15.8% | 保管する場所がないから 面倒だから | 12.3% | 特になし 10.3% |
| 持家（マンション・共同住宅） (n=155) | 保管する場所がないから 22.6% | 急いで準備する必要はないと思うから 特になし | 14.8% | 面倒だから 9.7% | 何を準備すればよいかわからないから 8.4% |
| 借家（一戸建て） (n=9) | 費用がかかるから 22.2% | ・保管する場所がないから ・急いで準備する必要はないと思うから ・容易に購入できると思うから | ・面倒だから ・特になし | 11.1% | |
| 借家（マンション・共同住宅） (n=182) | 保管する場所がないから 22.0% | 何を準備すればよいかわからないから 13.2% | 特になし 11.5% | 面倒だから 11.0% | 費用がかかるから 10.4% |
| 社宅・公務員住宅・寮 (n=18) | 保管する場所がないから 22.2% | 特になし 16.7% | 急いで準備する必要はないと思うから 11.1% | 何を準備すればよいかわからないから 費用がかかるから 面倒だから | 5.6% |
| その他 (n=0) | — | — | — | — | — |

※回答には「その他」が含まれるが、表中には記載しない。

図表 9-8：食料・飲料水を準備していない理由 住居形態別集計

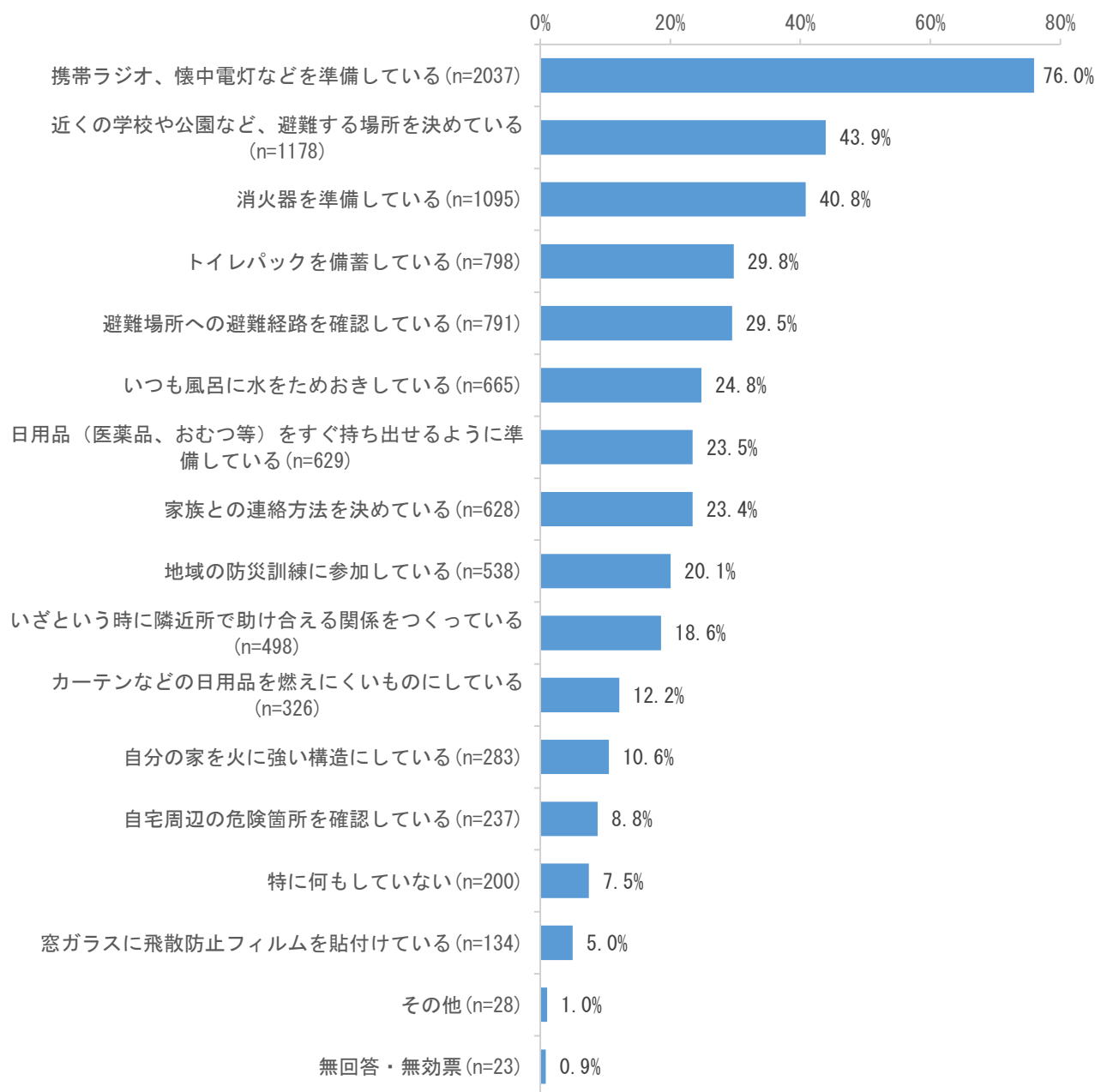
問10 あなたやあなたのご家庭では、家具の固定や水・食料の準備等以外で現在、どのような対策をしていますか。該当するものすべて選択

◇対策は「携帯ラジオ、懐中電灯などを準備している」が最も多い

家具の固定や水・食料の準備等以外の対策は、「携帯ラジオ、懐中電灯などを準備している」が76.0%と最も高く、次いで「近くの学校や公園など、避難する場所を決めている」が43.9%となった。

経年比較では、平成27年調査と同様の傾向であり、割合に大きな差はないが、平成27年調査では6位の「トイレパックを備蓄している」が、今回の調査では29.8%で4位となった。

【全体集計】 n=2,682



図表 10-1 : 災害対策

【経年比較】※上位5位を抜粋

| | 1位 | 2位 | 3位 | 4位 | 5位 |
|--------------------|------------------------------|----------------------------------|---------------------|----------------------------|----------------------------|
| 平成27年 (n=3,217) | 携帯ラジオ、懐中電灯などを準備している 79.4% | 近くの学校や公園など、避難する場所を決めている 46.6% | 消火器を準備している 43.3% | 避難場所への避難経路を確認している 31.5% | いつも風呂に水をためおきしている 28.9% |
| 平成30年 (n=2,682) | 携帯ラジオ、懐中電灯などを準備している 76.0% | 近くの学校や公園など、避難する場所を決めている 43.9% | 消火器を準備している 40.8% | トイレバックを備蓄している 29.8% | 避難場所への避難経路を確認している 29.5% |

図表 10-2：災害対策 経年比較

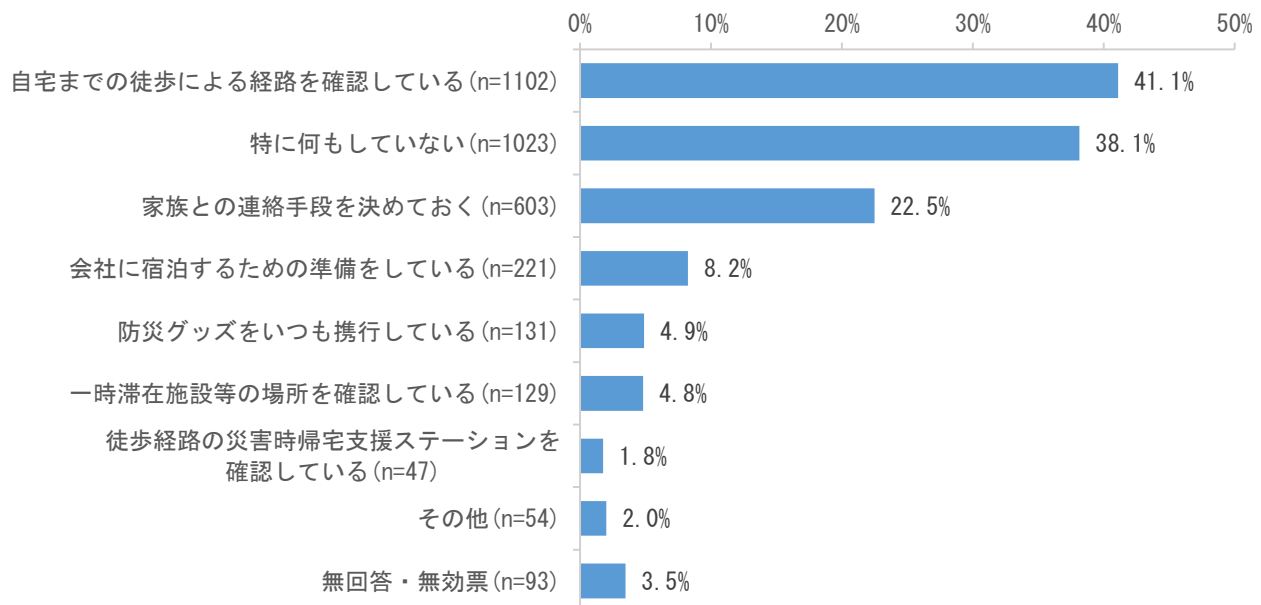
問11 勤務先や外出先で、大地震等の発生により交通機関が停止し、道路も通行不能となった場合に備えた対策を行っていますか。該当するもの全て選択

◇交通対策は「自宅までの徒歩による経路を確認している」が4割を超える

交通機関が停止した際の対策は、「自宅までの徒歩による経路を確認している」が41.1%と最も高く、次いで「特に何もしていない」が38.1%となった。

経年比較では、平成27年調査と同様の傾向である。

【全体集計】 n=2,682



図表 11-1：外出先での対策

【経年比較】※参考、上位5位を抜粋

| | 1位 | 2位 | 3位 | 4位 | 5位 |
|--------------------|------------------------------|------------------------------|----------------------------|-----------------------------------|---------------------------|
| 平成20年 (n=2,341) | 特に何もしていない 45.0% | 自宅までの徒歩による経路を確認している 37.9% | 一時滞在施設等の場所を確認している 15.5% | 徒歩経路の災害時帰宅支援ステーションを確認している 7.7% | 防災グッズをいつも携行している 3.2% |
| 平成27年 (n=3,217) | 自宅までの徒歩による経路を確認している 40.0% | 特に何もしていない 37.9% | 家族との連絡手段を決めておく※ 23.5% | 会社に宿泊するための準備をしている※ 8.4% | 一時滞在施設等の場所を確認している 6.1% |
| 平成30年 (n=2,682) | 自宅までの徒歩による経路を確認している 41.1% | 特に何もしていない 38.1% | 家族との連絡手段を決めておく※ 22.5% | 会社に宿泊するための準備をしている※ 8.2% | 防災グッズをいつも携行している 4.9% |

図表 11-2：外出先での対策 経年比較

※平成27年調査から「家族との連絡手段を決めておく」、「会社に宿泊するための準備をしている」の選択肢を新設。

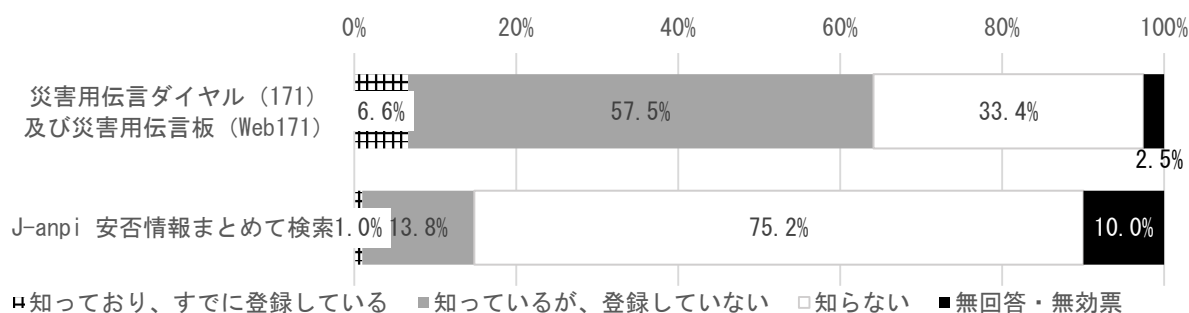
問12 大地震等が発生した場合に、自分自身の無事を伝え、家族の安否を確認するためのサービスとして「災害用伝言ダイヤル（171）及び災害用伝言板（Web171）」、「J-anpi 安否情報まとめて検索」等がありますが、知っていますか。それぞれ右にあてはまる番号に○をつけてください。

◇災害用伝言ダイヤル（171）及び災害用伝言板（Web171）で「知っているが、登録していない」が約6割、J-anpi 安否情報まとめて検索は、「知らない」が7割を超える

家族の安否を確認するためのサービスの認知度は、「災害用伝言ダイヤル（171）及び災害用伝言板（Web171）」を知っている割合が64.1%となった。「J-anpi 安否情報まとめて検索」を知っている割合は14.8%となった。

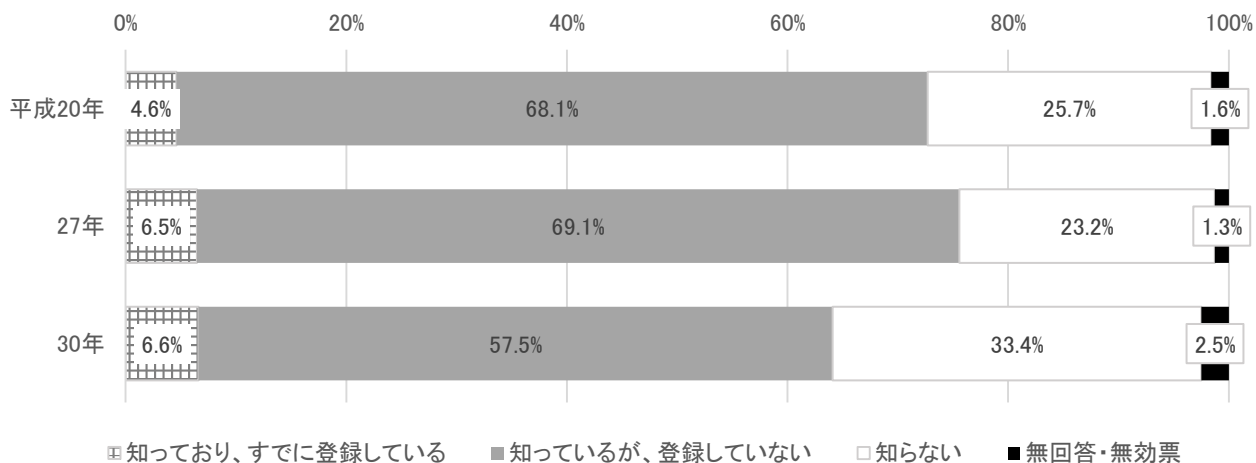
「災害用伝言ダイヤル（171）及び災害用伝言板（Web171）」の年代別集計では、「知らない」の割合が「10歳代」で56.8%と最も高く、唯一50%を超える年代となった。

【全体集計】 n=2,682



図表 12-1：災害用伝言ダイヤル及び伝言板の認知度

【経年比較_災害用伝言ダイヤル（171）及び災害用伝言板（Web171）】 ※参考

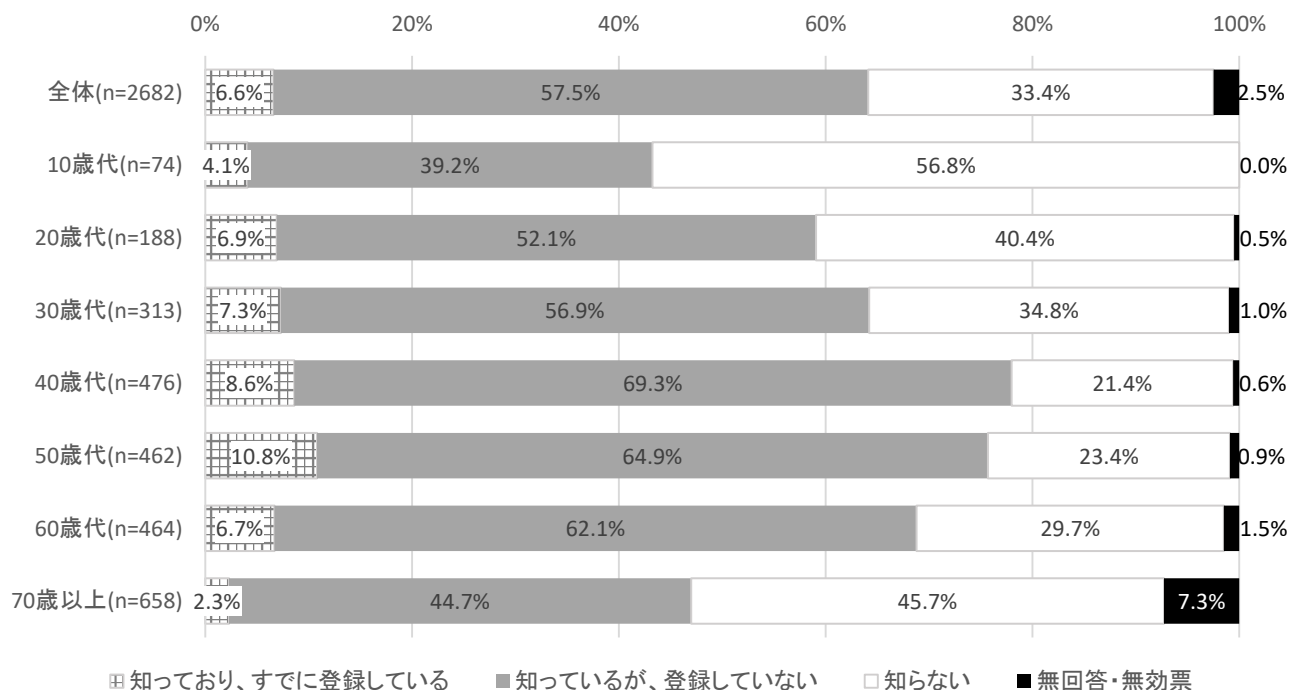


図表 12-2：災害用伝言ダイヤル及び伝言板の認知度 経年比較

※平成20年調査時の設問には「災害用伝言板（Web171）」の記述はない

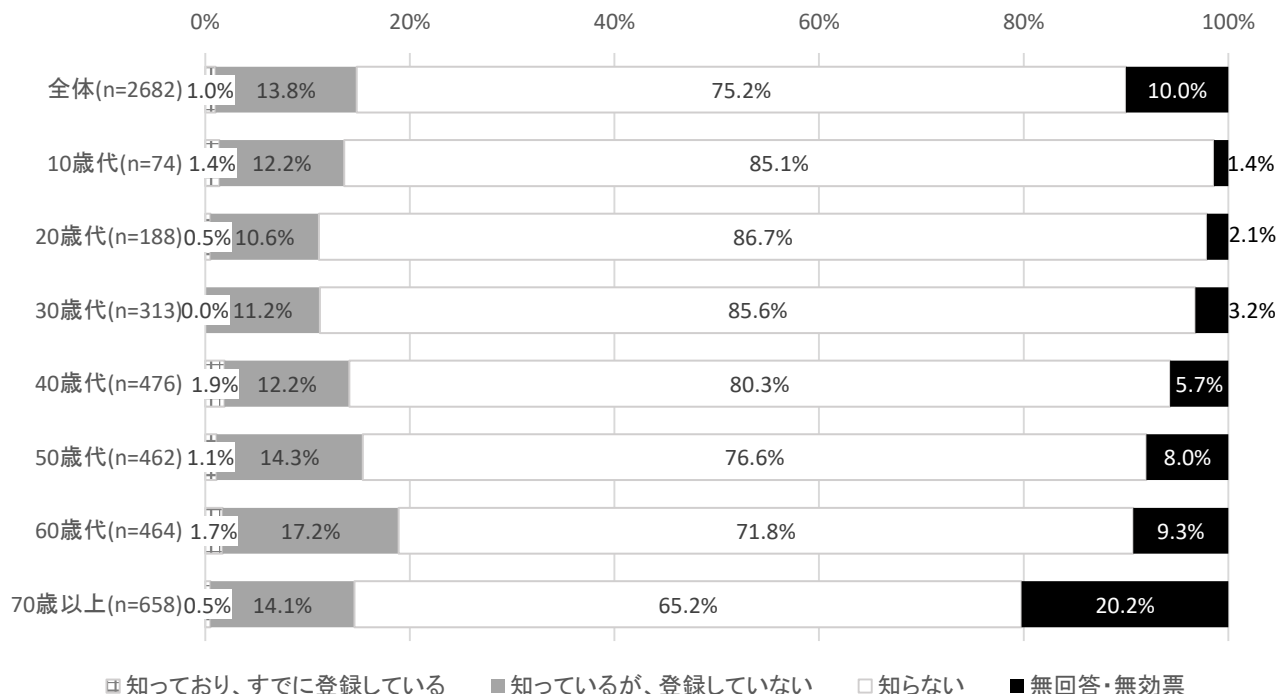
※「J-anpi 安否情報まとめて検索」は今回調査からの新設項目

【年代別集計_災害用伝言ダイヤル（171）及び災害用伝言板（Web171）】



図表 12-3：災害用伝言ダイヤル及び伝言板の認知度 年代別集計

【年代別集計_J-anpi 安否情報まとめて検索】



図表 12-4：災害用伝言ダイヤル及び伝言板の認知度 年代別集計

(3) 地域での取り組み（共助）について

問13 あなたは次の研修や訓練等に参加したことがありますか。該当するものすべて選択

◇研修や訓練等は「何も参加していない」が約5割

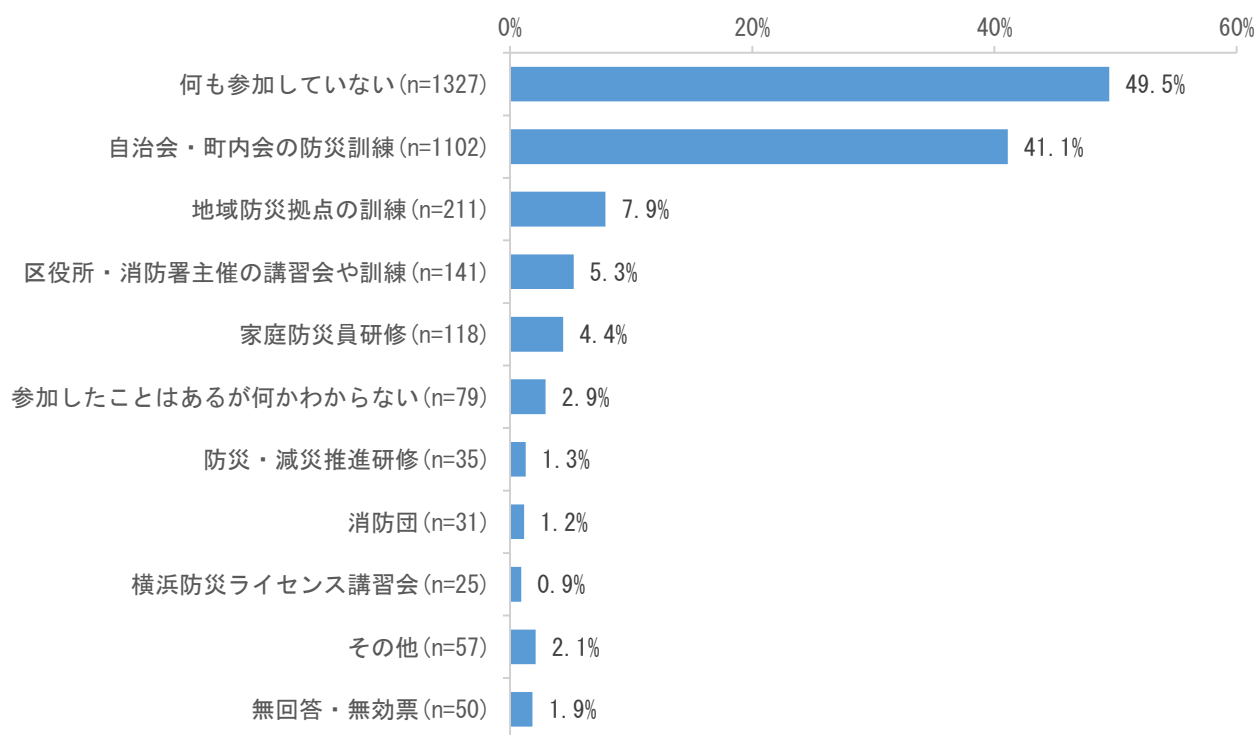
研修や訓練等への参加は、「何も参加していない」が49.5%と最も高く、次いで「自治会・町内会の防災訓練」が41.1%となった。

経年比較では、「何も参加していない」の割合が平成27年調査と比較して微減しており、50%を下回って49.5%となった。

年代別集計において、「自治会・町内会の防災訓練」と回答した割合は、「20歳代」以降、年代が上がるにつれて上昇しており、「60歳代」「70歳以上」では50%を超えた。

家族形態別集計では、ほとんどの家族形態で「何も参加していない」が最も高くなっているが、「夫婦のみ」では「自治会・町内会の防災訓練」が48.3%で最も高くなった。

【全体集計】 n=2,682



図表 13-1：研修や訓練への参加

【経年比較】 ※上位5位を抜粋

| | 1位 | 2位 | 3位 | 4位 | 5位 |
|--------------------|--------------------|-----------------------|-------------------|--------------------------|-----------------|
| 平成27年 (n=3,217) | 何も参加していない 52.1% | 自治会・町内会の防災訓練 38.5% | 地域防災拠点の訓練 6.2% | 区役所・消防署主催の講習会や訓練 5.3% | 家庭防災員研修 4.2% |
| 平成30年 (n=2,682) | 何も参加していない 49.5% | 自治会・町内会の防災訓練 41.1% | 地域防災拠点の訓練 7.9% | 区役所・消防署主催の講習会や訓練 5.3% | 家庭防災員研修 4.4% |

図表 13-2：研修や訓練への参加 経年比較

【年代別集計】※上位5位を抜粋

| | 1位 | 2位 | 3位 | 4位 | 5位 |
|------------------|------------------------|------------------------|----------------------------|---|----------------------------|
| 全体 (n=2,682) | 何も参加していない 49.5% | 自治会・町内会の防 災訓練 41.1% | 地域防災拠点の訓練 7.9% | 区役所・消防署主催の 講習会や訓練 5.3% | 家庭防災員研修 4.4% |
| 10歳代 (n=74) | 何も参加していない 54.1% | 自治会・町内会の防 災訓練 28.4% | 参加したことはあるが 何かわからない 9.5% | ・地域防災拠点の訓練 ・消防団 ・区役所、消防署主催の講習会や訓練 | 4.1% |
| 20歳代 (n=188) | 何も参加していない 80.3% | 自治会・町内会の防 災訓練 11.7% | 参加したことはあるが 何かわからない 3.7% | 区役所・消防署主催の 講習会や訓練 1.6% | 地域防災拠点の訓練 0.5% |
| 30歳代 (n=313) | 何も参加していない 72.2% | 自治会・町内会の防 災訓練 19.8% | 地域防災拠点の訓練 3.2% | 区役所・消防署主催の 講習会や訓練 1.9% | 参加したことはあるが 何かわからない 1.6% |
| 40歳代 (n=476) | 何も参加していない 57.8% | 自治会・町内会の防 災訓練 31.9% | 地域防災拠点の訓練 3.8% | 参加したことはあるが 何かわからない 2.9% | 区役所・消防署主催の 講習会や訓練 2.1% |
| 50歳代 (n=462) | 何も参加していない 50.4% | 自治会・町内会の防 災訓練 40.3% | 地域防災拠点の訓練 7.8% | 区役所・消防署主催の 講習会や訓練 3.9% | 家庭防災員研修 3.7% |
| 60歳代 (n=464) | 自治会・町内会の防 災訓練 56.5% | 何も参加していない 35.6% | 地域防災拠点の訓練 11.6% | 家庭防災員研修 8.4% | 区役所・消防署主催の 講習会や訓練 7.5% |
| 70歳以上 (n=658) | 自治会・町内会の防 災訓練 57.0% | 何も参加していない 33.0% | 地域防災拠点の訓練 12.3% | 区役所・消防署主催の 講習会や訓練 9.3% | 家庭防災員研修 7.4% |

図表 13-3：研修や訓練への参加 年代別集計

【家族形態別集計】※上位5位を抜粋

| | 1位 | 2位 | 3位 | 4位 | 5位 |
|--------------------|------------------------|------------------------|--------------------|--|------------------------------|
| 全体 (n=2,682) | 何も参加していない 49.5% | 自治会・町内会の防 災訓練 41.1% | 地域防災拠点の訓練 7.9% | 区役所・消防署主催 の講習会や訓練 5.3% | 家庭防災員研修 4.4% |
| ひとり暮らし (n=260) | 何も参加していない 63.5% | 自治会・町内会の防 災訓練 26.5% | 地域防災拠点の訓練 6.5% | 区役所・消防署主催の講習会や訓練 参加したことはあるが何かわからない | 3.8% |
| 夫婦のみ (n=758) | 自治会・町内会の防 災訓練 48.3% | 何も参加していない 43.3% | 地域防災拠点の訓練 10.2% | 区役所・消防署主催 の講習会や訓練 7.1% | 家庭防災員研修 5.7% |
| 親と子 (n=1,393) | 何も参加していない 50.3% | 自治会・町内会の防 災訓練 39.9% | 地域防災拠点の訓練 6.7% | 区役所・消防署主催 の講習会や訓練 4.2% | 家庭防災員研修 3.7% |
| 祖父母と親 と子(n=171) | 何も参加していない 48.5% | 自治会・町内会の防 災訓練 41.5% | 家庭防災員研修 8.2% | 地域防災拠点の訓練 7.0% | 区役所・消防署主催 の講習会や訓練 5.8% |
| その他 (n=46) | 何も参加していない 63.0% | 自治会・町内会の防 災訓練 26.1% | 地域防災拠点の訓練 6.5% | ・横浜防災ライセンス講習会 ・消防団 ・区役所、消防署主催の講習会や訓練 | 4.3% |

図表 13-4：研修や訓練への参加 家族形態別集計

【自治会、町内会、マンション管理組合加入別集計】※上位5位を抜粋

| | 1位 | 2位 | 3位 | 4位 | 5位 |
|---------------------|------------------------|------------------------|---------------------------|----------------------------|-----------------|
| 全体 (n=2,682) | 何も参加していない 49.5% | 自治会・町内会の防 災訓練 41.1% | 地域防災拠点の訓練 7.9% | 区役所・消防署主催の 講習会や訓練 5.3% | 家庭防災員研修 4.4% |
| 加入している (n=2,208) | 自治会・町内会の防 災訓練 47.0% | 何も参加していない 43.5% | 地域防災拠点の訓練 9.1% | 区役所・消防署主催の 講習会や訓練 5.4% | 家庭防災員研修 5.1% |
| 加入していない (n=412) | 何も参加していない 83.5% | 自治会・町内会の防 災訓練 7.8% | 区役所・消防署主催 の講習会や訓練 3.2% | 参加したことはあるが 何かわからない 2.2% | 家庭防災員研修 1.0% |

図表 13-5：研修や訓練への参加 自治会、町内会、マンション管理組合加入別集計

(問 13 で「何も参加していない」と答えた方にご回答ください)
 問 13-1 何も参加していない理由をお選びください。1つ選択

◇参加していない理由は「いつどこで開催されているか知らないから」が5割を超える

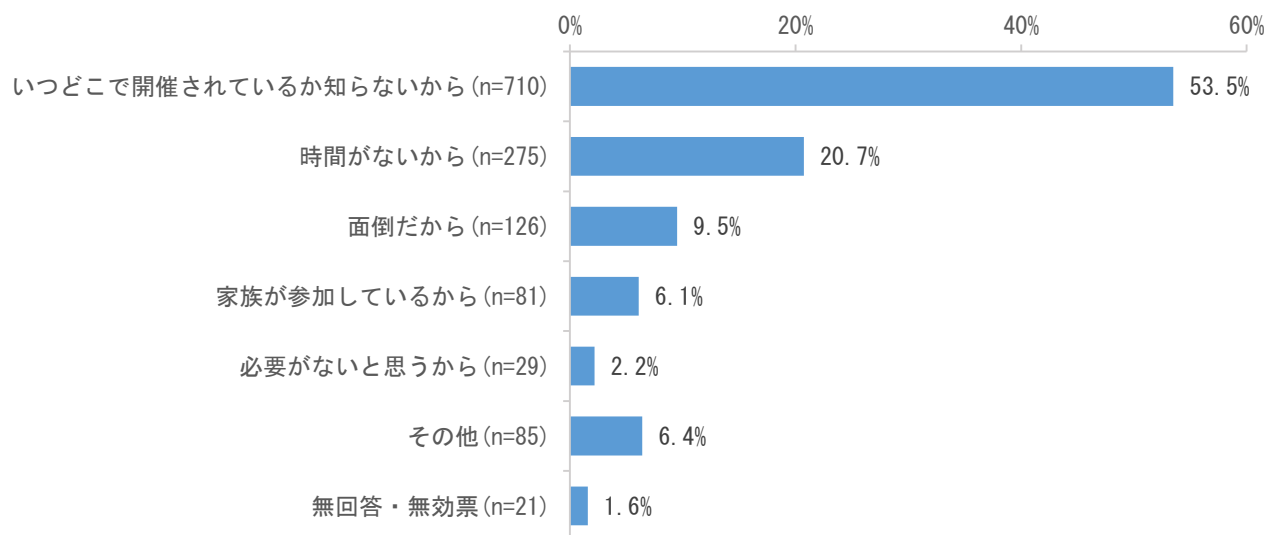
研修や訓練に参加していない理由は、「いつどこで開催されているか知らないから」が53.5%と最も高く、次いで「時間がないから」が20.7%となった。

経年比較では、平成27年調査と同様の傾向である。

家族形態別集計では、「いつどこで開催されているか知らないから」と回答した割合は、ほとんどの家族形態で50%を超えているが、「祖父母と親と子(3世代)」でのみ44.6%と5割を下回っている。また、「家族が参加しているから」と回答した割合は、「祖父母と親と子(3世代)」が18.1%で最も高く、次いで「親と子(2世代)」が6.4%と続いている。

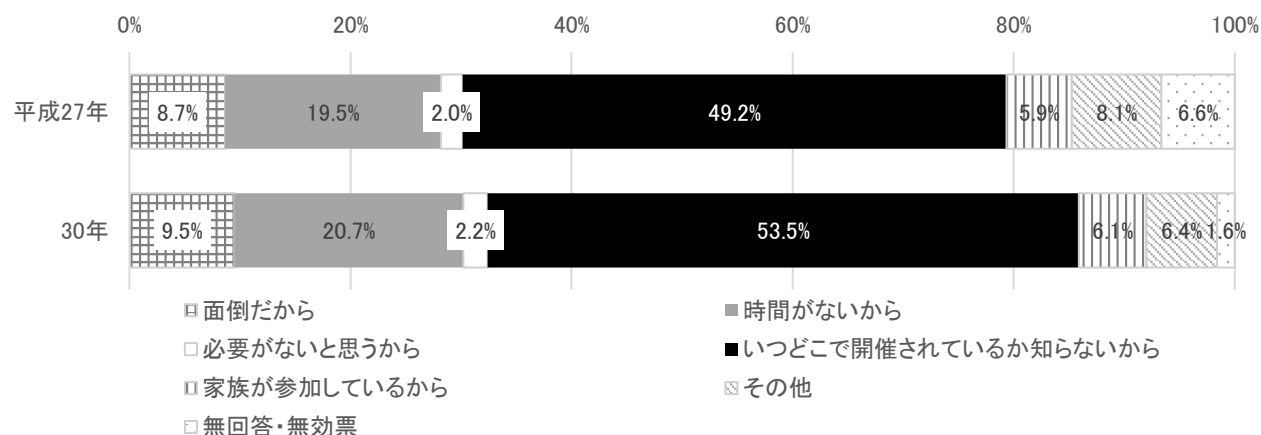
自治会、町内会、マンション管理組合加入別集計では、「加入していない」において、「いつどこで開催されているか知らないから」が70.3%と最も高い割合となった。

【全体集計】 n=1,327



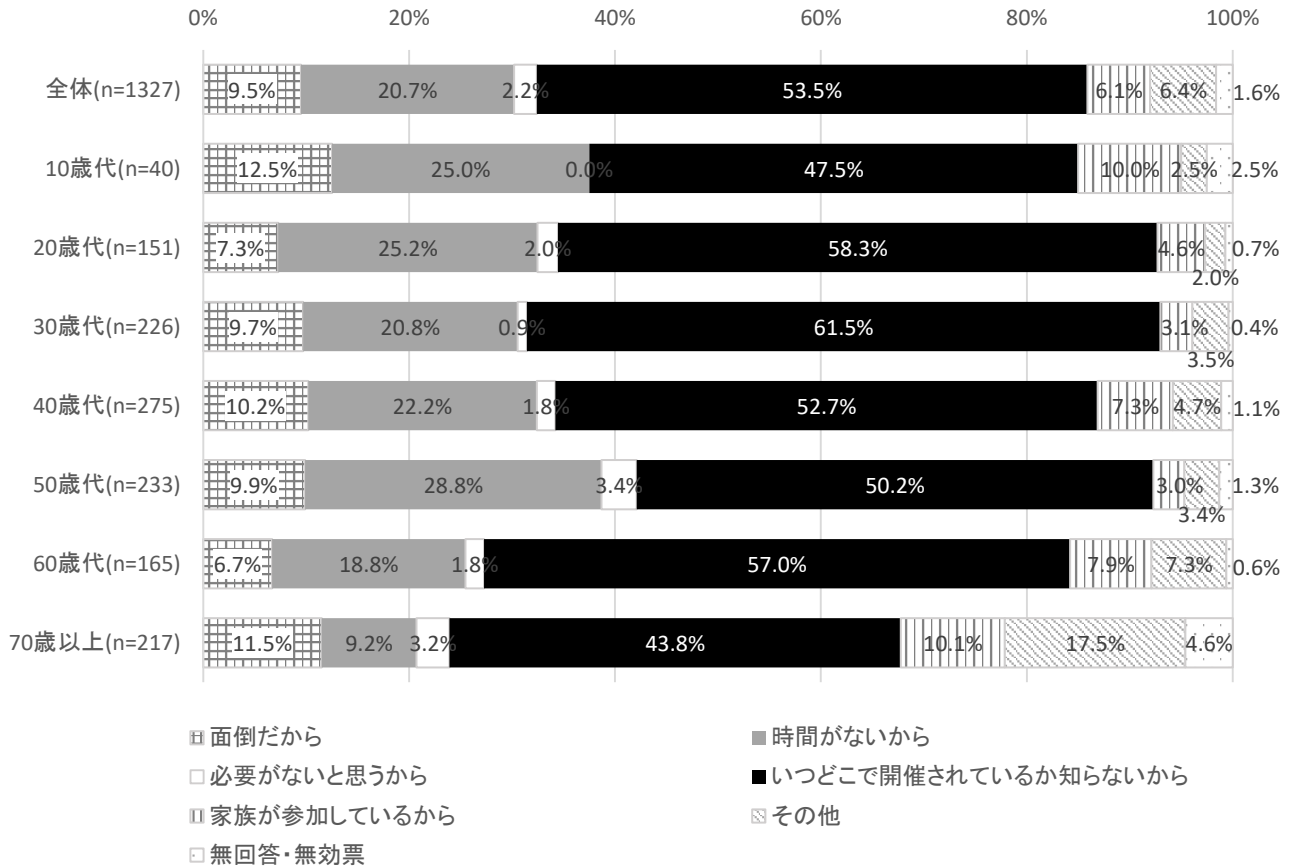
図表 13-6 : 研修や訓練に参加していない理由

【経年比較】



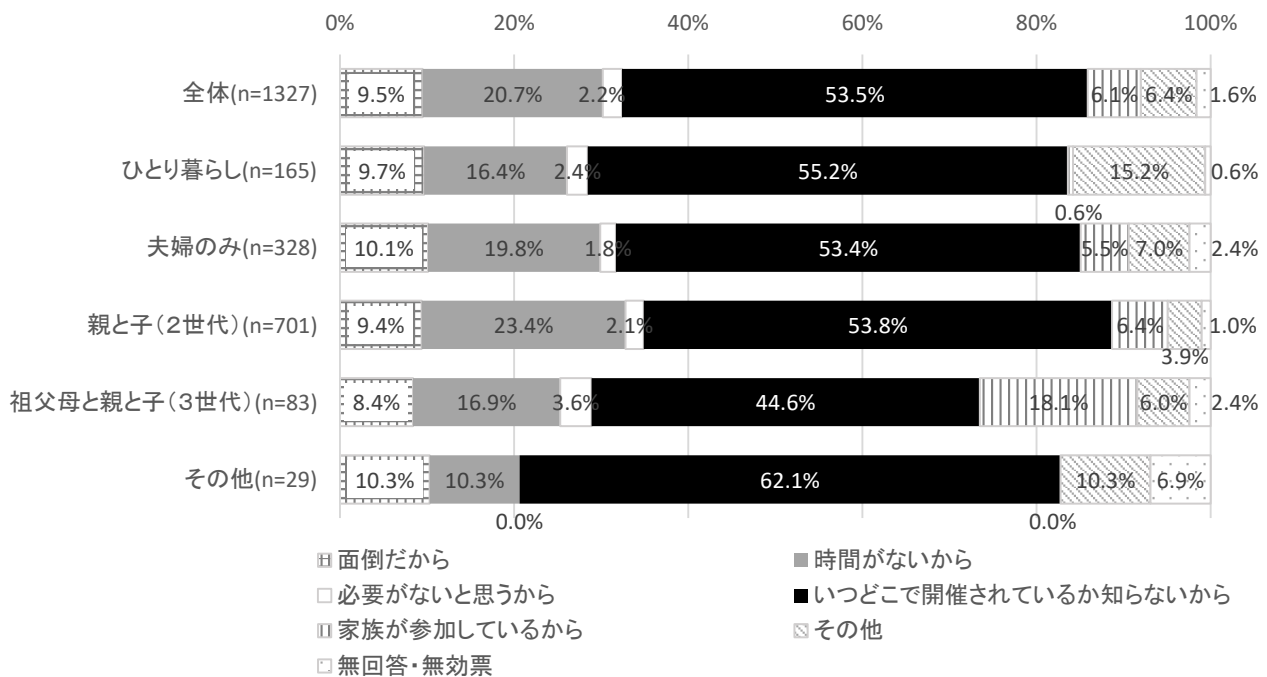
図表 13-7 : 研修や訓練に参加していない理由 経年比較

【年代別集計】



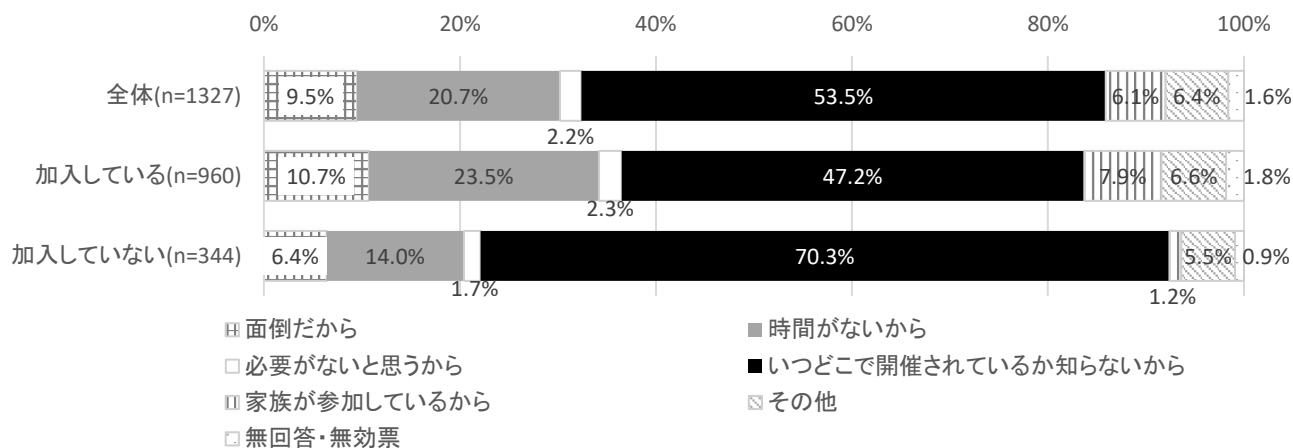
図表 13-8 : 研修や訓練に参加していない理由 年代別集計

【家族形態別集計】



図表 13-9 : 研修や訓練に参加していない理由 家族形態別集計

【自治会、町内会、マンション管理組合加入別集計】



図表 13-10：研修や訓練に参加していない理由 自治会、町内会、マンション管理組合加入別集計

問14 あなたは日頃、近所の人とどの程度の付き合いをしていますか。1つ選択

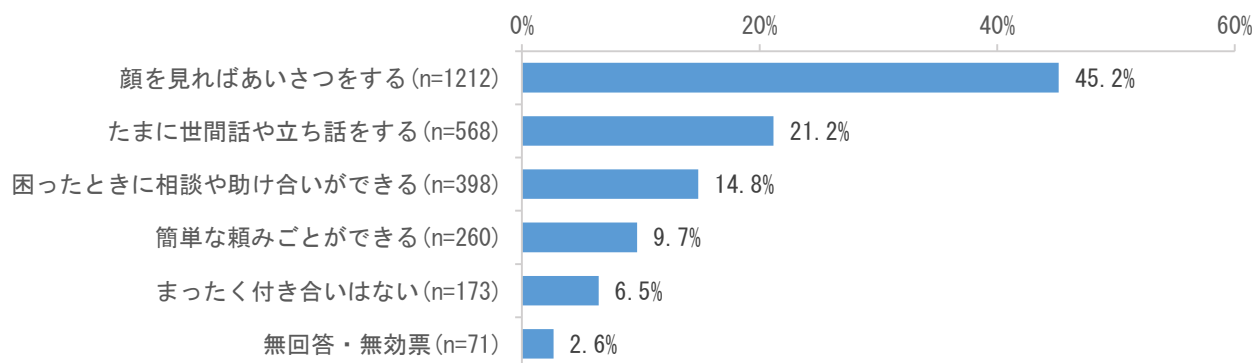
◇近所の付き合いは「顔を見ればあいさつをする」が4割を超える

近所の人との付き合いは、「顔を見ればあいさつをする」が45.2%と最も高く、次いで「たまに世間話や立ち話をする」が21.2%となった。

経年比較では、平成27年調査と同様の傾向である。

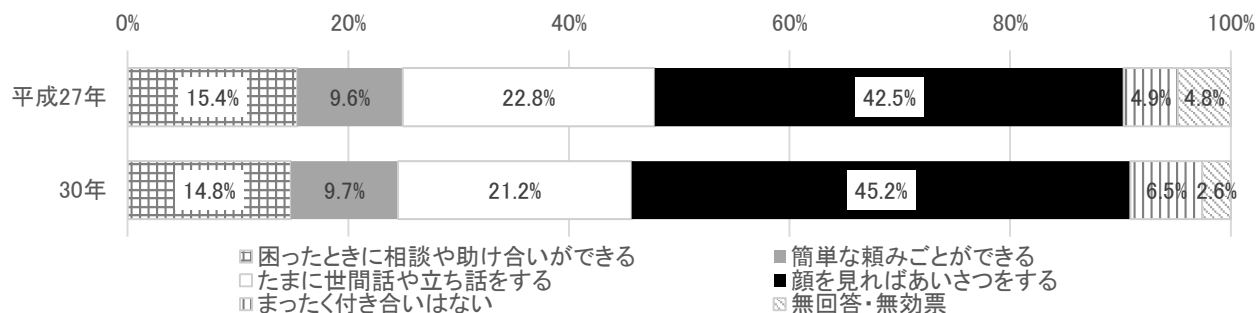
年代別集計では、おおむね年代が上がるにつれて「困ったときに相談や助け合いができる」「簡単な頼みごとができる」「たまに世間話や立ち話をする」の割合が増加している。

【全体集計】 n=2,682



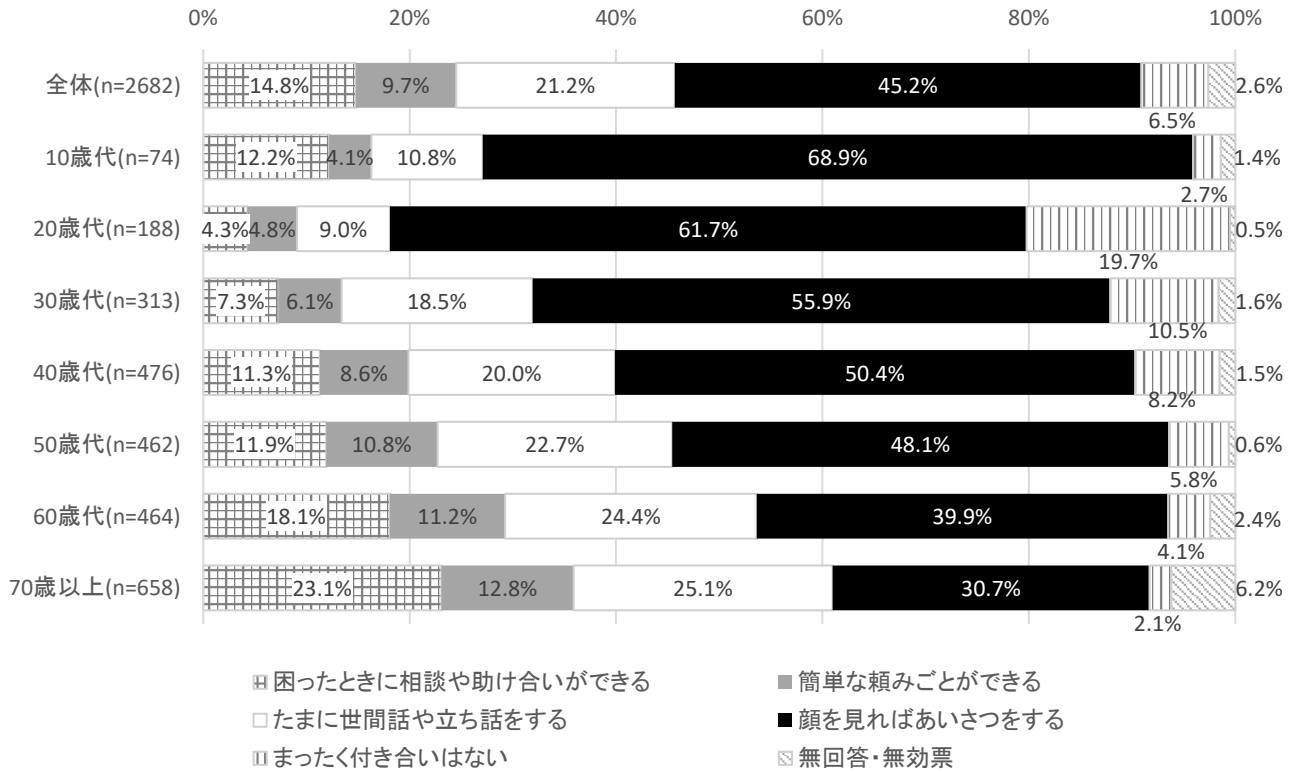
図表 14-1：近所との付き合い

【経年比較】



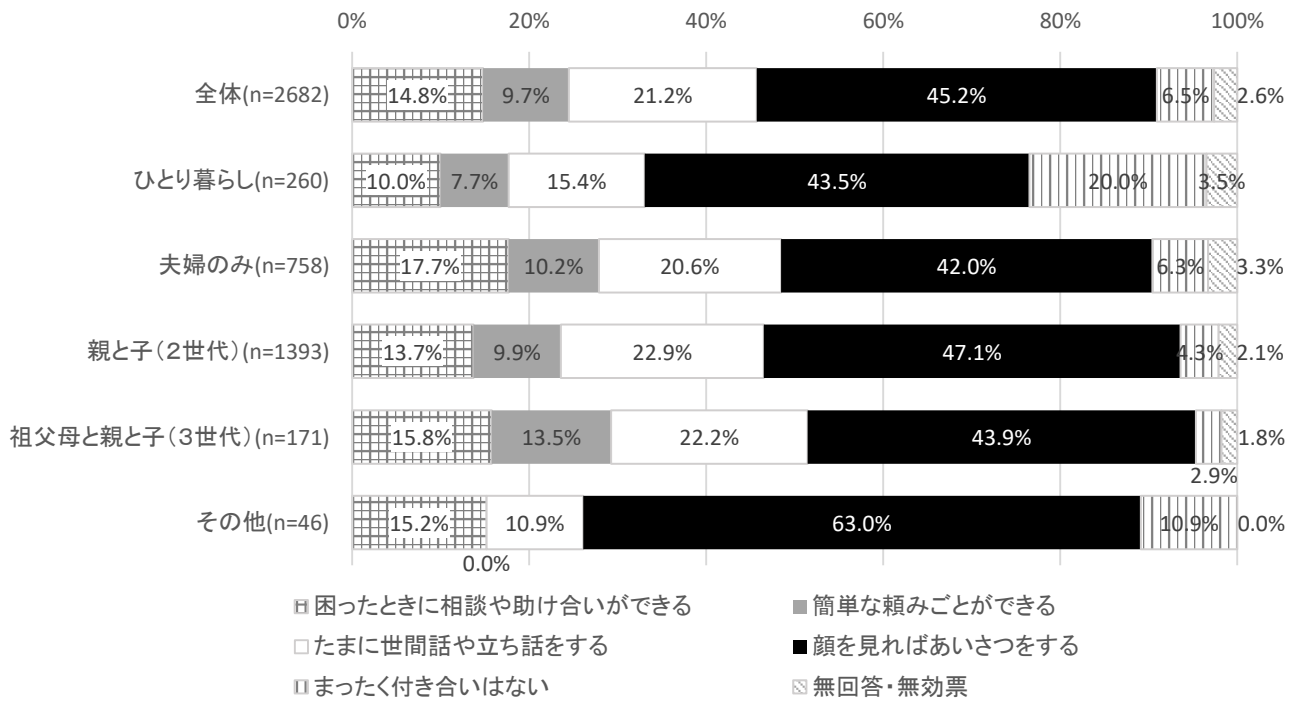
図表 14-2：近所との付き合い 経年比較

【年代別集計】



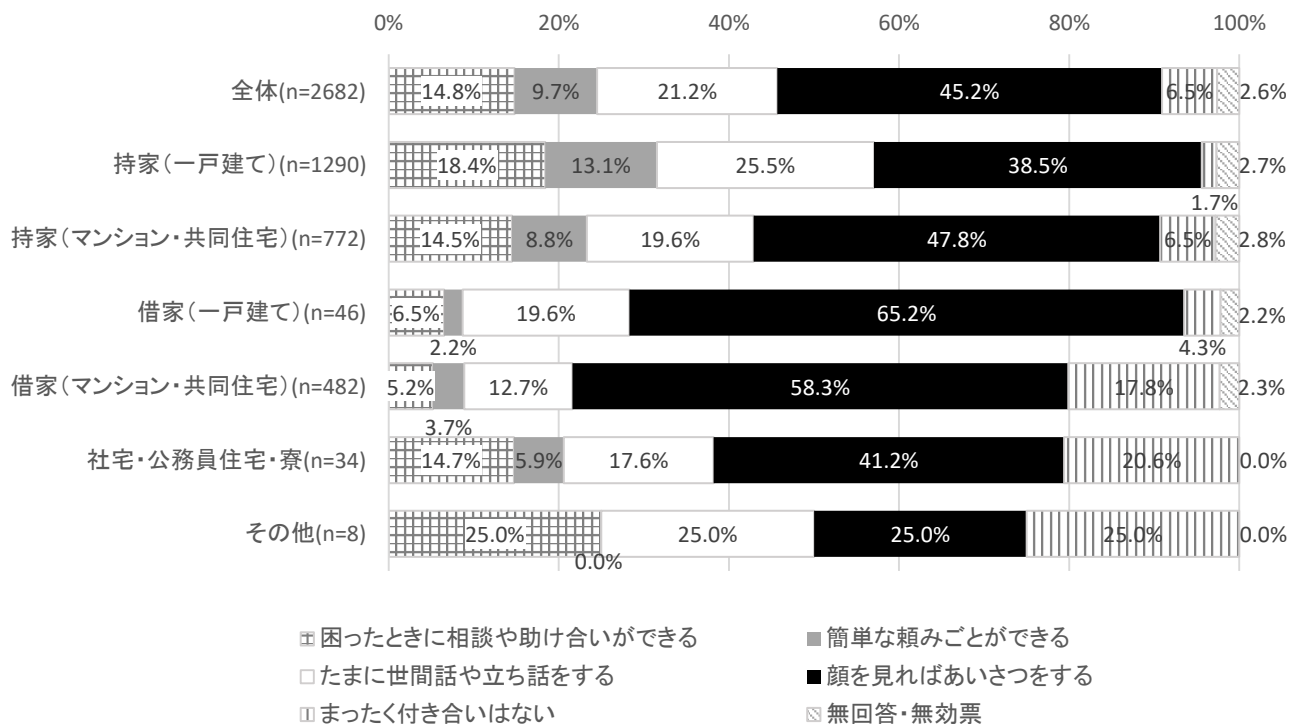
図表 14-3 : 近所との付き合い 年代別集計

【家族形態別集計】



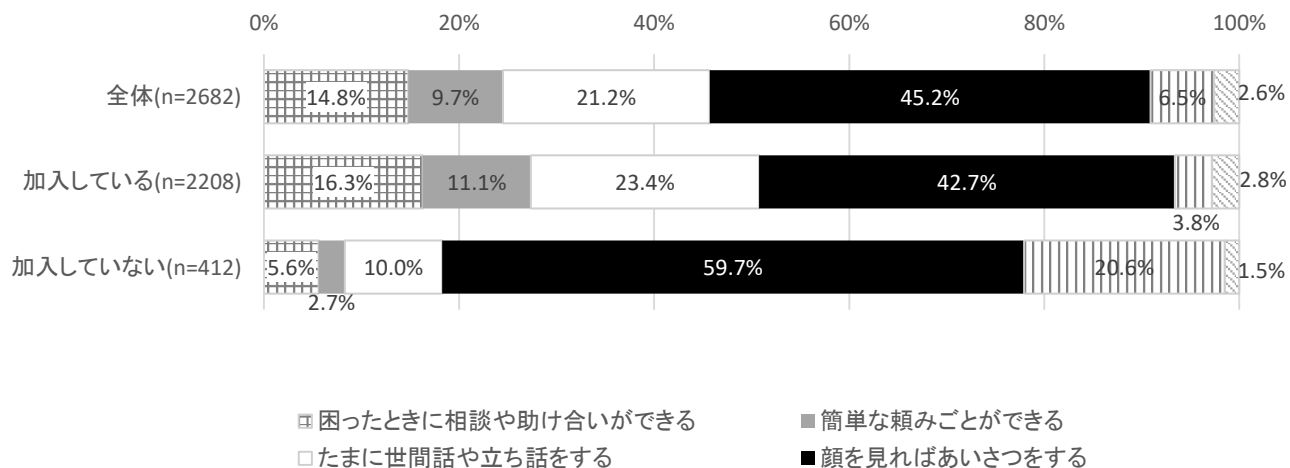
図表 14-4 : 近所との付き合い 家族形態別集計

【住居形態別集計】



図表 14-5：近所との付き合い 住居形態別集計

【自治会、町内会、マンション管理組合加入別集計】



図表 14-6：近所との付き合い 自治会、町内会、マンション管理組合加入別集計

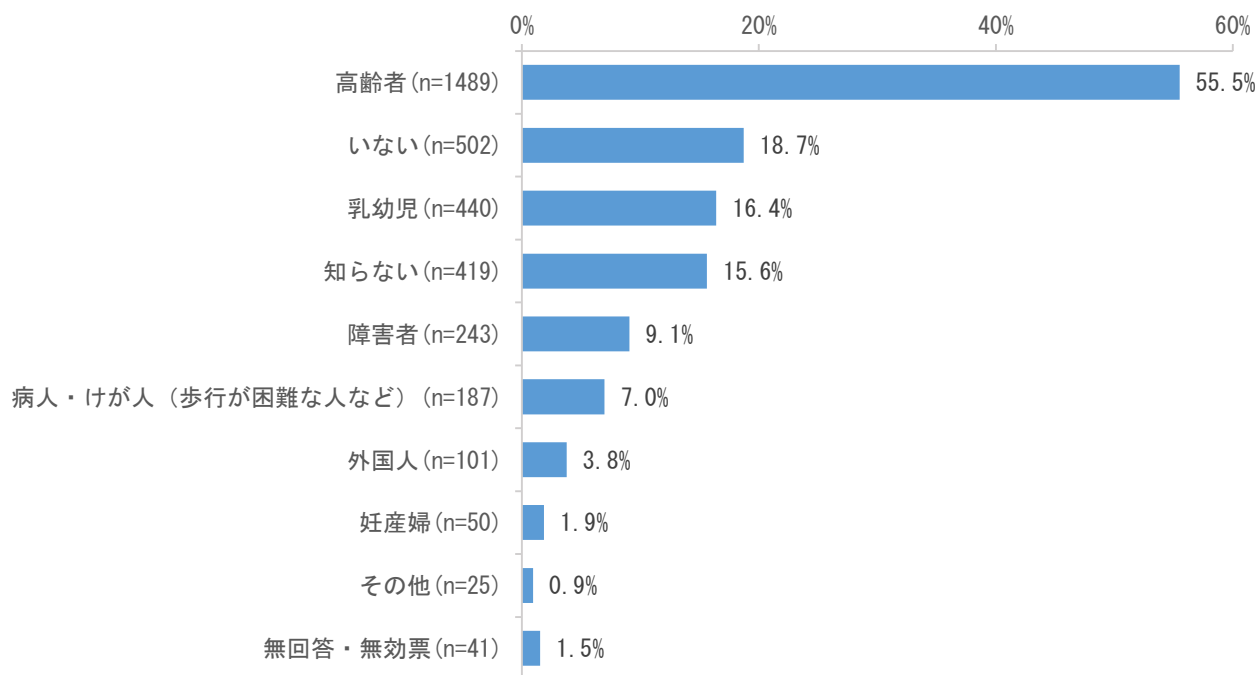
問15 大地震等の災害が起こった時に、ご近所に避難時に手助けが必要になりそうな人（例えば、自力で避難することが困難な高齢者や障害者、乳幼児、病人、妊産婦、日本語が不自由な外国人など）はいますか。該当するものすべて選択

◇近所に避難時に手助けが必要になりそうな人は「高齢者」で5割を超える

近所に避難時に手助けが必要になりそうな人がいるかでは、「高齢者」が55.5%と最も高く、次いで「いない」が18.7%となった。

経年比較では、平成27年調査と同様の傾向である。

【全体集計】 n=2,682



図表 15-1 : 災害時に自力での避難が困難な人の有無

【経年比較】 ※上位5位を抜粋

| | 1位 | 2位 | 3位 | 4位 | 5位 |
|--------------------|--------------|--------------|--------------|---------------|-------------|
| 平成27年 (n=3,217) | 高齢者 53.2% | いない 20.4% | 乳幼児 15.7% | 知らない 14.6% | 障害者 8.3% |
| 平成30年 (n=2,682) | 高齢者 55.5% | いない 18.7% | 乳幼児 16.4% | 知らない 15.6% | 障害者 9.1% |

図表 15-2 : 災害時に自力での避難が困難な人の有無 経年比較

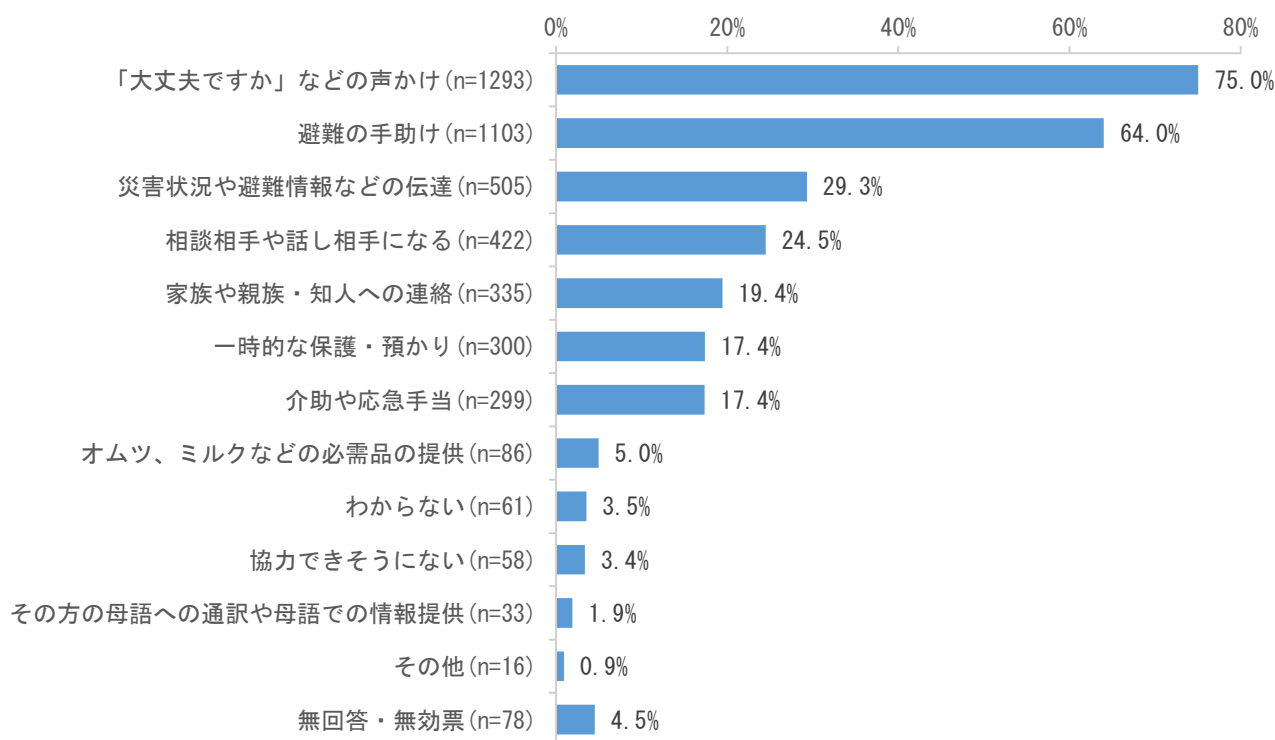
(問 15 で「避難時に手助けが必要になりそうな人」のいずれかを選択した方にご回答ください)
 問 15-1 その人にはどのような支援(手助け)ができると思いますか?該当するものすべて選択

◇できる支援は「声掛け」が最も多い

避難時に手助けが必要になりそうな人にできる支援では、「大丈夫ですか」などの声かけ」が 75.0%と最も高く、次いで「避難の手助け」が 64.0%となった。

経年比較を見ると、平成 27 年調査と同様の傾向であるが、今回調査では「家族や親族・知人への連絡」が 19.4%となり、5 位に入った。

【全体集計】 n=1,723



図表 15-3 : 自力での避難が困難な人にできる支援

【経年比較】 ※上位 5 位を抜粋

| | 1 位 | 2 位 | 3 位 | 4 位 | 5 位 |
|----------------------|--------------------------|-----------------|--------------------------|------------------------|------------------------|
| 平成 27 年 (n=2,025) | 「大丈夫ですか」な どの声かけ 75.0% | 避難の手助け 63.9% | 災害状況や避難情報 などの伝達 31.5% | 相談相手や話し相手 になる 25.8% | 一時的な保護・預か り 21.2% |
| 平成 30 年 (n=1,723) | 「大丈夫ですか」な どの声かけ 75.0% | 避難の手助け 64.0% | 災害状況や避難情報 などの伝達 29.3% | 相談相手や話し相手 になる 24.5% | 家族や親族・知人への 連絡 19.4% |

図表 15-4 : 自力での避難が困難な人にできる支援 経年比較

【家族形態別集計】 ※上位5位を抜粋

| | 1位 | 2位 | 3位 | 4位 | 5位 |
|--------------------|----------------------|--------------|--------------------------------|----------------------|--------------------|
| 全体 (n=1,723) | 「大丈夫ですか」などの声かけ 75.0% | 避難の手助け 64.0% | 災害状況や避難情報などの伝達 29.3% | 相談相手や話し相手になる 24.5% | 家族や親族・知人への連絡 19.4% |
| ひとり暮らし (n=126) | 「大丈夫ですか」などの声かけ 73.0% | 避難の手助け 54.8% | 相談相手や話し相手になる 24.6% | 災害状況や避難情報などの伝達 23.0% | 家族や親族・知人への連絡 19.0% |
| 夫婦のみ (n=463) | 「大丈夫ですか」などの声かけ 76.0% | 避難の手助け 63.5% | 災害状況や避難情報などの伝達 28.3% | 相談相手や話し相手になる 24.0% | 家族や親族・知人への連絡 20.5% |
| 親と子 (n=927) | 「大丈夫ですか」などの声かけ 74.6% | 避難の手助け 66.9% | 災害状況や避難情報などの伝達 29.7% | 相談相手や話し相手になる 24.5% | 一時的な保護・預かり 18.6% |
| 祖父母と親と子 (n=138) | 「大丈夫ですか」などの声かけ 80.4% | 避難の手助け 63.8% | 災害状況や避難情報などの伝達 34.8% | 相談相手や話し相手になる 26.8% | 家族や親族・知人への連絡 23.9% |
| その他 (n=28) | 「大丈夫ですか」などの声かけ 57.1% | 避難の手助け 39.3% | 災害状況や避難情報などの伝達 相談相手や話し相手になる | 25.0% | 家族や親族・知人への連絡 17.9% |

図表 15-5：自力での避難が困難な人のできる支援 家族形態別集計

【住居形態別集計】 ※上位5位を抜粋

| | 1位 | 2位 | 3位 | 4位 | 5位 |
|---------------------------|----------------------|--------------|----------------------------------|----------------------|----------------------|
| 全体 (n=1,723) | 「大丈夫ですか」などの声かけ 75.0% | 避難の手助け 64.0% | 災害状況や避難情報などの伝達 29.3% | 相談相手や話し相手になる 24.5% | 家族や親族・知人への連絡 19.4% |
| 持家（一戸建て） (n=885) | 「大丈夫ですか」などの声かけ 74.8% | 避難の手助け 62.6% | 災害状況や避難情報などの伝達 28.9% | 相談相手や話し相手になる 22.6% | 家族や親族・知人への連絡 21.5% |
| 持家（マンション・共同住宅） (n=487) | 「大丈夫ですか」などの声かけ 76.4% | 避難の手助け 67.4% | 災害状況や避難情報などの伝達 31.4% | 相談相手や話し相手になる 27.7% | 介助や応急手当 18.7% |
| 借家（一戸建て） (n=29) | 「大丈夫ですか」などの声かけ 79.3% | 避難の手助け 69.0% | 介助や応急手当 24.1% | 災害状況や避難情報などの伝達 20.7% | 一時的な保護・預かり 17.2% |
| 借家（マンション・共同住宅） (n=267) | 「大丈夫ですか」などの声かけ 71.9% | 避難の手助け 64.4% | 災害状況や避難情報などの伝達 27.0% | 相談相手や話し相手になる 26.2% | 介助や応急手当 17.2% |
| 社宅・公務員住宅・寮 (n=15) | 「大丈夫ですか」などの声かけ 93.3% | 避難の手助け 66.7% | 相談相手や話し相手になる オムツ、ミルクなどの必需品の提供 | 26.2% | 災害状況や避難情報などの伝達 20.0% |
| その他 (n=5) | 「大丈夫ですか」などの声かけ 60.0% | 避難の手助け 40.0% | 災害状況や避難情報などの伝達 相談相手や話し相手になる | 20.0% | — |

図表 15-6：自力での避難が困難な人のできる支援 住居形態別集計

【自治会、町内会、マンション管理組合加入別集計】 ※上位5位を抜粋

| | 1位 | 2位 | 3位 | 4位 | 5位 |
|---------------------|----------------------|--------------|----------------------|----------------------|--------------------|
| 全体 (n=1,723) | 「大丈夫ですか」などの声かけ 75.0% | 避難の手助け 64.0% | 災害状況や避難情報などの伝達 29.3% | 相談相手や話し相手になる 24.5% | 家族や親族・知人への連絡 19.4% |
| 加入している (n=1,474) | 「大丈夫ですか」などの声かけ 75.5% | 避難の手助け 65.1% | 災害状況や避難情報などの伝達 29.4% | 相談相手や話し相手になる 23.9% | 家族や親族・知人への連絡 19.5% |
| 加入していない (n=205) | 「大丈夫ですか」などの声かけ 71.2% | 避難の手助け 59.0% | 相談相手や話し相手になる 27.3% | 災害状況や避難情報などの伝達 26.3% | 一時的な保護・預かり 19.0% |

図表 15-7：自力での避難が困難な人のできる支援 自治会、町内会、マンション管理組合加入別集計

問16 横浜市では、「自助・共助」の大切さを市民の皆様の間を広めていくための「よこはま地震防災市民憲章」を制定しました。あなたは、「よこはま地震防災市民憲章」等について知っていますか。それぞれ右にあてはまる番号に○をつけてください。

◇「自助」「共助」の認知度が4割を超える

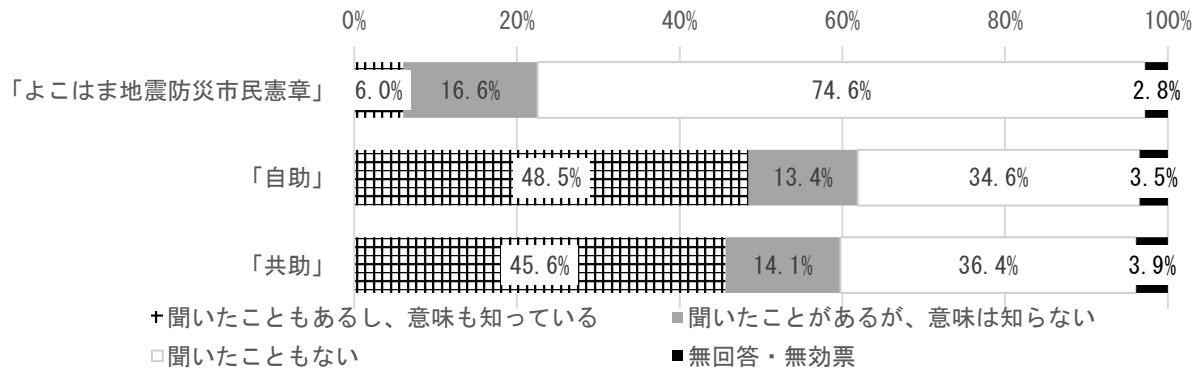
自助・共助、よこはま地震防災市民憲章の認知度は、「自助」の48.5%、「共助」の45.6%、「よこはま市民憲章」の6.0%が「聞いたこともあるし、意味も知っている」と回答している。

経年比較では、平成27年調査と比べ「自助」「共助」ともに「聞いたこともあるし、意味も知っている」の割合が大きく増加している。

年代別集計では、いずれも年代が上がるにつれて認知度が増加している。

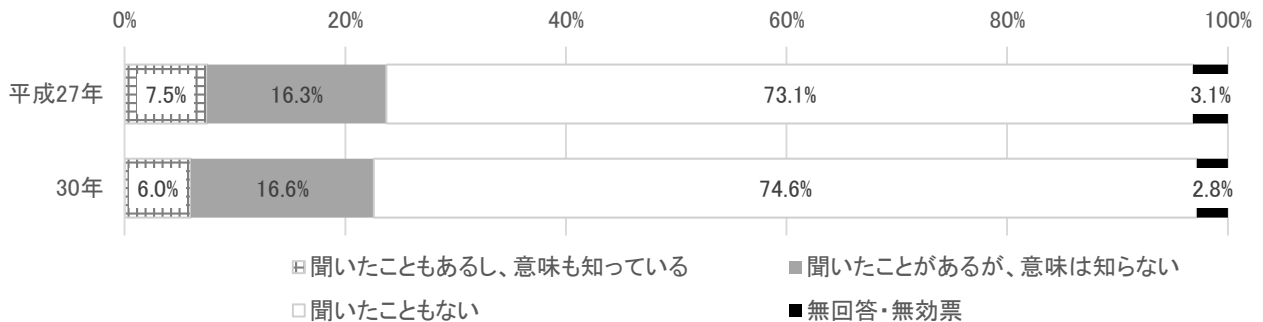
「よこはま地震防災市民憲章」の年代別集計では、「聞いたこともない」の割合が「10歳代」及び「20歳代」で90%を超えており、最も低い「70歳以上」においても56.7%となった。

【全体集計】 n=2,682



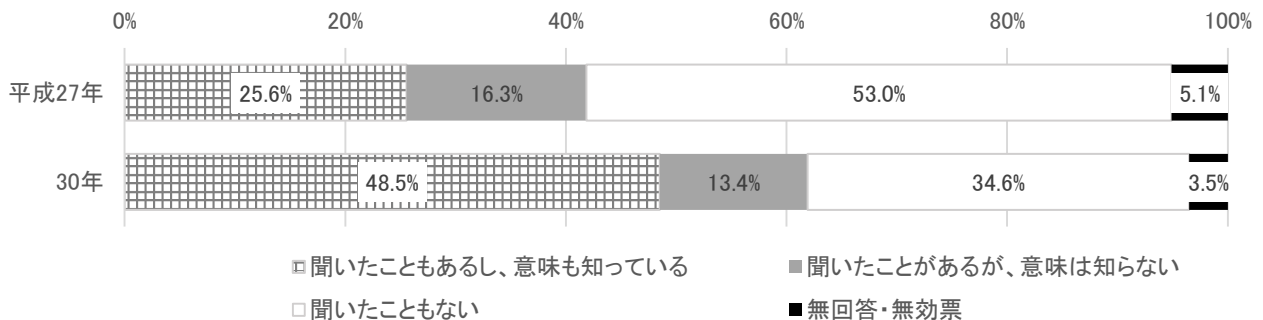
図表 16-1：「よこはま地震防災市民憲章」等の認知度

【経年比較_「よこはま地震防災市民憲章」】



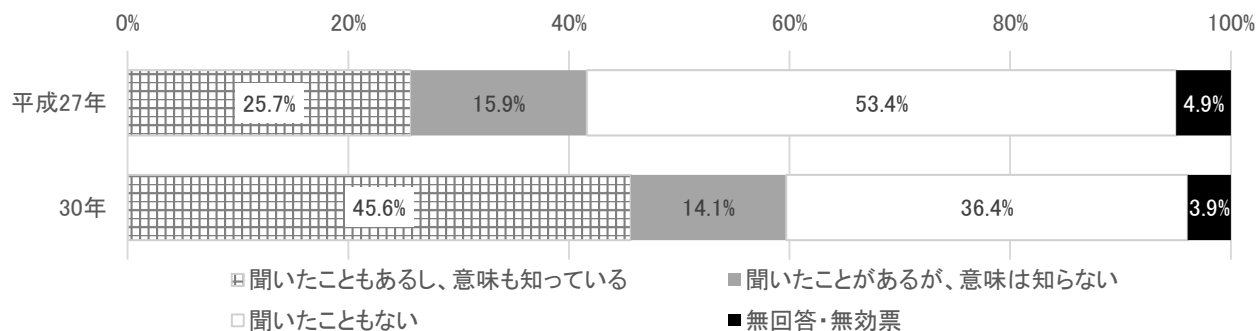
図表 16-2：「よこはま地震防災市民憲章」の認知度 経年比較

【経年比較_「自助」】



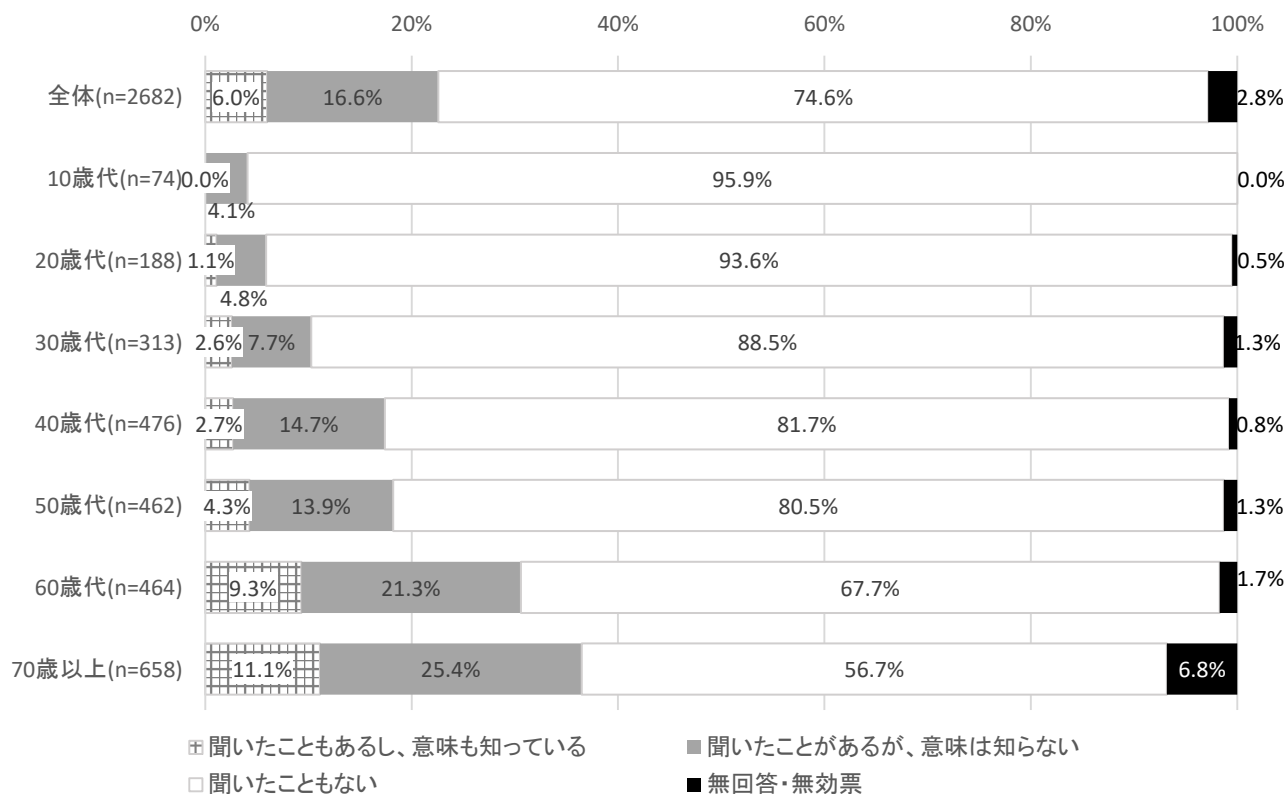
図表 16-3：「自助」の認知度 経年比較

【経年比較_「共助」】



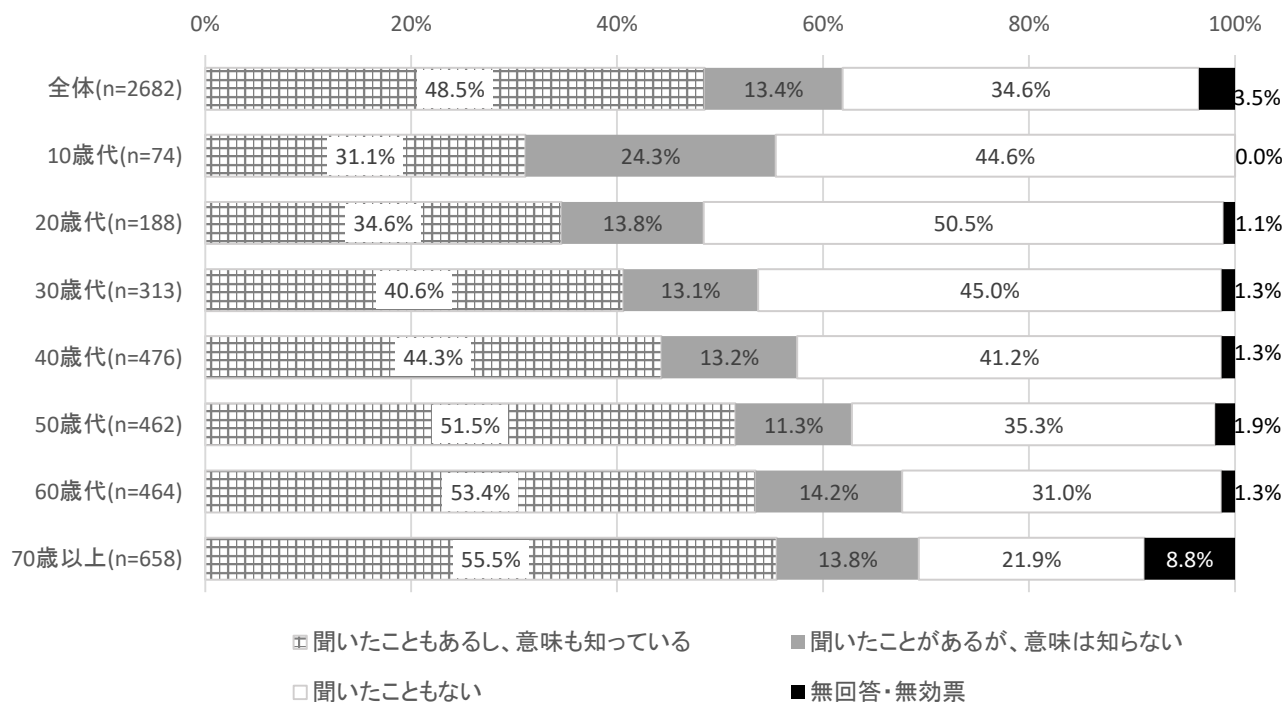
図表 16-4：「共助」の認知度 経年比較

【年代別集計_「よこはま地震防災市民憲章」】



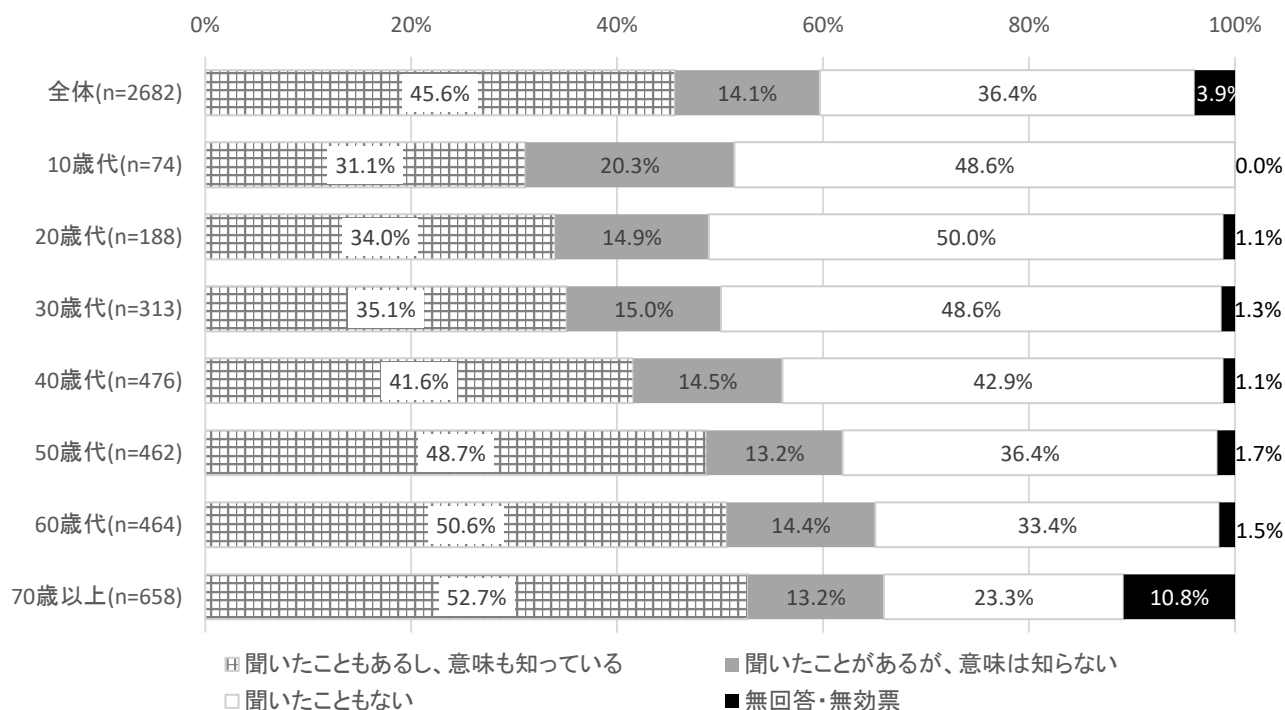
図表 16-5：「よこはま地震防災市民憲章」の認知度 年代別集計

【年代別集計_「自助」】



図表 16-6：「自助」の認知度 年代別集計

【年代別集計_「共助」】



図表 16-7：「共助」の認知度 年代別集計

(4) 避難場所等について

問17 あなたは、次の避難場所について意味を知っていますか。また、お住まいの地域にそれぞれの避難場所がどこにあるか把握していますか。それぞれ右のあてはまる番号に○をつけてください。

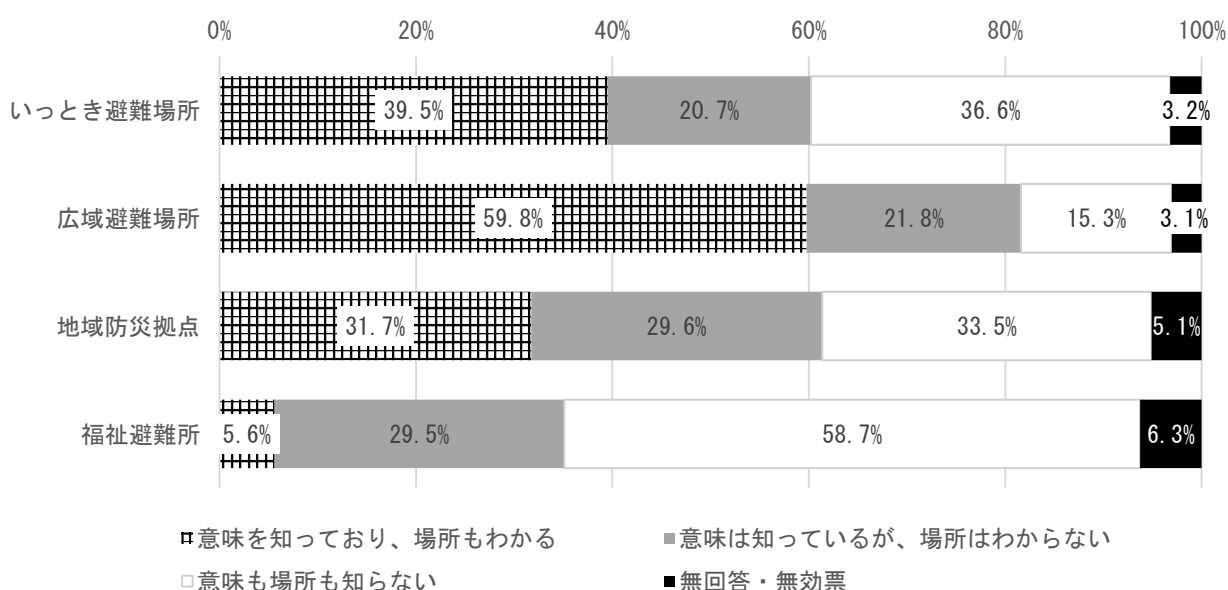
◇「広域避難場所」の「意味を知っており、場所もわかる」は約6割

避難場所の認知度は、「広域避難場所」の「意味を知っており、場所もわかる」の回答が59.8%で、他の避難場所と比べて最も高い割合となった。

経年比較では、全体的に平成27年調査と同様の傾向である。

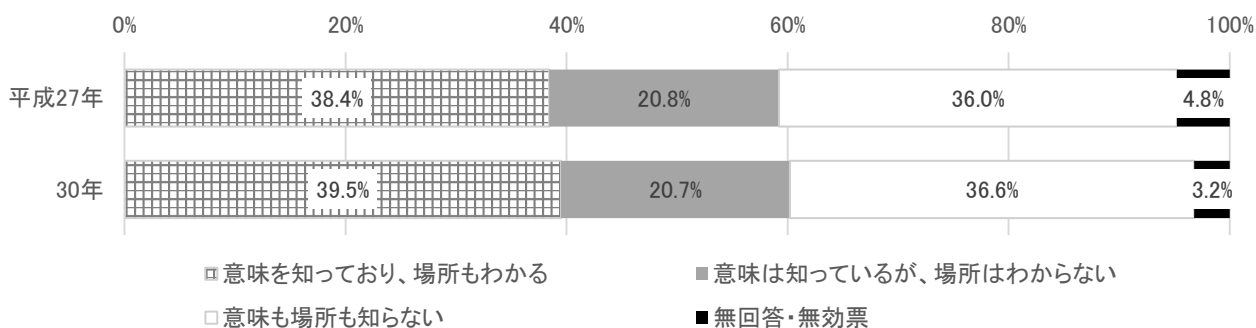
年代別集計では、いずれの避難場所においても、おおむね年代が上がるにつれて認知度が上昇しているが、「70歳以上」は、「60歳代」と比較して認知度が低い傾向にある。

【全体集計】 n=2,682



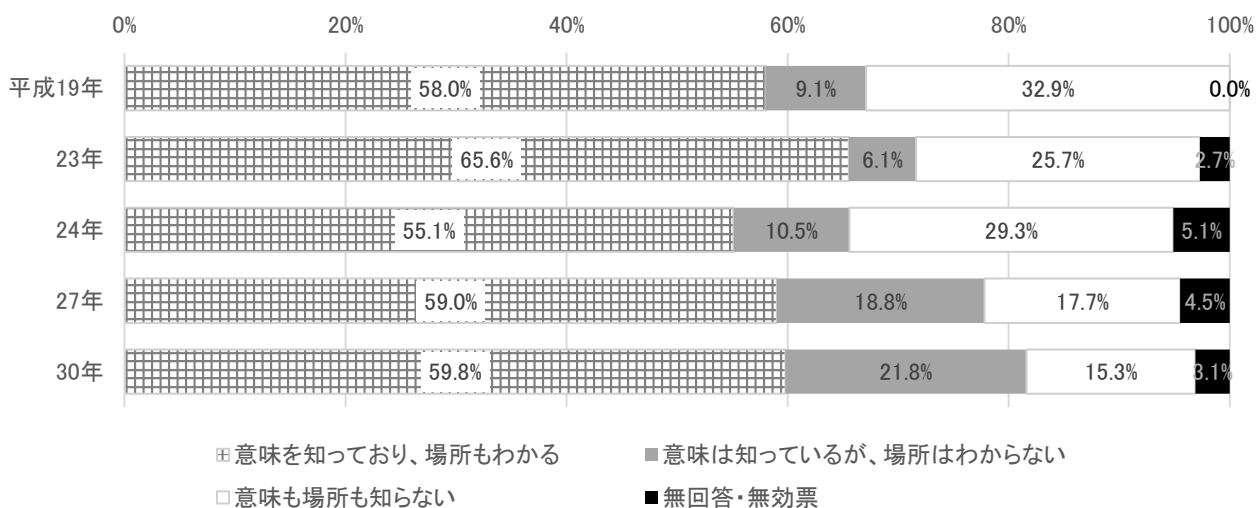
図表 17-1：避難場所の認知度

【経年比較_いっとき避難場所】



図表 17-2：避難場所の認知度 経年比較

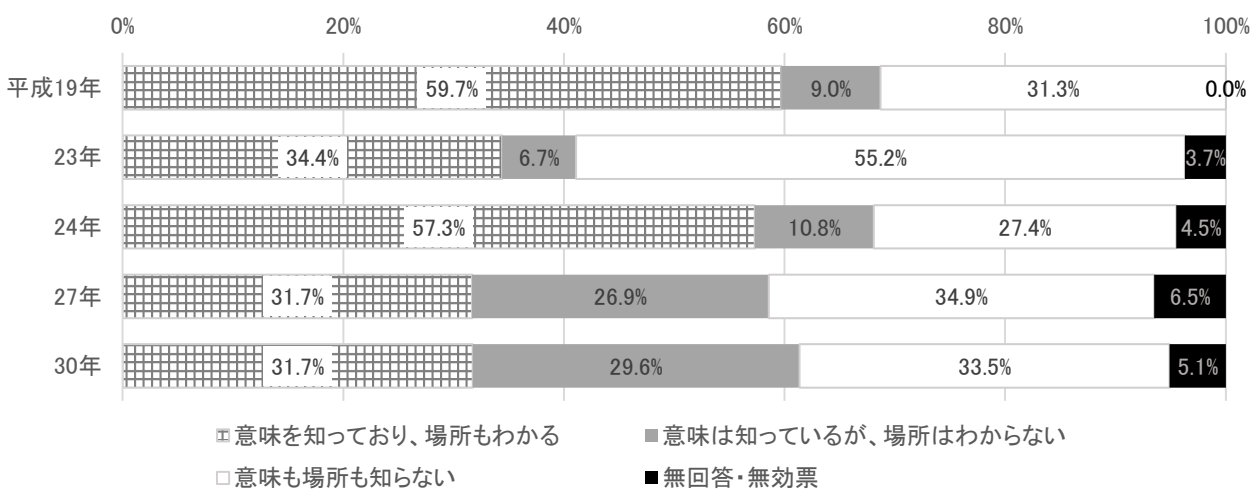
【経年比較_広域避難場所】 ※参考



図表 17-3：「広域避難場所」の認知度 経年比較

※平成19年、23年、24年調査結果は「横浜市民意識調査」結果より抜粋しており、選択肢は「意味も場所も知らない」が「知らない」であった。

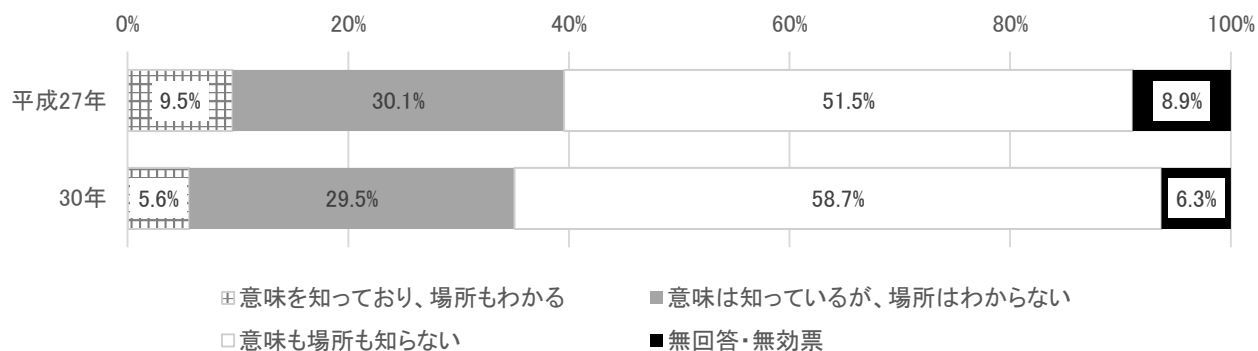
【経年比較_地域防災拠点】 ※参考



図表 17-4：「地域防災拠点」の認知度 経年比較

※平成19年、23年、24年調査結果は「横浜市民意識調査」結果より抜粋しており、選択肢は「意味も場所も知らない」が「知らない」であった。

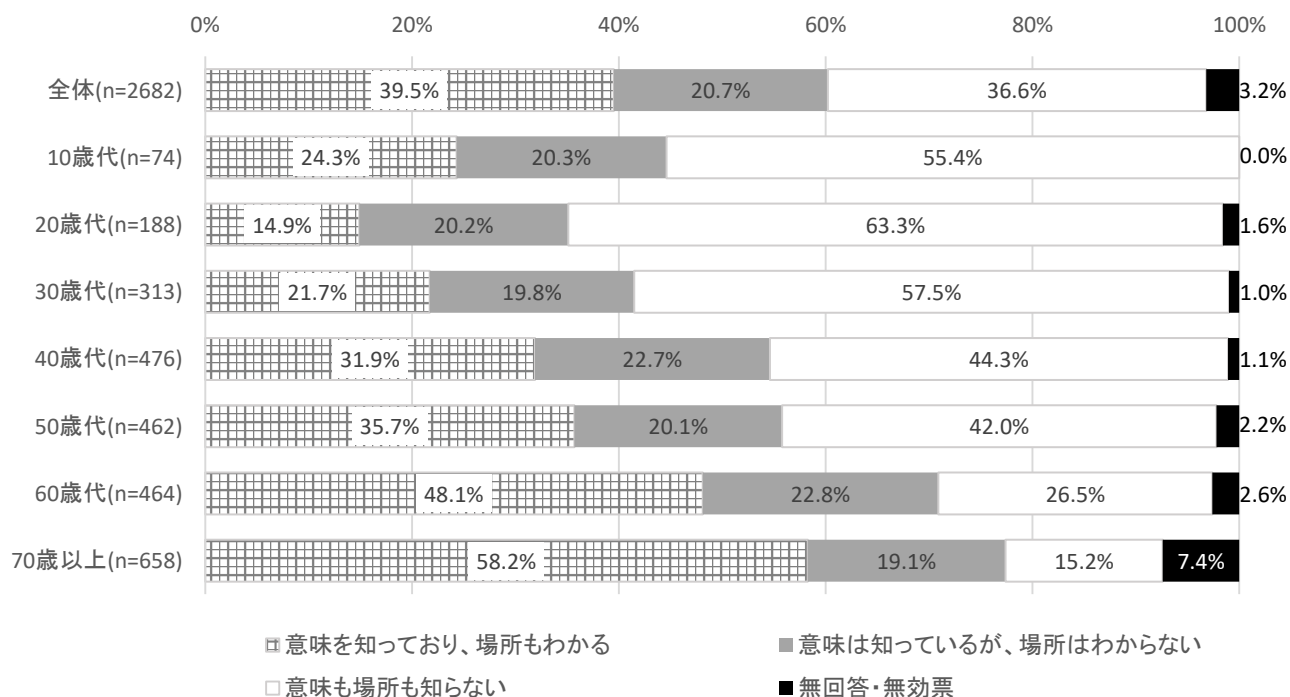
【経年比較_福祉避難所】 ※参考



図表 17-5 : 「福祉避難所」の認知度 経年比較

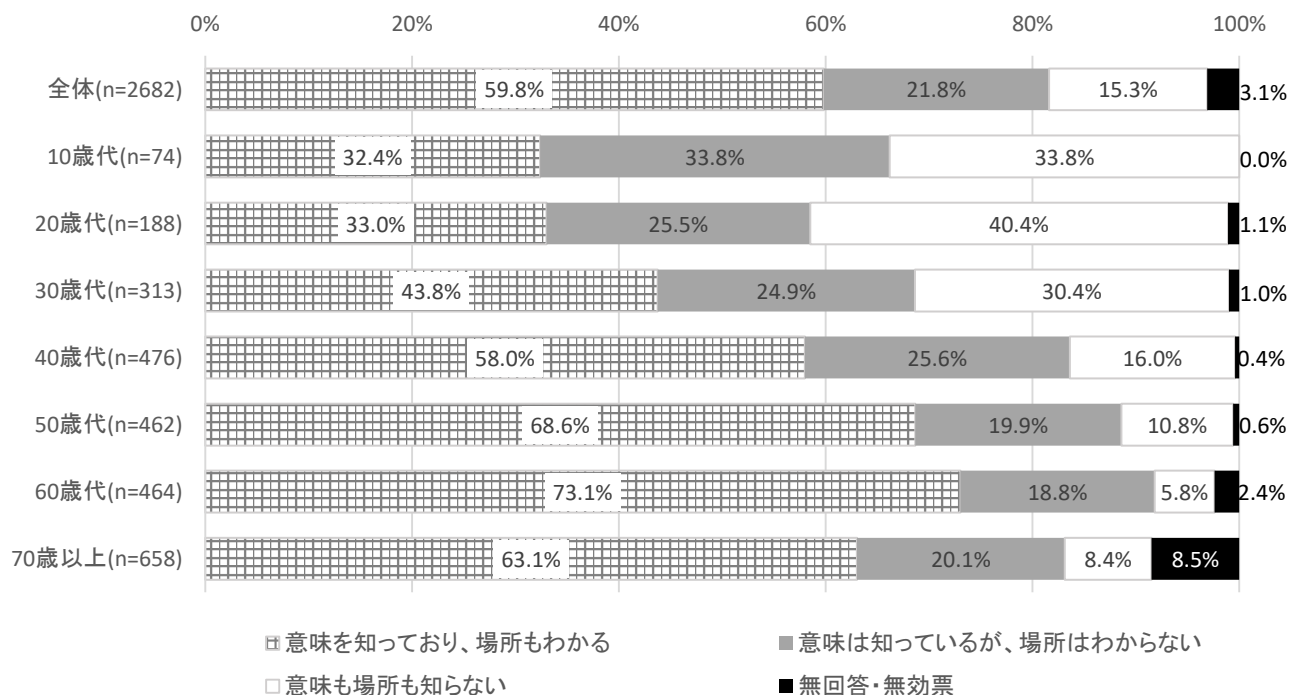
※平成 27 調査では、「福祉避難所」が「特別避難場所」であった。

【年代別集計_いっとき避難場所】



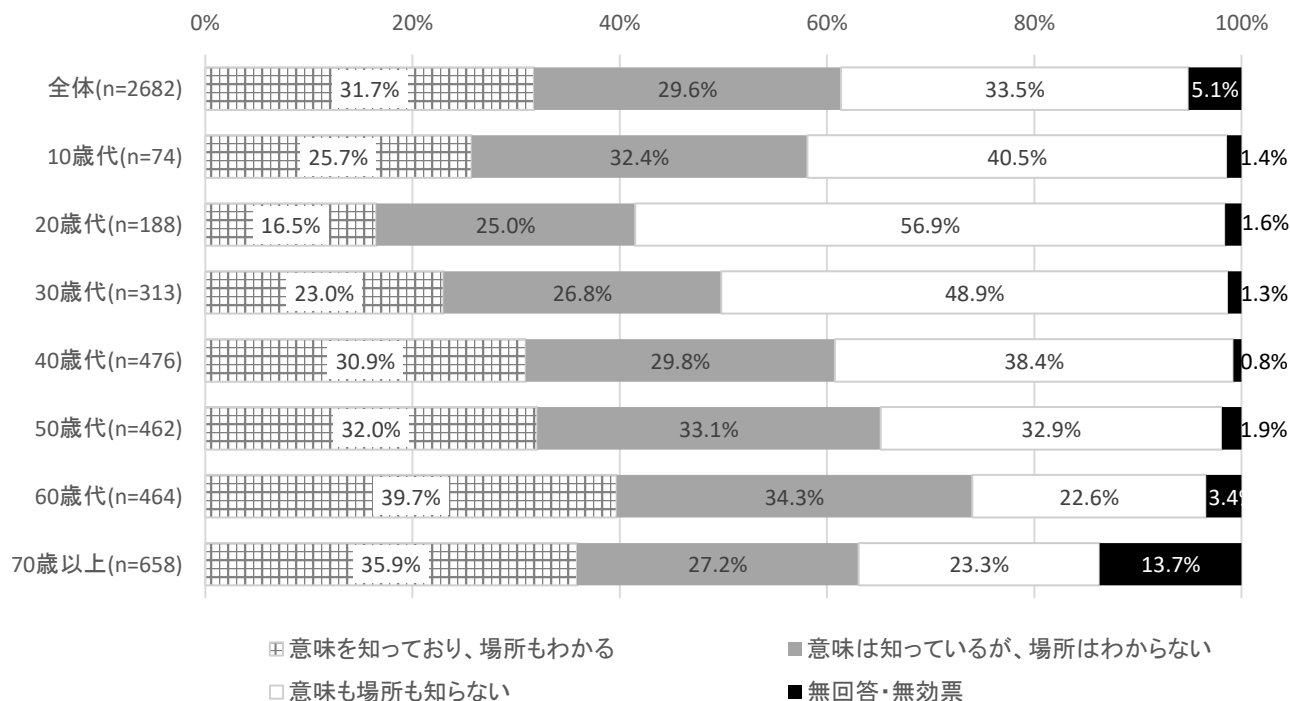
図表 17-6 : 「いっとき避難場所」の認知度 経年比較

【年代別集計_広域避難場所】



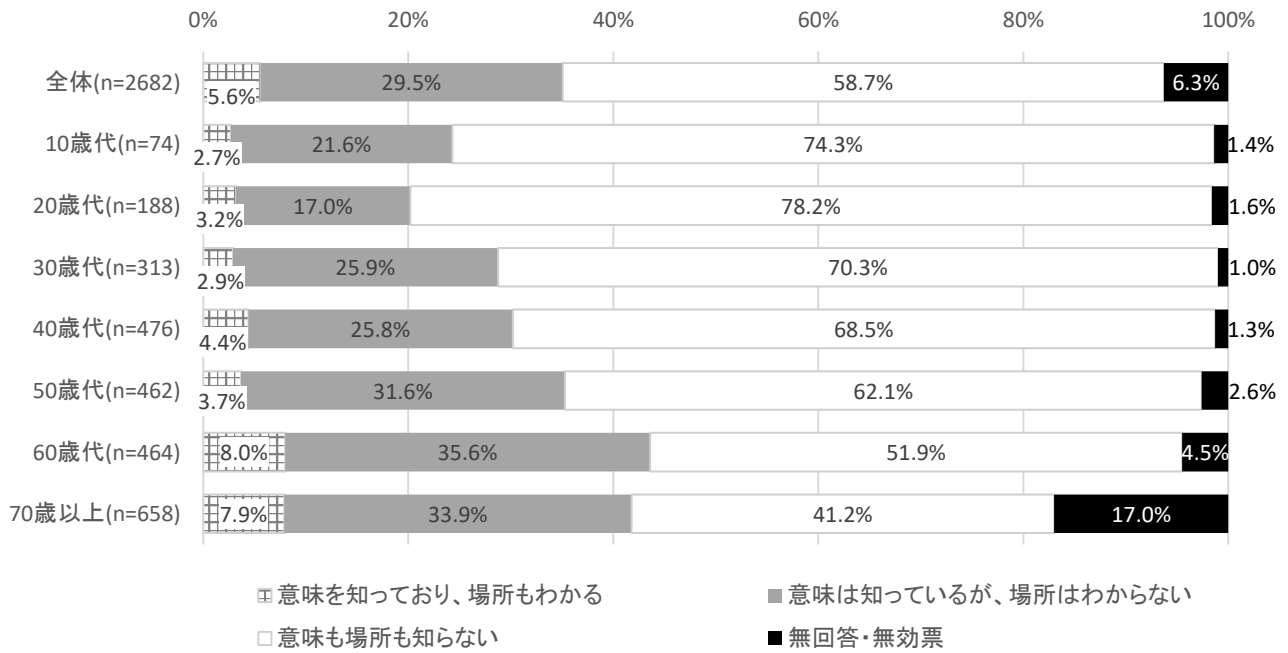
図表 17-7：「広域避難場所」の認知度 年代別集計

【年代別集計_地域防災拠点】



図表 17-8：「地域防災拠点」の認知度 年代別集計

【年代別集計_福祉避難所】



図表 17-9：「福祉避難所」の認知度 年代別集計

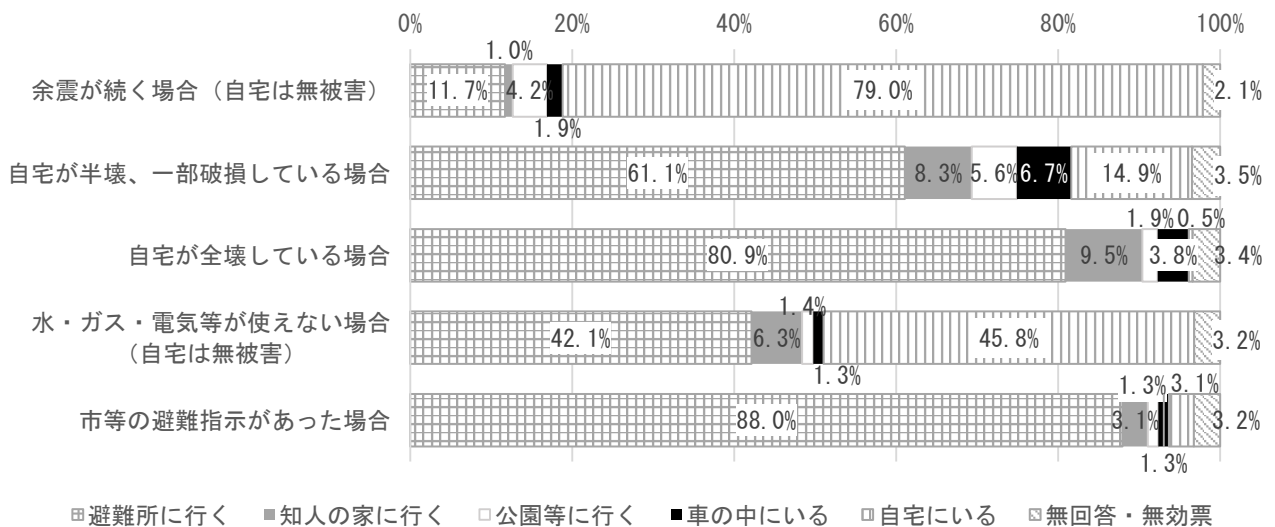
問18 横浜市は、大地震が発生し、建物の倒壊等によりご自宅にいられなくなった際は、地域防災拠点へ避難していただく事にしています。次のような状況になった場合、あなたは、どのような行動をしたいと思いますか。それぞれ右にあげた番号に○をつけてください。

◇「市等の避難指示があった場合」に「避難所に行く」が約9割

大地震発生時の状況別行動は、「市等の避難指示があった場合」に「避難所に行く」が88.0%と最も高い割合となった。

経年比較では、平成27年調査と同様の傾向である。

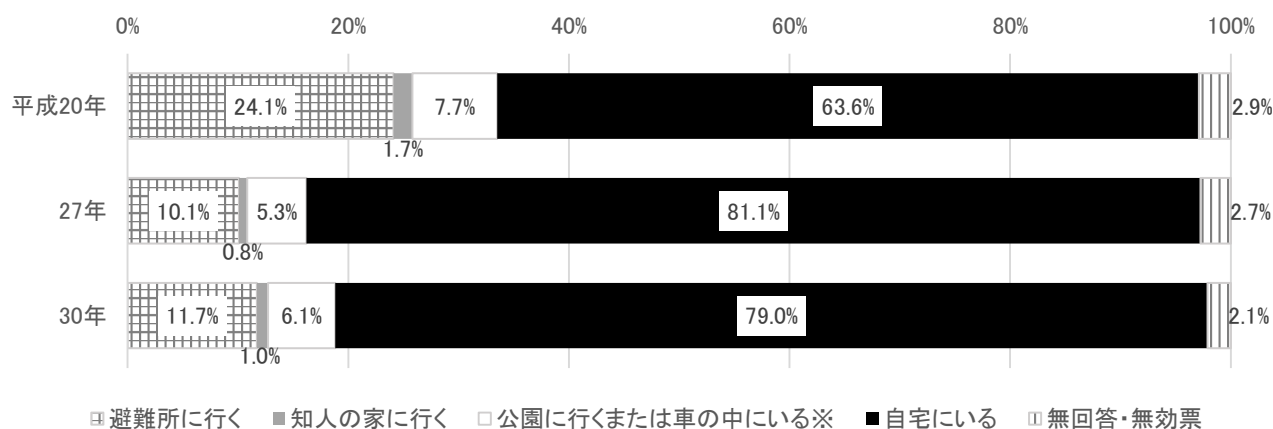
【全体集計】 n=2,682



図表 18-1：大地震が発生した場合の避難先

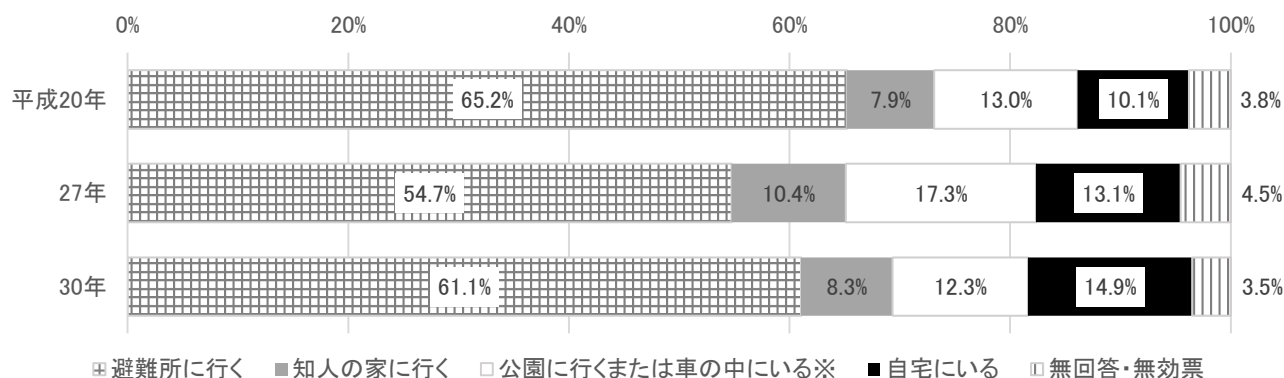
※平成20年、27年調査においては選択肢を、「車や公園等に避難する」としていたため、平成30年調査の「公園等に行く」と「車の中にいる」の合算で比較を行っている。

【経年比較_余震が続く場合（自宅は無被害）】



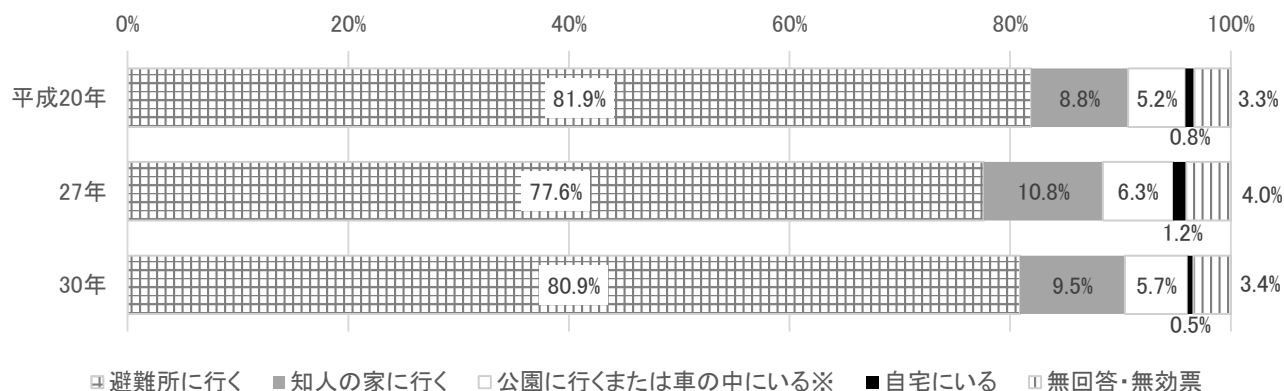
図表 18-2：大地震が発生した場合の避難先 経年比較

【経年比較_自宅が半壊、一部破損している場合】



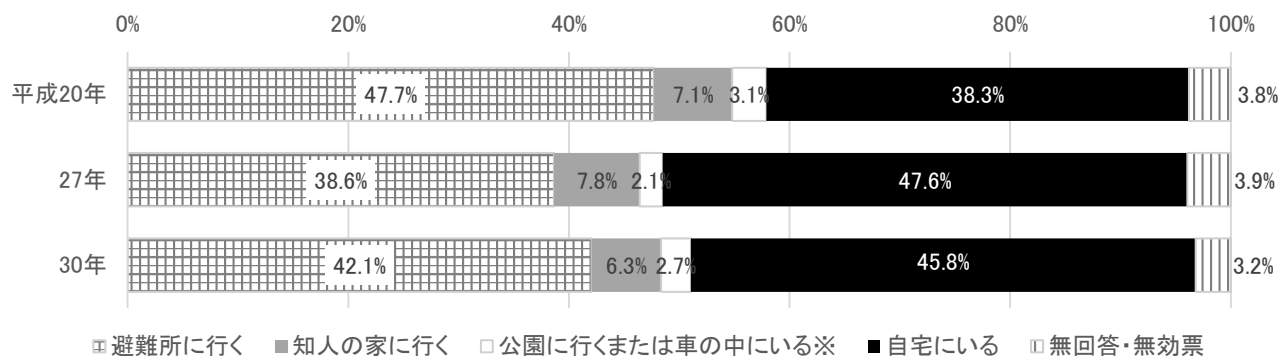
図表 18-3：大地震が発生した場合の避難先（自宅が半壊、一部破損）経年比較

【経年比較_自宅が全壊している場合】



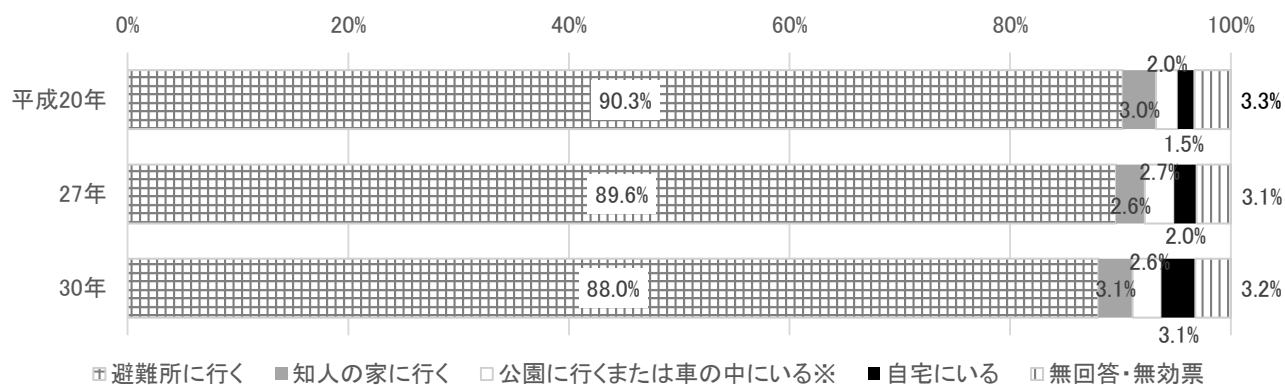
図表 18-4：大地震が発生した場合の避難先（自宅が全壊）経年比較

【経年比較_水・ガス・電気等が使えない場合（自宅は無被害）】



図表 18-5：大地震が発生した場合の避難先（水・ガス・電気等が使えない）経年比較

【経年比較_市等の避難指示があった場合】



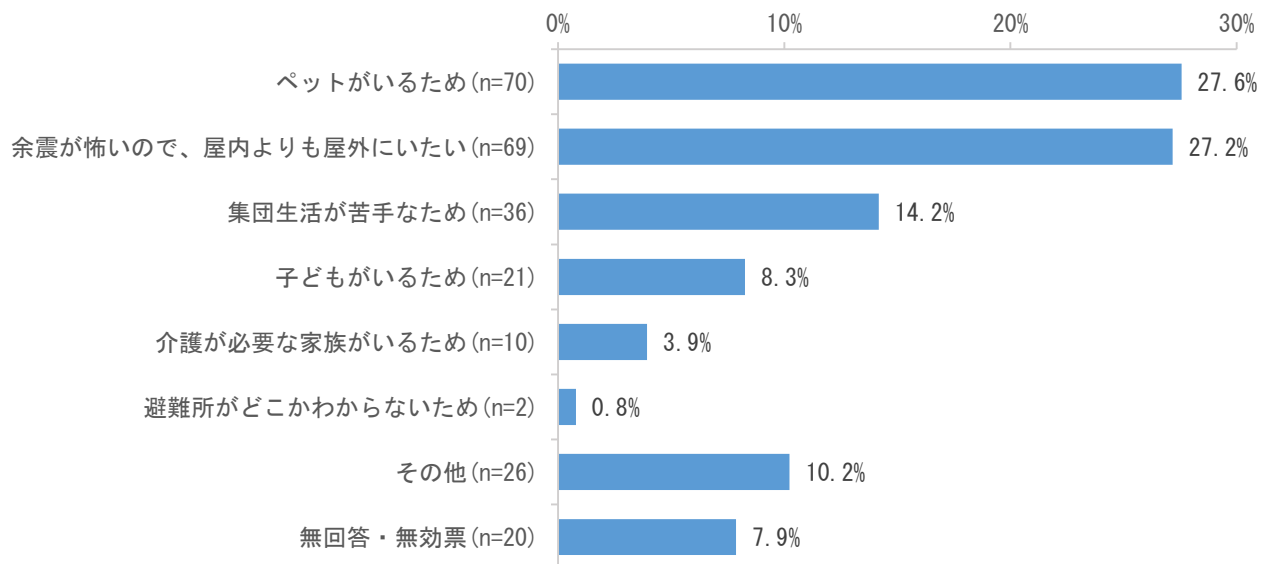
図表 18-6：大地震が発生した場合の避難先（市等の避難指示があった）経年比較

(いずれかの回答で「車の中にいる」を選択した方に質問します)
 問18-1 あなたが、「車の中にいる」を選択した理由はなんですか。あなたの考え方に一番近いものを選択してください。1つ選択

◇車の中にいる理由は「ペットがいるため」、「余震が怖いので、屋内よりも屋外にいたい」が多い

「車の中にいる」を選択した理由は、「ペットがいるため」が27.6%と最も高く、次いで「余震が怖いので、屋内よりも屋外にいたい」が27.2%となった。

【全体集計】 n=254



図表 18-7：避難場所に行かず車の中にいる理由

【年代別集計】 ※上位5位を抜粋

| | 1位 | 2位 | 3位 | 4位 | 5位 |
|--------------|------------------------|--------------------------------------|--------------------------------------|-----------------------------------|-----------------------|
| 全体 (n=254) | ペットがいるため 27.6% | 余震が怖いので屋外にいたい 27.2% | 集団生活が苦手なため 14.2% | 子どもがいるため 8.3% | 介護が必要な家族がいるため 3.9% |
| 10歳代 (n=4) | 余震が怖いので屋外にいたい 75.0% | — | — | — | — |
| 20歳代 (n=14) | ペットがいるため 42.9% | 余震が怖いので屋外にいたい 28.6% | 集団生活が苦手なため 子どもがいるため 7.1% | — | — |
| 30歳代 (n=21) | 子どもがいるため 42.9% | 余震が怖いので屋外にいたい 集団生活が苦手なため 19.0% | — | ペットがいるため 14.3% | — |
| 40歳代 (n=52) | ペットがいるため 36.5% | 集団生活が苦手なため 17.3% | 余震が怖いので屋外にいたい 13.5% | 子どもがいるため 11.5% | — |
| 50歳代 (n=75) | ペットがいるため 33.3% | 余震が怖いので屋外にいたい 24.0% | 集団生活が苦手なため 13.3% | 子どもがいるため 介護が必要な家族がいるため 4.0% | — |
| 60歳代 (n=47) | 余震が怖いので屋外にいたい 36.2% | ペットがいるため 25.5% | 集団生活が苦手なため 14.9% | 避難所がどこかわからないため 4.3% | 介護が必要な家族がいるため 2.1% |
| 70歳以上 (n=36) | 余震が怖いので屋外にいたい 38.9% | ペットがいるため 13.9% | 集団生活が苦手なため 介護が必要な家族がいるため 11.1% | — | — |

図表 18-8：避難場所に行かず車の中にいる理由 年代別集計

【家族形態別集計】※上位5位を抜粋

| | 1位 | 2位 | 3位 | 4位 | 5位 |
|---------------|------------------------------------|------------------------|--------------------------------------|-----------------------|------------------------|
| 全体 (n=254) | ペットがいるため 27.6% | 余震が怖いので屋外にいたい 27.2% | 集団生活が苦手なため 14.2% | 子どもがいるため 8.3% | 介護が必要な家族がいるため 3.9% |
| ひとり暮らし (n=17) | 余震が怖いので屋外にいたい 41.2% | ペットがいるため 11.8% | 集団生活が苦手なため 避難所がどこかわからないため 5.9% | | — |
| 夫婦のみ (n=75) | ペットがいるため 34.7% | 余震が怖いので屋外にいたい 26.7% | 集団生活が苦手なため 13.3% | 介護が必要な家族がいるため 5.3% | 避難所がどこかわからないため 1.3% |
| 親と子 (n=20) | 余震が怖いので屋外にいたい ペットがいるため 27.2% | | 集団生活が苦手なため 13.2% | 子どもがいるため 12.5% | 介護が必要な家族がいるため 3.7% |
| 祖父母と親子 (n=20) | ペットがいるため 集団生活が苦手なため 25.0% | | 余震が怖いので屋外にいたい 子どもがいるため 15.0% | | 介護が必要な家族がいるため 5.0% |
| その他 (n=1) | 集団生活が苦手なため 100.0% | — | — | — | — |

図表 18-9：避難場所に行かず車の中にいる理由 家族形態別集計

問19 過去の大震災において避難所等では、女性の避難生活への配慮などをめぐる様々な問題がありました。このような状況を踏まえて、横浜市では、地域防災拠点（避難所）運営等において、女性に配慮した取組を進めていますが、様々な取組の中でどのようなことが特に重要だと考えますか。3つまで選択

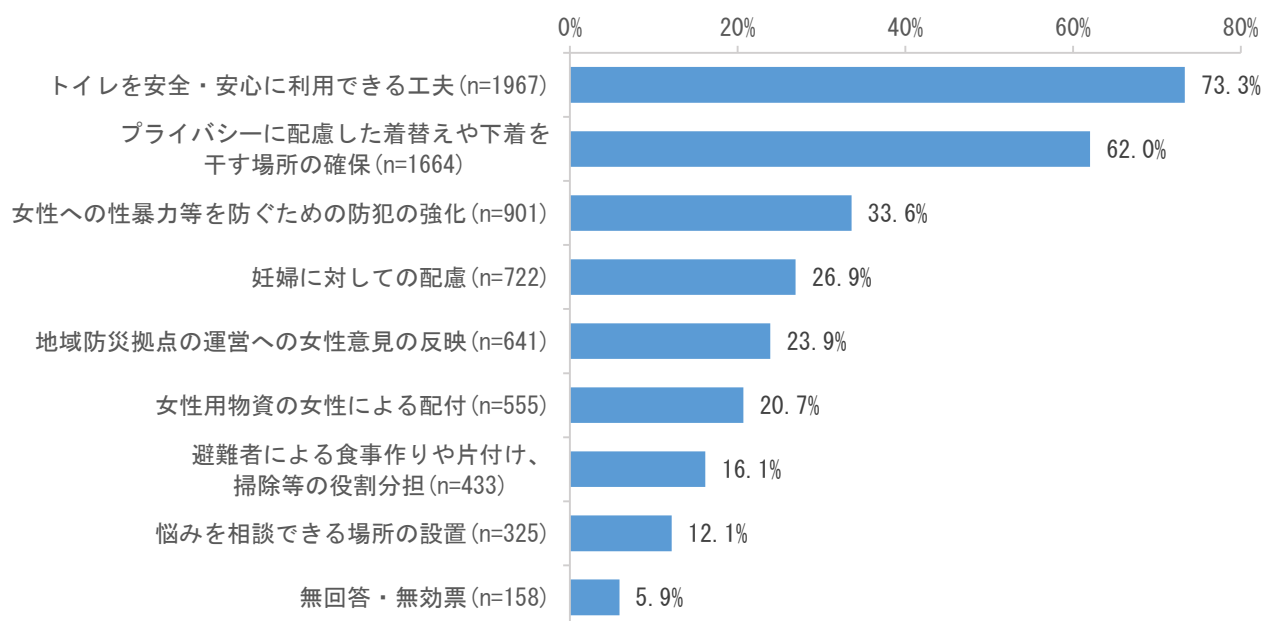
◇女性に配慮した取組で重要なことは「トイレを安全・安心に利用できる工夫」が7割を超える

女性に配慮した取組として重要なことは、「トイレを安全・安心に利用できる工夫」が73.3%と最も高く、次いで「プライバシーに配慮した着替えや下着を干す場所の確保」が62.0%となった。

男女別集計及び年代別集計においても「トイレを安全・安心に利用できる工夫」が最も高く、次いで「プライバシーに配慮した着替えや下着を干す場所の確保」「女性への性暴力等を防ぐための防犯の強化」と続いているが、年代別集計の「10歳代」では3位が「妊婦に対する配慮」で43.2%となった。「60歳代」「70歳以上」の3位には、「地域防災拠点の運営への女性意見の反映」が入った。

男女別集計では、「トイレを安全・安心に利用できる工夫」が女性で76.7%となり、男性（69.5%）と比較して7.2%高くなった。

【全体集計】n=2,682



図表 19-1：女性に配慮した取組として重要なこと

【男女別集計】 ※上位5位を抜粋

| | 1位 | 2位 | 3位 | 4位 | 5位 |
|-----------------|--------------------------------|-------------------------------------|-----------------------------------|----------------------------|---------------------------------|
| 全体 (n=2,682) | トイレを安全・安心 に利用できる工夫 73.3% | プライバシーに配慮 した衣類を干す場所 の確保 62.0% | 女性への性暴力等を 防ぐための防犯の強 化 33.6% | 妊婦に対する配慮 26.9% | 地域防災拠点の運営 への女性意見の反映 23.9% |
| 男性 (n=1,113) | トイレを安全・安心 に利用できる工夫 69.5% | プライバシーに配慮 した衣類を干す場所 の確保 60.1% | 女性への性暴力等を 防ぐための防犯の強 化 32.0% | 妊婦に対する配慮 31.4% | 地域防災拠点の運営 への女性意見の反映 31.2% |
| 女性 (n=1,513) | トイレを安全・安心 に利用できる工夫 76.7% | プライバシーに配慮 した衣類を干す場所 の確保 63.6% | 女性への性暴力等を 防ぐための防犯の強 化 35.0% | 女性用物資の女性によ る配付 24.2% | 妊婦に対する配慮 23.8% |

図表 19-2 : 女性に配慮した取組として重要なこと 男女別集計

【年代別集計】 ※上位5位を抜粋

| | 1位 | 2位 | 3位 | 4位 | 5位 |
|------------------|--------------------------------|-------------------------------------|-----------------------------------|---------------------------------------|-----------------------------------|
| 全体 (n=2,682) | トイレを安全・安心 に利用できる工夫 73.3% | プライバシーに配慮 した衣類を干す場所 の確保 62.0% | 女性への性暴力等を 防ぐための防犯の強 化 33.6% | 妊婦に対する配慮 26.9% | 地域防災拠点の運営 への女性意見の反映 23.9% |
| 10歳代 (n=74) | トイレを安全・安心 に利用できる工夫 73.0% | プライバシーに配慮 した衣類を干す場所 の確保 51.4% | 妊婦に対する配慮 43.2% | 女性用物資の女性によ る配付 32.4% | 女性への性暴力等を 防ぐための防犯の強 化 25.7% |
| 20歳代 (n=188) | トイレを安全・安心 に利用できる工夫 66.5% | プライバシーに配慮 した衣類を干す場所 の確保 54.3% | 女性への性暴力等を 防ぐための防犯の強 化 48.4% | 妊婦に対する配慮 45.7% | 女性用物資の女性によ る配付 29.3% |
| 30歳代 (n=313) | トイレを安全・安心 に利用できる工夫 67.4% | プライバシーに配慮 した衣類を干す場所 の確保 64.9% | 女性への性暴力等を 防ぐための防犯の強 化 54.6% | 妊婦に対する配慮 41.2% | 女性用物資の女性によ る配付 28.1% |
| 40歳代 (n=476) | トイレを安全・安心 に利用できる工夫 74.8% | プライバシーに配慮 した衣類を干す場所 の確保 62.4% | 女性への性暴力等を 防ぐための防犯の強 化 44.3% | 女性用物資の女性によ る配付 28.8% | 妊婦に対する配慮 27.7% |
| 50歳代 (n=462) | トイレを安全・安心 に利用できる工夫 75.1% | プライバシーに配慮 した衣類を干す場所 の確保 65.6% | 女性への性暴力等を 防ぐための防犯の強 化 34.8% | 妊婦に対する配慮 28.4% | 地域防災拠点の運営 への女性意見の反映 26.6% |
| 60歳代 (n=464) | トイレを安全・安心 に利用できる工夫 77.6% | プライバシーに配慮 した衣類を干す場所 の確保 66.7% | 地域防災拠点の運営 への女性意見の反映 31.3% | 女性への性暴力等を 防ぐための防犯の強 化 24.4% | 妊婦に対する配慮 22.2% |
| 70歳以上 (n=658) | トイレを安全・安心 に利用できる工夫 74.0% | プライバシーに配慮 した衣類を干す場所 の確保 57.9% | 地域防災拠点の運営 への女性意見の反映 31.9% | 避難者による食事作 りや片付け、掃除等 の役割分担 24.2% | 悩みを相談できる場 所の設置 19.5% |

図表 19-3 : 女性に配慮した取組として重要なこと 年代別集計

問20 あなたは、「災害時給水所」について知っていますか。1つ選択

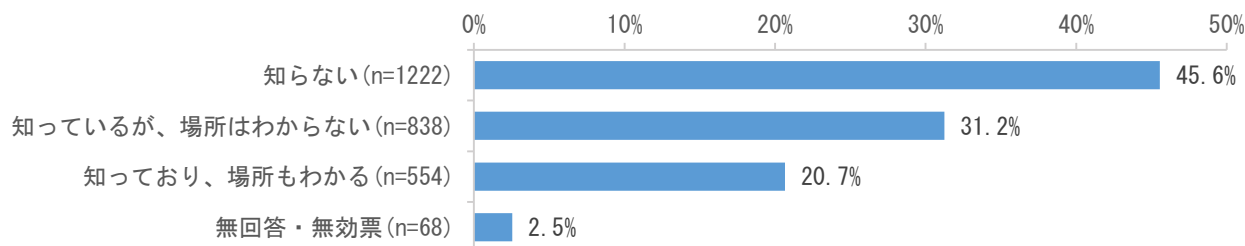
◇「災害時給水所」を知っている割合は5割を超える

災害時給水所の認知度は、「知っているが、場所はわからない」「知っており、場所もわかる」の合計が51.9%と5割を超える結果となった。

経年比較では、平成27年調査と比べ「知らない」の割合が6.4%減少し、45.6%となった。

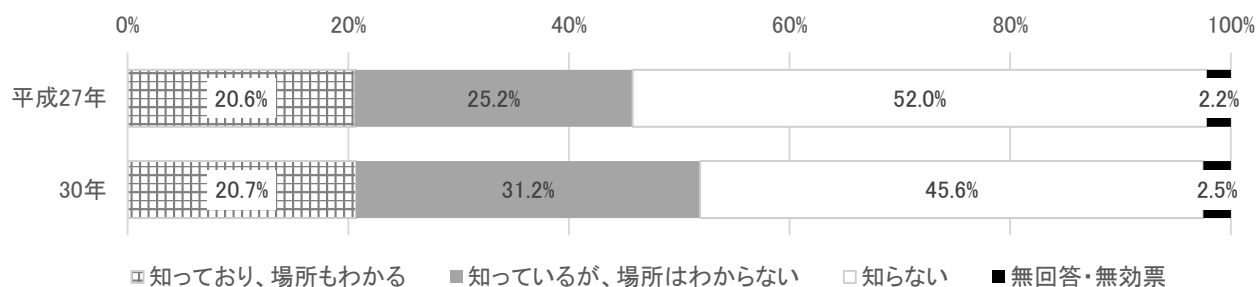
年代別集計では、おおむね年代が上がるにつれて認知度が高くなっており、「60歳代」「70歳以上」では「知っており、場所もわかる」の割合が「知っているが、場所はわからない」の割合を上回っている。

【全体集計】 n=2,682



図表 20-1：「災害時給水所」の認知度

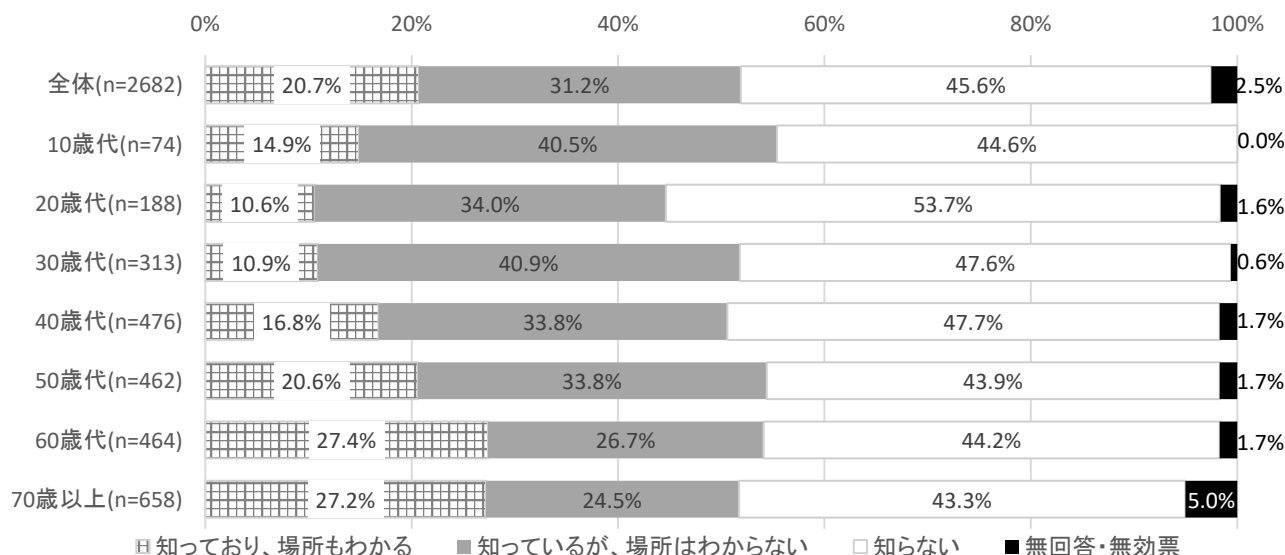
【経年比較】 ※参考



図表 20-2：「災害時給水所」の認知度 経年比較

※平成27年調査では、「災害時給水所」が「応急給水拠点」であった。

【年代別集計】



図表 20-3：「災害時給水所」の認知度 年代別集計

(5) 災害時の医療について

問21 あなたは、災害時にけがや病気になった時に、緊急度や重症度を自分で判断し、適切な医療機関に受診するという仕組みを知っていますか。1つ選択

◇災害時の医療の仕組みは「知らない」の回答が約7割

適切な医療機関に受診する仕組みの認知度は、「知っている」が19.7%、「知らない」が73.3%となった。

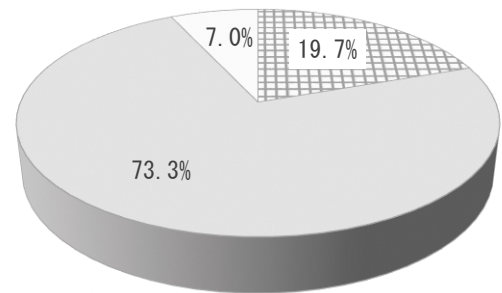
経年比較では、平成27年調査と同様の傾向である。

年代別集計では、特に「10歳代」「20歳代」「30歳代」において、「知らない」の割合が高く、約80%となった。

【全体集計】 n=2,682

n=2,682

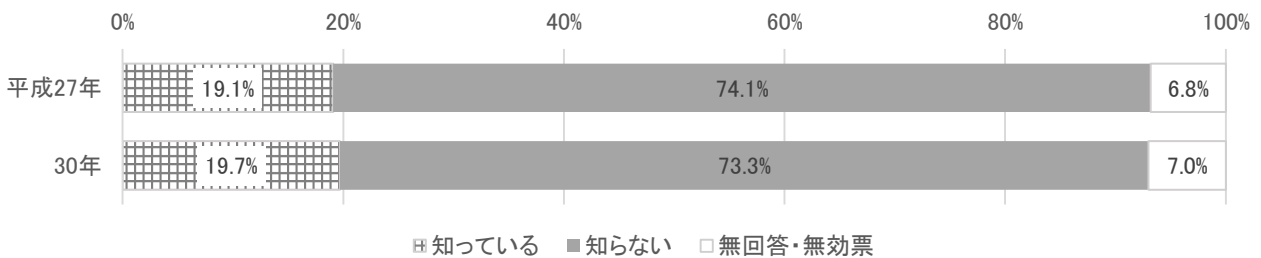
| | | |
|---------|-------|-------|
| 知っている | 528 | 19.7% |
| 知らない | 1,966 | 73.3% |
| 無回答・無効票 | 188 | 7.0% |



図表 21-1：適切な医療機関に受診する仕組みの認知度

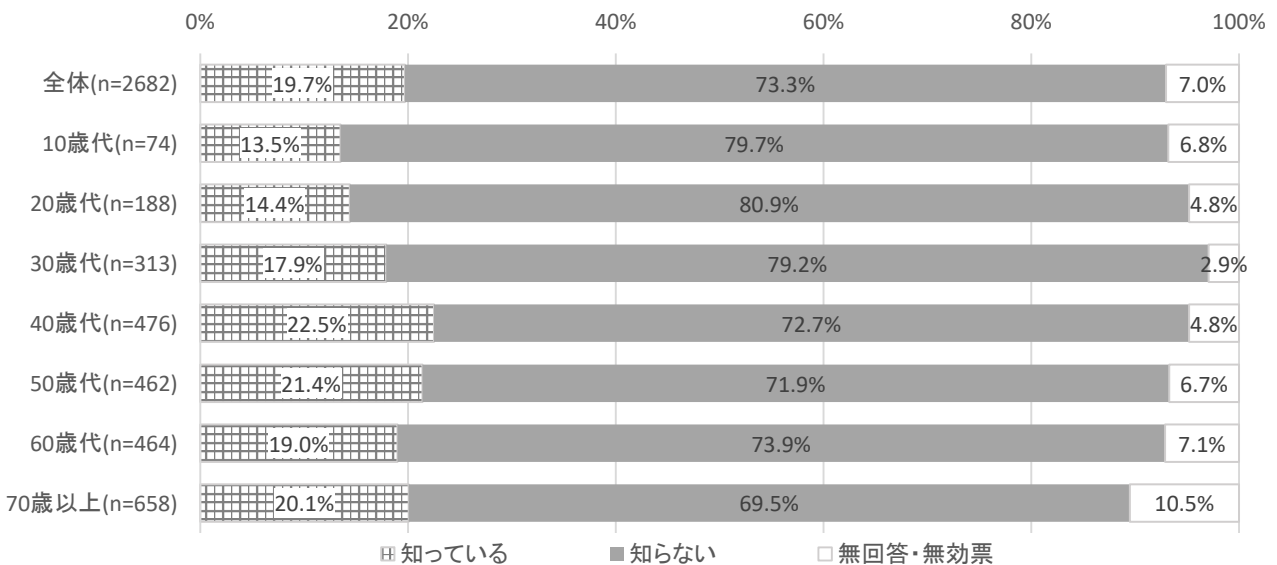
■ 知っている (n=528) ■ 知らない (n=1966)
□ 無回答・無効票 (n=188)

【経年比較】



図表 21-2：適切な医療機関に受診する仕組みの認知度 経年比較

【年代別集計】



図表 21-3：適切な医療機関に受診する仕組みの認知度 年代別集計

3. 風水害対策

(1) 風水害に対して心配していることについて

問22 あなたは自分の住んでいる地域で、次の風水害の不安を感じたことはありますか。3つまで選択

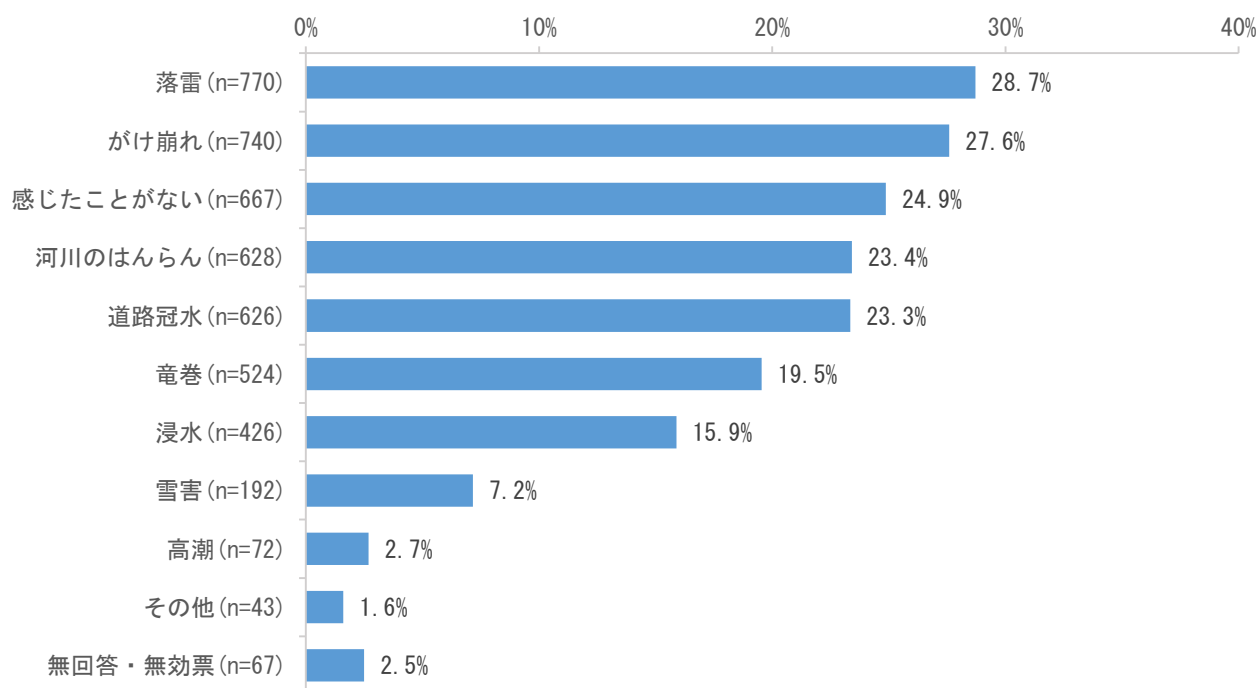
◇風水害について不安を感じることは「落雷」が28.7%と最も多い

感じたことのある風水害の不安は、「落雷」が28.7%で最も高く、次いで「がけ崩れ」が27.6%となった。

経年比較では、今回調査で「河川のはんらん」が23.4%となり、4位に入った。

居住区別集計では、「鶴見区」「西区」「港北区」「瀬谷区」において、「河川のはんらん」が1位、「中区」「南区」「保土ヶ谷区」「磯子区」「金沢区」「栄区」において、「がけ崩れ」が1位となった。

【全体集計】 n=2,682



図表 22-1：風水害への不安

【経年比較】 ※上位5位を抜粋

| | 1位 | 2位 | 3位 | 4位 | 5位 |
|--------------------|-------------|-------------------|-------------------|------------------|---------------|
| 平成27年 (n=3,217) | 落雷 33.4% | 感じたことがない 28.1% | がけ崩れ 26.1% | 道路冠水 21.1% | 竜巻 20.6% |
| 平成30年 (n=2,682) | 落雷 28.7% | がけ崩れ 27.6% | 感じたことがない 24.9% | 河川のはんらん 23.4% | 道路冠水 23.3% |

図表 22-2：風水害への不安 経年比較

【居住区別集計】※上位5位を抜粋

| | 1位 | 2位 | 3位 | 4位 | 5位 |
|------------------|------------------------|---------------------|-------------------|------------------------|-------------------|
| 全体 (n=2,682) | 落雷 28.7% | がけ崩れ 27.6% | 感じたことがない 24.9% | 河川のはんらん 23.4% | 道路冠水 23.3% |
| 鶴見区 (n=170) | 河川のはんらん 48.8% | 浸水 道路冠水 37.6% | | がけ崩れ 落雷 19.4% | |
| 神奈川区 (n=134) | 感じたことがない 30.6% | がけ崩れ 29.9% | 落雷 27.6% | 竜巻 道路冠水 17.2% | |
| 西区 (n=87) | 河川のはんらん 33.3% | 道路冠水 27.6% | がけ崩れ 24.1% | 感じたことがない 23.0% | 浸水 20.7% |
| 中区 (n=97) | がけ崩れ 38.1% | 道路冠水 25.8% | 感じたことがない 20.6% | 河川のはんらん 落雷 18.6% | |
| 南区 (n=120) | がけ崩れ 40.0% | 河川のはんらん 26.7% | 感じたことがない 22.5% | 道路冠水 20.8% | 落雷 19.2% |
| 港南区 (n=178) | 落雷 34.8% | がけ崩れ 28.1% | 竜巻 24.7% | 感じたことがない 24.2% | 道路冠水 21.3% |
| 保土ヶ谷区 (n=139) | がけ崩れ 43.9% | 落雷 26.6% | 河川のはんらん 25.9% | 道路冠水 22.3% | 感じたことがない 16.5% |
| 旭区 (n=184) | 落雷 38.0% | 感じたことがない 31.0% | がけ崩れ 23.4% | 竜巻 22.3% | 道路冠水 15.2% |
| 磯子区 (n=116) | がけ崩れ 41.4% | 落雷 28.4% | 感じたことがない 25.0% | 道路冠水 21.6% | 河川のはんらん 17.2% |
| 金沢区 (n=169) | がけ崩れ 39.6% | 落雷 26.0% | 感じたことがない 21.3% | 道路冠水 20.1% | 竜巻 17.2% |
| 港北区 (n=231) | 河川のはんらん 39.4% | 道路冠水 32.0% | がけ崩れ 28.6% | 落雷 24.2% | 浸水 23.4% |
| 緑区 (n=121) | 落雷 36.4% | 河川のはんらん 35.5% | がけ崩れ 33.1% | 竜巻 27.3% | 道路冠水 24.0% |
| 青葉区 (n=217) | 感じたことがない 38.7% | 落雷 34.6% | がけ崩れ 19.8% | 道路冠水 18.4% | 竜巻 16.1% |
| 都筑区 (n=142) | 感じたことがない 36.6% | 落雷 32.4% | 竜巻 26.8% | 道路冠水 19.0% | 河川のはんらん 15.5% |
| 戸塚区 (n=203) | 感じたことがない 28.6% | がけ崩れ 27.6% | 落雷 26.1% | 道路冠水 23.2% | 河川のはんらん 21.7% |
| 栄区 (n=91) | がけ崩れ 38.5% | 河川のはんらん 33.0% | 道路冠水 25.3% | 竜巻 24.2% | 落雷 23.1% |
| 泉区 (n=119) | 落雷 44.5% | 竜巻 31.1% | 感じたことがない 24.4% | 道路冠水 21.8% | 河川のはんらん 19.3% |
| 瀬谷区 (n=120) | 河川のはんらん 落雷 32.5% | | 道路冠水 30.0% | 竜巻 27.5% | 感じたことがない 22.5% |

図表 22-3 : 風水害への不安 居住区別集計

問23 あなたは自分の住んでいる地域で、風水害が発生した場合、特にどのようなことが心配ですか。5つまで選択

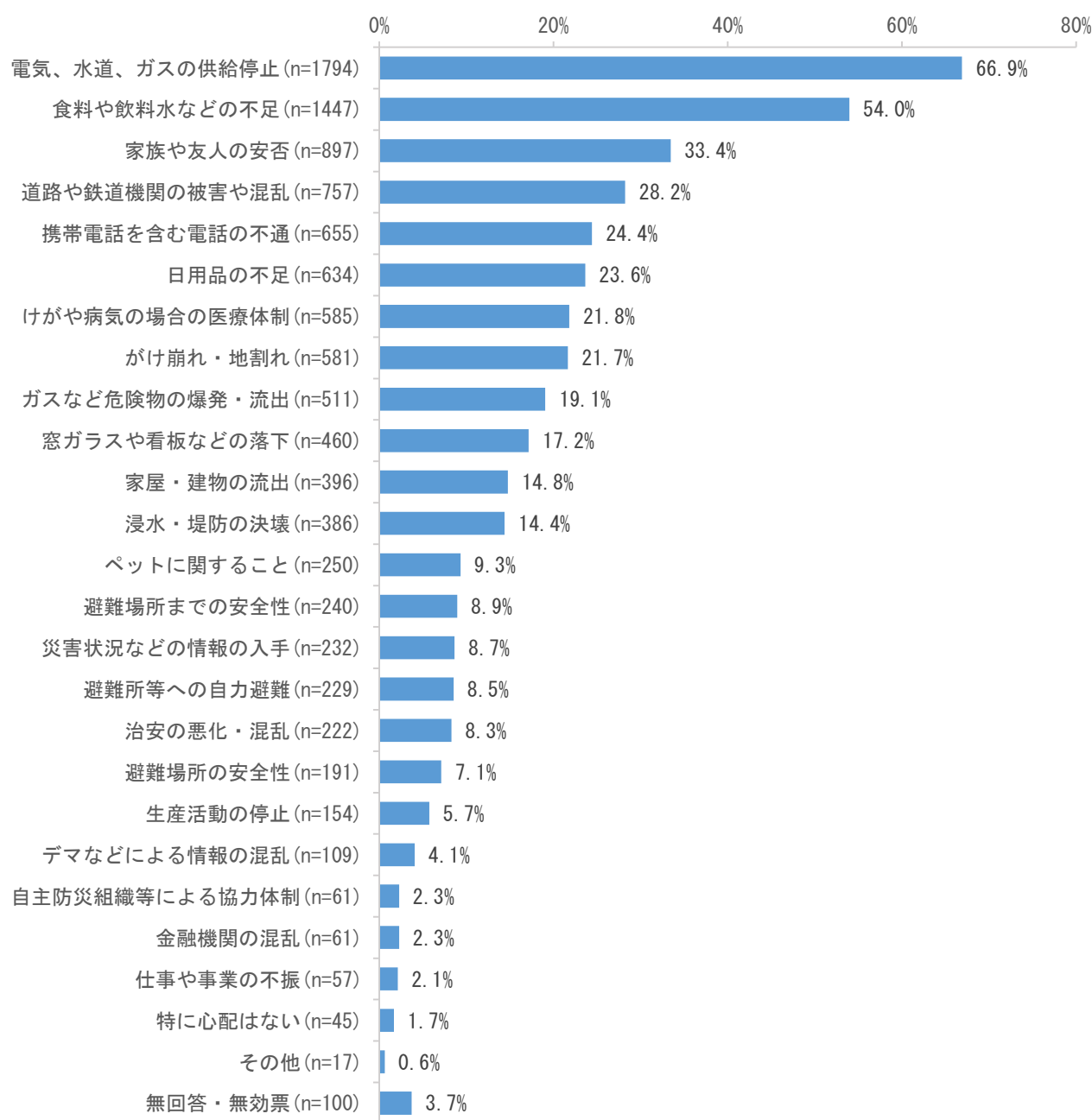
◇風水害が発生した場合に心配なことは「電気、水道、ガスの供給停止」と「食料や飲料水などの不足」が5割を超える

風水害が発生した場合に心配なことは、「電気、水道、ガスの供給停止」が66.9%と最も高く、次いで「食料や飲料水などの不足」が54.0%となった。

経年比較では、平成27年調査と同様の傾向である。

年代別集計では、「30歳代」のみ「食料や飲料水などの不足」が52.4%で1位となった。

【全体集計】 n=2,682



図表 23-1：風水害が発生した場合の心配事

【経年比較】※上位5位を抜粋

| | 1位 | 2位 | 3位 | 4位 | 5位 |
|--------------------|-------------------------|-----------------------|-------------------|-------------------------|------------------------|
| 平成27年 (n=3,217) | 電気、水道、ガスの 供給停止 64.3% | 食料や飲料水などの 不足 51.4% | 家族や友人の安否 38.3% | 道路や鉄道機関の被 害や混乱 28.7% | 携帯電話を含む電話 の不通 27.2% |
| 平成30年 (n=2,682) | 電気、水道、ガスの 供給停止 66.9% | 食料や飲料水などの 不足 54.0% | 家族や友人の安否 33.4% | 道路や鉄道機関の被 害や混乱 28.2% | 携帯電話を含む電話の 不通 24.4% |

図表 23-2：風水害が発生した場合の心配事 経年比較

【居住区別集計】※上位5位を抜粋

| | 1位 | 2位 | 3位 | 4位 | 5位 |
|------------------|-------------------------|-----------------------|-------------------------|-------------------------|-------------------------|
| 全体 (n=2,682) | 電気、水道、ガスの 供給停止 66.9% | 食料や飲料水などの 不足 54.0% | 家族や友人の安否 33.4% | 道路や鉄道機関の被 害や混乱 28.2% | 携帯電話を含む電話 の不通 24.4% |
| 鶴見区 (n=170) | 電気、水道、ガスの 供給停止 65.9% | 食料や飲料水などの 不足 51.2% | 家族や友人の安否 32.9% | 浸水・堤防の決壊 31.2% | 道路や鉄道機関の被 害や混乱 24.7% |
| 神奈川区 (n=134) | 電気、水道、ガスの 供給停止 61.2% | 食料や飲料水などの 不足 57.5% | 家族や友人の安否 32.8% | ガスなど危険物の爆 発・流出 26.1% | がけ崩れ・地割れ 22.4% |
| 西区 (n=87) | 電気、水道、ガスの 供給停止 60.9% | 食料や飲料水などの 不足 50.6% | 家族や友人の安否 35.6% | 道路や鉄道機関の被 害や混乱 34.5% | 携帯電話を含む電話 の不通 24.1% |
| 中区 (n=97) | 電気、水道、ガスの 供給停止 57.7% | 食料や飲料水などの 不足 54.6% | 家族や友人の安否 35.1% | がけ崩れ・地割れ 25.8% | 道路や鉄道機関の被 害や混乱 23.7% |
| 南区 (n=120) | 電気、水道、ガスの 供給停止 61.7% | 食料や飲料水などの 不足 50.8% | 家族や友人の安否 35.8% | がけ崩れ・地割れ 日用品の不足 | 27.5% |
| 港南区 (n=178) | 電気、水道、ガスの 供給停止 68.0% | 食料や飲料水などの 不足 51.7% | 携帯電話を含む電話 の不通 35.4% | 家族や友人の安否 28.7% | けがや病気の場合の 医療体制 24.7% |
| 保土ヶ谷区 (n=139) | 電気、水道、ガスの 供給停止 59.0% | 食料や飲料水などの 不足 52.5% | がけ崩れ・地割れ 35.3% | 家族や友人の安否 33.1% | 道路や鉄道機関の被 害や混乱 30.2% |
| 旭区 (n=184) | 電気、水道、ガスの 供給停止 64.1% | 食料や飲料水などの 不足 56.5% | 家族や友人の安否 33.2% | 道路や鉄道機関の被 害や混乱 30.4% | 携帯電話を含む電話 の不通 27.7% |
| 磯子区 (n=116) | 電気、水道、ガスの 供給停止 71.6% | 食料や飲料水などの 不足 56.0% | 家族や友人の安否 39.7% | がけ崩れ・地割れ 33.6% | ガスなど危険物の爆 発・流出 27.6% |
| 金沢区 (n=169) | 電気、水道、ガスの 供給停止 66.9% | 食料や飲料水などの 不足 48.5% | がけ崩れ・地割れ 34.9% | 道路や鉄道機関の被 害や混乱 33.1% | 家族や友人の安否 29.0% |
| 港北区 (n=231) | 電気、水道、ガスの 供給停止 69.7% | 食料や飲料水などの 不足 54.5% | 家族や友人の安否 36.8% | 道路や鉄道機関の被 害や混乱 29.4% | 浸水・堤防の決壊 28.1% |
| 緑区 (n=121) | 電気、水道、ガスの 供給停止 68.6% | 食料や飲料水などの 不足 54.5% | 道路や鉄道機関の被 害や混乱 34.7% | 家族や友人の安否 31.4% | 携帯電話を含む電話 の不通 29.8% |
| 青葉区 (n=217) | 電気、水道、ガスの 供給停止 73.3% | 食料や飲料水などの 不足 52.1% | 家族や友人の安否 35.5% | 道路や鉄道機関の被 害や混乱 33.2% | 携帯電話を含む電話 の不通 26.7% |
| 都筑区 (n=142) | 電気、水道、ガスの 供給停止 64.1% | 食料や飲料水などの 不足 60.6% | 家族や友人の安否 33.1% | 日用品の不足 28.9% | 道路や鉄道機関の被 害や混乱 24.6% |
| 戸塚区 (n=203) | 電気、水道、ガスの 供給停止 70.4% | 食料や飲料水などの 不足 53.7% | 家族や友人の安否 38.4% | 道路や鉄道機関の被害や混乱 日用品の不足 | 25.6% |
| 栄区 (n=91) | 電気、水道、ガスの 供給停止 67.0% | 食料や飲料水などの 不足 47.3% | 道路や鉄道機関の被 害や混乱 35.2% | 家族や友人の安否 33.0% | 携帯電話を含む電話 の不通 28.6% |
| 泉区 (n=119) | 電気、水道、ガスの 供給停止 76.5% | 食料や飲料水などの 不足 63.9% | けがや病気の場合の医療体制 日用品の不足 | 31.9% | 家族や友人の安否 31.1% |
| 瀬谷区 (n=120) | 電気、水道、ガスの 供給停止 70.8% | 食料や飲料水などの 不足 60.8% | 道路や鉄道機関の被 害や混乱 35.8% | 家族や友人の安否 28.3% | けがや病気の場合の 医療体制 25.8% |

図表 23-3：風水害が発生した場合の心配事 居住区別集計

【年代別集計】※上位5位を抜粋

| | 1位 | 2位 | 3位 | 4位 | 5位 |
|------------------|---------------------|---------------------|---------------------|---------------------------|---------------------|
| 全体 (n=2,682) | 電気、水道、ガスの供給停止 66.9% | 食料や飲料水などの不足 54.0% | 家族や友人の安否 33.4% | 道路や鉄道機関の被害や混乱 28.2% | 携帯電話を含む電話の不通 24.4% |
| 10歳代 (n=74) | 電気、水道、ガスの供給停止 50.0% | 食料や飲料水などの不足 47.3% | 家族や友人の安否 43.2% | 日用品の不足 33.8% | 携帯電話を含む電話の不通 27.0% |
| 20歳代 (n=188) | 電気、水道、ガスの供給停止 53.7% | 食料や飲料水などの不足 45.2% | 家族や友人の安否 38.3% | 道路や鉄道機関の被害や混乱 浸水・堤防の決壊 | 26.6% |
| 30歳代 (n=313) | 食料や飲料水などの不足 52.4% | 電気、水道、ガスの供給停止 51.1% | 家族や友人の安否 41.9% | 日用品の不足 27.5% | がけ崩れ・地割れ 26.8% |
| 40歳代 (n=476) | 電気、水道、ガスの供給停止 62.4% | 食料や飲料水などの不足 53.6% | 家族や友人の安否 42.0% | 道路や鉄道機関の被害や混乱 29.0% | 日用品の不足 28.4% |
| 50歳代 (n=462) | 電気、水道、ガスの供給停止 69.7% | 食料や飲料水などの不足 52.8% | 家族や友人の安否 35.1% | 道路や鉄道機関の被害や混乱 34.2% | 携帯電話を含む電話の不通 23.8% |
| 60歳代 (n=464) | 電気、水道、ガスの供給停止 75.2% | 食料や飲料水などの不足 59.1% | 道路や鉄道機関の被害や混乱 34.7% | 家族や友人の安否 30.8% | けがや病気の場合の医療体制 29.3% |
| 70歳以上 (n=658) | 電気、水道、ガスの供給停止 76.1% | 食料や飲料水などの不足 56.5% | けがや病気の場合の医療体制 33.6% | 携帯電話を含む電話の不通 29.9% | ガスなど危険物の爆発・流出 25.1% |

図表 23-4：風水害が発生した場合の心配事 年代別集計

【家族形態別集計】※上位5位を抜粋

| | 1位 | 2位 | 3位 | 4位 | 5位 |
|--------------------|---------------------|-------------------|--------------------|---------------------------|--------------------|
| 全体 (n=2,682) | 電気、水道、ガスの供給停止 66.9% | 食料や飲料水などの不足 54.0% | 家族や友人の安否 33.4% | 道路や鉄道機関の被害や混乱 28.2% | 携帯電話を含む電話の不通 24.4% |
| ひとり暮らし (n=260) | 電気、水道、ガスの供給停止 69.2% | 食料や飲料水などの不足 53.8% | 携帯電話を含む電話の不通 30.8% | 道路や鉄道機関の被害や混乱 26.9% | 日用品の不足 24.6% |
| 夫婦のみ (n=758) | 電気、水道、ガスの供給停止 72.6% | 食料や飲料水などの不足 58.6% | 携帯電話を含む電話の不通 27.8% | 道路や鉄道機関の被害や混乱 27.7% | 家族や友人の安否 26.9% |
| 親と子 (n=1,393) | 電気、水道、ガスの供給停止 64.0% | 食料や飲料水などの不足 52.6% | 家族や友人の安否 38.8% | 道路や鉄道機関の被害や混乱 29.0% | 日用品の不足 24.5% |
| 祖父母と親と子 (n=171) | 電気、水道、ガスの供給停止 64.9% | 食料や飲料水などの不足 48.0% | 家族や友人の安否 40.9% | がけ崩れ・地割れ けがや病気の場合の医療体制 | 29.2% |
| その他 (n=46) | 電気、水道、ガスの供給停止 65.2% | 食料や飲料水などの不足 54.3% | 家族や友人の安否 32.6% | 道路や鉄道機関の被害や混乱 28.3% | 携帯電話を含む電話の不通 23.9% |

図表 23-5：風水害が発生した場合の心配事 家族形態別集計

【住居形態別集計】※上位5位を抜粋

| | 1位 | 2位 | 3位 | 4位 | 5位 |
|---------------------------|---------------------|------------------------------|-------------------|---------------------|---------------------|
| 全体 (n=2,682) | 電気、水道、ガスの供給停止 66.9% | 食料や飲料水などの不足 54.0% | 家族や友人の安否 33.4% | 道路や鉄道機関の被害や混乱 28.2% | 携帯電話を含む電話の不通 24.4% |
| 持家（一戸建て） (n=1,290) | 電気、水道、ガスの供給停止 68.4% | 食料や飲料水などの不足 53.3% | 家族や友人の安否 33.4% | がけ崩れ・地割れ 27.1% | 道路や鉄道機関の被害や混乱 26.1% |
| 持家（マンション・共同住宅） (n=772) | 電気、水道、ガスの供給停止 68.8% | 食料や飲料水などの不足 54.5% | 家族や友人の安否 33.8% | 道路や鉄道機関の被害や混乱 32.6% | 携帯電話を含む電話の不通 25.9% |
| 借家（一戸建て） (n=46) | 電気、水道、ガスの供給停止 67.4% | 家族や友人の安否 52.2% | 食料や飲料水などの不足 47.8% | 道路や鉄道機関の被害や混乱 30.4% | がけ崩れ・地割れ 23.9% |
| 借家（マンション・共同住宅） (n=482) | 電気、水道、ガスの供給停止 61.8% | 食料や飲料水などの不足 56.4% | 家族や友人の安否 32.8% | 日用品の不足 29.0% | 道路や鉄道機関の被害や混乱 26.8% |
| 社宅・公務員住宅・寮 (n=34) | 食料や飲料水などの不足 64.7% | 電気、水道、ガスの供給停止 52.9% | 日用品の不足 35.3% | 道路や鉄道機関の被害や混乱 32.4% | 家族や友人の安否 29.4% |
| その他 (n=8) | 電気、水道、ガスの供給停止 62.5% | 食料や飲料水などの不足 けがや病気の場合の医療体制 | | 避難場所の安全性 50.0% | 日用品の不足 37.5% |

図表 23-6：風水害が発生した場合の心配事 住居形態別集計

(2) 風水害に対して行っている対策について

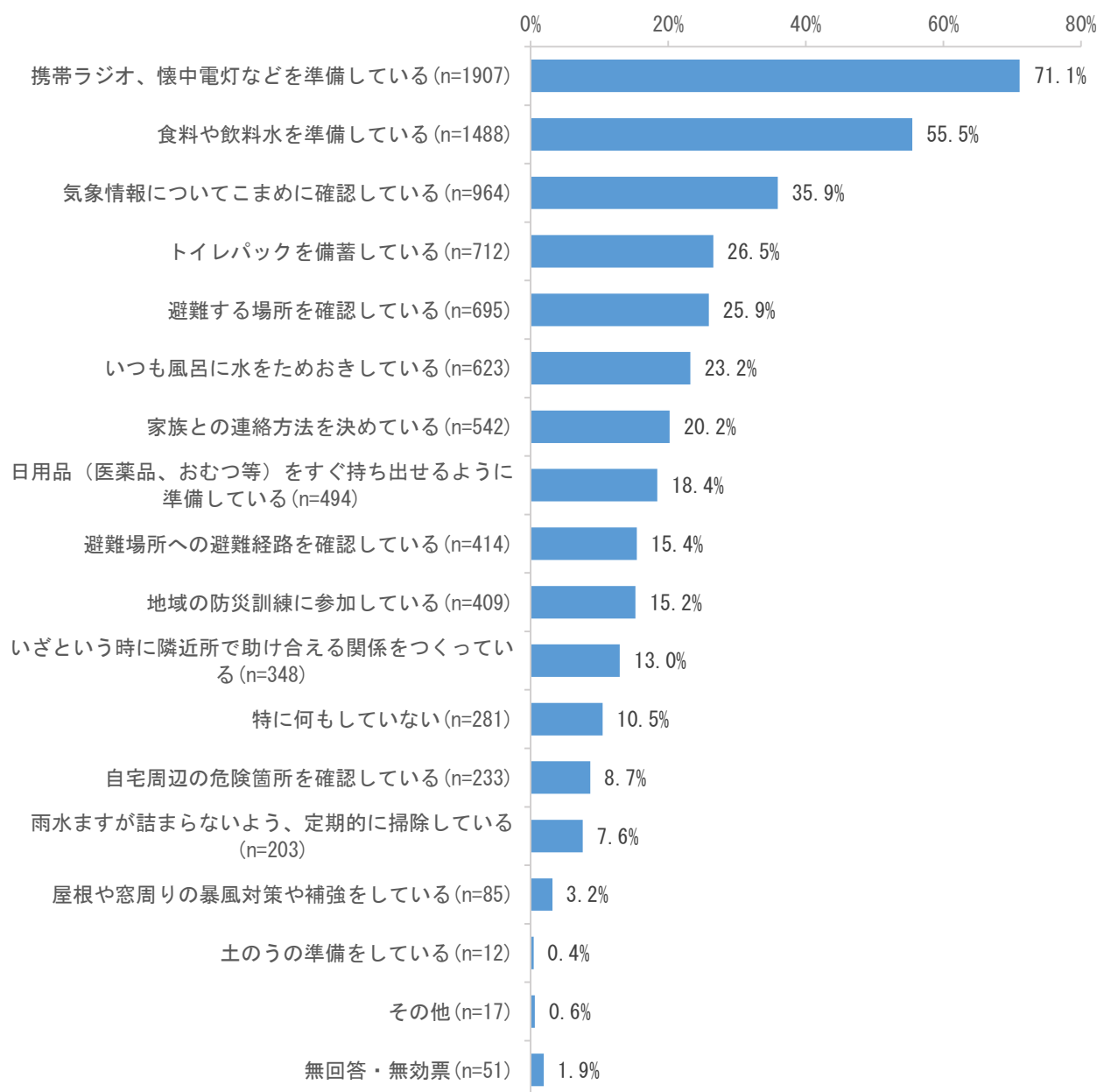
問24 あなたやあなたのご家庭では、現在、どのような対策をしていますか。該当するものすべて選択

◇風水害の対策は「携帯ラジオ、懐中電灯などを準備している」が71.1%と最も多い

風水害への対策は、「携帯ラジオ、懐中電灯などを準備している」が71.1%と最も高く、次いで「食料や飲料水を準備している」が55.5%となった。

経年比較では、今回調査で「トイレパックを備蓄している」が26.5%となり、4位に入った。

【全体集計】 n=2,682



図表 24-1：風水害対策

【経年比較】※上位5位を抜粋

| | 1位 | 2位 | 3位 | 4位 | 5位 |
|--------------------|------------------------------|------------------------|-----------------------------|------------------------|---------------------------|
| 平成27年 (n=3,217) | 携帯ラジオ、懐中電灯などを準備している 74.6% | 食料や飲料水を準備している 53.7% | 気象情報についてこまめに確認している 38.7% | 避難する場所を確認している 26.9% | いつも風呂に水をためおきしている 26.8% |
| 平成30年 (n=2,682) | 携帯ラジオ、懐中電灯などを準備している 71.1% | 食料や飲料水を準備している 55.5% | 気象情報についてこまめに確認している 35.9% | トイレバックを備蓄している 26.5% | 避難する場所を確認している 25.9% |

図表 24-2：風水害対策 経年比較

(3) 避難行動について

問25 あなたは、災害の発生が予測されるとき、横浜市が発令する次の情報の意味を知っていますか。それぞれ右のあてはまる番号に○をつけてください。

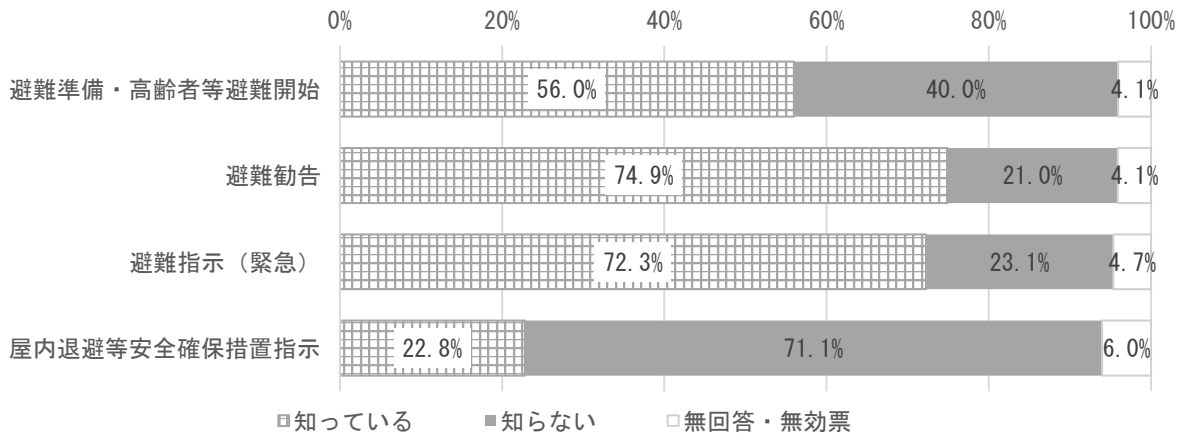
◇「避難勧告」及び「避難指示」は「知っている」と答えた人が7割を超える

横浜市が発令する情報の認知度は、「避難勧告」が74.9%、「避難指示（緊急）」が72.3%で、ともに7割を超えた。

経年比較では、平成27年調査と同様の傾向である。

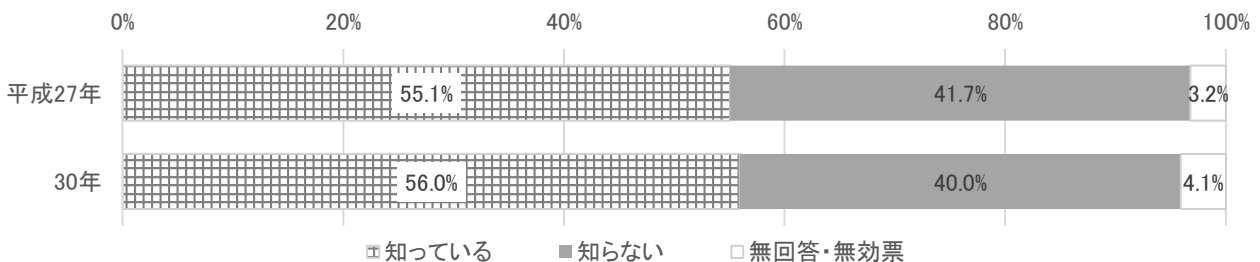
避難準備・高齢者等避難開始の年代別集計では、「20歳代」と「70歳以上」の認知度が5割を下回り、「20歳代」が45.7%、「70歳以上」で48.6%となった。

【全体集計】n=2,682



図表 25-1：市が発令する情報の認知度

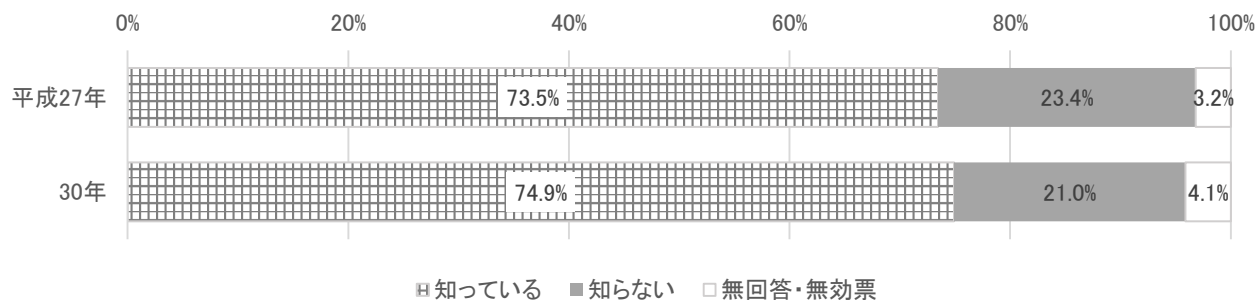
【経年比較_避難準備・高齢者等避難開始】※参考



図表 25-2：「避難準備・高齢者等避難開始」の認知度 経年比較

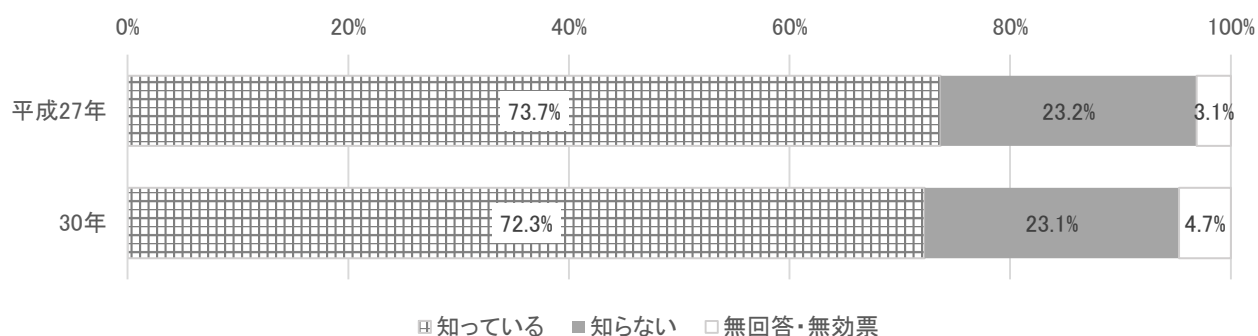
※平成27年調査では、「避難準備・高齢者等避難開始」が「避難準備情報」であった。

【経年比較_避難勧告】



図表 25-3：「避難勧告」の認知度 経年比較

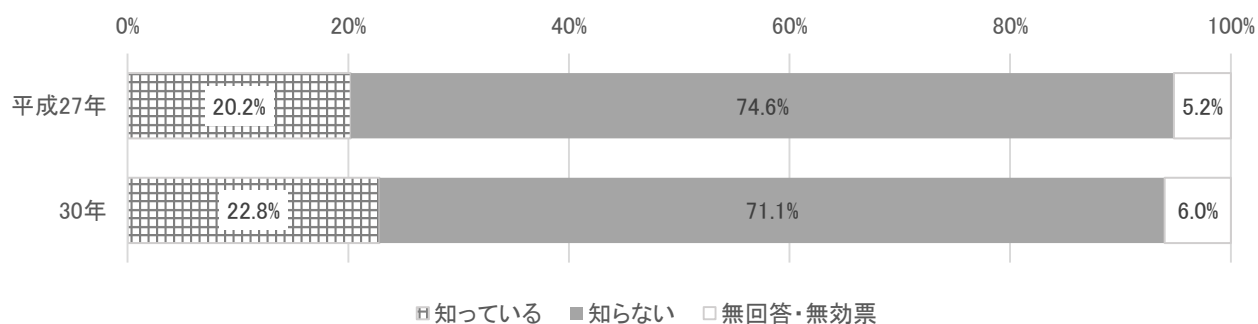
【経年比較_避難指示（緊急）】※参考



図表 25-4：「避難指示（緊急）」の認知度 経年比較

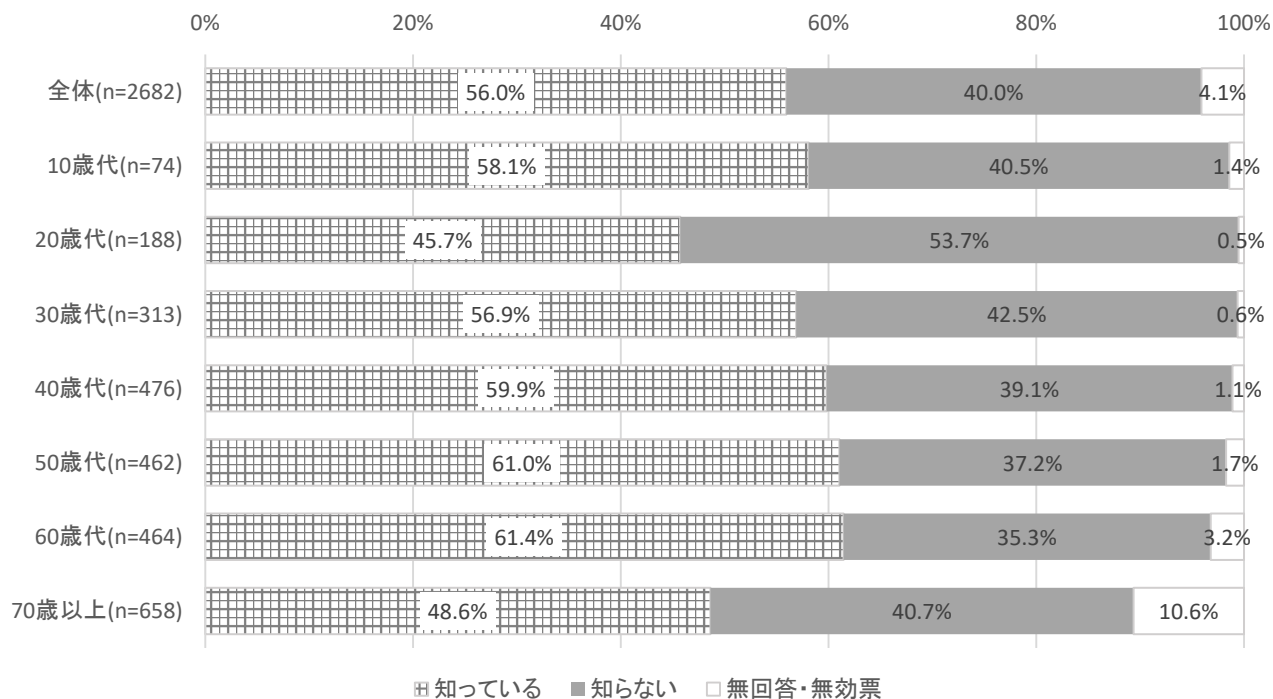
※平成27年調査では、「避難指示（緊急）」が「避難指示」であった。

【経年比較_屋内退避等安全確保措置指示】



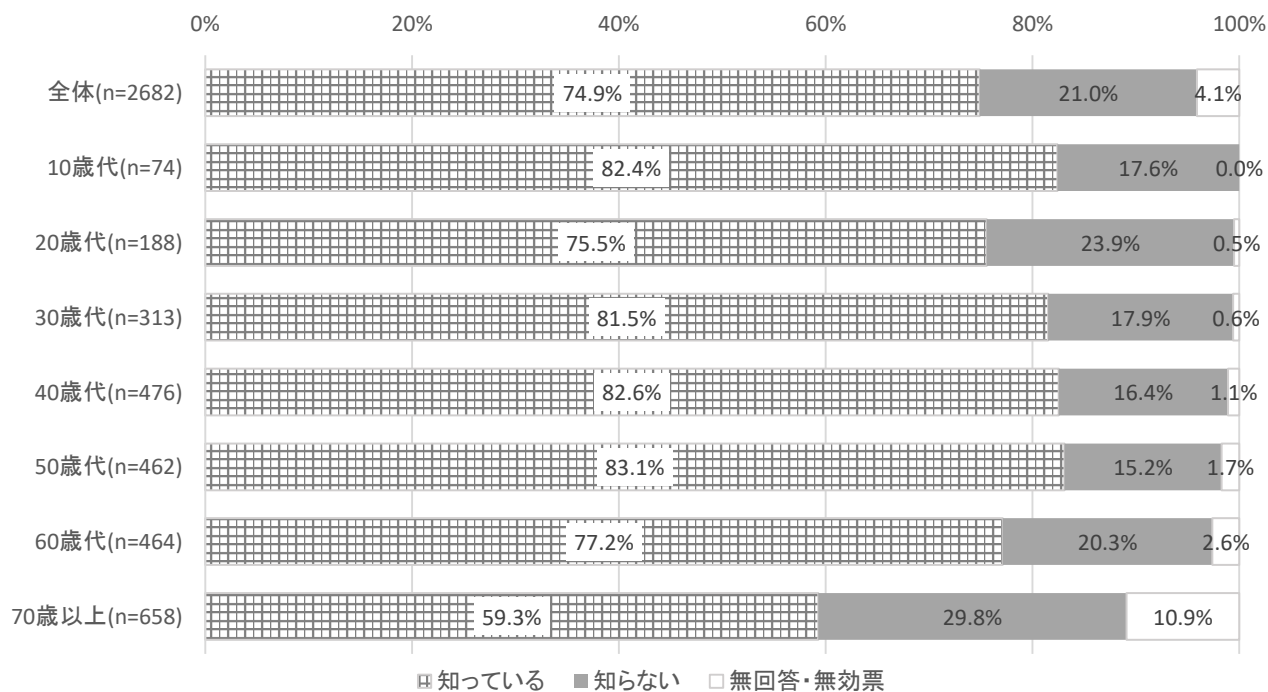
図表 25-5：「屋内退避等安全確保措置指示」の認知度 経年比較

【年代別集計_避難準備・高齢者等避難開始】



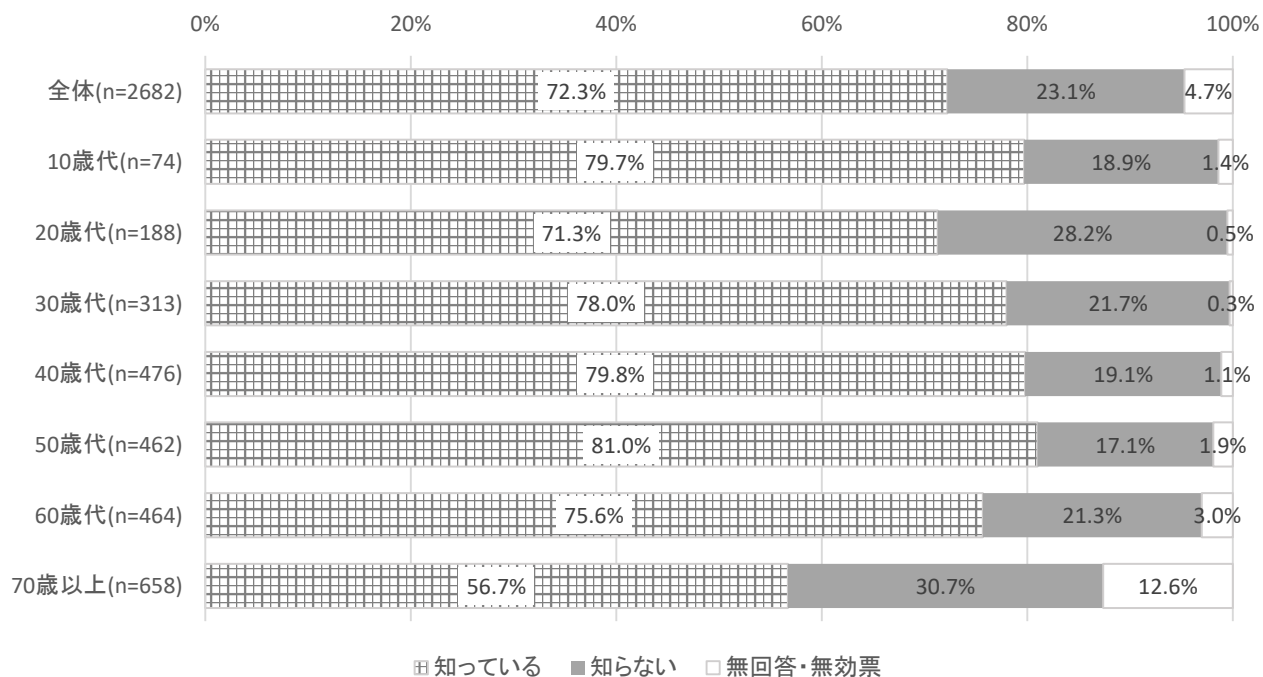
図表 25-6：「避難準備・高齢者等避難開始」の認知度 年代別集計

【年代別集計_避難勧告】



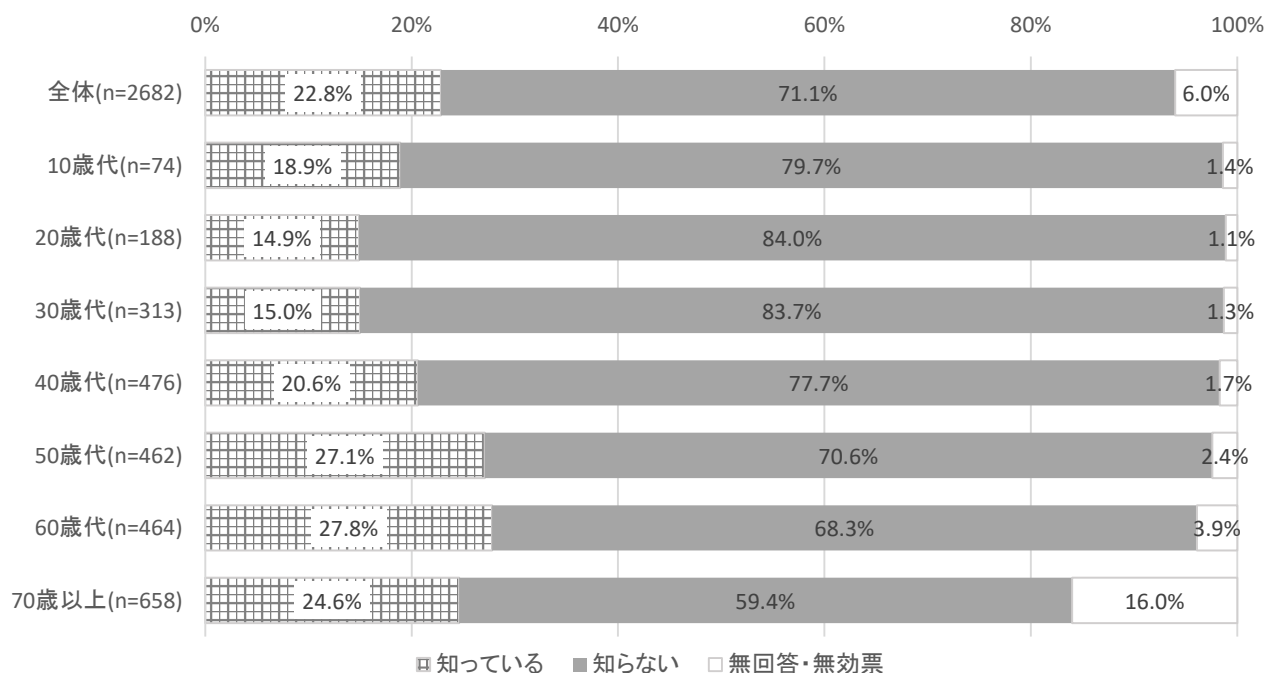
図表 25-7：「避難勧告」の認知度 年代別集計

【年代別集計_避難指示（緊急）】



図表 25-8：「避難指示（緊急）」の認知度 年代別集計

【年代別集計_屋内退避等安全確保措置指示】



図表 25-9：「屋内退避等安全確保措置指示」の認知度 年代別集計

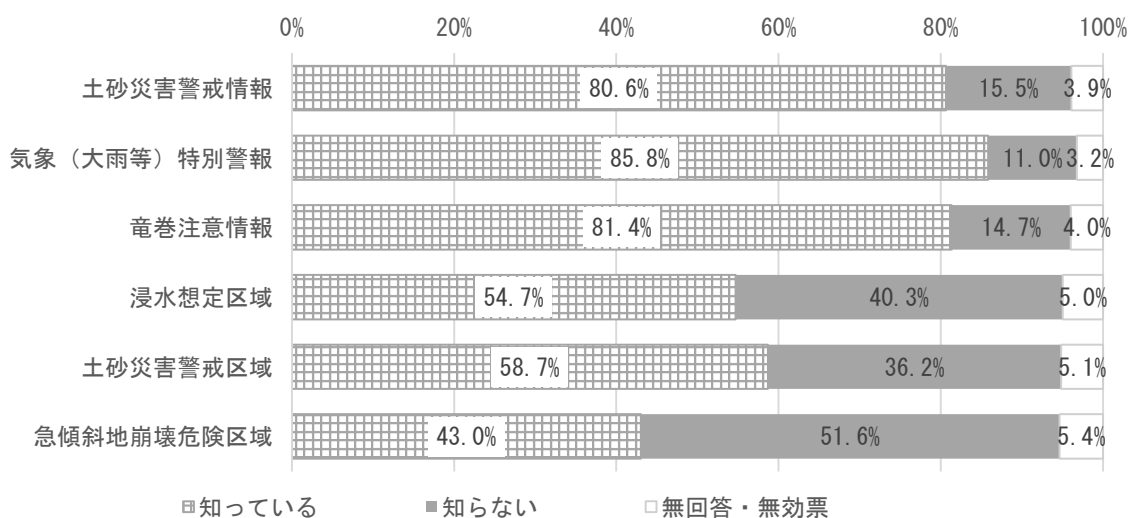
問26 あなたは、気象や防災に関して次の事柄を知っていますか。それぞれ右のあてはまる番号に○をつけてください。

◇気象情報に関しては約8割の認知度

気象や防災に関する事柄の認知度は、「土砂災害警戒情報」が80.6%、「気象（大雨等）特別警報」が85.8%、「竜巻注意情報」が81.4%と、気象情報に関する認知度は高い。

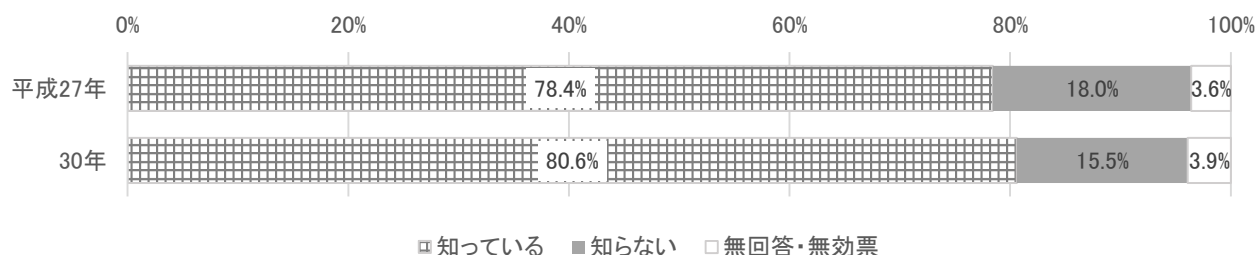
経年比較では、平成27年調査と比べ、「浸水想定区域」の認知度が5.8%増加し、54.7%となった。年代別集計では、年代が上がるにつれて「急傾斜地崩壊危険区域」の認知度が高い傾向が見られた。「70歳以上」においては、いずれの認知度も他の年代と比較して低くなった。

【全体集計】 n=2,682



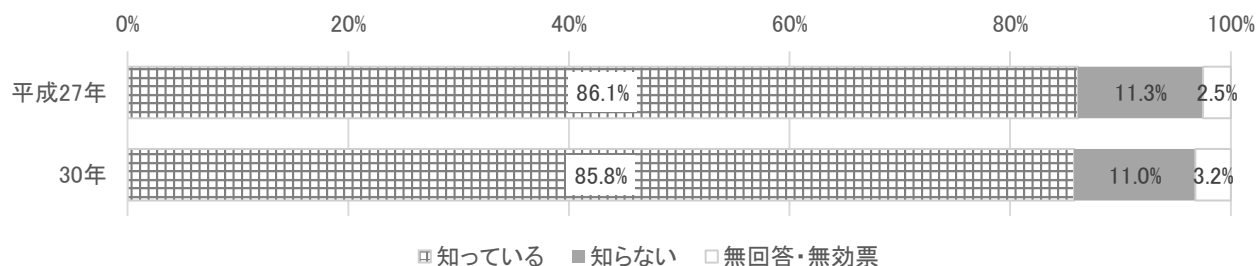
図表 26-1：気象や防災に関する事項の認知度

【経年比較_土砂災害警戒情報】



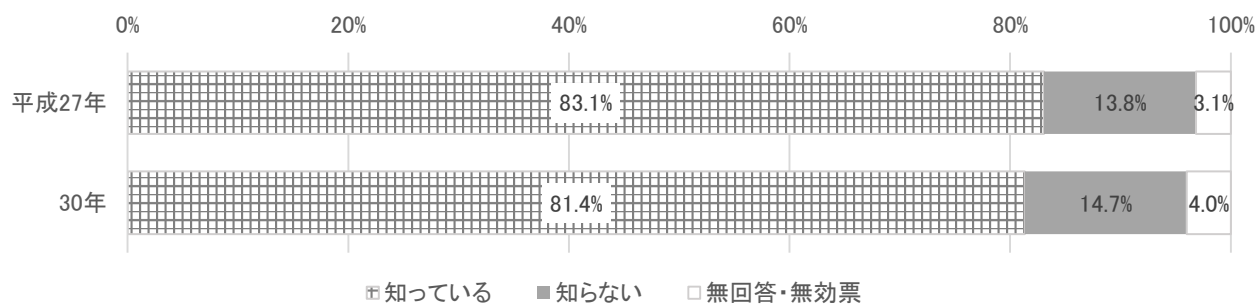
図表 26-2：「土砂災害警戒情報」の認知度 経年比較

【経年比較_気象（大雨等）特別警報】



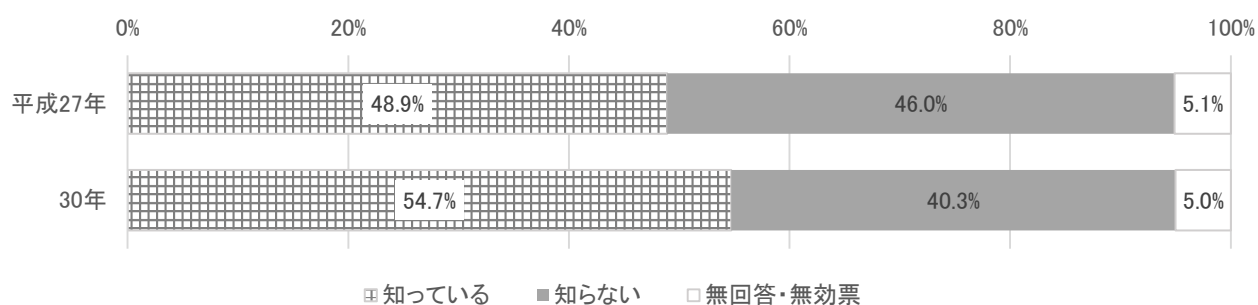
図表 26-3：「気象（大雨等）特別警報」の認知度 経年比較

【経年比較_竜巻注意情報】



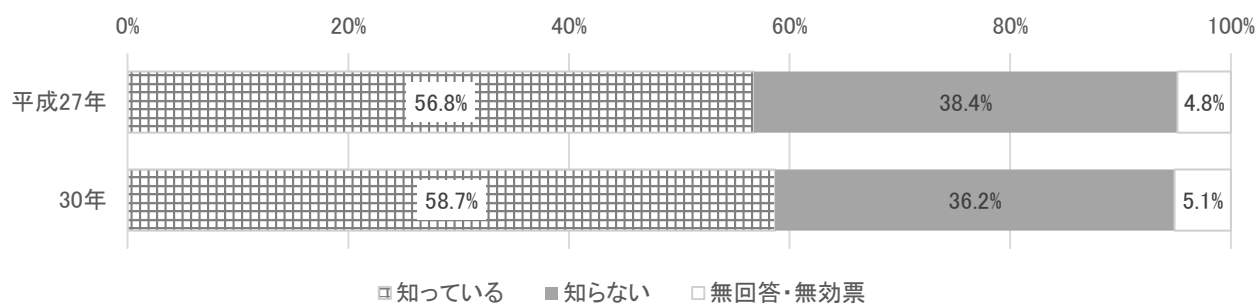
図表 26-4 : 「竜巻注意情報」の認知度 経年比較

【経年比較_浸水想定区域】



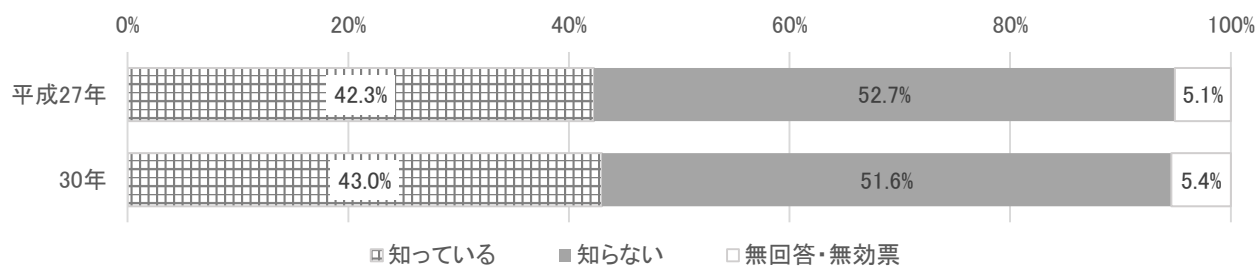
図表 26-5 : 「浸水想定区域」の認知度 経年比較

【経年比較_土砂災害警戒区域】



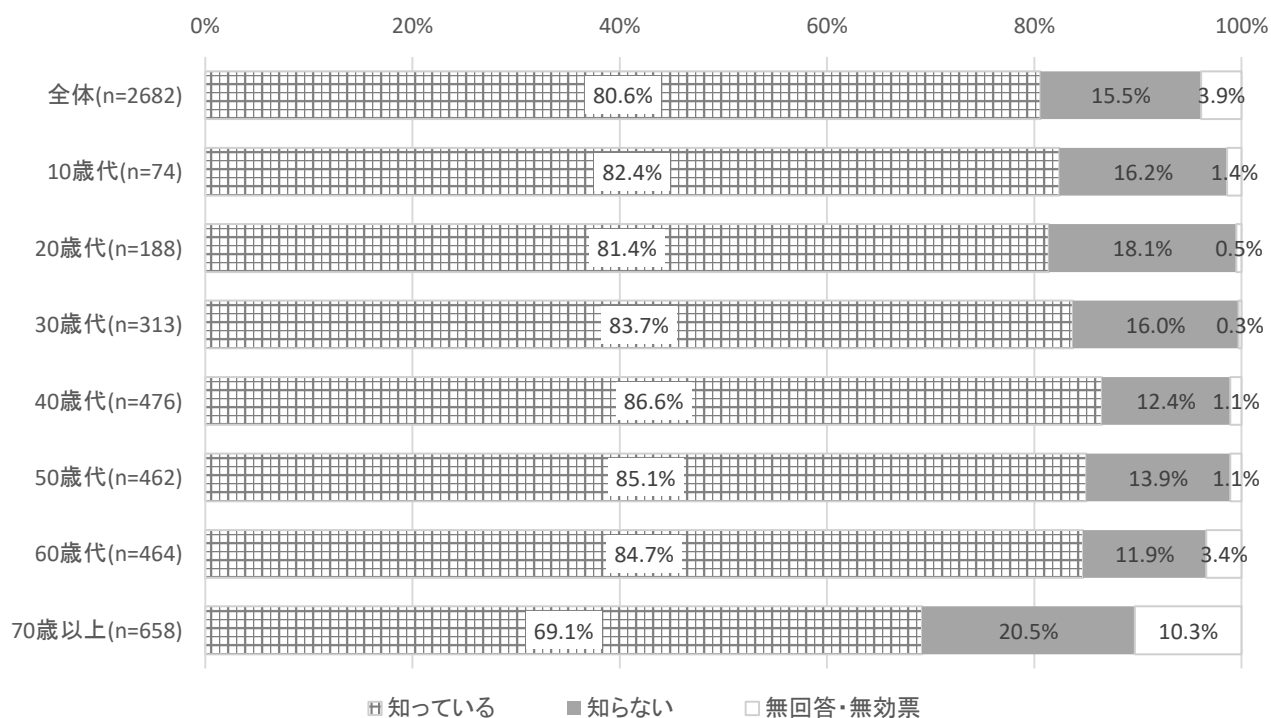
図表 26-6 : 「土砂災害警戒区域」の認知度 経年比較

【経年比較_急傾斜地崩壊危険区域】



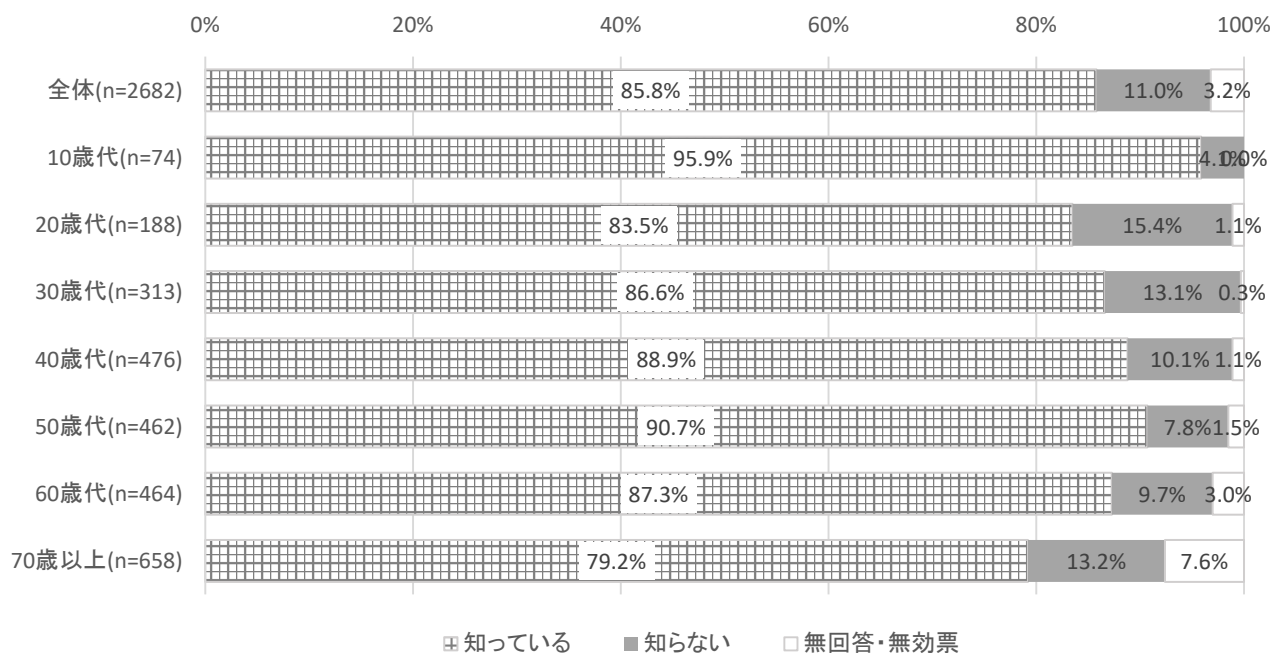
図表 26-7：「急傾斜地崩壊危険区域」の認知度 経年比較

【年代別集計_土砂災害警戒情報】



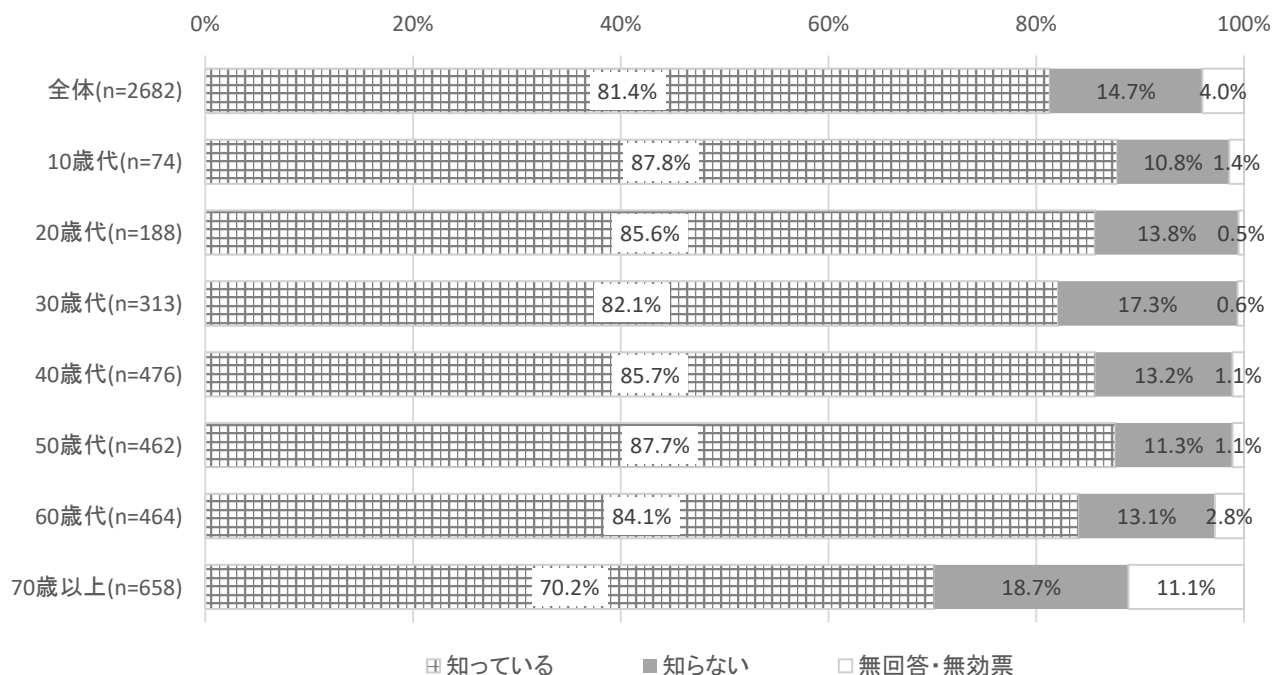
図表 26-8：「土砂災害警戒情報」の認知度 年代別集計

【年代別集計_気象（大雨等）特別警報】



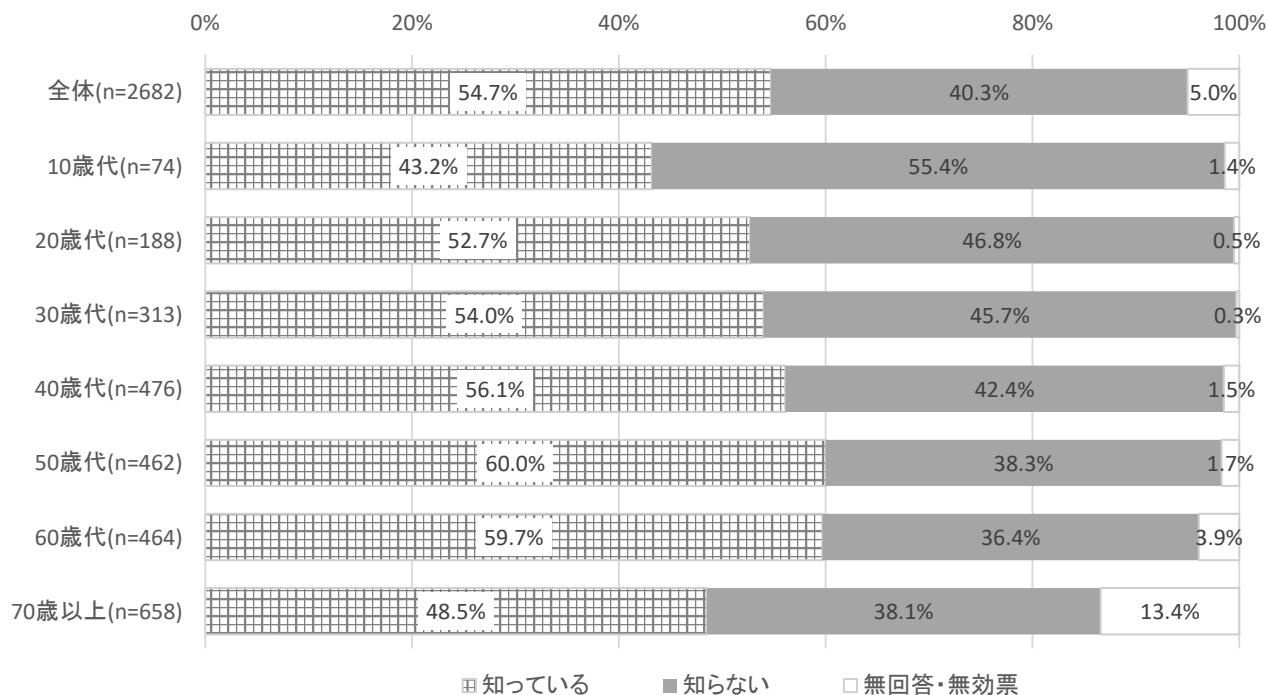
図表 26-9：「気象（大雨等）特別警報」の認知度 年代別集計

【年代別集計_竜巻注意情報】



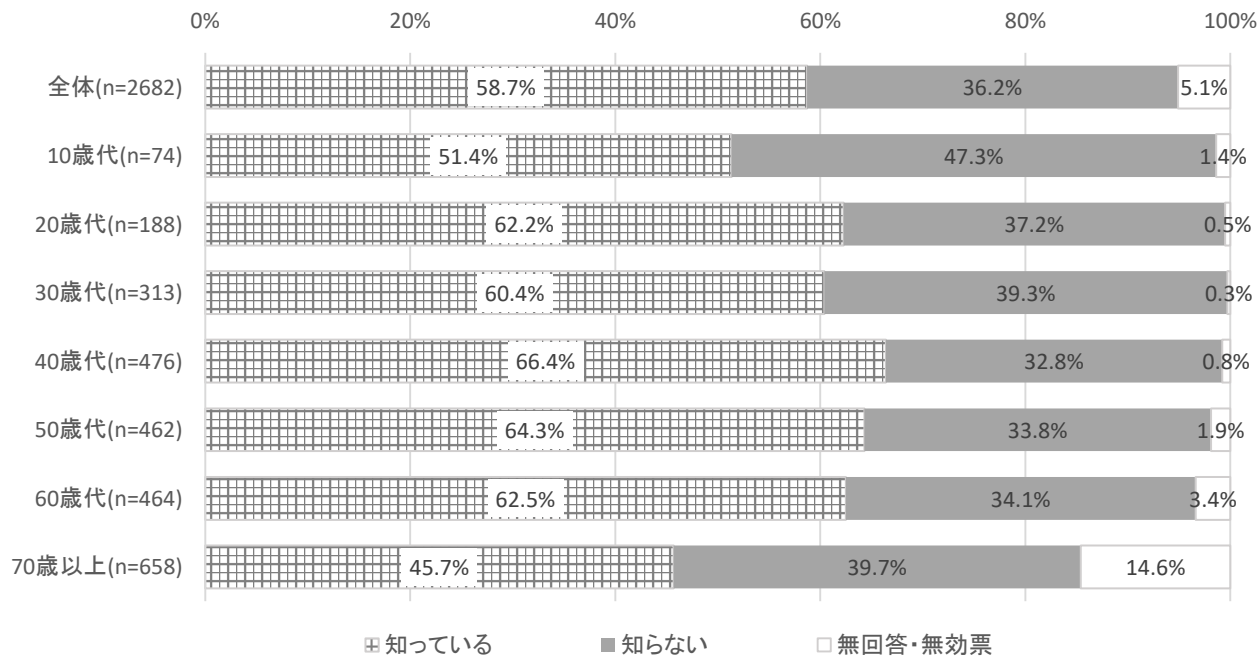
図表 26-10：「竜巻注意情報」の認知度 年代別集計

【年代別集計_浸水想定区域】



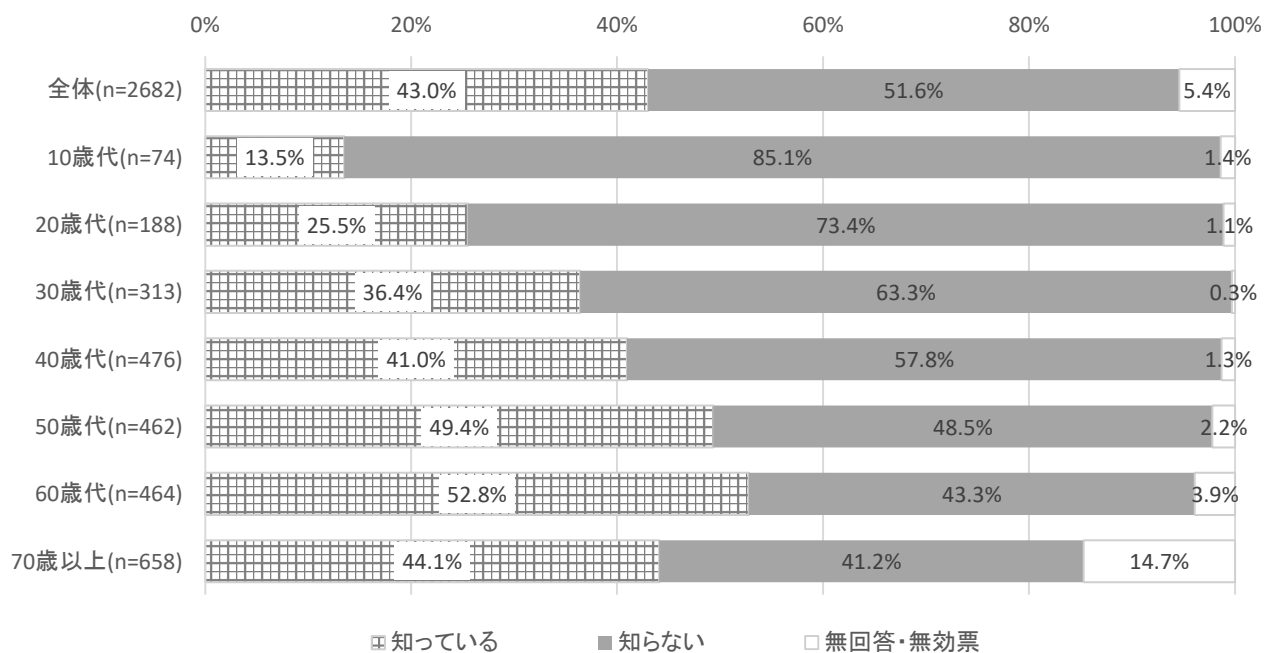
図表 26-11 : 「浸水想定区域」の認知度 年代別集計

【年代別集計_土砂災害警戒区域】



図表 26-12 : 「土砂災害警戒区域」の認知度 年代別集計

【年代別集計_急傾斜地崩壊危険区域】



図表 26-13 : 「急傾斜地崩壊危険区域」の認知度 年代別集計

問27 あなたが自宅にいて、豪雨が発生した場合、どのような状況になったら避難行動を開始しますか。1つ選択

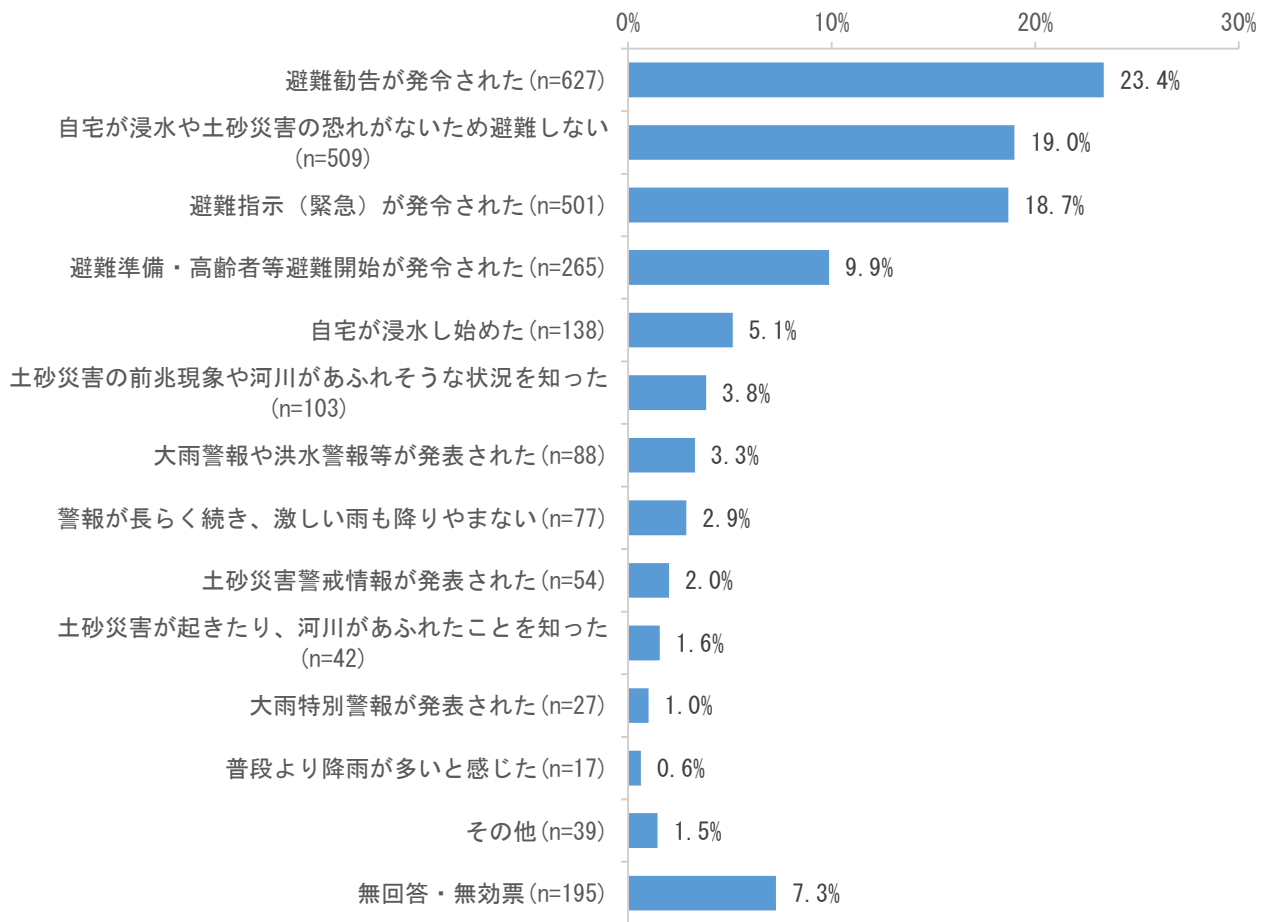
◇「避難勧告が発令された」時点で避難行動を開始する人が最も多い

避難行動を開始するタイミングは、「避難勧告が発令された」が23.4%と最も高く、次いで「自宅が浸水や土砂災害の恐れがないため避難しない」が19.0%となった。

経年比較では、平成27年調査と比べ「自宅が浸水や土砂災害の恐れがないため避難しない」の順位が3位から2位に上昇したが、傾向は同様である。

年代別集計では、「60歳代」と「70歳以上」で「自宅が浸水や土砂災害の恐れがないため避難しない」が1位となった。

【全体集計】 n=2,682



図表 27-1：豪雨発生時の避難行動

【経年比較】 ※参考、上位5位を抜粋

| | 1位 | 2位 | 3位 | 4位 | 5位 |
|-----------------|---------------------|----------------------------------|----------------------------------|-----------------------------|-------------------|
| 平成27年 (n=3,217) | 避難勧告が発令された 23.6% | 避難指示が発令された 20.0% | 自宅が浸水や土砂災害の恐れがないため避難しない 17.8% | 避難準備情報が発令された 10.4% | 自宅が浸水し始めた 4.6% |
| 平成30年 (n=2,682) | 避難勧告が発令された 23.4% | 自宅が浸水や土砂災害の恐れがないため避難しない 19.0% | 避難指示（緊急）が発令された 18.7% | 避難準備・高齢者等避難開始が発令された 9.9% | 自宅が浸水し始めた 5.1% |

図表 27-2：豪雨発生時の避難行動 経年比較

※平成27年調査では、「避難指示（緊急）」が「避難指示」、「避難準備・高齢者等避難開始」が「避難準備情報」であった。

【年代別集計】※上位5位を抜粋

| | 1位 | 2位 | 3位 | 4位 | 5位 |
|------------------|----------------------------------|----------------------------------|----------------------------------|------------------------------|--------------------------|
| 全体 (n=2,682) | 避難勧告が発令された 23.4% | 自宅が浸水や土砂災害の恐れがないため避難しない 19.0% | 避難指示（緊急）が発令された 18.7% | 避難準備・高齢者等避難開始が発令された 9.9% | 自宅が浸水し始めた 5.1% |
| 10歳代 (n=74) | 避難勧告が発令された 32.4% | 避難指示（緊急）が発令された 17.6% | 自宅が浸水や土砂災害の恐れがないため避難しない 12.2% | 避難準備・高齢者等避難開始が発令された 9.5% | 自宅が浸水し始めた 5.4% |
| 20歳代 (n=188) | 避難勧告が発令された 30.9% | 避難指示（緊急）が発令された 14.9% | 自宅が浸水や土砂災害の恐れがないため避難しない 11.7% | 避難準備・高齢者等避難開始が発令された 9.6% | 自宅が浸水し始めた 9.0% |
| 30歳代 (n=313) | 避難勧告が発令された 28.8% | 避難指示（緊急）が発令された 20.1% | 自宅が浸水や土砂災害の恐れがないため避難しない 13.4% | 避難準備・高齢者等避難開始が発令された 8.0% | 自宅が浸水し始めた 6.7% |
| 40歳代 (n=476) | 避難勧告が発令された 25.6% | 避難指示（緊急）が発令された 19.5% | 自宅が浸水や土砂災害の恐れがないため避難しない 16.0% | 避難準備・高齢者等避難開始が発令された 8.6% | 自宅が浸水し始めた 6.1% |
| 50歳代 (n=462) | 避難指示（緊急）が発令された 26.4% | 避難勧告が発令された 23.8% | 自宅が浸水や土砂災害の恐れがないため避難しない 18.0% | 避難準備・高齢者等避難開始が発令された 6.7% | 自宅が浸水し始めた 5.2% |
| 60歳代 (n=464) | 自宅が浸水や土砂災害の恐れがないため避難しない 25.2% | 避難勧告が発令された 21.1% | 避難指示（緊急）が発令された 19.6% | 避難準備・高齢者等避難開始が発令された 10.3% | 自宅が浸水し始めた 3.7% |
| 70歳以上 (n=658) | 自宅が浸水や土砂災害の恐れがないため避難しない 24.3% | 避難勧告が発令された 17.5% | 避難準備・高齢者等避難開始が発令された 13.2% | 避難指示（緊急）が発令された 13.1% | 大雨警報や洪水警報等が発表された 4.1% |

図表 27-3：豪雨発生時の避難行動 年代別集計

4. 情報収集

(1) 災害に関する情報について

問28 あなたは普段、防災に関する情報を入手したい時に、主に何から入手していますか。該当するものすべて選択

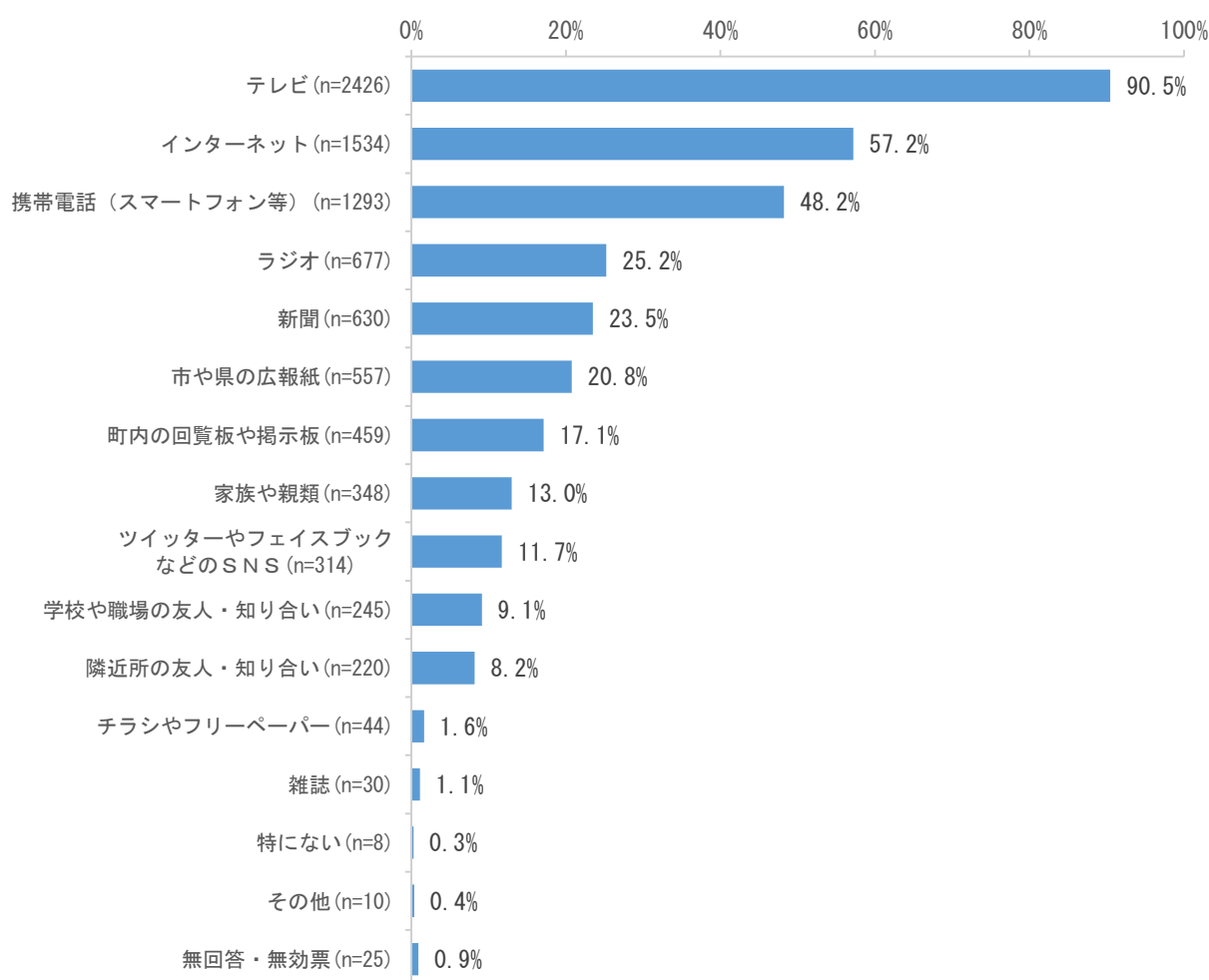
◇防災に関する情報の入手元は「テレビ」が9割を超える

防災に関する情報の入手元は、「テレビ」が90.5%と最も高く、次いで「インターネット」が57.2%となった。

経年比較では、今回の調査から選択肢に追加された「携帯電話（スマートフォン等）」の48.2%を除くと、おおむね平成27年調査と同様の傾向となった。

年代別集計では、「70歳以上」のみ、「新聞」が2番目に多く、45.0%となった。

【全体集計】n=2,682



図表 28-1：防災情報の入手方法

【経年比較】※参考、上位5位を抜粋

| | 1位 | 2位 | 3位 | 4位 | 5位 |
|--------------------|--------------|------------------|--------------------------|--------------|------------------|
| 平成27年 (n=3,217) | テレビ 92.0% | インターネット 58.0% | ラジオ 31.8% | 新聞 28.4% | 市や県の広報紙 26.9% |
| 平成30年 (n=2,682) | テレビ 90.5% | インターネット 57.2% | 携帯電話(スマートフォン等)※ 48.2% | ラジオ 25.2% | 新聞 23.5% |

図表 28-2：防災情報の入手方法 経年比較

※「携帯電話（スマートフォン等）」は今回調査の新設項目。

【年代別集計】※上位5位を抜粋

| | 1位 | 2位 | 3位 | 4位 | 5位 |
|------------------|--------------|------------------|-------------------------|-------------------------|------------------------|
| 全体 (n=2,682) | テレビ 90.5% | インターネット 57.2% | 携帯電話(スマートフォン等) 48.2% | ラジオ 25.2% | 新聞 23.5% |
| 10歳代 (n=74) | テレビ 85.1% | インターネット 78.4% | 携帯電話(スマートフォン等) 58.1% | ツイッターなどのSNS 29.7% | 家族や親類 21.6% |
| 20歳代 (n=188) | テレビ 84.6% | インターネット 80.3% | 携帯電話(スマートフォン等) 61.7% | ツイッターなどのSNS 45.7% | 学校や職場の友人・知り合い 20.7% |
| 30歳代 (n=313) | テレビ 85.9% | インターネット 81.5% | 携帯電話(スマートフォン等) 54.6% | ツイッターなどのSNS 22.4% | 家族や親類 18.2% |
| 40歳代 (n=476) | テレビ 88.4% | インターネット 73.3% | 携帯電話(スマートフォン等) 56.5% | 市や県の広報紙 18.9% | ラジオ 16.4% |
| 50歳代 (n=462) | テレビ 90.0% | インターネット 66.7% | 携帯電話(スマートフォン等) 55.8% | ラジオ 21.2% | 新聞 20.1% |
| 60歳代 (n=464) | テレビ 95.3% | インターネット 49.4% | 携帯電話(スマートフォン等) 46.8% | 新聞 31.3% | ラジオ 30.4% |
| 70歳以上 (n=658) | テレビ 94.1% | 新聞 45.0% | ラジオ 41.9% | 携帯電話(スマートフォン等) 30.9% | 市や県の広報紙 28.7% |

図表 28-3：防災情報の入手方法 年代別集計

問29 あなたは、横浜市がホームページやリーフレット等により提供している次の防災マップを知っていますか。それぞれ右のあてはまる番号に○をつけてください。

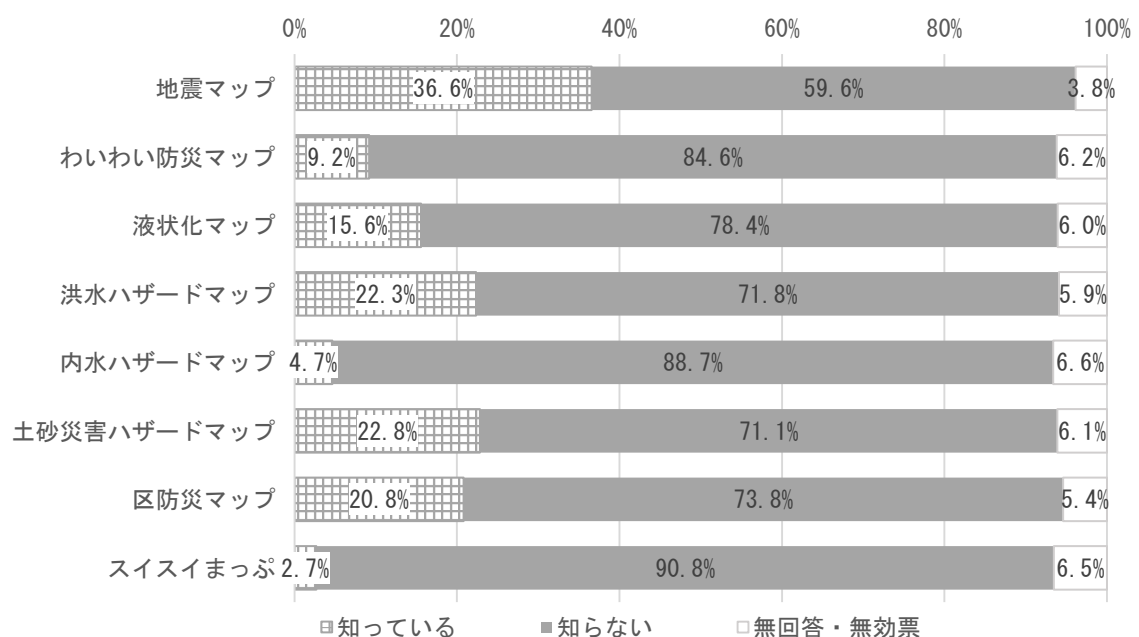
◇防災マップの認知度は「地震マップ」が最も高いが、いずれの防災マップも低い

横浜市提供の防災マップの認知度は、いずれのマップも「知らない」の回答が多く、特に「スイスイまっぷ」は、90.8%が「知らない」と回答している。

経年比較では、平成27年調査と比べ「洪水ハザードマップ」、「内水ハザードマップ」、「スイスイマップ」以外の防災マップにおいて、「知っている」の割合が低下した。

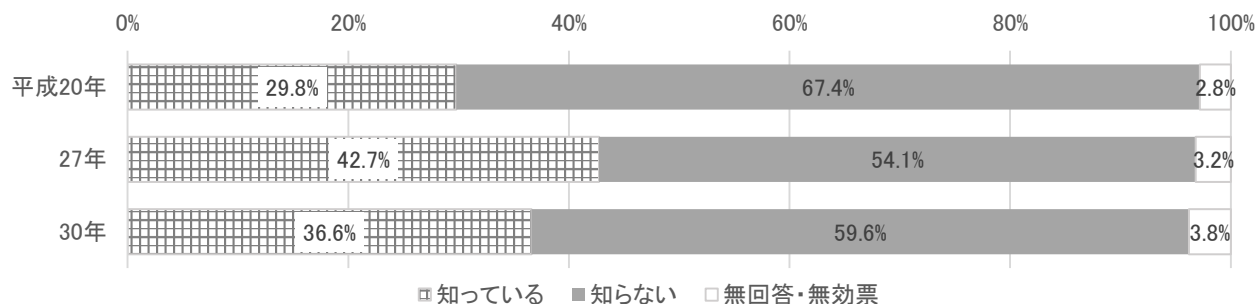
年代別集計では、「20歳代」において、過半数の項目で認知度が最も低くなった。

【全体集計】n=2,682



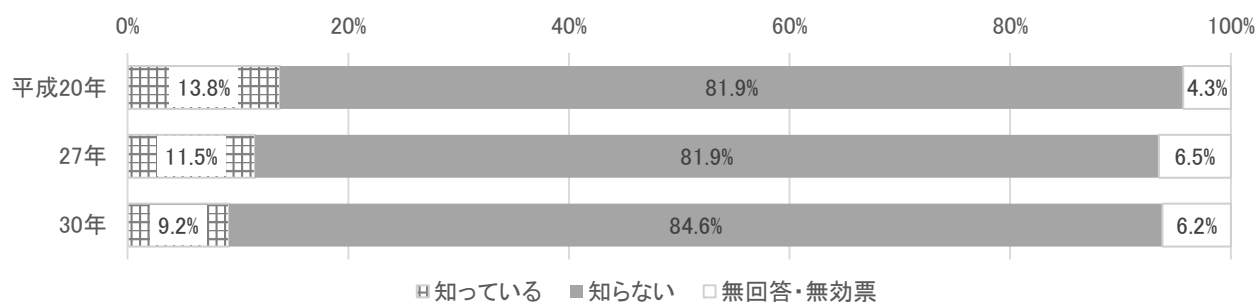
図表 29-1：防災マップの認知度

【経年比較_地震マップ】



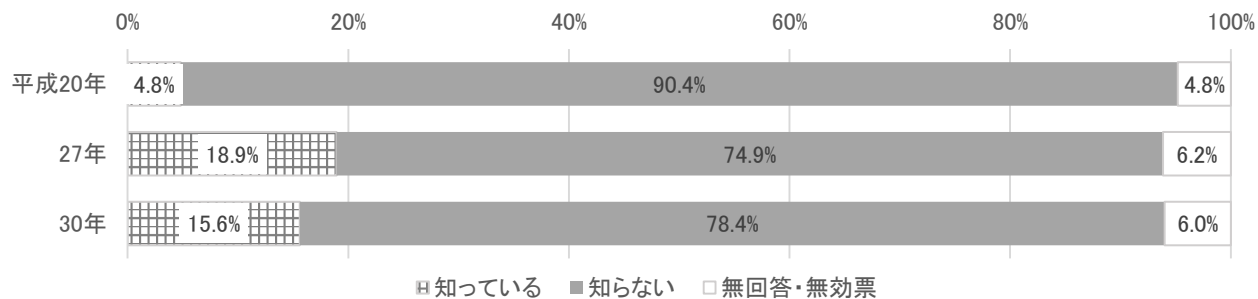
図表 29-2 : 「地震マップ」の認知度 経年比較

【経年比較_わいわい防災マップ】



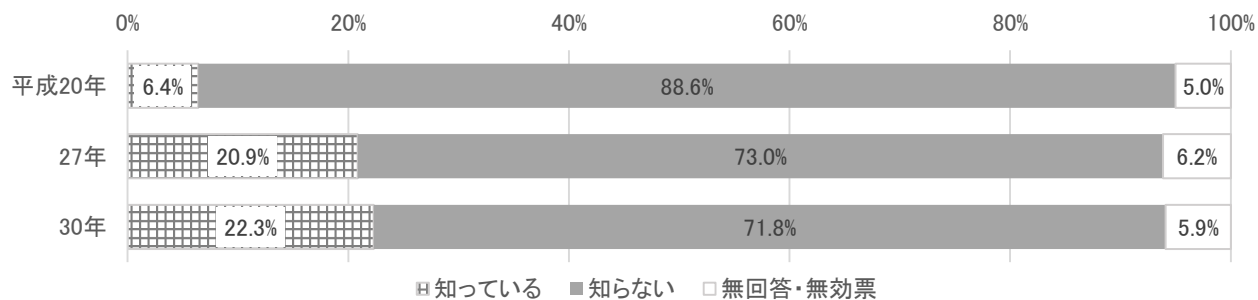
図表 29-3 : 「わいわい防災マップ」の認知度 経年比較

【経年比較_液状化マップ】



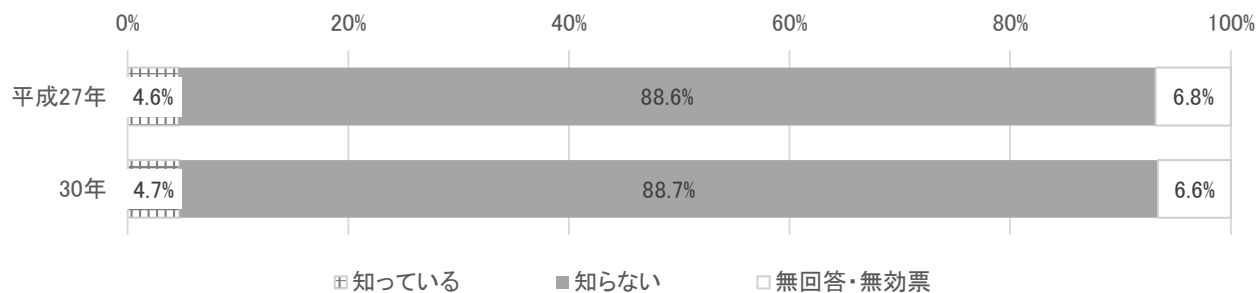
図表 29-4 : 「液状化マップ」の認知度 経年比較

【経年比較_洪水ハザードマップ】



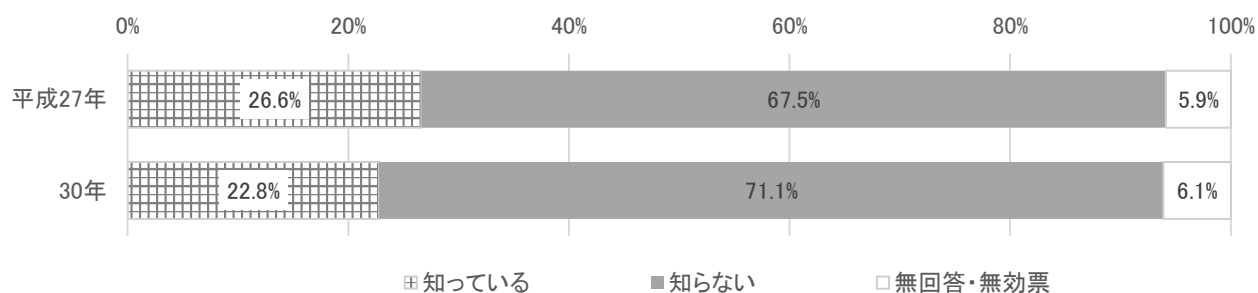
図表 29-5 : 「洪水ハザードマップ」の認知度 経年比較

【経年比較_内水ハザードマップ】



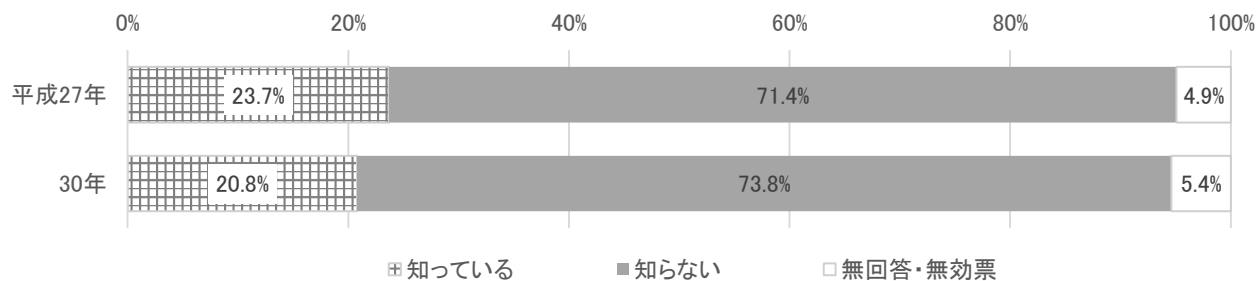
図表 29-6：「内水ハザードマップ」の認知度 経年比較

【経年比較_土砂災害ハザードマップ】



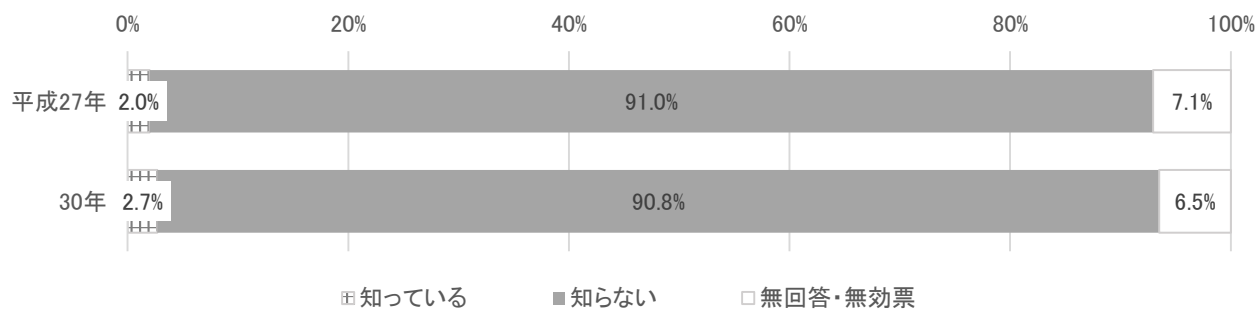
図表 29-7：「土砂災害ハザードマップ」の認知度 経年比較

【経年比較_区防災マップ】



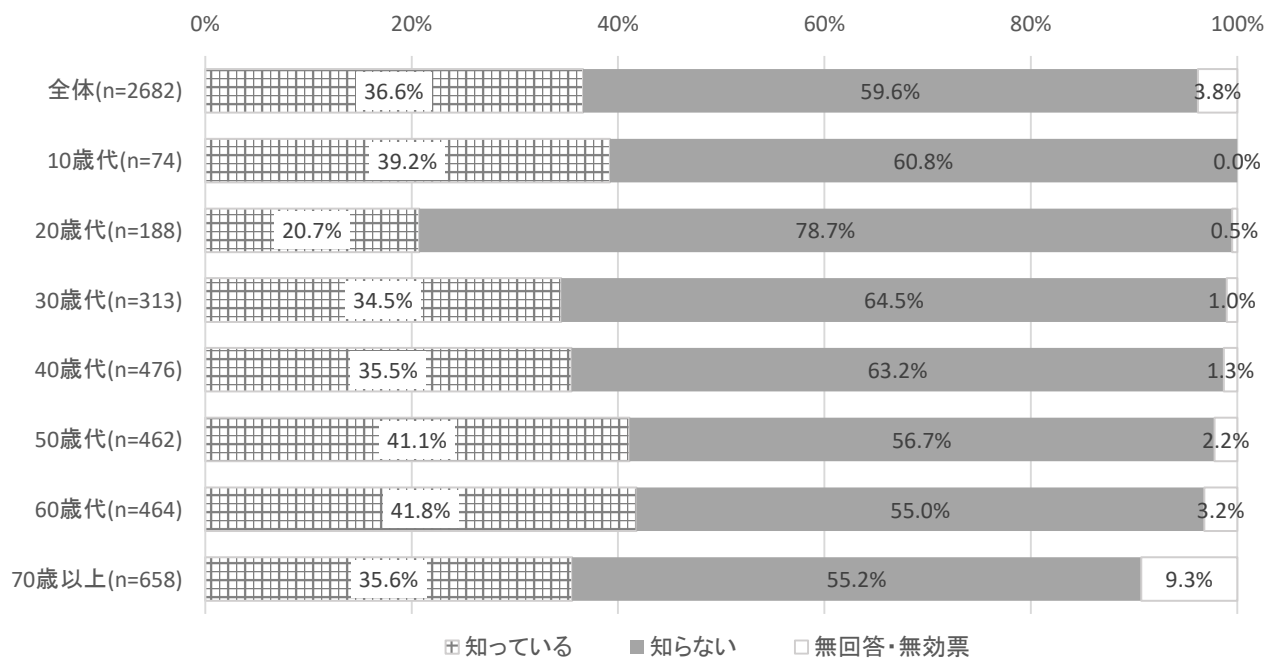
図表 29-8：「区防災マップ」の認知度 経年比較

【経年比較_スイスイマップ】



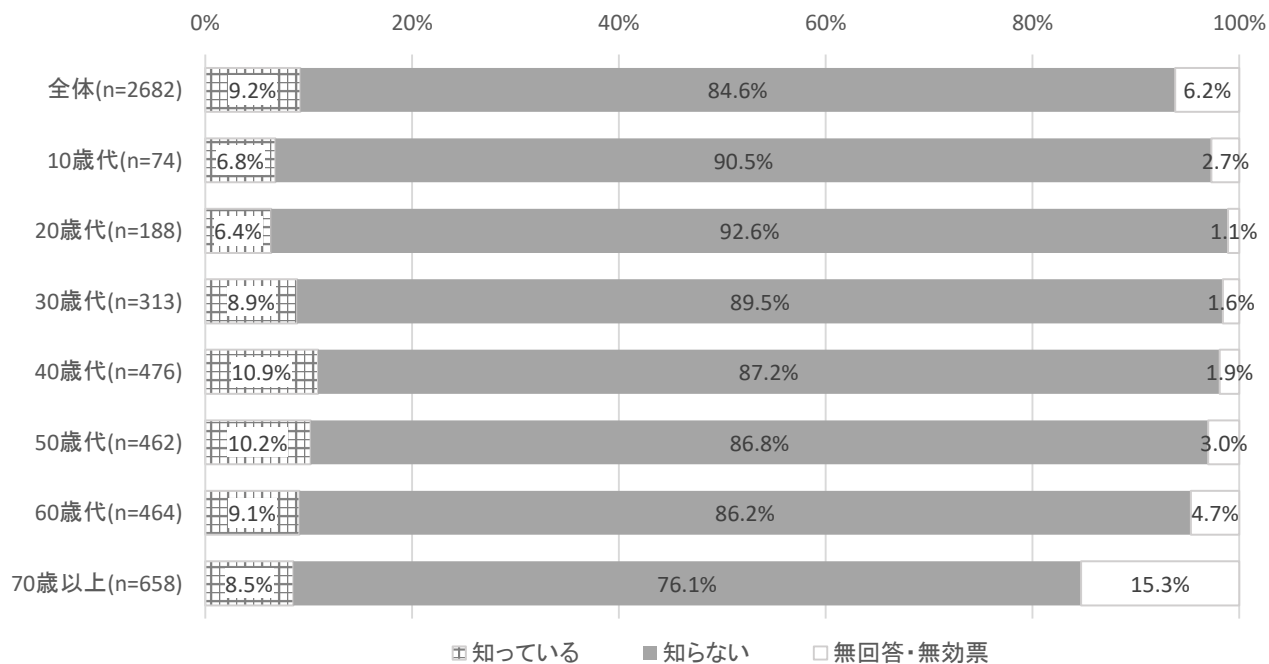
図表 29-9：「スイスイマップ」の認知度 経年比較

【年代別集計_地震マップ】



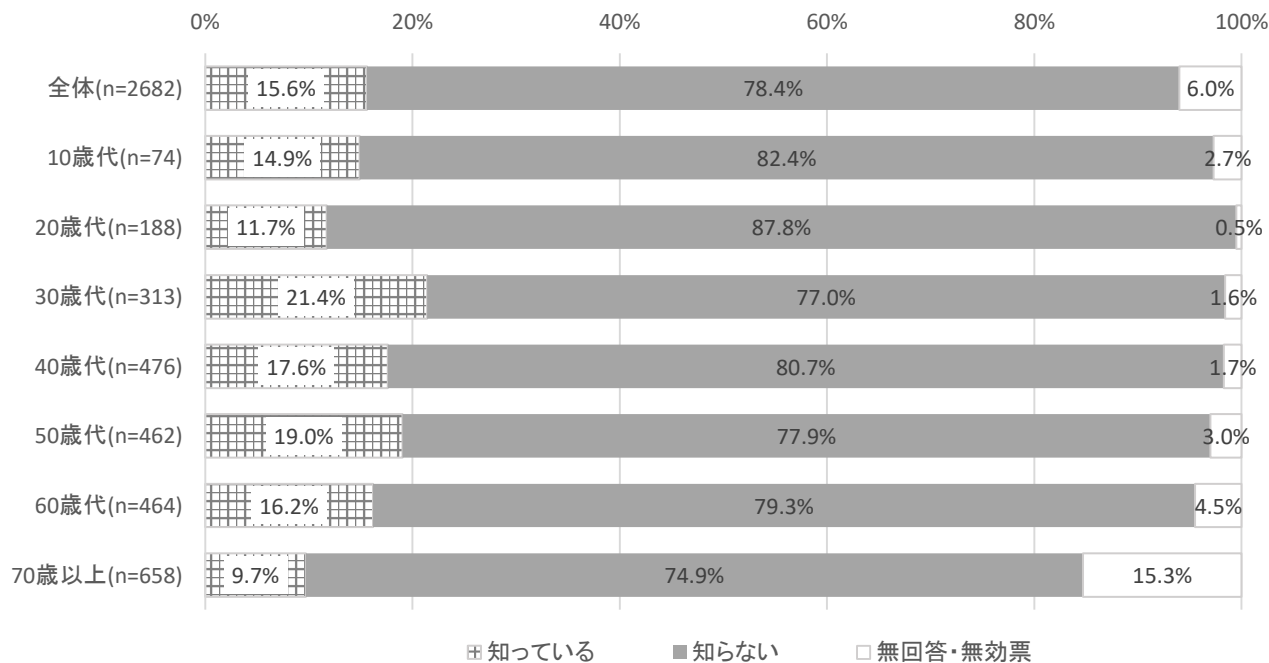
図表 29-10 : 「地震マップ」の認知度 年代別集計

【年代別集計_わいわい防災マップ】



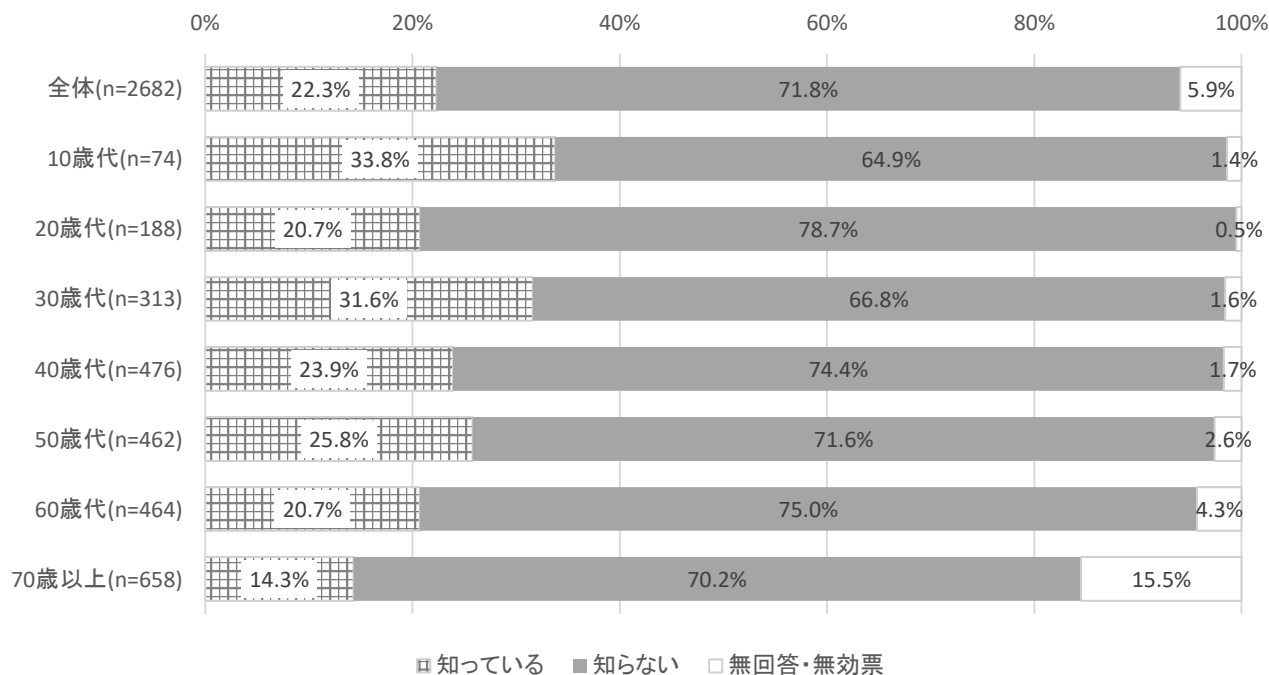
図表 29-11 : 「わいわい防災マップ」の認知度 年代別集計

【年代別集計_液状化マップ】



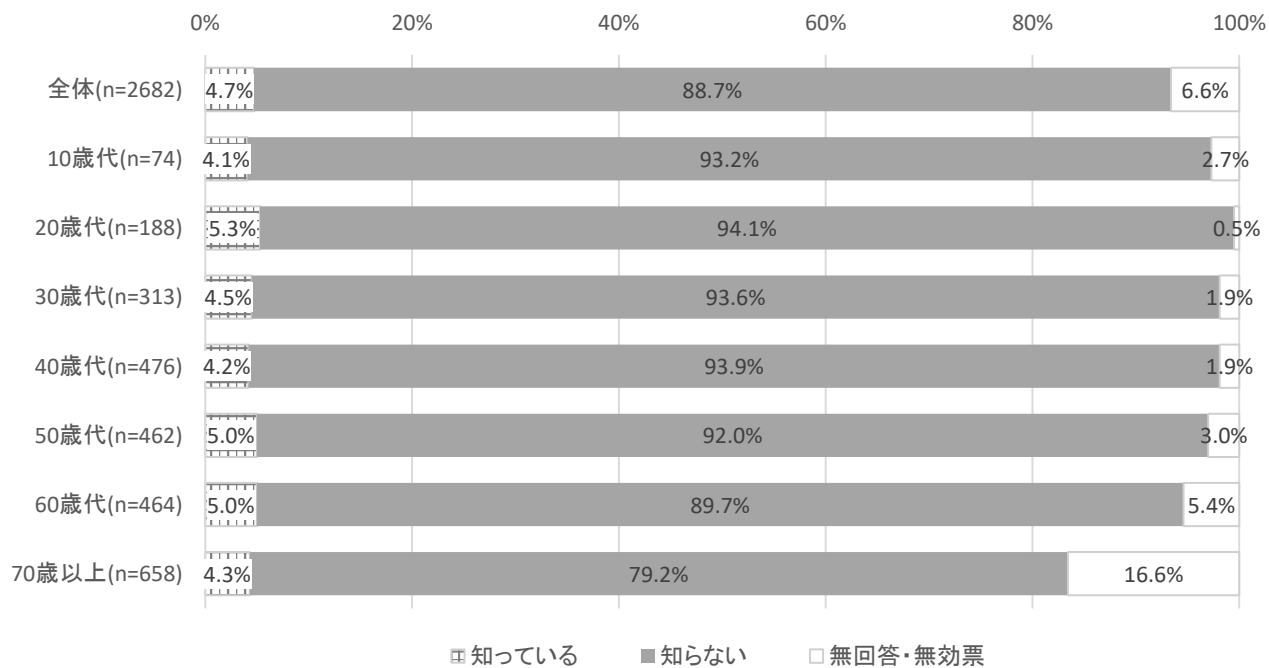
図表 29-12 : 「液状化マップ」の認知度 年代別集計

【年代別集計_洪水ハザードマップ】



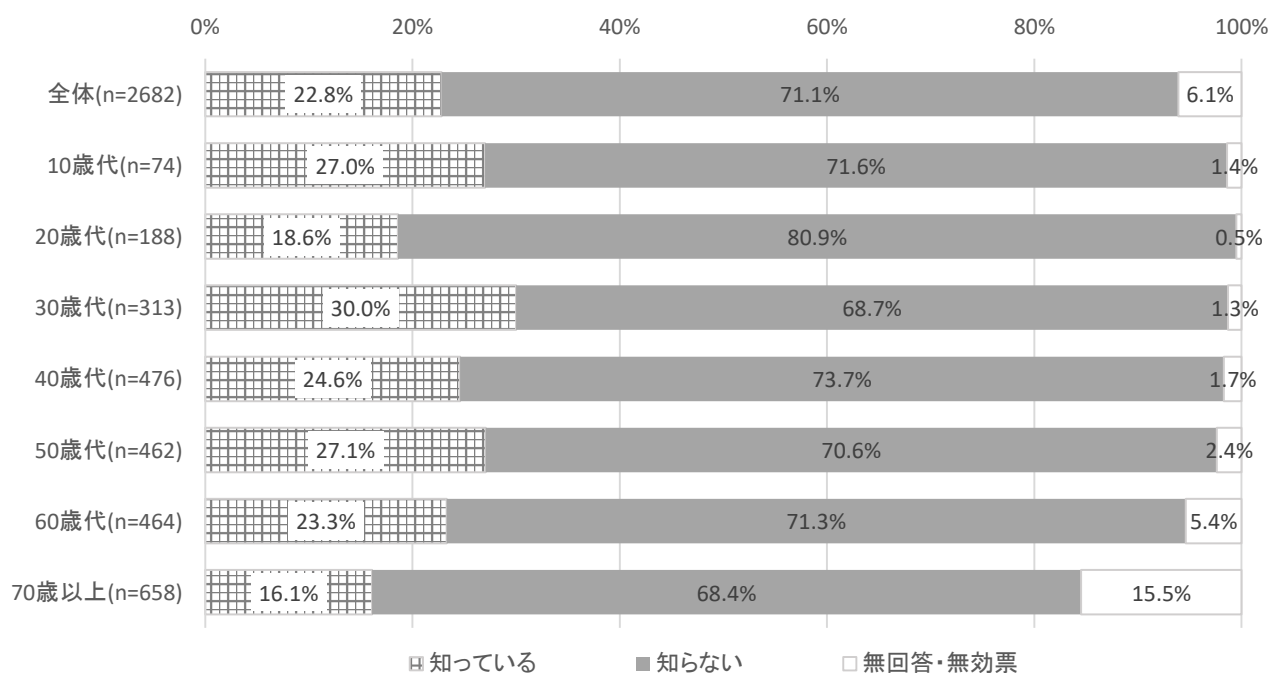
図表 29-13 : 「洪水ハザードマップ」の認知度 年代別集計

【年代別集計_内水ハザードマップ】



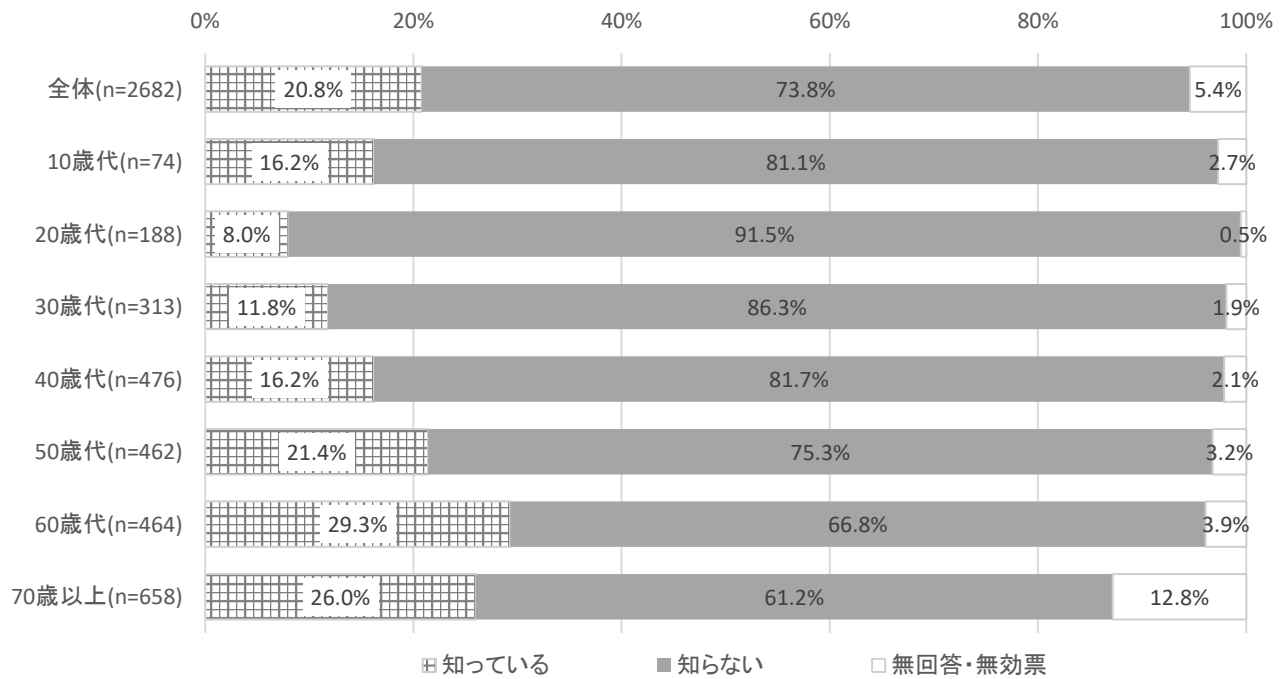
図表 29-14 : 「内水ハザードマップ」の認知度 年代別集計

【年代別集計_土砂災害ハザードマップ】



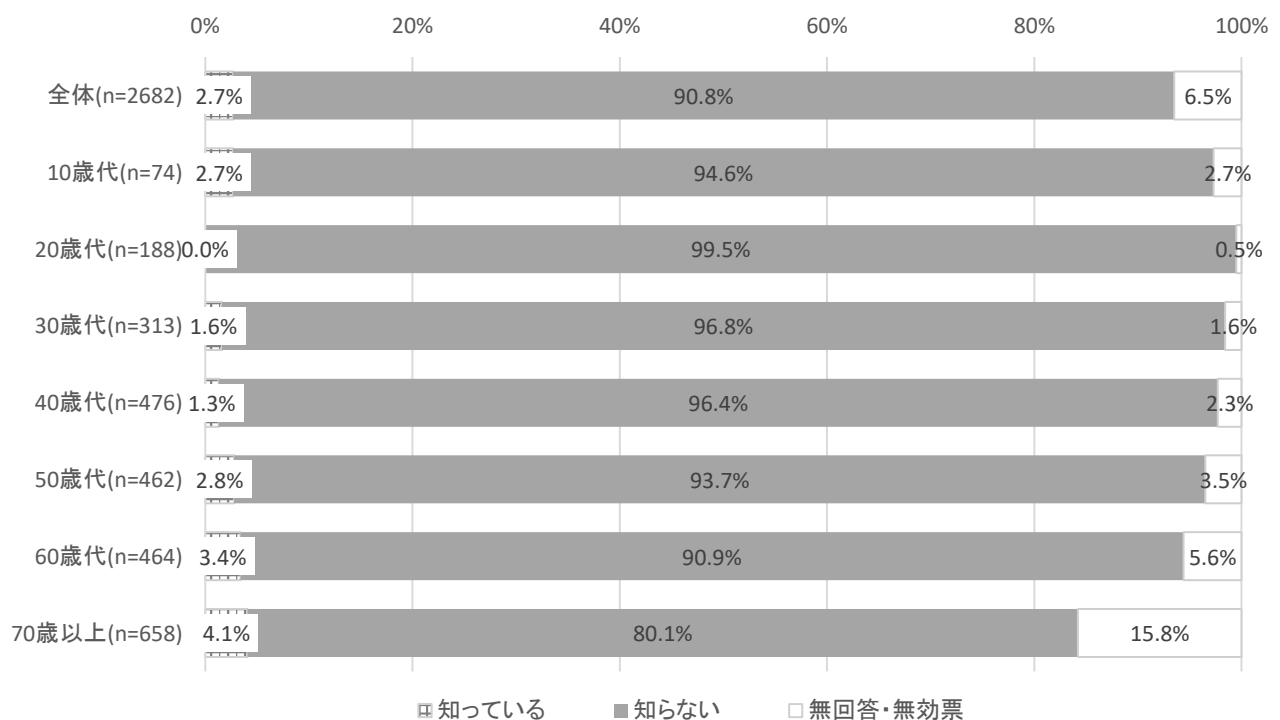
図表 29-15 : 「土砂災害ハザードマップ」の認知度 年代別集計

【年代別集計_区防災マップ】



図表 29-16 : 「区防災マップ」の認知度 年代別集計

【年代別集計_スイスイマップ】



図表 29-17 : 「スイスイマップ」の認知度 年代別集計

問30 あなたは、横浜市が地震や気象情報などの防災情報を配信しているサービス「防災情報Eメール」、「Yahoo!防災速報」、「横浜市総務局危機管理室 Twitter 公式アカウント」について知っていますか。それぞれ右にあてはまる番号に○をつけてください。

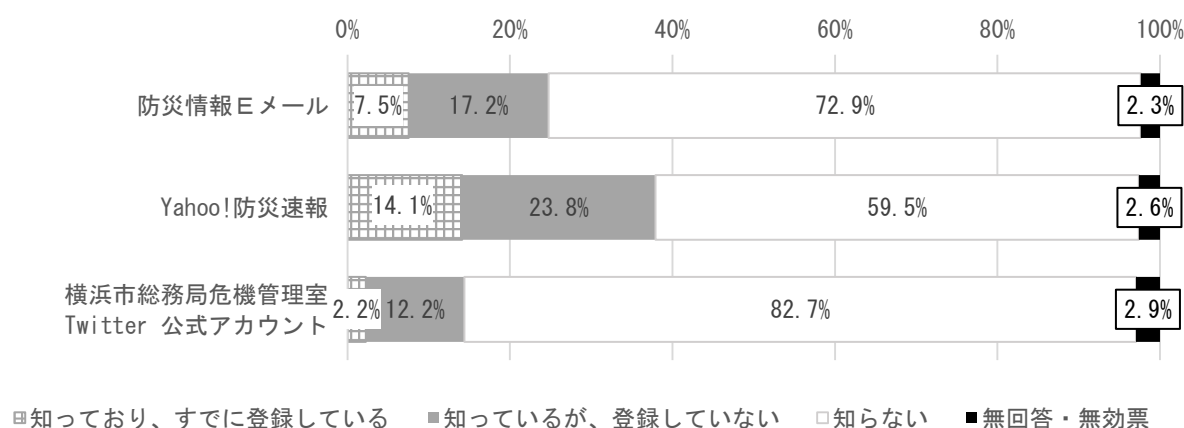
◇防災情報を配信しているいずれのサービスも「知っている」の割合が5割未満

防災情報配信サービスの認知度については、「知っており、すでに登録している」「知っているが、登録していない」の割合を合わせると、「防災情報Eメール」が24.7%、「Yahoo!防災速報」が37.9%、「横浜市総務局危機管理室 Twitter 公式アカウント」が14.4%となった。

「防災情報Eメール」の経年比較では、平成27年調査と同様の傾向である。

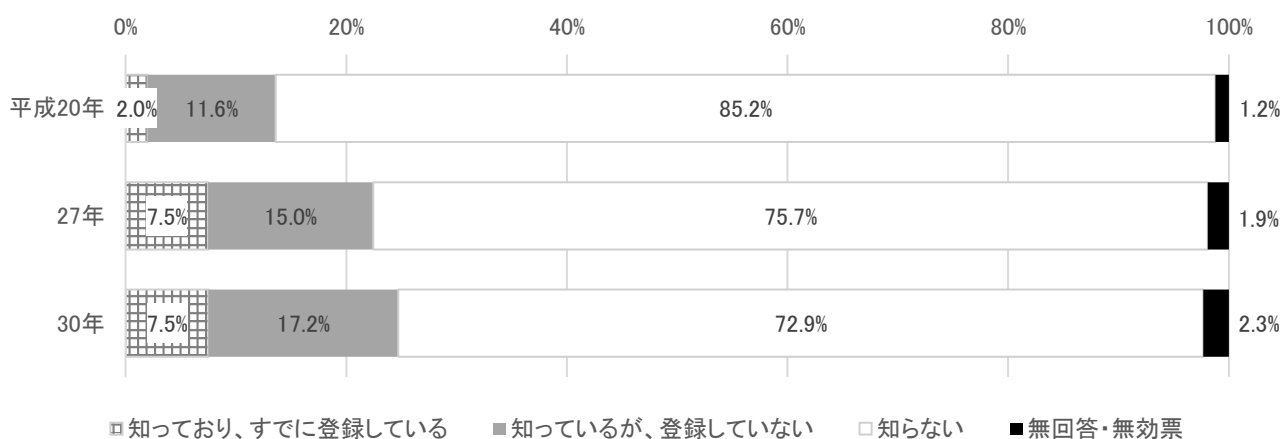
年代別集計では「Yahoo!防災速報」において、「10歳代」～「50歳代」のいずれも40%以上の認知度があった。

【全体集計】 n=2,682



図表 30-1：防災情報配信サービスの認知度

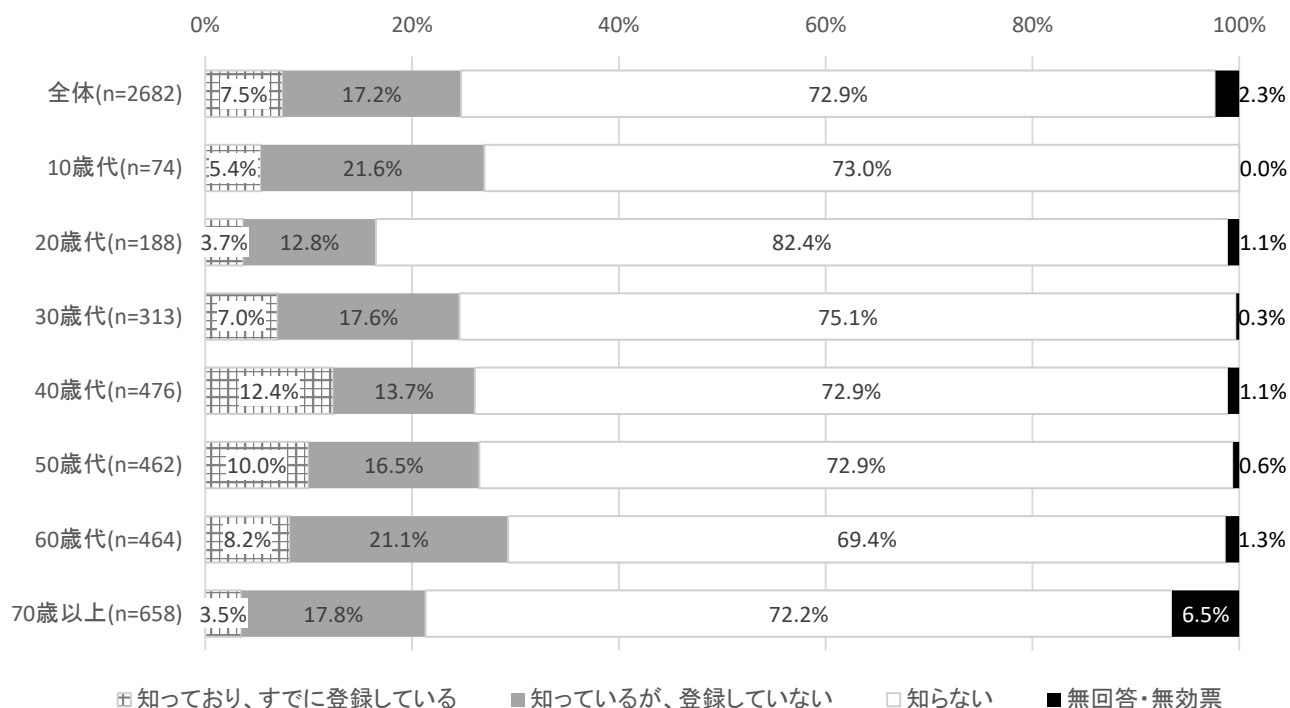
【経年比較_防災情報Eメール】



図表 30-2：「防災情報Eメール」の認知度 経年比較

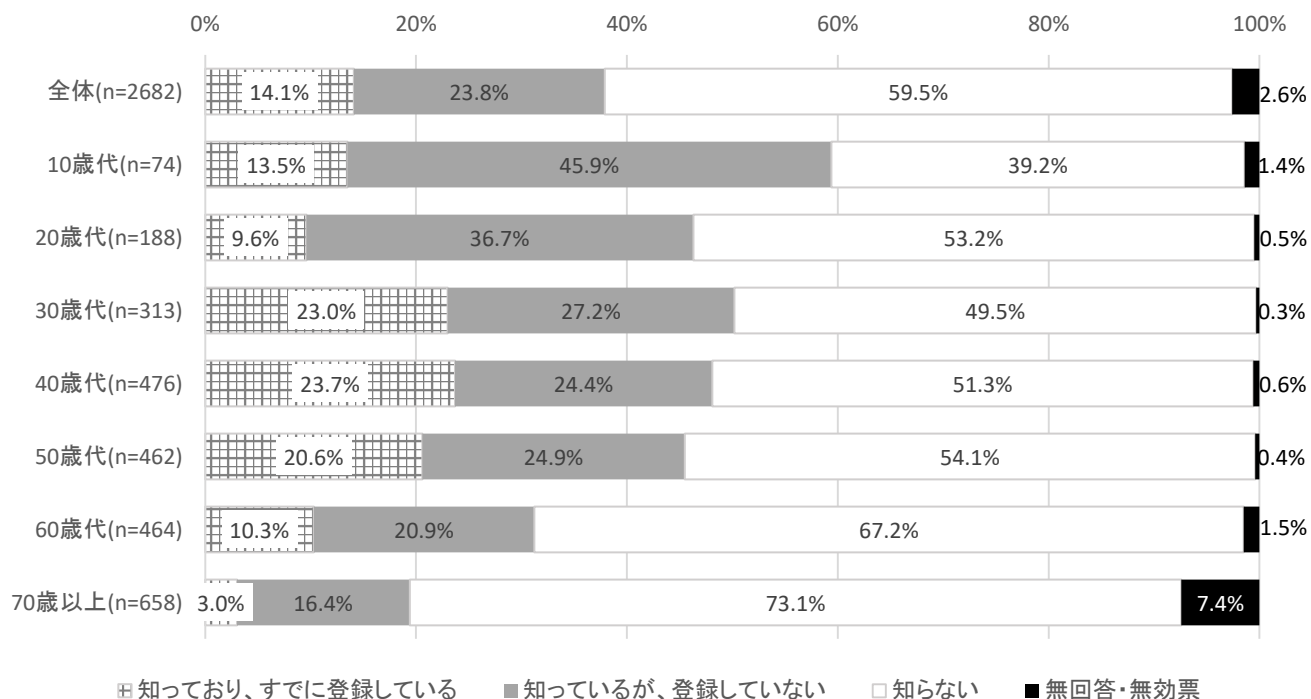
※「Yahoo!防災速報」「横浜市総務局危機管理室 Twitter 公式アカウント」は、今回調査からの新設項目

【年代別集計_防災情報Eメール】



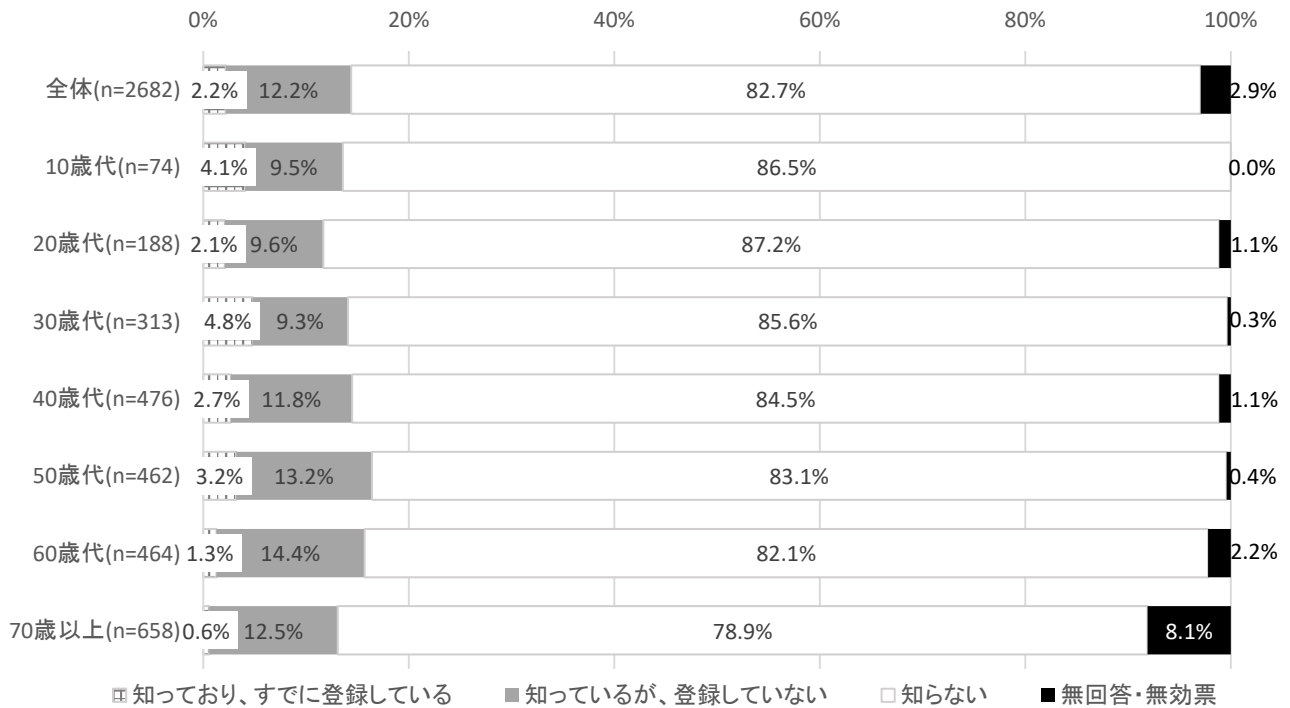
図表 30-3 : 「防災情報Eメール」の認知度 年代別集計

【年代別集計_ Yahoo!防災速報】



図表 30-4 : 「Yahoo!防災速報」の認知度 年代別集計

【年代別集計_横浜市総務局危機管理室 Twitter 公式アカウント】



図表 30-5 : 「横浜市総務局危機管理室 Twitter 公式アカウント」の認知度 年代別集計

(問 30で「知っているが、登録していない」と答えた方はご回答ください)
 問30-1 あなたが登録していない理由について、次の中からお選びください。該当するものすべて選択

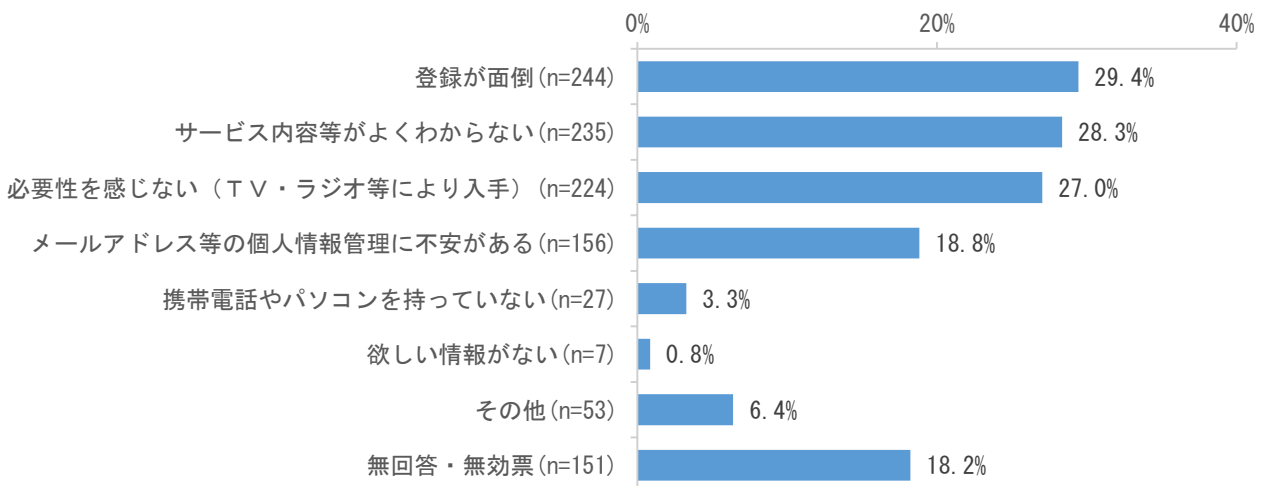
◇「知っているが、登録していない」理由は「登録が面倒」が最も多い

登録しない理由は、「登録が面倒」が 29.4%と最も高く、次いで「サービス内容等がよくわからない」が 28.3%となった。

経年比較では、平成 27 年調査と比べ「登録が面倒」の割合が 6.4%増加し、29.4%となった。

年代別集計では、「登録が面倒」と回答したのは、「20 歳代」の 40.3%が最も高く、次いで「10 歳代」の 33.3%、「30 歳代」の 31.8%が続き、若年層の割合が高くなった。

【全体集計】 n=829



図表 30-6 : 防災情報配信サービスに登録しない理由

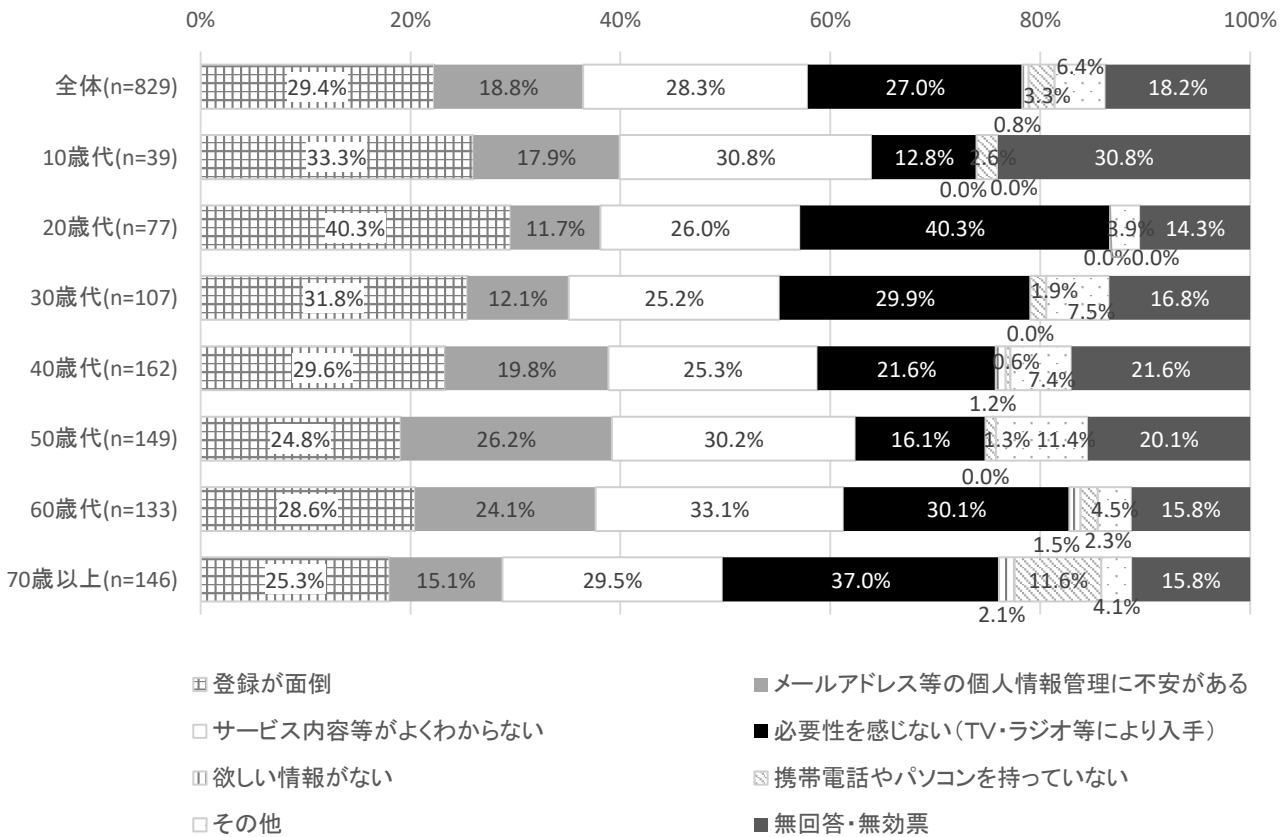
【経年比較】※参考、上位5位を抜粋

| | 1位 | 2位 | 3位 | 4位 | 5位 |
|------------------|----------------------------------|-----------------------|----------------------------------|-----------------------------|-----------------------|
| 平成27年 (n=482) | 必要性を感じない (TV・ラジオ等により入手) 29.9% | サービス内容等がよくわからない 24.1% | 登録が面倒 23.0% | メールアドレス等の個人情報管理に不安がある 21.8% | 携帯電話やパソコンを持っていない 7.7% |
| 平成30年 (n=829) | 登録が面倒 29.4% | サービス内容等がよくわからない 28.3% | 必要性を感じない (TV・ラジオ等により入手) 27.0% | メールアドレス等の個人情報管理に不安がある 18.8% | 携帯電話やパソコンを持っていない 3.3% |

図表 30-7：防災情報配信サービスに登録しない理由 経年比較

※平成27年調査は「防災情報Eメール」に「知っているが、登録していない」と回答した方のみを対象としている。

【年代別集計】



図表 30-8：防災情報配信サービスに登録しない理由 年代別集計

(2) 危機管理に係るご意見について

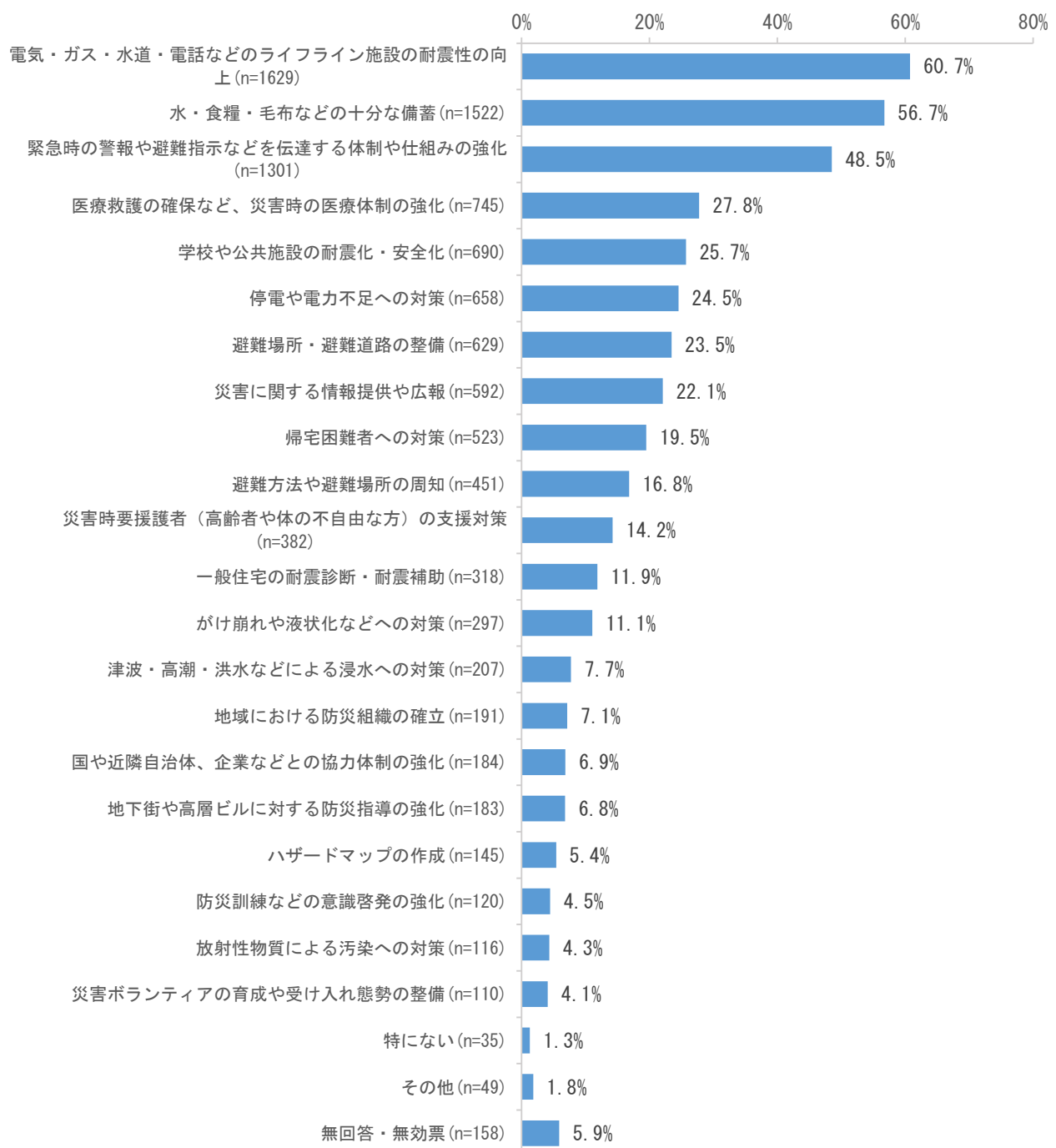
問31 危機管理について、横浜市に力を入れて取り組んでほしいことはどれですか。5つまで選択

◇横浜市に力を入れて取り組んでほしいことは「ライフライン施設の耐震性の向上」「備蓄」「情報伝達体制の強化」の割合が高い

危機管理について、横浜市に力を入れて取り組んでほしいことは、「電気・ガス・水道・電話などのライフライン施設の耐震性の向上」が60.7%と最も高く、次いで「水・食糧・毛布などの十分な備蓄」56.7%、「緊急時の警報や避難指示などを伝達する体制や仕組みの強化」が48.5%となった。

経年比較では、平成27年調査で5位以内に入らなかった「学校や公共施設の耐震化・安全化」が25.7%で5位となった。

【全体集計】 n=2,682



図表 31-1：力を入れて取り組んでほしいこと

【経年比較】※上位5位を抜粋

| | 1位 | 2位 | 3位 | 4位 | 5位 |
|--------------------|--|--|--------------------------------------|--------------------------------|--------------------------|
| 平成27年 (n=3,217) | 水・食糧・毛布などの十分な備蓄 58.8% | 電気・ガス・水道・電話などのライフライン施設の耐震性の向上 57.5% | 緊急時の警報や避難指示などを伝達する体制や仕組みの強化 49.1% | 医療救護の確保など、災害時の医療体制の強化 28.3% | 停電や電力不足への対策 24.1% |
| 平成30年 (n=2,682) | 電気・ガス・水道・電話などのライフライン施設の耐震性の向上 60.7% | 水・食糧・毛布などの十分な備蓄 56.7% | 緊急時の警報や避難指示などを伝達する体制や仕組みの強化 48.5% | 医療救護の確保など、災害時の医療体制の強化 27.8% | 学校や公共施設の耐震化・安全化 25.7% |

図表 31-2：力を入れて取り組んでほしいこと 経年比較

【年代別集計】※上位5位を抜粋

| | 1位 | 2位 | 3位 | 4位 | 5位 |
|------------------|--|--|---|--------------------------------|------------------------------------|
| 全体 (n=2,682) | 電気・ガス・水道・電話などのライフライン施設の耐震性の向上 60.7% | 水・食糧・毛布などの十分な備蓄 56.7% | 緊急時の警報や避難指示などを伝達する体制や仕組みの強化 48.5% | 医療救護の確保など、災害時の医療体制の強化 27.8% | 学校や公共施設の耐震化・安全化 25.7% |
| 10歳代 (n=74) | 電気・ガス・水道・電話などのライフライン施設の耐震性の向上 59.5% | 水・食糧・毛布などの十分な備蓄 58.1% | 緊急時の警報や避難指示などを伝達する体制や仕組みの強化 40.5% | 学校や公共施設の耐震化・安全化 36.5% | 停電や電力不足への対策 33.8% |
| 20歳代 (n=188) | 水・食糧・毛布などの十分な備蓄 75.0% | 電気・ガス・水道・電話などのライフライン施設の耐震性の向上 54.3% | 停電や電力不足への対策 緊急時の警報や避難指示などを伝達する体制や仕組みの強化 33.5% | | 帰宅困難者への対策 26.6% |
| 30歳代 (n=313) | 水・食糧・毛布などの十分な備蓄 69.3% | 電気・ガス・水道・電話などのライフライン施設の耐震性の向上 56.5% | 緊急時の警報や避難指示などを伝達する体制や仕組みの強化 40.6% | 学校や公共施設の耐震化・安全化 34.2% | 避難場所・避難道路の整備 30.4% |
| 40歳代 (n=476) | 電気・ガス・水道・電話などのライフライン施設の耐震性の向上 64.3% | 水・食糧・毛布などの十分な備蓄 60.7% | 緊急時の警報や避難指示などを伝達する体制や仕組みの強化 47.5% | 学校や公共施設の耐震化・安全化 33.4% | 停電や電力不足への対策 29.6% |
| 50歳代 (n=462) | 電気・ガス・水道・電話などのライフライン施設の耐震性の向上 65.4% | 水・食糧・毛布などの十分な備蓄 54.5% | 緊急時の警報や避難指示などを伝達する体制や仕組みの強化 52.6% | 医療救護の確保など、災害時の医療体制の強化 27.7% | 停電や電力不足への対策 26.2% |
| 60歳代 (n=464) | 電気・ガス・水道・電話などのライフライン施設の耐震性の向上 63.4% | 緊急時の警報や避難指示などを伝達する体制や仕組みの強化 53.7% | 水・食糧・毛布などの十分な備蓄 51.7% | 医療救護の確保など、災害時の医療体制の強化 33.0% | 災害に関する情報提供や広報 23.9% |
| 70歳以上 (n=658) | 電気・ガス・水道・電話などのライフライン施設の耐震性の向上 61.1% | 緊急時の警報や避難指示などを伝達する体制や仕組みの強化 54.4% | 水・食糧・毛布などの十分な備蓄 51.1% | 医療救護の確保など、災害時の医療体制の強化 33.1% | 災害時要援護者（高齢者や体の不自由な方）の支援対策 23.6% |

図表 31-3：力を入れて取り組んでほしいこと 年代別集計

横浜市民の危機管理アンケート調査報告書

－ 平成30年12月発行 －

横浜市 総務局 危機管理室 危機管理課

〒231-0017

横浜市中区港町1丁目1番地

電話:045-671-4351 FAX:045-641-1677